教育年報 2018

岡　山　県　立　大　学

はじめに

岡山県立大学
学長　辻　英明

私たちは，知識，情報，技術が政治，経済，文化のあらゆる分野で大きく変革をもたらす知識基盤社会で生活しています．また，近年，ＩｏＴ，ビッグデータやＡＩが世の中の仕組を根底から変える第４次産業革命が進行しています．さらに，グローバル化も大きく進展しています．一方，わが国においては，少子・高齢化が進み，大きな社会問題となり，現在，東京に一極集中し，地方が疲弊し，地方創生が喫緊に解決すべき課題となっています．こうした状況下において，大学は，先を見通せない，混沌とした社会の未来を切り拓く人材の育成および地方創生に貢献してこそ，その存在意義があります．

本学は，専門性を深めつつ，主体性，協調性および創造性のある人材育成および地方創生に貢献するため，平成 25 年 4 月に始まった第 2 期中期計画において，3 つの基本方針－教養教育の充実，グローバル教育の推進，戦略的な地域貢献の取組－を策定して，それを推進するための大学の組織改革を進めてきました．さらに，この改革の過程で，本学は文部科学省の補助事業である平成 27 年度「地（知）の拠点大学による地方創生事業（ＣＯＣ+）事業」に応募し選定されました．当該事業は教育改革，産学連携，域学連携の３つの活動から成り立っています．当該事業は，本学にとりましては，6 つの自治体に設置された活動拠点である地域創生コモンズをプラットホームとして，学生，自治体職員，企業，地域住民が協働して活動し，その過程で「学生が自ら学び，育つ」という地域連携教育と呼ぶべき新しいシステムを本学の教育システムに導入するものです．当該システムの導入により，従来学内で実施してきた教養教育および専門教育による教養，専門性の育成に加え，主体性，協働性，課題発見・解決能力，コミュニケーション力ならびに豊かな人間性の陶冶に寄与することが期待されます．

過去 2 年間にわたり，学内で将来構想委員会を立ち上げ，専門教育を中心にした将来構想案を作成し，第 3 期中期計画案について県側と協議を行い，3 月末には確定しました．本年 4 月から 6 年間にわたる第３期中期計画が始まります．当該期間に，本学は第 3 期中期計画を着実に実行し，変化する社会に的確に対応することにより，本学は実力をつけ，真に地域から期待される大学の地位を確立することを期待しています．

教育年報 2018 は，１年間の本学の教育に関する実績を内外に公開するためのものであります．本年度の教育年報は各部署における充実した内容に加え，ＣＯＣ＋事業も，本年度末で 4 年が経過し，本事業によって推進される地域連携教育システムも強化され，その活動実績が第 2 章地域連携教育にまとめられています．

本学の教職員一同は本学の教育方針をよくご理解いただくとともに，外部の学究の皆さまの英知を取り入れ，本学の教育を盛り立てていただくようお願い申し上げます．

2019 年 3 月

目次

はじめに

第１部　学部及び大学院における教育活動と成果 1
第１章　学部における教育活動と成果 1
1　概要 1
2　入学者受入 1
2-1　概要 1
2-2　選抜方法 1
2-3　入学前教育 4
2-4　留学・転学受入等 8
2-5　まとめと課題 9
3　高大連携 10
3-1　概要 10
3-2　高等学校校長協会との連携 10
3-3　高大接続事業 10
3-4　まとめと課題 12
4　共通教育における学生の学習支援 12
4-1　概要 12
4-2　共通教育部 14
4-3　教養教育推進室 15
4-4　語学教育推進室 17
4-5　情報教育推進室 22
4-6　健康・スポーツ教育推進室 23
4-7　社会連携教育推進室 24
4-8　留学生・転学生 24
4-9　大学コンソーシアム岡山 24
4-10　まとめと課題 29
5　専門教育における学生の学習支援 29
5-1　概要 29
5-2　保健福祉学部 30
5-3　情報工学部 33
5-4　デザイン学部 39
5-5　まとめと課題 47
第２章　地域連携教育（ＣＯＣ＋）における教育活動と成果 49
1-1　概要 49
1-2　組織体制 50
1-3　授業の構築 52
1-4　学修成果の発表 70
1-5　「地域創生推進士」の授与 72
1-6　PROGテストによる学修評価 74
1-7　正課外での活動 76
1-8　まとめと課題 78

第３章　大学院における教育活動と成果 79
1　大学院における教育活動と成果 79
1-1　概要 79
1-2　保健福祉学研究科 79
1-3　情報系工学研究科 82
1-4　デザイン学研究科 86
2　大学院における研究活動と国際交流 87
2-1　概要 87
2-2　保健福祉学研究科 87
2-3　情報系工学研究科 93
2-4　デザイン学研究科 95
2-5　まとめと課題 96

第２部　教育研究開発機構の活動と成果 97
第１章　大学教育開発センターの活動と成果 97
1　概要 97
2　各部会活動 99
2-1　概要 99
2-2　教育企画室 99
2-3　アドミッション部会 104
2-4　共通教育部会 129
2-5　FD部会 130
2-6　教育評価部会 145
2-7　キャリア形成支援部会 153
2-8　学生支援部会 166
2-9　まとめと課題 178
3　教育力向上支援事業 179
3-1　目的 179
3-2　本年度実施事業及び来年度実施予定事業 179
3-3　まとめと課題 189
第２章　国際交流センターの活動と成果 191
1　概要 191
2　国際交流における教育活動 192
2-1　国際交流協定校 192
2-2　語学文化研修等 192
2-3　教育交流 193
2-4　国際交流センター（建物）内での様々な活動 194
2-5　共通教育との連携 196
2-6　まとめと課題 196
3　国際交流における教育・研究支援活動 196
3-1　国際交流協定校 196
3-2　国際研究協力 197
3-3　基盤整備 197
3-4　まとめと課題 198

第３章　学術研究推進センターの活動と成果 199
1　概要 199
2　学術研究推進と教育活動 199
2-1　コンプライアンス・研究倫理教育に関する研究会の実施 199
2-2　科研費計画書作成研修会 200
2-3　科研費計画書の提出前検討会の実施 200
2-4　教員の研究活動に係る環境整備 200
2-5　まとめと課題 200

第３部 附属図書館の活動と成果 201
1　概要 201
1-1　図書館活用の推進 201
1-2　英語文献利用講習会 206
1-3　電子ジャーナルの利用 206
1-4　リポジトリ公開登録及び利用状況 207
1-5　まとめと課題 207

付録１

A 入試統計 209
B 卒業時･修了時アンケート, 授業評価アンケート及び学生生活アンケート.... 214
C 全学的就職支援の実施状況 224
D 国際交流 229
E 高大連携協定等に基づく授業に係る高等学校への講師派遣及び生徒の受入 231
F 高等学校への講師派遣及び生徒の受入（授業以外） 231
G 学生・学生団体等の受賞 232
H 委員会等の審議事項 238

付録２

A 学部ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシー,
アドミッション・ポリシー 241
B 大学院ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシー,
アドミッション・ポリシー 262

編集後記

第１部　学部及び大学院における教育活動と成果

第１章　学部における教育活動と成果

1 概要

第 1 部は本学の教育,すなわち学部と大学院の教育活動や成果といった本学の実際の教育活動の状況をダイナミックに示す場所であり,教育年報の中でも最重要の位置づけとするところである.とくに学士課程教育では,第２期中期計画の最終年である本年度は，2021 年度より入試改革がスタートする事を一つの象徴とする高大接続改革の取組みやこれと連動するアドミッション・ポリシーをはじめとする３つのポリシー改革の取組みの準備が本格的となる年度であり，そのための基礎データ等を集約し，エビデンスとして活かす重要な年度でもあった．また，本学教育の特色たる地域連携教育のコアとなる COC+事業における副専攻「岡山創生学」がスタートして３年目を迎え，いよいよ地域創生推進士１期生を輩出する年度となっている．第３期中期計画期間を次年度に控え，重要な転換点となる本年度の教育活動とその成果をもとに，今後の更なる充実を期して参りたい.

2 入学者受入

2-1 概要

平成 31 年度入学者選抜は，平成 29 年度に見直しを行った本学アドミッション・ポリシーに基づいて行われている．ポリシーの見直しが入試方法の変更を伴うものではなかったため，一般入試においては平成 27 年度における大学入試センター試験利用科目等改訂の内容を引き継ぐ形で実施された.

平成 29 年度における入学者受け入れに関する活動として，平成 32 年度の大学入学共通テスト導入を含む大学入学者選抜改革への対応に向けて，第 3 期中期計画を念頭におき抜本的に改訂した本学ディプロマ・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシーを見据え，大学教育開発センター・アドミッション部会で実施した入学時アンケート結果や入試区分及び日程別の入学者における履修状況と入試成績の比較分析結果，高等学校校長協会との協議内容等も踏まえて，アドミッション・ポリシーの再度の抜本的見直しを実施し，それに基づき平成 32 年度本学入試制度を策定した.

2-2 選抜方法

2-2-1 平成 31 年度入学者選抜の概要

平成 31 年度入学者選抜における志願者数等は，付録 1-A のとおりである.

なお，平成 31 年度入学者選抜では，付録 2 に掲げるアドミッション・ポリシーを基準として，次のとおり試験を実施した.

(ｱ) 募集人員

（人）

学　部	学科・専攻		入学定員	一般入試			推薦入試	帰国生入　試	私費外国人留学生入試
				前期日程	中期日程	後期日程			
保健福祉学　部	看護学科		40	20	−	8	12	若干人	若干人
	栄養学科		40	25	−	3	12	若干人	若干人
	保健福祉学科	社会福祉学専攻	40	24	−	4	12	若干人	若干人
		子ども学専攻	20	10	−	4	6	若干人	若干人
情報工学　部	情報通信工学科		50	14	23	−	13	若干人	若干人
	情報システム工学科		50	14	23	−	13	若干人	若干人
	人間情報工学科		40	12	15	−	13	若干人	若干人
デザイン学　部	デザイン工学科		40	30	−	−	10	若干人	若干人
	造形デザイン学科		50	38	−	−	12	若干人	若干人
	計		370	187	61	19	103	−	−

(ｲ) 選抜方法

① 一般入試

大学入試センター試験，個別学力検査等及び調査書の内容を総合して行う．

（大学入試センター試験の利用教科・科目）

学科・専攻	日　程	教　科	科　目		
看護学科	前期日程 後期日程	国語	国		必須
		地理歴史	世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地Ａ，地Ｂ		から１
		公民	現社，倫，政経，倫・政経		
		数学	数Ⅰ・Ａ		必須
		理科	物，化，生，地	から１：①	①又は②
			物基，化基，生基，地基	から２：②	
		外国語	英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)，独，仏，中，韓		から１
栄養学科	前期日程 後期日程	国語	国		必須
		地理歴史	世Ｂ，日Ｂ，地Ｂ		から１
		公民	現社，倫，政経，倫・政経		
		数学	数Ⅰ・Ａ		必須
			数Ⅱ・Ｂ		必須
		理科	物，化，生		から２：①　①又は②
			物，化，生	から１	から３：②
			物基，化基，生基	から２	
		外国語	英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)		必須
保健福祉学科 社会福祉学専攻 子ども学専攻	前期日程 後期日程	国語	国		必須
		地理歴史	世Ｂ，日Ｂ，地Ｂ		から１又は２（理科の「基礎を付した科目」から２）
		公民	現社，倫，政経，倫・政経		
		数学	数Ⅰ・Ａ，数Ⅱ・Ｂ，簿記，情報		
		理科	物，化，生，地		
			物基，化基，生基，地基	から２	
		外国語	英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)，独，仏，中，韓		から１
情報通信工学科 情報システム工学科 人間情報工学科	前期日程	国語	国		必須
		数学	数Ⅰ・Ａ		必須
			数Ⅱ・Ｂ，簿記，情報		から１
	中期日程	理科	物		必須
			化，生，地		から１
		外国語	英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)		必須
デザイン工学科	前期日程	国語	国(近代以降の文章)		から２又は３（理科の「基礎を付した科目」から２及び理科以外の教科の科目から１）
		地理歴史	世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地Ａ，地Ｂ	から１	
		公民	現社，倫，政経，倫・政経		

<table>
<tr><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td rowspan="2">数学</td><td colspan="3">数Ⅰ・A</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="3">数Ⅱ・B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">理科</td><td>物，化，生，地</td><td>から１:①</td><td rowspan="2">①
又は
②</td></tr>
<tr><td>物基，化基，生基，地基</td><td>から２:②</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td colspan="3">英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)</td><td>必須</td></tr>
<tr><td rowspan="6">造形デザイン学科</td><td rowspan="6">前期日程</td><td>国語</td><td colspan="3">国</td><td>必須</td></tr>
<tr><td>地理歴史</td><td colspan="3">世A，世B，日A，日B，地A，地B</td><td rowspan="5">から１</td></tr>
<tr><td>公民</td><td colspan="3">現社，倫，政経，倫・政経</td></tr>
<tr><td>数学</td><td colspan="3">数Ⅰ，数Ⅰ・A，簿記，情報</td></tr>
<tr><td>理科</td><td colspan="3">物，化，生，地</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td colspan="3">英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)</td><td>必須</td></tr>
</table>

※　国語→国，世界史A→世A，世界史B→世B，日本史A→日A，日本史B→日B，地理A→地A，地理B→地B，現代社会→現社，倫理→倫，政治・経済→政経，「倫理，政治・経済」→倫・政経，数学Ⅰ→数Ⅰ，数学Ⅰ・数学A→数Ⅰ・A，数学Ⅱ・数学B→数Ⅱ・B，簿記・会計→簿記，情報関係基礎→情報，物理→物，化学→化，生物→生，地学→地，物理基礎→物基，化学基礎→化基，生物基礎→生基，地学基礎→地基，英語→英，ドイツ語→独，フランス語→仏，中国語→中，韓国語→韓

（個別学力検査等の教科等）

<table>
<tr><th colspan="2">学部・学科・専攻</th><th>日程</th><th>教　科　等</th></tr>
<tr><td rowspan="4">保健福祉学部</td><td rowspan="2">看護学科
保健福祉学科
　社会福祉学専攻
　子ども学専攻</td><td>前期日程</td><td rowspan="2">小論文，面接</td></tr>
<tr><td>後期日程</td></tr>
<tr><td rowspan="2">栄養学科</td><td>前期日程</td><td>理科（化学基礎・化学，生物基礎・生物から１）</td></tr>
<tr><td>後期日程</td><td>個別学力検査等を課さない.</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">情報工学部</td><td>前期日程</td><td rowspan="2">数学（数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学B(数列，ベクトル)）</td></tr>
<tr><td>中期日程</td></tr>
<tr><td colspan="2">デザイン学部</td><td>前期日程</td><td>実技（鉛筆デッサン）</td></tr>
</table>

② 推薦入試

学　部	教　科　等
保健福祉学部	書類審査，小論文，面接(栄養学科の面接では，理科に関する試問も行う.
情報工学部	書類審査，面接（数学，英語及び理科に関する試問も行う）
デザイン学部	書類審査，実技（鉛筆デッサン），面接

③ 帰国生入試

学　部	教　科　等
保健福祉学部	書類審査，小論文，面接（一般教科に関する試問も行う）
情報工学部	書類審査，面接（一般教科に関する試問も行う）
デザイン学部	書類審査，実技（鉛筆デッサン），面接

④ 私費外国人留学生入試

書類審査及び実技検査等により実施する.

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">学部・学科</td><td colspan="2">書類審査</td><td rowspan="2">実技検査等</td></tr>
<tr><td>日本留学試験</td><td>TOEFL
(iBT)</td></tr>
<tr><td colspan="2">保健福祉学部</td><td>日本語，理科(２科目)，数学(コース１)</td><td>課す</td><td>小論文・面接</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報工学部</td><td>日本語，理科(2科目・物理必須)，数学(コース2)</td><td>課す</td><td>面接</td></tr>
<tr><td rowspan="2">デザイン学部</td><td>デザイン工学科</td><td>日本語，理科(２科目)，数学(コース１)</td><td rowspan="2">課す</td><td rowspan="2">実技(鉛筆ﾃﾞｯｻﾝ)
面接</td></tr>
<tr><td>造形デザイン学科</td><td>日本語，総合科目，数学(コース１)</td></tr>
</table>

※　保健福祉学部と情報工学部の面接では，一般教科に関する試問も行う.

2-2-2 入学者選抜の変更

学部の入学者選抜において課す教科・科目の変更等が入学志願者の受験準備に大きな影響を及ぼす場合は，2 年半前にはその内容を予告することとしている．その他の変更についても，入学志願者保護の観点から可能な限り早期の予告に努めている．

2-2-3 入試業務の改善

前年度の試験実施において整理した課題に対しては，学生募集要項や業務マニュアルの内容を充実する，面接室への受験者の誘導方法を点検するなどの対策を行った．

2-3 入学前教育

2-3-1 保健福祉学部

2-3-1-1 看護学科

【目的】

学習意欲や学習習慣を維持し，入学までの期間を有意義に過ごすことができるように，大学で学ぶ内容を紹介し，入学後の学習への動機づけと基礎学力の補強と向上を目指して 3 回の講義を開催した．第 1 回は看護系の科目脳講義，第 2 回は英語に関する講義，第 3 回目は人体の機能と構造に関する科目である．対象者は推薦入学試験の合格者 13 名と帰国生 1 名の合計 14 名のうち帰国生を除く 13 名が参加した．

【第 1 回】

日時：平成 31 年 1 月 11 日（金）10 時 20 分～11 時 50 分
場所： 6405（保健福祉学部棟 4 階）
担当教員：住吉和子教授
タイトル：コミュニケーション能力を鍛えよう
授業の概要：解決志向アプローチを使ったコミュニケーションの体験を通して，コミュニケーションの基本を学び，日常でも使用したいという意見が聞かれた．

【第 2 回】

日時：平成 31 年 1 月 23 日（水）10 時 20 分～11 時 50 分
場所：6405（保健福祉学部棟 4 階）
担当教員：高橋幸子教授
タイトル：英語を使ったコミュニケーション能力
授業の概要：言語力・コミュニケーション力とは何かを考え，世界の共通語としての英語を学習する意味を確認した．

【第 3 回】

日時：平成 31 年 1 月 28 日（月）10 時 20 分～11 時 50 分
場所：6405（保健福祉学部棟 4 階）
担当教員：荻野哲也教授，高橋徹教授
タイトル：体表から見た人体の構造と機能
授業の概要：体表から見た人体の構造と機能について解説し，実際に各人の身体で体表から触知できる骨格，筋肉，動脈などを確認した．

2-3-1-2 栄養学科

栄養学科では栄養学を学習するために，高等学校で化学並びに生物学を習得しておくことが重要となるため，推薦入試においては，理科の基礎知識を尋ねる口頭試問を実施している．しかしながら，センター試験ならびに個別試験で理科の学力検査に対応するために，高校でこれらの科目を勉強している学生と比較すると，理科の知識が不足しているのが現状である．このような背景から，本学科では推薦入学者への事前教育として，化学と生物について，栄養学科で必要な基礎知識を補充する講義を実施している．

本年は推薦入学者 13 名に対して以下の実施要項に基づいて入学前指導を行った．

【第 1 回及び第 2 回】

平成 31 年 3 月 13 日（水）10 時～11 時 30 分（第 1 回）6117 講義室
13 時～14 時 30 分（第 2 回）6117 講義室

講義内容：化学（担当教員：伊東秀之 教授）

物質の成り立ち（第 1 回）及びその有機化合物の性質（第 2 回）について，「栄養科学シリーズ　NEXT　基礎有機化学」（高橋吉孝・辻英明編）講談社サイエンティフィクを参考書として使用し，演習を交えて講義を行った．

【第 3 回及び第 4 回】

平成 31 年 3 月 14 日（木）10 時～11 時 30 分（第 3 回）6117 講義室
13 時～14 時 30 分（第 4 回）6117 講義室

講義内容：生物学（担当教員：田中晃一 准教授）

生命の基本単位（第 3 回）及びその生命現象のしくみ（第 4 回）について，「栄養科学シリーズ　NEXT　基礎生物学」（岸本妙子・木戸康博編）講談社サイエンティフィクを参考書として使用し，演習を交えて講義を行った．

本年度も演習を取り入れることにより，講義のみの入学前教育と比べると学習効果を高めることができた．また，共通教育科目の「基礎有機化学」及び「基礎生物学」で使用する教科書を参考書として取り入れた講義を行うことにより，導入教育も兼ねて，入学後の栄養学の修得に必要となる理科の基礎知識をより広範囲にカバーすることができた．今後は，より速やかな栄養学教育への導入を目指して，アンケートを実施する等，受講生からの意見も取り入れながら，教育内容と授業時間数についてさらに検討を行う．

2-3-1-3 保健福祉学科

保健福祉学科では，入学後の社会福祉学及び子ども学に関する専門知識習得のモチベーションを高め，また国際化に対応する英語教育を推進することを目的に入学前教育を実施した．具体的には英文和訳等の課題を課し，その内容に関して講義を行った．更に，福祉専門職や保育・幼児教育専門職に必要な情報収集，問題分析，コミュニケーション，伝達力を高めるためにグループ討議を実施した．日程及び内容は，以下のとおりである．

【第 1 回】平成 31 年 2 月 16 日（土）13 時～15 時　8902 教室

①オリエンテーション，自己紹介

②英文課題の提出

入学前教育では，英文の課題を用意し，英文の和訳，内容に基づく議論を行った．学生は自らの解答と模範解答との比較を行い，教員は学生による文章理解を確認した．なお，英文はすべて訳書が刊行されたものを使用した．

③大学教育の準備としてのミニ講義

社会福祉学専攻（村社卓教授），子ども学専攻（京林由季子准教授）

ミニ講義では，社会福祉学専攻と子ども学専攻の特色を踏まえて，担当教員がそれぞれ約 30 分間実施した．

④次回課題の説明

1回目と2回目の英文課題を通し，身近に起こっている問題（新聞やテレビ等からの情報）や関心のある問題（事例）をまとめることを課した．

【第２回】平成31年3月7日（木）13時～15時　8209教室

①英文課題の提出

②グループ討議

学生は4グループに分かれ，英文課題の内容と福祉や教育に関する身近な問題をテーマとして討議を実施した．

③グループ討議の内容発表

④その他

2-3-2 情報工学部

情報工学部では，入学者の主な選抜は，推薦入試（11月下旬），前期日程（2月下旬），中期日程（3月上旬）の3回に分けて実施される．このうち，推薦入試による合格者は，12月上旬の合格発表から4月の入学までの期間,高等学校での学習内容を維持することにより，入学後の授業に無理なく移行することが可能となる．これをサポートするために，以下の3項目を主眼とし，3学科合同で入学前教育を実施している．

・高校卒業までの3ヶ月間の時間の使い方へ示唆を与える．
・大学入学までの心と体の健康維持と教養の深め方を示唆する．
・身の回りの現象を支配している物理や数学から理工系の勉強に興味を持たせる．

日程と内容は以下のとおりである．

【第1回】

日時:　平成30年12月25日（火）13:40～　約2時間

場所:　情報工学部棟2202室

内容:　まず，学部長補佐による挨拶が行われ，その後，学科別(情報通信工学科は2203室，情報システム工学科は2202室，人間情報工学科は2906室)に分かれ，各学科長または教務委員の講話及び数学の小テストを実施した．また，全員に英語と数学の課題を配付し，第2回目に提出することとした．参加生徒数は，情報通信工学科13名，情報システム工学科15名，人間情報工学科13名であった．

【第2回】

日時:　平成31年2月26日（火）13:40～　約2時間

場所:　情報工学部棟2202室

内容:　まず，英語の課題に関する解説と小テストを行った．その後，学科別(情報通信工学科は2203室，情報システム工学科は2202室，人間情報工学科は2906室)に分かれ，第1回目に配布した課題を回収した．次いで，数学の課題に関する小テストを実施し，各学科の数名の教員で採点を行いながら個別指導を行った．さらに4月までの課題を配布した学科や，学科長の講話を実施した学科もあった．参加生徒数は，情報通信工学科13名，情報システム工学科15名，人間情報工学科13名であった．

2-3-3 デザイン学部

2-3-3-1 デザイン工学科

デザイン工学科では，大学教育へのスムーズな導入を目的に，推薦入学者に対する体験学習（ワークショップ）を行った．課題は木工「茶杓をつくる」で，実施効果としては，１）大学教員や在学生とのフェイス・トゥー・フェイスの交流を通じた大学への親近感向上と，２）大学施設を利用して，デザインワークの基礎的プロセスを修得させることが出来た．

・開催日・場所：平成 31 年 3 月 5 日（火）8:40～17:10
　　デザイン学部棟 3311 教室
・参加学生：10 名
・担当教員：村木克爾教授（学科長），益岡准教授，林助教，
　　中原助手
・授業概要：ワークショップ形式による演習(木工「茶杓をつくる」)
・スケジュール：08：40～9：10　学科長挨拶，ガイダンス
　　（領域説明・全体説明含む）
　　09：20～11：50　木工作
　　12：40～14：10　木工作
　　14：20～16：00　デザイン工学科茶会
　　16：50～17：10　振り返り，教員による全体講評，アンケート記入

2-3-3-2 造形デザイン学科

造形デザイン学科では，　大学教育へのスムーズな導入を目的に，推薦入学者に対する体験学習（ワークショップ）を実施した．事前に２課題を準備させ，大学での発表とワークショップを組み合わせることで，入学後の学修意欲に繋げられるよう，デザイン教育の基本となる観察力・視覚化と言語化・コミュニケーション力を集中的に習得できる機会を提供した．

・開催日・場所：平成31年3月6日（水）9:30～16:40　デザイン学部棟3305教室
・参加学生：　13名
・担当教員：　難波久美子教授（学科長），西田麻紀子准教授，山下万吉准教授，
　　作元朋子講師，岡本汐加助教
・授業概要：　ワークショップ形式による演習（事前課題含む）
・スケジュール：9:30～9:40　事前課題提出，教員紹介/ 当日スケジュール確認
　　9:40～10:50　事前課題(1)「コラージュで自己紹介！」発表
　　10:30～10:50 事前課題(2)「卒業制作展レポート」発表
　　11:30～11:30　午後のワークショップについての説明
　　ワークショップ1：「オノマトペの額縁」
　　＊昼休憩を取りながら実施
　　13:10～15:50　ワークショップ1:成果発表
　　14:10～16:30　ワークショップ2:「オノマトペコラージュ」
　　16:10～16:40　ワークショップ2:成果プレゼンテーション/講評
　　16:40　　終了・解散
・事前課題（1）「コラージュで自己紹介！」
　　自分について考えを巡らし，コラージュ技法を使ってA4用紙1枚に紹介したものを当日持参.
・事前課題（2)「デザイン学部卒業制作展レポート」
　　造形デザイン学科の展示から，気になった作品を2つ取り上げ，それぞれA4用紙に鉛筆スケッチと400字程度のコメントによるレポートを当日提出.

2-4 留学・転学受入等

2-4-1 外国人留学生の受入状況

本学では，国際社会に開かれた大学として外国人留学生の受け入れを進めており，主としてアジア諸国を中心に留学生の受け入れを行うとともに，国際交流協定を締結している韓国又松（ウソン）大学校からは学部への転学生や短期の交換留学生の受け入れを行っている．

平成 30 年度は，中国の河南科技大学から 5 人，韓国のウソン大学から 2 人，ネパールのトリブバン大学から 1 人，台湾の雲林科技大学から 1 人，聖カタリナ大学（愛媛県）から韓国籍 1 人の留学生を新たに受け入れ，学部と大学院合わせて現在 16 人の留学生が在籍している．

〔留学生の在籍状況〕　　単位：人

年度	人数	学部･院別	所 属 学 部 等 別		国籍別人数
22	14 (2)	学部 6 (2)	保健福祉学部 情報工学部 デザイン学部	2 (1) 1 3 (1)	韓国 5 (1) 中国 1 (1)
		大学院 8	保健福祉学研究科 情報系工学研究科 デザイン学研究科	4 1 3	韓国 4 中国 3 ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ 1
23	7 (0)	大学院 7	保健福祉学研究科 情報系工学研究科 デザイン学研究科	5 1 1	韓国 5 中国 2
24	10 (0)	学部 4	保健福祉学部 情報工学部	2 2	韓国 4
		大学院 6	保健福祉学研究科 情報系工学研究科 デザイン学研究科	4 1 1	韓国 4 中国 1 ﾈﾊﾟｰﾙ 1
25	12 (2)	学部 6(2)	保健福祉学部 情報工学部 デザイン学部	3(1) 2 1(1)	韓国 4 中国 1(1) ﾍﾞﾄﾅﾑ 1(1)
		大学院 6	保健福祉学研究科 デザイン学研究科	5 1	韓国 3 中国 2 ﾈﾊﾟｰﾙ 1
26	10 (2)	学部 5(2)	保健福祉学部 情報工学部 デザイン学部	3(1) 1 1(1)	韓国 3 ﾍﾞﾄﾅﾑ 2(2)
		大学院 5	保健福祉学研究科 情報系工学研究科 デザイン学研究科	2 1 2	韓国 2 中国 2 ﾈﾊﾟｰﾙ 1
27	10 (2)	学部 6(2)	保健福祉学部 情報工学部	5(1) 1(1)	韓国 4 中国 2(2)
		大学院 4	保健福祉学研究科 情報系工学研究科 デザイン学研究科	1 1 2	韓国 2 中国 2

28	9 (3)	学部 4(2)	保健福祉学部　4(2)	韓国　2 中国　2(2)
		大学院 5(1)	保健福祉学研究科　3(1) 情報系工学研究科　1 デザイン学研究科　1	中国　4(1) ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 1
29	9 (1)	学部 2(1)	保健福祉学部　1 デザイン工学部　1(1)	韓国　1 中国　1(1)
		大学院 7	保健福祉学研究科　5 情報系工学研究科　2	中国　5 ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 2
30	16	学部 8	保健福祉学部　4 情報工学部　2 デザイン工学部　2	中国　5 韓国　2 台湾　1
		大学院 8	保健福祉学研究科　6 情報系工学研究科　1 デザイン学研究科　1	中国　4 ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 2 韓国　1 ﾈﾊﾟｰﾙ 1

※（　）内は留学生のうち研究生の数

2-4-2 外国人留学生の受入体制の整備

留学生の受入れは，留学生にとっては，専門知識や技術の修得，本学学生にとっては，異文化の情報収集や国際交流の機会が得られるなど，双方の学生に大変有意義なことであり，グローバル人材の育成を進めていく上でも重要である．

大学院では，留学生の受入れを積極的に進めるために，平成 28 年度入試から保健福祉学研究科及び情報系工学研究科（いずれも博士後期課程）において，海外特別入試を実施し，平成 29 年度入試から，保健福祉学研究科（博士前期課程）において，学術交流協定を締結している海外の大学を対象とした指定校からの外国人留学生特別入試を実施している．

2-5 まとめと課題

本年度策定された平成 31 年度からの第 3 期中期計画に基づき平成 33 年度に予定している学科改編を見据え，平成 28 年度に「一体性・整合性」の観点から暫定的に見直したディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシーの再度の見直しを行った．今回の見直しでは，特に中教審のガイドラインに沿った学力の 3 要素の養成と各学科で養成する人材像の特徴をステークホルダーにわかりやすく表現することを念頭に，平成 33 年度の入試制度改革に合わせた見直しであり，31 年度中に公表予定である．なお，本学のグローバル教育の充実に向けて英語 4 技能養成をより効果的に行うことを目的に，6 月に英語外部資格・検定試験の活用を公表したが，その後入試において活用するには受検体制の整備が不十分であるとの判断から，33 年度入試ではその活用を見送ることとし，3 月に変更を公表した．今後は，学力の 3 要素の評価基準をアドミッション・ポリシーに照らして具体的に策定していくことが課題となる．平成 36 年度には未来型社会に適合する人材育成に向けて新学習指導要領に基づいた教育を受けた学生が入学してくるが，Society5.0 時代の到来に伴い企業に求められる人材も変革しており，本学でも 3 ポリシーのさらなる見直しとそれに合わせた教育の実現を目指していくことが今後の課題である．また，少子化に伴い今後入学者が減少する中，適性のある学生を確保する方法を IR に基づいて実現するためにアドミッションオフィス機能の整備は喫緊の課題である．大学教育へのスムーズな移行を促すための取組としては，推薦入学予定者への入学前教育を継続実施した．入学時アンケート結果は，第 2 部第 1 章大学教育開発センターの活動と成果の中で 2-3 アドミッション部会の項に記載した．

3 高大連携

3-1 概要

本学と岡山県高等学校長協会との懇談会及び本学と県内の高等学校等進路指導担当教員との意見交換会を実施した．また，平成 29 年度に続き，高校生向けにアレンジした本学の授業を提供することによって，高校生に大学で学ぶ意義と楽しさを理解させ，大学で学ぶために必要な基礎学力の修得に取り組むきっかけとさせることを目的とした「高校生のための大学授業開放」を実施した．

3-2 高等学校校長協会との連携

3-2-1 本学と岡山県高等学校長協会との懇談会

日　時：平成 30 年 7 月 27 日（金）13:30～15:00
場　所：本部棟 2 階大会議室
出席者：高等学校側　14 人，本学　12 人
内　容：本学の重点的取組，入試制度改革，平成 31 年度入学者選抜，議題協議，意見交換等

3-2-2 本学と県内の高等学校等進路指導担当教員との意見交換会

日　時：平成 30 年 6 月 27 日（木）13:00～15:00
場　所：学部共通棟（東）8903 講義室
出席者：高等学校側　38 人，本学　20 人
内　容：平成 31 年度入学者選抜，平成 33 年度入学者選抜における変更,高等学校等からの事前質問・要望に対する本学の解答と質疑応答，学科ごとの個別相談

3-3 高大接続事業

3-3-1 高校生のための大学授業開放

日　時：平成 30 年 8 月 18 日（土）10:00～（保健福祉学部），10:20～（情報工学部），13:30～（デザイン学部）
場　所：各学部棟他
出席者：393 名
内　容：各学部，学科毎に講義，演習，実験及び実技を交え高校生向けにアレンジした授業を実施した．各学部・学科の授業内容は次のとおり．

１．保健福祉学部看護学科
10：10～11：40　高校生のための小児看護学入門：子どもの運動機能の発達（講義）
13：00～14：30　高校生のための老年看護学演習：認知症をもつ高齢者とのかかわり（演習）
13：00～14：30　高校生のための基礎看護学演習：聴診器で聴いてみよう！身体（心臓）の音（演習）
２．保健福祉学部栄養学科
10：10～11：40　高校生のための生化学入門（講義）
10：10～11：40　高校生のための食品学入門（講義）
13：00～16：00　高校生のための分子生物学実験（実験）
13：00～16：00　高校生のための調理学実験（実験）

３．保健福祉学部保健福祉学科社会福祉学専攻
10：10～10：55　高校生のための国際福祉論・地域福祉論（講義）
11：00～11：55　高校生のためのユニバーサルデザインの理論と実践（講義）
12：40～13：20　高校生のためのソーシャルワーク演習（演習）
12：40～13：20　高校生のための精神科ソーシャルワーク演習（演習）
12：40～13：20　高校生のためのスクールソーシャルワーク演習（演習）
12：40～13：20　高校生のための介護福祉演習（演習）
13：30～14：10　高校生のためのソーシャルワーク演習（演習）
13：30～14：10　高校生のための精神科ソーシャルワーク演習（演習）
13：30～14：10　高校生のためのスクールソーシャルワーク演習（演習）
13：30～14：10　高校生のための介護福祉演習（演習）
４．保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻
10：10～11：50　高校生のための教育心理学：子どものやる気を促す関り（講義）
高校生のための家庭支援論（講義）
13：10～14：40　高校生のための保育内容（表現）（演習）
13：10～14：40　高校生のための乳児保育演習（演習）
５．情報工学部
10：20～11：50　高校生のためのトランジスタ入門（講義）
10：20～11：50　高校生のためのプログラミング言語入門（講義）
10：20～11：50　生活を支える人間情報工学（講義）
12：40～14：10　高校生のためのディジタル回路（演習）
12：40～14：10　高校生のための 3 次元 CAD 入門（演習）
12：40～14：10　生活を支える人間情報工学（実験）
６．デザイン学部
14：00～15：30　イスと建築のデザインにまつわる 5 つの物語（講義）
14：00～15：30　つかいやすいをデザインする（講義）
14：00～15：30　ゲーム制作ミニワークショップ（講義）
14：00～15：30　造形デザインの気づきと見立て（講義）
14：00～16：00　建築のデジタルデザイン（実技）
14：00～16：00　レーザーカッター入門（実技）
14：00～16：00　印刷で表現の幅を広げる（実技）
14：00～16：00　フェルトメイキング（実技）

3-3-2 その他の高大連携事業

日　時：平成 31 年 2 月 7 日（木），2 月 12 日（火）
内　容：食品の機能性を測定する実験方法の指導
受講者：清心女子高等学校　総合的な学習・物質科学課題研究選択者　２年生 5 名，
引率教員１名
担当教員：保健福祉学部　栄養学科　伊東秀之教授

日　時：平成 30 年 9 月 25 日（火）から 11 月 20 日（火）までの間の 6 日間
内　容：住環境（ 9 月 25 日，10 月 2 日），色彩（10 月 16 日，10 月 23 日），
ユニバーサルデザイン等（11 月 13 日，11 月 20 日）
受講者：総社高等学校　家政科「デザイン基礎」選択者　２年生 10 名，
引率教員１名
担当教員：デザイン学部　造形デザイン学科　山下明美教授
デザイン学部　デザイン工学科　朴貞淑准教授，益岡了准教授

高大連携協定に基づく高等学校への講師派遣及び生徒の受入に関するデータは付録 1-E を，高等学校への講師派遣及び生徒の受入（高大連携協定以外）に関するデータは付録 1-F を参照されたい.

3-4 まとめと課題

高等学校教育から大学教育へのスムーズな移行を促すための取組の一つとして，大学教育開発センター・アドミッション部会の企画による高校生のための大学授業開放の継続実施が行われたが，事業後のアンケートの結果からも，大学の授業を理解するために高校での学習がいかに重要であるかを理解してもらうという高大接続事業としての役割，ならびに本学で学ぶ意義や楽しさを伝えることで，本学に適性のある受験生の確保につなげるという事業の目標のいずれも達成されていることが窺われた．協定に基づいて実施され，高校の単位として認められる高大連携事業は今のところ上記 2 件のみであるが，少子化の進む中受験生の確保に向けて高大連携事業は今後重要性を増していくと考えられ，充実に向けた取り組みが大きな課題である．また，高大接続改革は大学の教育改革を含むものであり，今後は Society5.0 時代に求められる革新技術やビッグデータを最大限に活用し新たな価値を生み出す人材，多様性をもった集団をマネージしリーダーシップを発揮できる人材の育成に向けたカリキュラム改革を進めていくことが課題である．さらに，技術革新の著しい時代においてリカレント教育の充実も社会から望まれており，実現に向けて検討して行く必要がある．高校生のための大学授業開放の内容等詳細については，第 2 部第 1 章大学教育開発センターの活動と成果の中で 2-3 アドミッション部会の項に記載した.

4 共通教育における学生の学習支援

4-1 概要

本学の共通教育は,建学の理念「人間尊重と福祉の増進」と,本学全体の教育目的「人間・社会・自然の関係性の理解」とに基づきながら,教養教育全般を担う全学対象科目を設置している.それは次の３科目群に大別される.

導入科目群　学部初年次教育として知的実践的自律性を培う
理論科目群　学部教育の知的根幹を担う理論的な知識を学ぶ
実践科目群　理論的な知識を応用する実践的な力を体得する

共通教育は 3 科目群の教育方針によって具体的には,

- 現代社会の多様性を理解し,時代の変化に対応することができる豊かな教養を備えた「人間力」を育成する.
- 地域社会あるいは国際社会との連携等を通して,実社会における課題を自ら発見し解決する能力を持った「社会力」を涵養する.
- 異文化理解あるいはチームワーク活動には不可欠な実践的「コミュニケーション力」，および科学技術の進展に支えられた「情報処理・活用力」を修得させる.

共通教育の教育課程は,下記のように教育方針としての３科目群（縦軸）によって編成されるとともに,学問分野に応じた６つの科目カテゴリー（横軸）によっても編成されている.

表　共通教育による教育課程の編成

共通教育		教育方針の3科目群		
		導入科目群	理論科目群	実践科目群
学問分野の6カテゴリー	修学基礎	○		
	人文・社会科学		○	○
	自然科学		○	○
	健康科学		○	○
	語学国際		○	○
	社会連携			○

学問分野の6カテゴリーの編成内容は以下のとおりである.

(1) 修学基礎：高校の学びから大学での学びへの転換と準備,そして大学生としての自律を促す

(2) 人文・社会科学:人間性を考える普遍的な理論や知識を習得し言葉の力を身につけるとともに,社会の仕組みや歴史から様々な解決すべき課題を学び,共同体のあり方を問う力を養う

(3) 自然科学：自然現象やそれに関わる発見から普遍的な真理を探究することを通じ,論理的思考力や問題発見力,批判力などを身につけるとともに,そのために必要な情報処理などの技能を習得する

(4) 健康科学：身体とその健康に関する理論や知識を習得し,実生活に応じた思考力を養うとともに,社会の中で生涯にわたり健全な生活をおくる具体的技能を身につける

(5) 語学国際：グローバル化する地域社会のみならず一般的に国内外の様々な文化環境においても,そこで活躍するために必要不可欠な語学力を育成するとともに,異文化理解をも深める

(6) 社会連携：地域で活躍するために必要な地域の理解と,他者との協働性を養成する

ここで,全学科で必修となる授業科目の多くを 1 年次に配当し,高等学校での学習内容から大学教育へスムーズに移行できるようにしている.

なお,平成 30 年度から人文・社会科学,自然科学,健康科学のカテゴリーには,要論,基幹科目,複合 PBL（Problem Based Learning）科目を設定しており,さらに具体的,実践的に学修内容の定着を図るための科目へと発展できるように改定している.

この6つのカテゴリーについて,共通教育部内に教養教育推進室,語学教育推進室,情報教育推進室,健康・スポーツ教育推進室,社会連携教育推進室の 5 つの推進室を設置して教育を実施している.さらに,「共通教育の充実及び共通教育と専門教育との連携に関する」業務を実施するために,大学教育開発センター内に共通教育部会が設置されている.共通教育科目に対するカリキュラム等の企画・立案などをこの部会が担当し,共通教育部ならびに各推進室で実施するように役割分担ができている.共通教育科目の実施にあたり,共通教育部を兼務する教員のみだけではなく,学部専任教員にも協力を仰いでいる.

共通教育における平成 30 年度の主要な成果は,以下に集約される.

- 共通教育カリキュラム・ポリシーに基づいて,平成 30 年度入学生から共通教育の新カリキュラムを開始した.
- 複合 PBL 科目を中心にアクティブ・ラーニングの積極的導入を推進し,予算的措置も実施した.
- 英語教育においては,セメスター制の方が学修成果につながると判断し,平成 31 年度時間割りにおいて,ELP1～6 をセメスター制で開講することにした.
- 3 年次生まで進行した副専攻「岡山創生学」において,これまでの経験を踏まえ,おかやまボランティア演習（1 年次）,地域協働演習（2 年次）等の実践科目を中心に,授業内容のさらなる充実を図った.また,地域インターンシップについては 22 名の履修者がおり,COC+推進室と協働で実施した.

4-2 共通教育部

共通教育部では,部内に教養教育推進室,語学教育推進室,情報教育推進室,健康・スポーツ教育推進室,社会連携教育推進室の 5 つの推進室を設置して教育を実施している.特に,本学の建学理念「人間尊重と福祉の増進」及び教育目的「人間・社会・自然の関係性」の理解を体現するために,

(1) 基礎的な知識を体系的に理解する姿勢の形成,

(2) 生涯にわたる知的活動あるいは社会生活において必要とされる論理的思考力・問題発見力・批判力・汎用的な技能の習得と形成,

(3) 地域連携等を通じた社会人基礎力や課題解決力の習得,

(4) 自己の人間的成長あるいは将来に継続する学習意欲の喚起を,専門分野にとらわれることのない涵養,

の４項目を柱として,知的自律性を培うための教養と技能を涵養する教育を,所属学部に係わることなく全学生に実施している.また,これらを通して,

- 現代社会の多様性を理解し，時代の変化に対応することができる豊かな教養を備えた「人間力」の育成
- 地域社会あるいは国際社会との連携等を通して,実社会における課題を自ら発見し解決する能力を持った「社会力」の涵養
- 異文化理解あるいはチームワーク活動には不可欠な実践的「コミュニケーション力」,および科学技術の進展に支えられた「情報処理・活用力」の修得

を軸とした上で,文部科学省が提唱する「学士力」あるいは経済産業省が提唱する「社会人基礎力」を見据えた教育を目指している.具体的には,教養教育全般を導入科目群,理論科目群,実践科目群の 3 つで構成し,授業科目を建学の理念に合致する次の 6 つのカテゴリーで編成している.

- 高校教育から大学教育への円滑な移行を促す「修学基礎」
- 教養教育としての「人文・社会科学」および「自然科学」
- 建学の理念に基づく「健康科学」
- 国際交流に対する意識付けを涵養する「語学国際」
- 地域社会との結びつきを育成し,社会の一員である自覚を喚起する「社会連携」

なお,平成 30 年度から「人文・社会科学」,「自然科学」,「健康科学」のカテゴリーには,要論,基幹科目,複合 PBL（Problem Based Learning）科目を設定し,より具体的,実践的に学修内容の定着を図るための科目へと発展できるように改定した.これにより,所属学部に捕らわれることのない汎用的な知識や技能の涵養を目指している.平成 31 年度入学生の共通教育科目の概要をまとめると,下の表のようになる.

平成 31 年度入学生（共通教育科目）

カテゴリー	授　業 科目数	全学的な必修科目
修学基礎	5	大学で学ぶ,フレッシュマンセミナー
人文・社会科学	21	人文・社会科学要論
自然科学	16	自然科学要論
健康科学	10	
語学国際	24	ELP 1・2・3・4・5・6
社会連携	9	おかやまボランティア論,おかやまを学ぶ
合　　計	85	

4-3 教養教育推進室

教養教育推進室は,前節で述べた 6 カテゴリーのうち「修学基礎」,「人文・社会科学」,および「自然科学」の教育を推進する組織である.11 名のメンバーで構成され,そのうち 10 名が共通教育部兼務教員である.「修学基礎」カテゴリーにおいては,専門教育を修得する上で重要な共通教育科目の履修指導を行うとともに,新入生対象のフレッシュマンセミナーにおいて,各学部・学科に求められる資質や基礎知識を身に付ける教育を行っている.また,「人文・社会科学」と「自然科学」カテゴリーにおいては,平成 30 年度からいずれも要論,基幹科目,複合 PBL（Problem Based Learning）科目を設定し,より具体的,実践的に学修内容の定着を図るための科目へと発展できるように改定した.これにより,大学生に求められる教養を身に付けた人材の育成を目指している.

コア科目である「人文・社会科学要論」および「自然科学要論」は全学必修であり,1 年次生 1Q および 2Q に開講している.いずれの講義も 3 名の専任教員で構成するオムニバス形式を取っている.なお,本科目は平成 28 年度まで開講した「人文・社会科学入門」と「自然科学入門」の後継科目の位置づけとなるが,「人文・社会科学要論」では人文科学と社会科学の全体像を述べた後,「哲学」,「社会科学」,「外国文学」の 3 分野を,「自然科学要論」では自然科学の全体像を述べた後,「物理学」,「生物学」,「化学」の 3 分野を 5 コマずつ講義し,学生の所属学部に依存することなく,各科学分野の概要を学べるようにしている点に特長がある.

教養教育推進室の課題については,共通教育部会において議題として取り上げ,その解決を図っている.共通教育カリキュラム・ポリシーに基づいて,平成 30 年度入学生から共通教育新カリキュラムを実施している.「人文・社会科学」,「自然科学」,「健康科学」の 3 つのカテゴリーについて,旧科目名称と対比させながら,平成 31 年度の開講計画を示す.

表　平成 31 年度　共通教育科目（人文・社会科学, 自然科学, 健康科学）開講計画

カテゴリー		平成 31 年度 開講科目	授業の方法	旧科目名称
人文・社会科学（1＋14＋6）		人文･社会科学要論	講義	人文・社会科学入門
	人文科学（7）	哲学	講義	
		倫理学	講義	倫理学の基礎
		歴史学	講義	歴史学
		宗教学	講義	
		心理学	講義	心理学入門
		文学	講義	日本文学
		芸術学	講義	
	社会科学（7）	経済学	講義	現代社会と経済
		経営学	講義	経営管理
		人類学	講義	社会人類学
		法学	講義	現代社会と法律
		社会学	講義	
		政治学	講義	
		日本国憲法	講義	日本国憲法
	複合ＰＢＬ（6）	感性文化論Ａ	講義	音楽の鑑賞
		感性文化論Ｂ	講義	美術の歴史
		感性文化論Ｃ	講義	メディア論
		感性文化論Ｅ	講義	食糧を考える
		共生社会論ＡＱ	講義	子どもと家族
		共生社会論Ｂ	講義	ジェンダー
自然科学（1＋11＋５）		自然科学要論	講義	自然科学入門
	自然科学（11）	数学Ａ	講義	数理と社会
		数学Ｂ	講義	基礎線形代数学
		数学Ｃ	講義	基礎解析学
		物理学Ａ	講義	基礎力学
		物理学Ｂ	講義	基礎電磁気学
		化学	講義	基礎有機化学
		生物学	講義	基礎生物学
		統計学Ａ/Ｂ	講義	統計学の基礎Ａ・Ｂ
		コンピュータ演習Ⅰ･Ⅱ	講義	コンピュータ演習Ⅰ・Ⅱ
	複合ＰＢＬ（5）	現代科学論Ａ	講義	情報技術の進展
		現代科学論Ｂ	講義	みぢかなバイオテクノロジー
		環境科学論Ａ	講義	生物と環境
		環境科学論Ｂ	講義	環境の科学
		環境科学論Ｄ	講義	地球の科学
健康科学（1＋6＋3）		健康科学要論	講義	健康科学入門
	健康科学（6）	生命倫理学	講義	生命倫理
		健康心理学	講義	健康と心理
		脳と身体の科学	講義	脳と身体の科学
		スポーツ科学	講義	スポーツの科学
		健康スポーツⅠ・Ⅱ	講義･実技	スポーツⅠ・Ⅱ
	ＰＢＬ複合（3）	応用健康科学論Ａ	講義	運動と健康
		応用健康科学論Ｂ	講義	食と健康
		応用健康科学論Ｃ	講義	住環境と健康

4-4 語学教育推進室

本学における語学教育は，「受動的な学習から能動的な学習」を目指すアクティブ・ラーニングを実施している．教師による一方的な指導ではなく，授業内での学生によるペア・ワークやグループ・ワークを主体とした学習，授業外でのインターネットを利用した自主学習を組み合わせた授業形態を採っている．

英語科目は，「適切で分かりやすい英語運用能力の獲得を最優先とした教育」を行っている．すなわち，英語母語話者のみではなく，非英語母語話者とのコミュニケーションを目的とした「国際共通語としての英語」を学ぶことに主眼を置いている．また，英語以外の言語にも注目し，ドイツ語，韓国語，中国語，フランス語を選択科目として準備している．本年度の学祭時には，本学教員による第二外国語ワークショップ「韓国語・ドイツ語のミニミニ講座」を企画し，実施した．今後も，語学教育推進室では，語学学習に関する授業内外でのサポート体制を取っていく．

以下において，ELP 科目と ESP 科目，語学教育推進室の利用状況，e-ラーニング教材の利用状況，TOEIC L&R IP の実施状況，スピーカーズコーナー，映画鑑賞会，定期刊行物について述べる．

（1）ELP 科目と ESP 科目

英語においては，全学クオーター制移行より一年前の H28 年度から新しい英語カリキュラム English Language Program（以下 ELP）を開始していたが，H29 年度をもって ELP 科目の本格稼動となった．ELP1～6 は必修科目であり，「使える英語」を意識したカリキュラムであり，コミュニケーション能力の涵養を目指したものである． ELP1～4 では，1 年次生を対象として，スパイラルに英語のコミュニケーション能力を伸ばすように目標を定めた．ELP5，6 では，必修科目を置かない第 2 クオーターを挟んだ配置となったため，受容的な能力の強化と異文化理解などを育成する発展科目とした．

ELP1，3，5，6 は理解力の涵養に焦点を当て，国際的な基準 CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）が求める 5 つの技能のうち，reading と listening を併せた技能複合型，ELP2，4 は発信力の涵養に焦点を当て，writing と speaking（interaction & presentation）を併せた技能複合型にすることで，履修者にも科目の性格が明確となるように工夫した．選択科目として ELP7～10 を，専門科目につなげる英語科目として ESP(English for Specific Purposes)科目を準備した．

以下の図は，学年の推移に伴った英語カリキュラムを示したものである．

図．英語科目 ELP1～10，ESP1&2

(2) CALL 教室(8120, 8122 教室)の利用

CALL 教室は,授業での利用,授業で使用しない平常時,ならびに夏季・春季の長期休暇中に開放し,学生に自主学習の機会を提供している.学生は,コンピュータに 8120, 8122 教室にインストールされている「発音検定」の自主練習,インターネットを利用した学習サイト「Open Voice」にアクセスする発話練習,e-learning 教材 ALC NEXT,e-learning 教材 English Central の授業外学習が可能である.

(3) 多読用書籍利用

語学教育推進室を利用する学生の目的の一つは,多読用書籍を利用することである.多読用書籍は,使用する主要な単語が制限され,全体の量や文法事項も調整され,英語学習者が辞書なしで楽しめるように工夫された多読用の英語教材のことを指している.これらの多読用書籍は,学生の関心を惹きつけるものを常備するように,計画的に数を増やし,常に学生の需要に応えるものとなっている.これらの本を大量に読んでいくことにより, 自然で平易に使える英語力育成および英語学習へのモチベーション向上を図っている.

語学教育推進室が所有する多読用書籍は,現時点では 2,000 冊を超えている.必修の英語科目を履修しているすべての学生が持つ学習ログ (学習記録) には,学生が読んだ多読本の記録を残していく工夫がなされているが,語学教育推進室の常勤スタッフは,学生からの多読本の選書の相談にも応じ,学生の英語における総合的な学びを支えている.以下に月ごとの多読用書籍の貸出状況表を示す.数字は,貸し出し冊数を表す.

表.多読書籍の貸し出し状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
保健福祉	614	912	514	456	269	49	479	403	158	447	101	0
情報	373	384	207	190	63	55	221	231	100	267	49	0
デザイン	203	339	161	158	26	43	193	178	69	145	33	0
計	1190	1635	882	804	358	147	893	812	327	859	183	0

(4) 語学教育推進室の TA 指導数

語学教育推進室では,ティーチング・アシスタント (以下,TA) を月曜日から木曜日まで週に 4 日間配置している.これらの学習支援事業に関する利用者総数 (数値は対応人数) は,下表に示すとおりである.内訳は,英語サポート,個人指導,授業補助となる.その中でも,授業補助が圧倒的な対応人数を占めた.特に,新年度開始の 4 月とコンピュータを使用する第 2 クオーターの 6, 7 月には,円滑な授業の運営のため,TA の補助を必要とした.

表.語学教育推進室の TA 指導数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
保健福祉	565	73	629	641	68	1	39	131	72	134	15	0
情報	585	24	414	339	24	0	45	88	45	182	15	0
デザイン	305	29	273	378	29	2	73	69	72	143	23	0
計	1455	126	1316	1358	121	3	157	288	189	459	53	0

(5) e-ラーニング教材の利用状況

H29 年度まで, オンライン自主学習システム ALC NetAcademy2 を利用していたが, この教材の供給が廃止されたため, H30 年度より, TOEIC L&R 対策に焦点を当てた e-learning 教材 ALC NEXT を導入した. 1 年次生には TOEIC L&R 500 点コース, 2 年次生には TOEIC L&R 600 点コースを指定して, 授業外学習とした. 利用者の達成率は以下の表のとおりである.

各コース共，Stage１から始まり，Stage 5 で完結するようになっている．

１年次生においては，達成率はクオーターが進むにつれて，順調に伸びた．2 年次生は，第１クオーター始めは順調に開始したが，その後のステージでの伸び率が悪かった．スマホでも可能な教材であるにもかかわらず,第２クオーター以降の達成率が低くなった理由は，第 2 クオーターには英語科目が配置されていなかったため，教員や語学教育推進室スタッフからのフィードバックや励ましがなかったためと分析できる．

表．平成 30 年度 ALC NEXT 達成率の平均（%）
１年次生 500 点コース

		Q1	Q2	夏季休暇	Q3	Q4
保健福祉	Stage 1	96.9	96.9	96.9	98.9	98.9
	Stage 2	91.3	92.5	92.6	95.1	95.1
	Stage 3	76.0	80.7	83.0	85.5	85.5
	Stage 4	73.9	79.3	81.8	83.5	83.5
	Stage 5	59.8	61.0	64.1	67.7	67.7
情報工学	Stage 1	91.8	92.0	92.3	94.1	94.1
	Stage 2	79.4	80.1	82.2	84.1	84.1
	Stage 3	55.8	59.1	62.4	66.2	66.2
	Stage 4	46.5	49.1	51.7	53.3	53.3
	Stage 5	24.0	30.0	30.6	32.8	32.8
デザイン	Stage 1	89.5	92.6	92.7	93.7	93.7
	Stage 2	79.2	83.8	84.2	86.4	86.4
	Stage 3	57.0	71.2	74.6	75.7	75.7
	Stage 4	51.3	60.7	64.5	65.9	65.9
	Stage 5	38.5	44.5	46.8	47.5	48.6

表．平成 30 年度 ALC NEXT 達成率の平均（%）
２年次生 600 点コース

		Q1	Q2	夏季休暇	Q3	Q4
保健福祉	Stage 1	85.5	85.6	85.8	86.2	86.8
	Stage 2	2.4	11.6	34.4	39.4	42.4
	Stage 3	0	2.1	17.1	27.3	31.3
	Stage 4	1.1	2.8	15.1	27.4	31.7
	Stage 5	6.6	8.7	16.3	26.8	32.5
情報工学	Stage 1	76.4	76.6	77.8	79.7	79.7
	Stage 2	1.5	3.9	24.9	39.5	39.5
	Stage 3	0	0.3	12.6	26.8	27.2
	Stage 4	2.2	2.2	11.9	30.3	30.9
	Stage 5	1.9	2.5	9.3	20.0	20.7
デザイン	Stage 1	62.4	64.3	64.5	70.7	70.7
	Stage 2	2.8	7.7	17.4	31.4	31.4
	Stage 3	0	0.1	15.2	22.1	22.1
	Stage 4	8.3	8.3	29.9	31.3	32.7
	Stage 5	0	0	11.9	22.2	23.4

ELP 2 & 4 において,スピーキングおよびライティング練習に焦点を置いた e-learning メソッド Open Voice の効果を検証するため,学習者のクオーターの始めと終わりにおける発話量の差を調べた. ELP2 において, 発話量がクオーターの始めと終わりで有意の差で増えた.

表. Open Voice：各クオーターの始めと最後の学習者のワード数（平均値と標準偏差）

学部	ELP2	ELP4
保健福祉	85.54 (25.84) **117.76 (28.65)**	115.35 (25.05) **130.32 (22.01)**
情報	89.73 (23.25) **106.75 (25.21)**	101.86 (27.84) **123.72 (23.93)**
デザイン	99.45 (43.35) **106.18 (41.15)**	111.69 (26.75) **113.37 (26.76)**
全学部	90.75 (30.29) **109.95 (31.05)**	109.56 (27.14) **123.74 (24.81)**

註：上段の数値はクオーターの始め, 下段の数値はクオーターの終わりの数値を表す.

ELP 5（2 年生必修科目）の履修者に対して,e-ラーニング教材 English Central を準備した. この教材は, 短いフィルム（ムービー）を観て,その短いフィルムを基にした問題に答えていくものであり, スマートフォンにも対応している.学習者に発話をさせる産出能力育成型教材である.学生が使用できる期間は,前期（4 月 10 日から 8 月 10 日）であったが, 下記の表では ELP5 履修条件の一つとしていた期間（4 月 10 日から 6 月 12 日）の学部別の利用平均値を示す.

表.平成 30 年度 English Central の利用（必須期間の平均）

学部	発話動画数	動画視聴数	学習単語数	学習活動数	発話数	学習時間
保健福祉 n = 147	17.34	27.88	61.95	65.54	47.73	79.18
情報 n = 168	5.88	10.30	26.97	29.71	17.57	27.80
デザイン n = 91	6.25	14.47	47.03	55.27	18.45	25.63

(6) TOEIC L&R IP 任意テスト受験

就職活動や進学上の必要性から受験を希望する学生がいるため,TOEIC L&R IP を学内で 3 回実施した.その実施状況は以下のとおりである.任意テストの結果は, 受験者サイズも小さく, 受験に対するモチベーションが高いため, 平均値は比較的高かった.

表.TOEIC L&R IP 任意受験者の概要

通算回数	実施年月日	受験者数	平均点(標準偏差)	最高点	500 点以上
41	平成 30 年 5 月 24 日	18	450.27 (132.42)	740	6
42	平成 30 年 7 月 4 日	24	420.62 (121.45)	725	5
43	平成 31 年 2 月 15 日	14	503.21 (123.54)	675	9

(7) TOEIC L&R IP の全員受験の実施

1 年次履修の「ELP1」履修者 407 名を対象として,平成 30 年 5 月 19 日（5 月 22 日追試実施）に TOEIC L&R IP を実施した.受験者 407 名,受験者平均点は 386.31 点,最高得点は 625 点であり,500 点以上取得者は全学部合わせて 53 名であった（990 点満点）.「ELP1」の履修クラスごとの平均点等は次の表のとおりである.

表. 平成 30 年度入学生「ELP1」履修学科別の結果

学部	学科	受験者数	平均点（標準偏差）	最高点	500 点以上
保健福祉	看護	44	447.39（100.41）	625	11
	栄養	43	416.28（101.80）	620	8
	保健福祉 A	41	381.95（82.43）	550	4
	保健福祉 B	20	395.25（98.20）	575	3
情報	通信 A	30	410.33（88.69）	620	5
	通信 B	29	380.17（95.67）	525	4
	システム A	25	346.20（88.40）	490	0
	システム B	25	366.00（95.44）	525	2
	人間情報	40	381.00（89.16）	545	6
デザイン	デ工	43	381.40（98.91）	620	6
	造形 A	25	309.60（71.67）	515	1
	造形 B	25	359.60（114.46）	625	3
全学		390	386.31（99.02）	625	53

註：保健福祉学科, 情報通信工学科, 情報システム工学科, 造形デザイン学科は 2 クラスに分けて実施.

2 年次履修の「ELP6」履修者 393 名を対象として, 平成 30 年 10 月 20 日（10 月 23 日追試実施）に TOEIC L&R IP を実施した. 受験者 393 名, 受験者平均点は 362.01 点, 最高得点は 900 点であり, 500 点以上取得者は全学部合わせて 39 名であった（990 点満点）. 経年変化を観察したので, 表中上段に平成 29 年度入学時の数値を入れている. 500 点以上獲得者の人数は, 2 名増え, 最高値も 850→900 となったが, 全体での平均値は下がった. クオーター制導入に伴って, 6 月中旬～9 月最終週までの期間に英語科目を配置することができなかったこと, 2 回目の実施日時が 1 回目で高得点を獲得したクラスの実習直後になったことなどが原因と考えられる.

表. 平成 29 年度入学生の入学当初と翌年 2 年次での（平成 30 年度）履修クラス別の結果
上段は平成 29 年度入学直後実施分, 下段は平成 30 年度秋実施分

学部	学科	受験者数	平均値（標準偏差）	最高値	500 点以上
保健福祉	看護	41 **41**	415.98（74.82） **354.76（83.07）**	595 **605**	6 **3**
	栄養	43 **42**	397.56（94.98） **366.90（104.20）**	570 **580**	8 **3**
	保健福祉 A	30 **40**	369.50（89.08） **332.75（89.23）**	610 **560**	2 **1**
	保健福祉 B	32 **20**	375.16（81.52） **382.75（87.23）**	575 **560**	1 **3**
情報	通信 A	32 **32**	362.81（84.41） **367.34（125.81）**	505 **635**	1 **7**
	通信 B	32 **31**	355.78（91.90） **371.61（131.96）**	570 **645**	4 **4**
	システム A	30 **30**	350.83（87.30） **372.67（126.08）**	570 **845**	1 **3**
	システム B	31 **31**	402.42（81.58） **412.42（131.28）**	590 **900**	5 **5**
	人間情報	41 **40**	337.93（91.96） **347.25（109.67）**	550 **675**	4 **3**

デザイン	デ工	39 **38**	376.15 (106.60) **350.26 (121.79)**	635 **685**	3 **4**
	造形 A	26 **24**	316.15 (94.14) **362.08 (107.91)**	525 **635**	1 **3**
	造形 B	26 **24**	324.42 (128.19) **342.50 (142.18)**	850 **900**	1 **1**
全学		403 **393**	368.28 (95.78) **362.01 (113.76)**	850 **900**	37 **39**

註：太字が 30 年度．保健福祉学科，情報通信工学科，情報システム工学科，造形デザイン学科は 2 クラスに分けて実施．保健福祉学科においては，AB のクラス分けが 29 年度と 30 年度では異なる．看護学科の 2 名の留学生の成績は除いている．
看護学科の留学生 2 名の成績：平均値 782.50（840,725）

(8) スピーカーズコーナー

大学祭第 1 日目（本年度は 11 月 3 日）に，本学の学生が外国語（英語・韓国語・ドイツ語・ドイツ語）を用い，5 分～10 分の持ち時間で，自身の経験などに基づくスピーチを披露した．本年度は 18 名の参加者があった．「Dogs in the UK」「韓国のグルメについて」「ドイツ経済に学ぶ日本のこれから」など，多岐にわたったテーマでスピーチが行われた．

(9) 定期発行物 Newsletter WeLL+

この Newsletter は，各学部の学部生と大学院生及び語学教育推進室のスタッフが，教員や学生からの投稿記事を基に編集作業を行っている．

4 月と 10 月に，第 14 号と第 15 号を発行し，全学部 1･2 年生と教職員に配布された．語学学習の方法，語学研修の体験記事，語学教育推進室主催の行事，資格検定試験実施の案内などを掲載した．

(10) 映画鑑賞会（国際交流センターとの共催）

国際交流センターとの共催で，語学教育を目的とする映画鑑賞会を行った（5/17, 6/28, 10/18, 11/29）．4 本の映画の内，3 本は英語，1 本は韓国語のものだった．

4-5 情報教育推進室

情報社会の進展に伴い，情報通信機器およびデータの活用があらゆる分野で求められている．そのような中，情報技術に関する知識を学ぶことによって情報社会に適応できる能力を養うことを目的として情報教育推進室が開設された．構成メンバーは室長，副室長の他，室員であり，いずれも情報工学部の教員が担当している．今年度入学生の開設授業科目において関係する科目は次の通りである．

・「統計学 A」
・「統計学 B」
・「コンピュータ演習 I」
・「コンピュータ演習 II」
・「科学技術論 A」

これらの科目の担当教員は本推進室の構成メンバー（ただし，室長を除く）の他，非常勤講師で構成されている．「情報・統計」の開講科目は卒業判定に関係する科目が少ないなどの理由により科目数自体少ないが，多くの学生が情報技術の習得を望んでおり，情報技術教育のさらなる向上を目指す必要があると考えられる．今年度から実施したカリキュラム改革により，今年度入学生から「情報・統計」のカテゴリーが廃止され，担当科目が自然科学基幹科目または複合 PBL 科目のカテゴリーに移動となった．科学技術論 A については，本講義の要点を統計学 A，B やコンピュータ演習 I，II に含めることにより，来年度から発展的に廃止する．

（演習室の開放）

学生の情報活用能力の向上を図り,情報教育演習や自主学習利用の目的のため,情報基盤活用推進センターにより,インターネットに接続された PC を備えた情報処理演習室を年間 166 日開放した.各月の延べ利用者数及び開放日数は下表のとおりである． 平成 30 年度の延べ人数は 6,804 名であり,前年度比約 13%の利用者減であったが,学生向けに開放している学内無線ＬＡＮの利用が相当数あり,全体としての情報ネットワーク利用者数は減っていないと思われる.但し，これら無線ＬＡＮアクセスについてはスマートフォンやタブレットが中心と思われ，ＰＣリテラシーの向上という観点から課題があると思われる．情報処理演習室の利用者数を学部別でみると,保健福祉学部（保健福祉学研究科を含む）が全体の約 79%,情報工学部（情報系工学研究科を含む）が約 11%,デザイン学部（デザイン学研究科を含む）が約 9%であった.保健福祉学部が突出している原因は,情報工学部及びデザイン学部はそれぞれ学部教育用の計算機演習室を整備しているが,保健福祉学部にはそれらに相当する演習室がないためと考えられる.演習室の利用者は年々減少しているが,本推進室においてもホームページ等で演習室の利用を促すなど,利用者数の向上に努めたい.

（ア）延べ利用者数

月	4 月	5 月	6 月	7･8 月	9･10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
H27	1,835	1,368	1,713	2,550	2,264	1,126	1,145	1,144	468	13,613
H28	1,675	1,137	1,183	1,708	2,045	1,185	1,170	894	380	11,377
H29	762	1,025	676	768	1,159	1,066	1,028	966	329	7,779
H30	474	869	625	1,088	1,186	895	721	717	229	6,804

（イ）開放日数

月	4 月	5 月	6 月	7･8 月	9･10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
H27	14	14	22	27	26	17	15	15	8	158
H28	15	19	22	26	25	19	15	15	8	164
H29	14	19	22	28	26	19	16	16	7	167
H30	14	20	21	27	26	19	15	17	7	166

4-6 健康・スポーツ教育推進室

健康・スポーツ教育推進室は本学の教養教育における「健康科学」の教育を推進する組織であり，身体とその健康に関する理論や知識を修得し，実生活に応じた思考力を養うとともに，社会の中で生涯にわたり健全な生活をおくる具体的技能を養うことがその目的である.その他にも,学生の課外活動に使用する施設,機器等の維持管理,全学における学生及び教職員の健康の維持・推進のための施設利用に関する事項,全学のスポーツ施設の地域社会への提供に関する事項,地域における健康・スポーツ教育活動に関する事項など所掌事項は多岐にわたる.

構成メンバーは 4 名で,そのうち 3 名は共通教育部兼務教員,1 名は健康科学カテゴリー科目を担当する学部教員である.平成 30 年度の健康科学カテゴリー科目は,理論科目群と実践科目群から構成され,理論科目群にはコア科目の「健康科学要論」に加えて基幹科目である「生命倫理学」「健康心理学」「脳と身体の科学」「スポーツ科学」「健康スポーツ A」「健康スポーツ B」が配置され，実践科目群には具体的，実践的に学修内容の定着を図るための科目へと発展することを目指した複合 PBL（Problem Based Learning）科目である「応用健康科学論 A」「応用健康科学論 B」「応用健康科学論 C」が設置されている．講義科目はいずれも准教授以上の専任教員が主担当となっている.実技科目については学科別の開講とし，天候に左右されない施設の有効活用を実現する時間割編成とした.これにより,スポーツ授業の目的の 1 つである多様なスポーツの実践を通して，基礎的な運動能力はもとより健康の維持及び体力の増進に資する技能を獲得する環境がより多くの学生に対して整備された．実技科目では,前期に全履修生を対象にスポーツ施

設の使用に関するオリエンテーションを行い，その後 4 種のスポーツ種目を実施し,7 月期にはプールを活用したアクアスポーツを実施した.後期にも同様にオリエンテーションを実施した後,前期の受講種目とも関連させ,発展的な内容を取り入れたり,新規の種目を選択したりするなどして 4 種目実施した.

特に昨年度に体育館トレーニング場の床上げ工事を実施し，全面使用可能にしたことによって，トレーニング場を利用した運動処方やフィットネスなどの種目も履修者全員が実施できるようになった．また,健康スポーツ A 及び B の TA に協力してもらい,その他の体育・スポーツ施設についても点検,整備を行った．更に課外活動におけるスポーツ施設の有効利用を推進するため,学友会と協働してスポーツ施設に関する要望を調査し,適切な施設使用,管理に関する指導,助言を行った.

4-7 社会連携教育推進室

3 年次生まで進行した副専攻「岡山創生学」において,共通教育カテゴリー「社会連携」科目群には,「おかやまボランティア論」「おかやまを学ぶ」「地方自治論」「おかやまボランティア演習」「地域再生実践論」「地域協働演習」「地域インターンシップ」「企業と組織の活動」「起業の条件」がある.平成 30 年度はこれまでの経験を踏まえ,おかやまボランティア演習（1 年次）,地域協働演習（2 年次）等の実践科目を中心に,授業内容のさらなる充実を図った.また,地域インターンシップについては 22 名の履修者がおり,COC+推進室と協働で実施した.

次年度は COC+事業の最終年度であり,副専攻「岡山創生学」の開講科目について,学修成果の向上を目指して改善するとともに,COC+事業終了後のカリキュラムへの反映について検討する.

4-8 留学生・転学生

本学では,日本の生活に不慣れな留学生（韓国又松（ウソン）大学校からの転学生,短期留学生を含む）が,いち早く日本の生活・文化に慣れ,学習・研究活動に励むことができるようにするため,本学学生の中から学業や生活の相談相手を選定し,留学生のサポートを行うチューター制度を設けるなど学業・生活面の両面において支援を行っている.平成 30 年度は,留学生に対して,各学科における学習支援のほか,授業料減免制度や奨学金募集等の情報提供及び活用の支援などを行った.

なお,平成 30 年度の留学生数は,学部生 8 人,大学院生 8 人の計 16 人で,3 人の留学生に対しチューターを配置した.最近 5 年間における留学生数及びチューターを利用した留学生数は次のとおりである.

年　　度	H26	H27	H28	H29	H30	合計
留学生数（学部生）	5	6	4	2	8	31
留学生数（大学院生）	5	4	5	7	8	35
合　　計 （うちチューター利用）	10 (2)	10 (3)	9 (1)	9 (3)	16 (3)	66 (14)

4-9 大学コンソーシアム岡山

県内の 17 大学が参加する大学コンソーシアム岡山では,平成 21 年度に文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」事業の選定を受けた「岡山オルガノンの構築」（代表校：岡山理科大学）の 3 年間にわたる事業に対し,平成 23 年度に補助金交付が終了したことを受けて,その事業を平成 24 年度から継承してきた.平成 27 年度に設置された将来構想委員会において事業運営を検討し,平成 30 年度はその方針に従って運営されている.

はじめに,平成 30 年度に実施された事業（単位互換,インターンシップ,吉備創生カレッジ,日ようび子ども大学,エコナイト,SD 研修会）に対する本学の参加状況を説明し,その後,平成 31 年度以降に対する対応を述べる.

〔本学の参加状況〕

（1）単位互換

(他大学→本学)

年　　度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	合計
対面	履修学生数	0	1	1	1	0	0	3
	履修科目数	0	1	2	2	0	0	5
	本学提供科目数	10	10	8	4	4	4	40
双方向ライブ	履修学生数	2	3	1	0	0	0	6
	履修科目数	1	1	1	0	0	0	3
	本学提供科目数	1	1	1	0	0	0	3
VOD	履修学生数	4	0	7				11
	履修科目数	1	0	1				2
	本学提供科目数	1	1	1				3
合計	履修学生数	6	4	9	1	0	0	20
	履修科目数	2	2	4	2	0	0	10
	本学提供科目数	12	12	10	4	4	4	46

(本学→他大学)

年　　度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	合計
対面	履修学生数	3	2	3	2	2	0	12
	履修科目数	3	2	2	3	1	0	11
双方向ライブ	履修学生数	0	1	0	0	1	0	2
	履修科目数	0	1	0	0	1	0	2
VOD	履修学生数	1	1	1				3
	履修科目数	1	1	2				4
合計	履修学生数	4	4	4	2	3	0	17
	履修科目数	4	4	4	3	2	0	17

（※）双方向ライブと VOD を履修した同一学生の数を除く

（2）インターンシップ参加（㈱ナジック・アイ・サポート）

年　　度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	合計
参加学生数	51	38	16	14	9	1	147

（3）吉備創生カレッジ

No.	年度	開講期	科　目　名	講　　師
1	H22	前期	俳句を楽しむ	柴田奈美（デザイン学部教授）
2			くらしと微生物	中島伸佳（保健福祉学部准教授）
3		後期	懐かしの洋食器世界	久保田厚子（デザイン学部教授）
4			赤毛のアンの姉妹たち	桂宥子（情報工学部教授） 星野裕子（保健福祉学部教授） 杉村寛子（保健福祉学部准教授）
5	H23	前期	景観デザインを考える	熊澤貴之（デザイン学部講師）
6		後期	英米文学カフェ	杉村寛子（保健福祉学部准教授）
7	H24	前期	地産地消と食文化	岸本妙子（保健福祉学部教授）
8		後期	再生エネルギー発電	徳永義孝（情報工学部准教授）

9	H25	前期	近代期の禁酒運動	二宮一枝（保健福祉学部教授）
10			日本のデザイン文化	吉原直彦（デザイン学部教授）
11			高齢者の健康維持と運動	犬飼義秀（情報工学部教授）
12		後期	人とロボットの眼の不思議	滝本裕則（情報工学部助教）
13			いま,子どもの育ちを考える	池田隆英（保健福祉学部准教授）
14			続・日本のデザイン文化	吉原直彦（デザイン学部教授）
15	H26	前期	広がるワイヤレスの世界	大久保賢祐（情報工学部教授）
16			日本人の糖尿病	福島光夫（保健福祉学部教授）
17		後期	韓国の身近な文化を知ろう	朴貞淑（デザイン学部講師）
18			「嵐が丘」入門	杉村寛子（保健福祉学部教授）
19			情報とデザイン	尾崎洋（デザイン学部講師）
20			考えるコンピュータの考え方	但馬康宏（情報工学部准教授）
21	H27	前期	脳から解る認知症	澤田陽一（保健福祉学部助教）
22			人間のダイナミクス	迫明仁（情報工学部教授） 齋藤誠二（情報工学部准教授） 大山剛史（情報工学部助教）
23			メソアメリカデザイン	真世土マウ(デザイン学部准教授)
24		後期	生活習慣病予防のための食事	平松智子（保健福祉学部准教授）
25			インターネットの仕組み	國島丈生（情報工学部准教授）
26			映画の表現技法	山下万吉（デザイン学部講師）
27	H28	前期	小石川療養所の建築	福濱嘉宏（デザイン学部教授）
28			思春期の性に関する子育て	岡﨑愉加（保健福祉学部准教授）
29			再生可能エネルギー発電	德永義孝（情報工学部准教授）
30		後期	高齢社会と地域―日韓比較―	井上祐介（保健福祉学部助教）
31			日本の工業デザイン史	益岡了（デザイン学部准教授）
32			人とロボットの類似点相違点	井上貴浩（情報工学部准教授）
33	H29	前期	美学入門	樋笠勝士（デザイン学部教授）
34			１９世紀イギリス小説を読む	杉村藍（情報工学部教授）
35			子どもの食と健康	川上貴代（保健福祉学部教授）
36		後期	歴史から見る人工知能	但馬康宏（デザイン学部准教授）
37			医療と自己決定	沖本克子（保健福祉学部教授）
38			世界のコミック入門講座	中西俊介（デザイン学部准教授）
39	H30	前期	介護保険と地域づくり	岩満賢次（保健福祉学部准教授）
40			脳を解剖するとは	柳原衛（情報工学部准教授）
41			生活の中のデザイン	尾崎洋（デザイン学部講師）
42		後期	はじめての社会調査入門	都島梨紗（保健福祉学部講師）
43			レーザー光が拓く現代社会	徳田安紀（情報工学部教授） 坂口浩一郎（情報工学部助教）
44			病気とたたかう子どもの空間	畠和宏（デザイン学部助教）

（4） 日ようび子ども大学

岡山県生涯学習センターと協力し,「日ようび子ども大学in京山祭」を平成23年より開催している.県内の17大学,5短期大学,1高専の大学生が集まって子どもが体験できるブースを設置するなど,親子で楽しんでいただく催しを開催している.平成30年度の実施状況及び本学の展示内容は次の通りである.

・開催日時： 平成 30 年 6 月 3 日（日） 10:00～15:00
・会　　場： 岡山県生涯学習センター
・参 加 者： 1,882 名（対象：一般,学生,大学教職員）
［内訳：大人 730 名,子ども 898 名,学生 200 名,大学教職員 54 名］
・展示内容： (1) お話を聞いてくれる“うなずき草”（渡辺富夫）
(2) 光糸電話でおしゃべりをしよう（滝本裕則）
(3) 影で遊ぼう（坂口浩一郎）
(4) オリジナル錯視を作ろう（瀬島吉裕）
・成果と報告 情報工学部としては初出展だったが，多くの方にブースに来場いただき，情報工学に関する体験やモノづくりを楽しんでもらえた.
・担 当 者： 瀬戸吉裕助教（情報工学部）ほか教員 3 名及び学生 5 名

年度	開催日	会　　場	参加大学数	参加者数
H23	6 月 26 日	岡山商科大学	8 大学	508 名
H24	6 月 24 日	岡山県生涯学習センター	11 大学	1,188 名
H25	6 月 2 日	岡山県生涯学習センター	13 大学・短大	1,500 名
H26	6 月 1 日	岡山県生涯学習センター	14 大学・短大	1,854 名
H27	6 月 7 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	2,428 名
H28	6 月 5 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	2,579 名
H29	6 月 4 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	1,587 名
H30	6 月 3 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	1,882 名

（5）エコナイト

県内の 17 大学,5 短期大学,1 高専が連携し,地域貢献活動の一環として,環境問題への啓発を目的として平成 23 年度より実施している.具体的には,岡山県,岡山市等行政機関や企業と連携して,学生間の交流活動推進と地域との連携強化を図りつつ,学内消灯や自動車通勤の自粛,エコキャンドルの点灯,一斉ライトダウンの呼びかけ,その他,参加大学毎に独自のエコに関する環境教育の実践的活動を実施している.平成 30 年度は,統一活動として「岡山の大学からエコの輪を広げよう！」を合言葉に,エコロジーを考える活動を,加盟校の 12 大学・短期大学が岡山奉還町商店街で実施し,本学からも学生が参加した.また,本学独自の平成 30 年度の実施状況は次の通りである.

・テ　ー　マ： 平成 30 年 7 月豪雨復興支援なつまつり＃がんばろう総社
・開　催　日： 平成 30 年 7 月 27 日（金）
・会　　場： 学生会館周辺
・参　加　者： 約 250 名
・開 催 内 容： 7 月 23～27 日の間，学生が学内で募金活動を行った.イベント当日は学友会によりかき氷，そうめん，フランクフルト，冷やしパインの販売を行い，売り上げを義援金として総社市に寄付を行った.部・サークルによるパフォーマンスは屋外で行った.かき氷や冷やしパイン等冷たいものを食べながらパフォーマンスを鑑賞することで空調を使用せず行うことができた.
・成果と課題： 学生の参加人数はイベントを順延したことにより，例年より多少減.浴衣や甚平で参加した学生も見られ,学生同士の交流のよい機会となったように見受けられる.イベント順延の周知が行き届かず，参加人数に変動が見られたことから,イベント開催日を変更する場合の周知方法について工夫があればと考えている.

年度	開催日	会　　場	参加大学数	参加者数
H23	7 月 7 日	各大学及び NHK ひかりの広場	16 大学	約 1,500 名
H24	7 月 7 日	各大学及び岡山駅東口広場	16 大学	約 3,000 名
H25	7 月 7 日	各大学及び岡山駅東口広場	16 大学	約 4,600 名
H26	7 月 6 日	各大学及び岡山駅東口広場	16 大学/4 短大/1 高専	約 3,300 名
H27	7 月 5 日他	各大学及び岡山市奉還町商店街	16 大学/3 短大	約 2,900 名
H28	7 月 7 日	各大学及び岡山駅東口広場	17 大学/5 短大/1 高専	約 2,900 名
H29	7 月 8 日他	各大学及び岡山市奉還町商店街	17 大学/5 短大/1 高専	約 2,900 名
H30	7 月 14 日他	各大学及び岡山市奉還町商店街	10 大学/2 短大	約 2,400 名

（6）SD 研修会

平成 28 年 4 月の障害者差別解消法施行を念頭に,障がい学生の就労及び就労に向けた修学上の支援について理解を深めることを目的とする研修会が開催されている.平成 30 年度の実施状況は次のとおりである.

・開催日時：　平成 30 年 8 月 28 日（火）　13:30～16:30
・会　　場：　岡山大学創立五十周年記念館
・研修内容：　基調講演　「障がい学生と企業をつなぐ -就労移行支援事業に関するミニ講座- 」
講師　池谷　航介 氏（岡山大学 全学教育・学生支援機構 講師）
基調講演１.「障がいのある方の“超” 短時間雇用制度「ショートタイムワーク制度」について」
講師　木村　幸絵 氏(ソフトバンク(株) 人事総務総括 ＣＳＲ１課長)
基調講演２.「発達障がい学生のための就職支援プロジェクト -社会福祉法人すいせいの取組-」
講師　塚田 吉登 氏（社会福祉法人すいせい ＋Ｕ担当）

年度	開催日	内　　容	会　　場
H22	8 月 24 日	大学職員のための実践メンタルヘルス講座	山陽新聞社（本社ビル）
H23	8 月 29 日	クレイマー対策	岡山大学(津島キャンパス)
H24	8 月 31 日	大学における運動部活動	山陽新聞社（本社ビル）
H25	8 月 26 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)
H26	8 月 28 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)
H27	9 月 28 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)
H28	8 月 23 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)
H29	8 月 24 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)
H30	8 月 28 日	障がい学生支援研修会	岡山大学（創立五十周年記念館）

〔平成 31 年度以降〕

本学としては,大学コンソーシアム岡山の事業を平成 27 年度に採択された「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC プラス)」のために活用することを視野に入れ,一層の貢献をすべきと考える.

4-10 まとめと課題

本学の共通教育の特長は,(1)建学理念「人間尊重と福祉の増進」および教育目的「人間・社会・自然の関係性の理解」における教養教育全般を担う科目群として,大学に入学した初年次生対象の導入科目群,大学教育の根幹を担う理論的な知識を学ぶ全学対象の理論科目群,大学教育の理論的な知識を応用する実践的な力を体得する全学対象の実践科目群の 3 科目群に大別されること,(2)学問分野に応じて授業科目を「修学基礎」,「人文・社会科学」,「自然科学」,「健康科学」,「語学国際」,「社会連携」の 6 つのカテゴリーで構成していることに集約される.これまでに検討した共通教育カリキュラム・ポリシーに基づいて平成 30 年度入学生から共通教育の新カリキュラムを開始した.平成 31 年度以降の最重要課題として,この新カリキュラムの実施,点検,評価が挙げられるが,評価においては,共通教育科目修了時における学修成果の評価法の確立が必要である.さらに,学修効果の向上のため,アクティブ・ラーニングを積極的に導入する.

英語教育においては,セメスター制の方が学修成果につながると判断し,平成 31 年度時間割りにおいて,ELP1～6 をセメスター制で開講することにした.また,平成 28 年度導入した ELP が完成年度を迎え,TOEIC の有効活用と合わせた点検と評価が課題となる.さらに,語学文化研修については,海外研修と合わせ,効果的な実施先と実施数を継続して検討する.

社会連携科目においては,平成 31 年度が COC+事業の最終年度であり,副専攻「岡山創生学」の開講科目について,学修成果の向上を目指して改善するとともに,COC+事業終了後のカリキュラムへの反映について検討する.また,大学コンソーシアム岡山の事業を COC+のために活用することも視野に入れる.

5 専門教育における学生の学習支援

5-1 概要

本学の学士課程教育では,各学部・学科の何れも,実学を標榜する本学の教育理念及び学部・学科の教育目的に沿って策定されたカリキュラム・ポリシー（付録 2 参照）に基づいた学部教育が展開されている.保健福祉学部では各学科にて,試験合格率において高い水準を維持している国家資格取得のためのカリキュラム実施と併せてグローバル教育や地域連携教育を加味した多彩な教育プログラムや授業方法を工夫している.情報工学部では,難度の高い理系教育への適応に向け初年次における補充教育等に注力するとともに,多数の学生が博士前期課程進学をめざすことから,情報工学の基礎を十分に修得させるほか,学士として社会進出する学生における実学教育も工夫している.なお,平成 27 年度入学生よりスポーツシステム工学科から名称変更された人間情報工学科においては,30 年度に完成年次を迎えた.デザイン学部では学生のキャリア形成支援を第一義におき,従来の産学連携教育に加えて地域連携教育やグローバル教育を加味し,演習や卒業研究等の場面を通じて企画提案力とマネジメント力を併せ持つ学生を育成するため,外部及び学内資金を活かして多様な学習機会を提供するなど教育方法を工夫している.

以上の実学教育により,従来の少人数教育によるきめ細かな学習支援をベースに,各専門分野の知識とスキルを授けるべく工夫改善を継続しているが,多くの専門分野で多様な学習機会を活用したアクティブ・ラーニングの取組が増えつつあり,専門教育でも社会人基礎力の育成機運が芽吹いてきている.

なお,本学では今年度から,従来学科ごとで運用を工夫していたアドバイザー制度を刷新し,学習支援や生活支援について相談―アドバイス活動をきめ細かく行えるよう,教職員による相談体制をネットワーク化し,運用することとした.

5-2 保健福祉学部

5-2-1　概要

保健福祉学部の学士課程教育は，実学を重視した本学の教育理念及び学部・学科の教育目的に沿って策定されたカリキュラム・ポリシーに基づいた学部教育を展開している．保健福祉学部の各学科では，国家資格取得のためのカリキュラムと併せてグローバル化や地域連携教育を通して教育プログラムや授業方法を工夫している．実学教育により，少人数教育によるきめ細かな学習支援を実践し，各専門分野の知識と技術を教授法について工夫改善を継続している．

5-2-2　看護学科

5-2-2-1　グローバル教育

学生に対する教育活動として，海外への留学・研修および海外から本学への受け入れの活動が行われた．

海外への長期留学者として，オーストラリアアデレード大学語学センターに１名が，H30年度を１年間休学して，語学力を伸ばした．毎月初めに学科長宛に送られてくるレポートでは，着実に語学力を伸ばしている様子が伺われ，留学中に４技能試験 ILETS を受験してくるとのことである．中期留学者としては，２年生１名が，第２クォーターおよび夏休みを利用して，10 週間の研修を同じく，アデレード大学語学センターにて受けた．研修中，および，研修後の報告からは，学習全般に対するモチベーションの向上が観察された．短期研修者は，ポートランドスタディツアーに夏休みの３週間参加した．終了後の報告では，短い期間であっても，有意義な研修を受けたようである．

香港理工大学看護学部への短期交換研修は学部間 MOU に基づき実施している，保健福祉学の専門実践研修である．平成 28 年度から香港へ派遣しての研修を，翌平成 29 年度からは香港からの受け入れも開始した．

今年度の実施期間は平成 30 年 9 月 13 日（木）～9 月 22 日（土）で，移動を含む 10 日間で，看護学科 3 年 5 名，看護学科 2 年 2 名，大学院博士前期課程保健福祉学研究科看護学専攻 2 年 1 名の計 8 名が参加した．研修では病院，デイケア施設，メンタルヘルス病院，消防署などの施設見学，東洋医学の基礎的な講義，漢方薬の実習室を見学した．施設見学のすべてに交換研修で日本を訪れた香港理工大学の学生が同行してくれた．さらに City University（UK）の看護学の大学院生 3 名，中山大学（中国）の看護学の大学院生 8 名が一緒に研修を行い，同じ専門の学生として刺激を受けたようである．最終日に中山大学の学生とシェアリングセッションを行い，香港理工大学の研修での学びをお互いに，英語でプレゼンテーションをした．全員がすべての研修内容に参加し，香港理工大学から修了証書を授与された．帰国後 3 週間以内に研修レポートを提出し，「海外研修（保健福祉学）」1 単位が付与された．

海外から，本学への留学生の受け入れも，本学学生にとって，世界に眼を向けるよい機会となった．長期留学生として，H30 年度は，１年間，河南科技大学より２名，韓国又松大学１名の留学生を迎え，第 3 クォーターよりさらに韓国又松大学の１名を迎えた．これらの留学生は，教養科目の授業も受講し，学科を越えた友人関係を作り上げている．本学学生にとっては，異文化・多文化の世界を身近に知ることになり，国際社会で競争していく他大学の学生を眼の辺りにすることができ，よい刺激となった．

香港理工大学からは，昨年に引き続き，学生 6 名を受け入れた．7 月 23 日（月）～8 月 3 日（金）の日程で，女子学生 5 名，男子学生 1 名の計 6 名が来学した．研修内容を，講義形式を 3 割，施設訪問を中心とした体験型研修を 7 割とし，見学施設と調整した．見学施設は，倉敷成人病センター，川崎医科大学医学教育博物館および川崎医科大学附属病院，成人病センター，ライフタウンまび，三宅医院，うちかど助産院の予定であったが，7 月の豪雨

災害の被害を受けた施設や，被災者の受け入れを行っている施設については中止の判断をした．具体的には，所在地が倉敷である成人病センター，ライフタウンまび，うちかど助産院を取りやめた．急遽，岡山赤十字病院に依頼し，緩和ケア病棟の見学を受け入れてもらった．また，岡山県立大学で県の委託事業として「子どもの居場所づくり」の活動が行われており，避難所で暮らす子どもたちが，県立大学のスペースで，NPO の職員の方やボランティアの方に見守られながら過ごしている場で，子どもたちと遊びの活動を行うことができた．また，学内で茶道の体験を組み込むことができた．災害後 3 週間程度の受け入れであり，見学施設の変更や情報収集など，非常時の対応となり，研修内容を若干縮小した．このような時に，被災地支援の場に行くことを検討できなかったのが，反省点である．

5-2-2-2　地域連携教育

「統合実習」では，3 年次の看護政策・マネジメント論演習の成果を発展させて，岡山県備中保健所・笠岡市・ＮＰＯかさおか島づくり海社と協働して 1 泊 2 日の現地実習を行った．4 年生が主体的に運営する全体報告会では，3 年生も演習成果をふまえて質問し，備中保健所・笠岡市・ＮＰＯ関係者の講評により，北木島での宿泊体験を通して考えた看護の役割を深めて共有することができた．また，3 年次開講の地域保健福祉演習では，大学院保健師教育課程の公衆衛生看護診断論・同演習として，総社市東部北地域包括支援センターと共催する認知症カフェ（年 6 回の企画・運営）と連動し，地域の課題と看護の役割を学修した．さらに，大学院保健師課程の公衆衛生看護展開論演習では，7 月豪雨の被災地区支援を含めて総社市の検診活動を行った．

5-2-2-3　アクティブラーニング

看護学科では，多くの科目でアクティブラーニングを取り入れている．具体的には，以下の通りである．「災害看護学」では，Disaster Imagination Game やＨＵＧ（避難所運営ゲーム）をとりいれた授業のあと，総社市の避難所としての本学の役割を考慮して，地域看護診断の視点から，課題を明らかにした（レポート提出）．「看護学方法論Ⅰ」，「看護学方法論Ⅱ」，「看護学方法論Ⅲ」では，基礎看護技術（日常生活援助）の演習，グループワーク，発表，クリッカーを用いた双方向型の授業を行った．「成人看護学Ⅱ」では周手術期の演習をグループごとに振り分けた後教員から指導を受け，担当の演習を各グループに指導する演習，「がん看護学」では積極的傾聴についてロールプレイを用いた演習，「看護アセスメント学」では SBAR を用いた観察・アセスメント・報告についての演習を実施した．

5-2-2-4　国家試験対策

3 月と 4 月に「国家試験対策」について模試業者の講師による無料ガイダンスを調整し実施した．実習の間の春休みで，後半の実習中において国家試験問題と連動させて取り組めるよう工夫した．国家試験対策として，業者による e-ラーニングシステムを導入し，学生の自己学習を支援した．また学生の自主的な運営による国家試験模試に対して，運営の支援を行うとともに，学生からの要望の多い病態学に関する講義を行った．模試結果は教員も共有し個別指導等に活用した．

5-2-3　栄養学科

5-2-3-1　グローバル教育

平成 30 年 6 月 15 日に，カセサート大学（タイ）と岡山県立大学合同ワークショップが開催され Sombat Chinawong 博士を含む 3 名の研究者および本学栄養学科教員 3 名の発表をもとに質疑応答や情報交換が行われた．ワークショップには本学学生のうち博士後期課程学生 3 名，博士前期課程学生 9 名，学部生 18 名が参加し理解を深めた．

平成 30 年 10 月 16 日に，岡山国際交流センターにて国際学会“Okayama Bioactive 2018

(BAO2018) -3rd International Conference on Biologically Active Substances-“が開催された.本会議は,毎年,日本,韓国,中国の提携校とで開催されている Joint Conference on Nutrition and Food Science との合同会議である.本会議では,博士後期課程学生 4 名,博士前期課程学生 10 名，学部生 4 名が参加し，会議スタッフとして運営に参画した．さらに，博士後期課程学生 3 名，博士前期課程学生 2 名が口頭発表とポスター発表を行い，そのうち,博士後期課程学生 2 名,博士前期課程学生 1 名が優秀学生プレゼンテーション賞(Best Student Presentation Award) を受賞した．これにより，英語でのプレゼンテーションの機会を得るとともに,会議ならびにその後の交流会において意見交換し,海外研究者との交流を深めた.

また,平成 30 年 10 月 17 日には,本学にて南昌大学 Qiang Yu 氏により「Current advance of research on food science in Nanchang University」, 四川大学 Bisong Yue 氏による「Whole Genome Sequencing and Analysis of Medicinal American Cockroach」の特別講義が行われ,本学科大学院生 9 名，学部生 3 名も参加し活発な研究討論が行われた.同日午後からは備前市研修交流イベントとして，備前市日生にて里海協議会の協力のもとに日生町漁業協同組合の天倉氏による「アマモ再生と日生牡蠣養殖の取り組み」の講演会が催された.講演後は海外研究者や学生の質疑や外国語での文化交流が行われ,食を取り巻く環境保護の取組に対してグローバルな視点から活発に議論され理解を深めた.

5-2-3-2　地域連携教育

NPO 法人,社会福祉団体等他団体との協働事業において地域の健康課題の解決を見据えた食育講座を企画運営することを通じて，行政栄養士及び栄養教諭の地域における食育コーディネーターとしての資質向上を目指し，栄養教諭課程履修者を中心として総社市における体験型料理教室やサイエンス講座を実施した．本年度は行政栄養士希望の 4 年生と栄養教諭課程履修者が協働で実施したり，保健福祉学科と協働で福祉支援の料理教室を企画したり，専門職として多職種連携や職域連携の視点の形成にも努めた.

平成 26 年度から栄養学科では備前市の食育活動に継続的にかかわっており，平成 30 年度は備前市健康づくり計画や食育推進計画の中間評価の実施年度であり,会議に参加し,住民とグループワークにより地域の健康課題の明確化に取り組むとともに，解決に向けての提案として生活習慣病予防の講話と地産地消の料理教室を企画運営した.

またプロジェクト型の地域連携教育以外にも，西日本豪雨災害時のボランティア活動に参加するとともに，コンソーシアム岡山において野菜料理提供プロジェクトの活動内容を報告するなど，災害時における専門職としての役割や学生の地域志向の醸成に努めた.

5-2-3-3　学習支援

栄養学科では，１～4 年次全学生を対象として，4 月及び 10 月に年 2 回以上のアドバイザー教員との面談を行い，1～2 年次生は 6 月の研修旅行時にもアドバイザーミーティングを行う等,オフィスアワー以外でも教員と学生とのコミュニケーションの機会を持った.また，個別的に支援を要する学生に対しては，学科長・教務担当教員・アドバイザー教員の 3 人態勢で面談を行い,きめこまかな支援に努めた.

5-2-3-4　国家試験対策

管理栄養士国家試験対策として，4 年次生全員参加の校内・業者模試を 4 月初めから開始し，計 6 回実施した．また，その都度，受験生の自主学習の成果を分かりやすくするために模試成績の推移を本人に示すとともに，クラス内の成績順位を貼り出す等,学生の学習意欲を高揚させた．本年度は，8 月上旬に過去問 5 年分を出題基準とし学内模試を実施することで，早期から試験対策に取り組ませることができた． 9 月，12 月，及び 2 月の校内・業者模試の成績が一定基準に達しない学生を対象に，勉強会方式による学習支援を行った.

5-2-4　保健福祉学科

5-2-4-1　グローバル教育

平成 30 年 11 月 16 日に，又松大学の柳漢守准教授を招聘し，韓国の社会問題に関する現状と課題に関する講義を開講した.59 名の学生が聴講し，韓国の自殺，少子高齢化問題等について学ぶことができた.

平成 30 年 9 月 11 日から 9 月 16 日まで，9 名の学生が，国際福祉研修（保健福祉学）の授業の一環として，韓国のソウル市及び又松大学校にて，韓国の伝統文化の体験，韓国の幼児教育や精神保健福祉に関する講義の受講，子ども園と障害者福祉施設の訪問を行った.これにより，グローバルな感覚を身に付けることができた.

平成 30 年 7 月 10 日から 11 日に，又松大学の 10 名の学生を対象に講義や文化体験のプログラムを提供したが，7 月 10 日に，又松大学の学生と 8 名の保健福祉学科の学生と交流した.

5-2-4-2　地域連携教育

保健福祉学科では，複数の地域連携教育を通じて，地域の課題を理解し，地域の人々と協働することの大切さについて学ぶことができた.具体的には，①地域の専門職との交流や地域の総合病院に対するインタビューを通じて，地域の医療・福祉課題や医療チームのニーズを理解する「チームガバナビリティ演習」の受講，②人権擁護に関する発表や人権に関するグループワークを行う，岡山県主催の人権シンポジウムへの参加，③学内に開設されている子育て広場と連携した協働授業等により，地域連携教育を推進した.

5-2-4-3　アクティブラーニング

保健福祉学科では，以下の 23 科目においてアクティブラーニングを取り入れ，学生は主体的な学びをすることができた.ソーシャルワーク演習Ⅰ，ーシャルワーク演習Ⅲ，国際福祉論，国際家族政策論，社会福祉調査演習，社会病理学，次世代育成論，チームガバナビリティ演習，社会保障論Ⅰ，社会保障論Ⅱ，公的扶助論，社会福祉政策論，福祉国家論，介護総合演習Ⅲ，介護過程Ⅲ，コミュニケーション技術Ⅰ，コミュニケーション技術Ⅱ，生活支援技術Ⅰ，生活支援技術Ⅱ，生活支援技術Ⅴ，多文化介護論，介護総合演習（導入），介護総合演習Ⅰ.

5-2-4-4　国家試験対策

社会福祉士国家試験対策としては，業者による模擬試験を計 3 回(8 月，10 月，12 月)実施し，延べ 137 人が受験した.また，教員が学生主導の国家試験学習チームを支援するとともに，既卒者による合格体験を聴講する機会を提供した.

介護福祉士国家試験対策としては，業者による模擬試験を計 3 回（7 月，10 月，12 月）実施し，延べ 73 人が受験した.また，教員がグループ学習を支援するとともに，自己学習のための「介護福祉士国家試験対策 e-learning」の機会を提供した.

以上より，両国家試験に対する勉学意欲が高まった.

5-3 情報工学部

5-3-1 概要

情報工学部においては，情報技術を活用して，人間を中心に据えた社会の形成に貢献できる技術者の育成を目指した教育を展開している．以下，情報工学部の 3 学科が平成3 0 年度に取り組んだ専門教育における学生の学習支援の具体的な取り組みについて，導入教育，カリキュラム及び授業方法の改善，学生支援の 3 つの観点から報告する.

5-3-2 情報通信工学科

5-3-2-1 導入教育

情報通信工学科の導入教育は，推薦入試合格者に対しては，12 月と 2 月に情報システム工学科および人間情報工学科と合同で開催する懇談会から始まる．一般入試合格者を含む新入生に対しては，4 月に 1 泊 2 日で実施する学外オリエンテーションおよび 1 年次前期に開講する「フレッシュマンセミナー」を利用して導入教育を行っている．

第 1 回の推薦入試合格者懇談会では，学部で統一された数学の試験を実施し，同懇談会終了時に採点結果を学生に周知し，第 2 回までの学習方針を示すとともに，数学と英語に関する課題を与え，入学までの学力維持を促進した．第 2 回の同懇談会では，3 学科合同で前回配布した英語の課題を確認する小テストを実施した後に，学科別に分かれ 7 名の教員が参加し，教員あたり 1～2 名の生徒を担当し，全ての課題が理解できるまで指導し，同時に数学および物理で苦手な分野などを聴取した．

学外オリエンテーションでは，新入生 7～8 名のアドバイザーグループに別れ，それぞれのグループに与えられたテーマについて議論を行い，グループとしての一定の結論を出すことを学んだ．また，高校教育から大学教育への転換の一環として，授業におけるノートの取り方に関する講習会を行った．

「フレッシュマンセミナー」前半は，コミュニケーション能力の開発，自らの主張を相手に受け入れて貰うディスカッション能力の開発，プレゼンテーション技法の指導，さらにグループディスカッションを通して時間管理を身に付ける事などを目的として，平成 28 年度以来，ディベートを行っている．これはそれぞれのグループで，あるテーマについて肯定側と否定側という立場で 2 回に亘り議論し意見をまとめ，3 週目の試合においてお互いの意見を戦わせる．一方，残りのグループは試合を観戦し，どちらのグループが理路整然と自らの主張を述べ相手を説得できたかを，クリッカーを利用して投票し勝敗を決める．これを数回繰り返すことにより，上記の能力の開発を試みた．成績評価ではルーブリックを活用し，アドバイザー教員間での公平性を担保するとともに，学生への可視化に努めた．また，学生とアドバイザー教員が毎週顔を合わせることで，入学直後の不安感，孤独感を和らげることとした．「フレッシュマンセミナー」後半は，物理（電気および波動）および数学（行列および微積分）のリメディアル教育を実施した．毎回講義もしくはテストを行い，数学および物理の基礎的な事項を復習し，最後には理解度テストを行った．さらに 60%以下の成績の学生には再試験を実施した．全学で実施されている授業評価アンケートとは別に，独自にアンケートを実施し，同級生との親睦に役立った 80%以上，積極的な取り組み 80%以上の結果を得た．次年度以降も継続して実施する予定である．

全学共通の入学時アンケートにおいては，本学科を第一志望としている学生が 40.7%であったが，本学科を第一志望もしくは第二志望としている学生は 71.2%であった．これらを踏まえて今後の広報活動の充実が必要と考えられ，本年度はホームページの更新等を行った．

5-3-2-2 カリキュラム及び授業方法の改善

学科のカリキュラムあるいは学科全教員が担当する科目の実施・評価方法などは，学科教務委員会を組織し，定期的に検討している．また，半期ごとに実験演習検討委員会を開催し，実験演習に関する問題点，反省点，主な改善点とその効果を実験演習担当者で議論している．特に，講義科目が大半を占める学部教育科目の中で，1 年次から 4 年次まで演習科目，実験科目を必修として配置している．実験演習検討委員会では，実験・演習科目の PDCA サイクルを担当教員が科目横断的に議論している．

理工系の学科にとって実験演習は極めて重要な科目であるが，例年，実験演習の取り組み方に戸惑う学生が散見されるため，実験演習科目に対する学生のモチベーション向上を目的として，1 年次の最初の実験演習において実験演習の目的，実験演習の内容，履修上の注

意を伝える説明会を実施している．また，1 年次の実験演習科目では，レポート作成，ノートの取り方を指導し，2 年次以降の実験演習科目では，レポート提出を通して，将来的には論文につながる科学的な報告文章の書き方を教育した．一方，学生からの意見を吸い上げるために，学生が実験演習科目に対する意見・要望を述べる事ができる相談窓口も継続的に進めている．今年度は学生からの相談は 0 件であった．

5-3-2-3 学生支援

入学時のアドバイザーグループは，4 年次において「卒業研究」のための研究室配属が決定されるまで継続され，学生は「フレッシュマンセミナー」活動でのアドバイザー教員に対して，学生生活上の相談を受けることができる．また，オフィスアワーあるいは授業の空き時間を利用して，全ての学科教員に自由に相談できるようにしている．

各学生の成績は，学科教務専門委員が管理している．成績不振者に対しては，教務専門委員あるいは年 2 回の定期的なアドバイザー教員との面談等を通して，注意・指導を行っている．しかしながら，毎年，一定数の成績不振者がおり，今後，どのように改善していくかを検討しなければならない．なお，「卒業研究」を行う研究室配属は，卒業研究有資格者に対し，希望をもとに成績を考慮して行う．平成 28 年入学生については，在籍者に対する卒業研究有資格者の割合は 83.9%であった．また，以前より，特異な行動が見られた学生の情報を，一定のフォーマットで学生相談室に報告している．学科長，教務専門委員，教育開発推進委員（学生支援）は，学生相談室のアドバイスの下，学生の行動に注意できる体制を引き続きとっている．

就職・進学支援については，進路説明会を開催し，株式会社リクルートキャリアからの講師による大学院進学に重きを置いたキャリアガイダンスを開催した．また，平成 30 年 3 月に設立された岡山県立大学協力会が教育支援活動の一環として 12 月に開催した業種説明会に，本学科の学生への参加を周知した．

5-3-3 情報システム工学科

5-3-3-1 導入教育

情報システム工学科の導入教育は，推薦入試合格者に対しては，12 月と 2 月に情報通信工学科および人間情報工学科と合同で開催する懇談会から始まる．一般入試合格者を含む新入生に対しては，4 月に 1 泊 2 日で実施する学外オリエンテーションおよび 1 年次前期に開講する「フレッシュマンセミナー」を利用して導入教育を行っている．

第 1 回の推薦入試合格者懇談会では，学部で統一された数学の試験を実施し，同懇談会終了時に採点結果を学生に周知し，第 2 回までの学習方針を示すとともに，数学と英語に関する課題を与え，入学までの学力維持を促進した．第 2 回の同懇談会では，3 学科合同で前回配布した英語の課題を確認する小テストを実施した後に，学科別に分かれ 4 名の教員が参加し，教員あたり 3～4 名の生徒を担当し，全ての課題が理解できるまで丁寧に指導した．

学外オリエンテーションでは，学科全体ミーティングで，3 名の教員が講演し，学生生活における時間管理や学習習慣の重要性等を強調するとともに，アドバイザーグループ毎の班別ミーティングにおいてアドバイザー教員との顔合わせを通じて相談しやすい環境を整え，さらに学生同士の親睦を深めた．

「フレッシュマンセミナー」では，高校での数学および物理についてリメディアル教育を実施した．各回の授業で学生に課題を与え，2～3 名の教員（学科全教員が分担）とティーチングアシスタント 3 名が採点と個別指導にあたった．リメディアル教育前の 4 月と教育後の 7 月にほぼ同難度のテストを行った結果,受講者 51 人中 26 人の得点が向上しており，リメディアル教育の一定の効果が確認された．

5-3-3-2 カリキュラム及び授業方法の改善

学科のカリキュラムは教育プログラム検討委員会を組織し，実験・演習科目は実験・演習検討委員会を組織し，点検と改善を行っている．

昨年度より開始されたクオーター制およびカリキュラム変更が学習効果に及ぼす影響について協議した．いくつかの科目の開講期を検討した結果，講義科目「オブジェクト指向プログラミング」をクオーター開講からセメスター開講へ変更した．オブジェクト指向プログラミングは旧来のプログラミング言語とは異なる作成パラダイムであり，実際にプログラムを作成しながら時間をかけて習熟しなければならないことが確認できたためである．他の科目については継続的な調査が必要である．

本年度も従来通り，大部分の実験演習科目において，授業の円滑な実施と学生の理解向上のため大学院生をTAとして雇用した.TAを雇用した授業科目は,フレッシュマンセミナー，機械物理学実験A・B，ソフトウェア演習Ⅰ・Ⅱ，CAD演習，機械デザイン演習，回路デザイン演習，システム創造プロジェクトⅠ・Ⅱ，技術英語演習の合計11科目である．TAの人選に際しては，授業内容に関連のある分野の研究に携わっていることを重視した．

卒業研究の履修要件について，3年次までの履修科目の選択方法を柔軟にするために，平成31年度より卒業研究の着手要件を変更することにした．共通教育科目及び学部教育科目のそれぞれで，必修科目と選択科目についての要件単位数を指定していたものを，必修科目の要件単位数及び全体での要件単位数を指定することにした．必修科目の要件単位数と全体の要件単位数は従来と同じにしてあるためので，学習の質を落とすことはない．

2021年度入試改革に伴うポリシーの更新及び新規中期計画へ対応するために，2021年度カリキュラムを構築した．

5-3-3-3 学生支援

入学時のアドバイザーグループは，4年次において「卒業研究」のための研究室配属が決定されるまで継続され，学生はアドバイザー教員に対して，学生生活上の相談や履修指導を受けることができる．また，オフィスアワーや授業の空き時間を利用して，全ての学科教員に自由に相談できるようにしている．

各学生の成績は，学科教務専門委員が管理している．成績不振者に対しては，各学期のはじめに教務専門委員あるいはアドバイザー教員が面談し，成績不振の理由を聞き取ると共に履修指導を行っている．そして面談でメンタルな問題が懸念された学生には，学生相談室への相談を勧めている．また，合理的配慮を希望する学生に対する支援体制を構築した．なお，平成28年度入学生については，在籍者に対する卒業研究有資格者の割合は86.4%であった．毎年，一定数の留年者がおり，成績不振者への効果的な対応法についてさらなる検討が必要である．

5-3-4 人間情報工学科・スポーツシステム工学科

5-3-4-1 導入教育

人間情報工学科では，推薦入試合格者を対象とした懇談会（12月と2月に情報通信工学科および情報システム工学科と合同で開催），全新入生を対象とした学外オリエンテーション（4月に1泊2日で実施）および1年次前期に開講する「フレッシュマンセミナー」を導入教育として位置付けている．

第1回の推薦入試合格者懇談会では，学部で統一された数学の試験を実施し，同懇談会終了時に採点結果を学生に周知し，第2回までの学習方針を示すとともに，数学と英語に関する課題を与え，入学までの学力維持を促進した．第2回の同懇談会では，3学科合同で前回配布した英語の課題を確認する小テストを実施した後に，学科別に分かれ4名の教員が参加し，教員あたり3〜4名の生徒を担当し，全ての課題ができるまで指導し，各自の入試活動が終わったといえ，大学教育へ向けた学びを継続することの重要性を伝えることができ

たと思われる.

学外オリエンテーションでは，アドバイザーグループに分かれ，「人間情報工学科の教育プログラムを履修した学生ならではの将来像」をテーマに，履修案内の内容を十分検討した上で，その特徴をまとめ，将来像に繋げるための討論をした．学生たちは自己紹介を通して各々が描いている将来像を再確認するとともに，教員も含め相互に理解を深めることにつながったと思われる．また，同じ学科内でも多様な目標を持つ者がおり，その目標を達成するための過程もみな同じでなくてもよい事を認識しながらも，人間情報工学科のディプロマ・ポリシーとそれに基づくカリキュラム・ポリシーについて理解を深められた．翌日には，「地域創生コモンズ びぜん」(備前市) において各グループがまとめた将来像とそれを達成するために求められる学生生活についてプレゼンテーションを行った．更に，備前観光協会事務局長の船橋美可氏から，アマモ等の観光ガイドに載っていない備前市の観光資源について説明を受け，地域連携活動を行う上での色々な側面から見ることの重要性を認識することができた.

「フレッシュマンセミナー」は 2 部構成とし，前半では，力学に関するリメディアル教育を実施し，後半では，人間情報工学に関する課題を課した．力学に関するリメディアル教育では，講義の後に 60%を合格とした達成度評価を実施し，60%に達しなかった学生については，時間外学習としてレポートを課した．その結果，全員が合格のレベルに到達した．人間情報工学に関する課題については，学科教員から課題の例を挙げてもらい，工学的な課題とはどのようなものかを学ぶところから始め，図書館での文献検索及び WEB を利用した情報収集の仕方も学んだ．そして，学生毎に独自の課題を設定し，その解決策を考え，レポートとして提出させた．レポートの評価については，3 名の教員でチェックを実施し，個別に，評価できる点，改善を要する点を指摘し，各学生個々のレベルに合わせた指導を行った．また，現代の工学技術者，工学研究者にとって，工学的見地に基づく新しい意味での倫理が益々重要となってきているため，昨年度に引き続き，研究者・技術者の倫理に観点を絞った工学倫理に関する内容を取り入れた.

5-3-4-2 カリキュラム及び授業方法の改善

学科のカリキュラムを検討するために教育プログラム検討委員会を設けるとともに，実験演習科目に特化した検討を行う実験演習検討 WG を設けている.

教育プログラム検討委員会では，重点科目の設定，補助教員の配置等の効果を評価し，その有効性を確認し，継続することとした．また，平成 33 年度の入試改革に向けたカリキュラム・ポリシーの変更にともなう教育プログラムの改編の検討を行い，改編案を作成した.

実験演習検討 WG においては，前期及び後期の終了後，実験演習科目に関する問題点を洗い出し，改善策を検討した．来年度に向けては，特に変更の必要がないこととなったが，担当者が交替しても継続的な実施が可能な形態に改める必要があり，継続して検討することとした.

授業アンケートの結果から，概ね好評であるが，その効果についての検討を継続して実施する必要がある.

工学系学科の集大成の授業科目として位置付けられる卒業研究について，本年度も継続して，専門分野の異なる2～3の研究室をグループとし，月に1～4回の合同ゼミを実施した．これにより，指導教員とは異なる視点からの指導を受けることで，より学際的な卒業研究の実施を推進できたものと思われる．さらに，卒業研究の計画的な遂行を促進するために，2 月の発表会とは別に，9 月に中間発表会を継続して実施した．教員からの聴取した意見によれば，本年度も，テーマの決定の早期化，計画的な実施の促進，中だるみになりがちな夏季休暇の有効利用等の改善効果が見られた.

また，平成 30 年度からクオーター制が導入され，実験・演習科目を含むほぼすべての科目をクオーター制対応に変更した．しかし，本学科で独自に学生アンケートを実施した結果，“学習効果の観点から実験・演習科目はクオーター制の方がよい”と回答した学生が 10%に満たなかったことから，来年度，実験・演習科目をすべてセメスター制に変更することとした.

5-3-4-3 学生支援

本学科には，学生相談の担当教員が在籍しており，大学生活や私生活での相談について，積極的に利用することを勧めているとともに，該当教員以外の教員にも気軽に相談できる体制をとるように教員にも周知している．また，昨年度に引き続き，新年度当初の 4 月および前期の履修状況が周知される 9 月下旬のオリエンテーション後に，全学年を対象とした複数教員による面談を実施した．面談の内容は主に単位習得状況の確認と私生活面での問題の有無に関するものであった．これにより，就学状況が不調な学生や進学，就職等で悩みを抱えている学生の早期発見に繋がり，ほっとルームの利用勧奨やキャリアカウンセラーへの相談につなげられたケースもあった．

5-3-4-2 に記した重点科目について，本年度も継続して，毎月の定例学科会議で出席状況を報告することとしており，出席状況が不良の学生の情報を共有し，担当授業科目で見守る体制を整えた．

また，欠席が目立つ学生については，教務専門委員が面談し，注意・指導を行っている．

学生の成績は，学科長と教務専門委員が連携して管理を行っており，成績不振者に対しては，指導を行っている．また，所属教員の担当科目の学習状況についても，組織的に管理・支援を行っている．

卒業研究における研究室配属は，卒業研究有資格者を対象に研究室紹介や研究室訪問の機会を設けて研究テーマを紹介し，本人の適性や興味・関心などを勘案して配属を行っている．なお人間情報工学科平成 28 年入学生については，在籍者に対する卒業研究有資格者の割合は 82.8%であった．

就職支援については，“好況である今だからこそ，充実した支援が必要”との観点から，来年度に向けた検討を行い，2 月に開催した進学・就職ガイダンスにおいて，本学科 OB と現役の大学院生各 1 名及び本学就職カウンセラーを講師として招聘し，進学の意義や就職活動における留意点等に関する講演を実施した．さらに，来年度 4 月に，株式会社リクルートキャリアからの講師による大学院進学に重きを置いたキャリアガイダンス，及び，本学就職カウンセラーによる全学生の面談を実施することとし，支援の充実を図ることとした．また，平成 30 年 3 月に設立された岡山県立大学協力会が教育支援活動の一環として 12 月に開催した業種説明会に，本学科の学生への参加を周知した．

5-3-5 学外活動

情報工学部は，文部科学省「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」に大阪大学を中心として選定された「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク（enPiT）」に引き続き，平成 28 年度からスタートした「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成事業（enPiT2）」の 4 分野（ビッグデータ・AI 分野，セキュリティ分野，組込みシステム分野，ビジネスシステムデザイン分野）に対し，連携校（組込みシステム分野）あるいは参加校（セキュリティ分野，ビジネスシステムデザイン分野）として参加している．

平成 24 年度から平成 28 年度に実施された enPiT は大学院生向け事業であったが，enPiT2 は学部生向け事業となっている．今年度は，各分野において，次の活動を行った．

(1) 組込みシステム分野

本学は enPiT2 連携校として，中四国地域の大学と連携して，効果的な人材育成を行うためのネットワーク形成を進めている．今年度は，徳島文理大学，福山大学，広島工業大学，鳥取大学の 4 校において，enPiT2-Emb 事業で開発した教材を導入して組込みシステムの教育を実施するための準備を行った．また，本学でも開発した教材を講義・演習へと一部導入して，組込みシステム開発についての教育を実施している．

また，中核校である名古屋大学において，2 月 27 日～3 月 1 日に開催されたスプリングスクールに，3 年次生 7 名が参加した．ここでは，Arduino を用いた組込みシステムの開発についてのチーム演習や，テクニカルライティングに関する演習を行った．

(2) ビジネスシステムデザイン分野

enPiT2 連携校である愛媛大学において，夏季休業期間中に毎年開催されている集中合宿型 PBL（Project-Based Learning）である「enPiT BizSysD PBL@EHIME」（8 月 27 日～31 日）に，4 年次生 8 名が参加した．愛媛大学工学部情報工学科 4 年生と 3～4 人のチームを構成し，GPS 機能やサーバーとの通信機能を備えた Android アプリの開発，タブレット端末への実装と実験，活動成果のプレゼンテーションなどを，協働して行った．プロジェクトチームによる開発を行うことで，チームワークやコミュニケーション能力など，情報処理推進機構（IPA）のコンピテンシー評価項目で示されている様々な項目に対応した能力を高めることができた．

(3) セキュリティ分野

enPiT2 連携校である岡山大学において，今年度後期に開催された enPiT-Security の実践的人材育成コース「Basic SecCap」に，4 年次生 1 名が参加し，幅広いセキュリティ分野の最新技術や知識を，体験を通して習得した．

5-4　デザイン学部

5-4-1 概要

本学部での専門分野における課題発見力，解決力養成における主な継続的な取組は，1）導入教育（フレシュマンセミナー），2）カリキュラム及び授業方法の改善，3）学生支援（インターンシップ），4）中国・四国地域人材育成連携協議会への参加，5）国際交流活動の 5 つである．フレッシュマンセミナーは，平成 29 年度よりクォーター制導入のため，学科毎の実施に変更している．

5-4-2 デザイン工学科

5-4-2-1 導入教育（フレシュマンセミナー）

デザイン工学科では，外部講師として，企業から OB・OG デザイナー講師を招き，初年次生向けのキャリア教育として実施した．全体として，基本的な就業力とともにデザイナーとしての将来設計に向けたキャリア構築ステップについての理解力を高め，志を立てることを支援することを目的とした．また，「アカデミックスキルズ」を教科書に使用し，今後の受講のあり方を指導した．講義を受けて聞くだけではなく，振り返りレポートを作成させ，自己の中での学びの統括によるキャリアに関する意識と知識の定着を図った．また， 大学の推進するキャリアカルテの実際の使用についての導入を行い， 今後の大学生活における学びの情報や経験の管理についての意識を高めた． アドバイザー教員との接点を設けることで，必要に応じて相談しやすい環境づくりをした．

デザイン工学科（履修生：44 名）

日程	授業内容	担当講師
4/10	1. オリエンテーション；受講に関する指示 及び「アカデミックスキルについて」	村木学科長
4/17	2. デザイン工学分野学生の将来設計 1：進学編（製品・情報デザイン領域，情報系）	小野英志
4/24	3. デザイン工学分野学生の将来設計 2：進学編（建築・都市デザイン領域）	西川博美
5/1	4. デザイン工学分野学生の将来設計 3：進学編（製品・情報デザイン領域：製品系）	林　秀紀
5/8	5. デザイン工学分野学生の将来設計：進学編（大学院デザイン学研究科デザイン工学専攻）	大学院生　野崎司
5/15	6. デザイン工学分野学生の将来設計 1：就職編（建築・都市デザイン領域）	建築・都市デザイン領域 卒業生　橋本美佳
5/22	7. デザイン工学分野学生の将来設計 2：就職編（製品・情報デザイン領域）	製品・情報デザイン領域 卒業生　本多晋
6/12	8. デザイン工学分野学生の将来設計 3：就職編（製品デザイン系），まとめ：ノート提出	製品・情報デザイン領域 卒業生　濱田貴行 村木学科長

5-4-2-2 カリキュラム及び授業方法の改善

デザイン工学科では，

1）総社市における行政インターンシップを，平成 30 年度開講科目「地域インターンシップ」として試行的に位置づけて取り組んだ．具体的には，領域専門教育科目「製品・情報デザインインターンシップ」を履修した学生 1 名が参加し，インターンシップを通じた体験に基づき，市の施策や行政に関する提言発表を行った．

2）3 年次の科目「製品・情報デザインゼミナール」「建築設計演習」「建築材料演習」，「都市環境調査」「建築・都市デザインゼミナール」また「卒業研究」を中心として，地域と連携した課題や研究テーマに取り組んだ事例が多くあった．

製品・情報デザインゼミナール

・真備町の竹林音楽祭実行委員会への参画
・西粟倉村の森林資源を用いた木育玩具の研究開発

卒業研究

・木育のためのキッズプロダクトの研究（磯野将太）
・倉敷路地市庭プロモーションツールの研究（大島映）
・地域資源を活かした北木石の商品開発（小田珠瑠）
・地方部におけるインバウンド対策の研究（川中萌文子）
・子供の創造力を養う玩具の研究（志水瞭斗）
・日本刀の仕組みを知るツールの研究（友永真由）
・復興を軸としたまちづくりにおける議論の可視化（萩原健人）
・野外フェスティバルのための履物の研究（藤田令奈）
・真庭市の木工事業者振興を目的とした製品の提案（村上夏奈子）
・山村農家産千切り大根のブランディングの研究（山村奈央）
・倉敷市玉島地区旧玉島港周辺の都市形成に関する研究（森本春香）

建築材料演習
・総社市にて，老朽化した空き家（島村邸）をシェアハウスとして改修を実施

建築設計Ⅳ「団地再生」
・老朽化した倉敷市営団地の再生計画を実施

都市環境調査，建築・都市デザインゼミナール
・岡山市陣屋町足守，旧薬局・野崎邸を地域に開く施設として改修を実施した．活動は「2018 年度岡山市学生チャレンジ事業」に採択され，学生代表 4 名が「2018 年度岡山市学生チャレンジ事業」で中間報告会（平成 30 年 11 月 3 日）・最終報告会（平成 31 年 2 月 17 日）で報告した．

5-4-2-3 学生支援（インターンシップ）

デザイン工学科では，専門職ごとの業界慣習に応じ，県内外の夏季インターンシップやオープンオフィスに参加した他，学内での出張インターンシップイベントも開催された．

・製品・情報デザイン領域インターンシップ

製品・情報デザイン領域では，20 社以上の学内インターンシップ説明会が開催され，キャリア支援委員を通じ 3 年生並びに 1・2 年生への告知が行われた．また企業と連携し，5 月と 10 月に出張型インターンシップイベントを開催し，2・3 年生の計 30 名が参加した．

・4 月 20 日（金）株式会社 DNP 生活空間（卒業生来校）
・5 月 11 日（金）スズキ株式会社（ワークショップ①）（卒業生来校）
・5 月 25 日（金）スズキ株式会社（ワークショップ②）（卒業生来校）
・6 月 13 日（水）キヤノン株式会社（卒業生来校）
・7 月 3 日（火）本田技研工業株式会社
・7 月 4 日（水）株式会社東海理化
・10 月 26 日（金）ダイハツ工業株式会社（卒業生来校）
・11 月 9 日（金）エレコム株式会社
・11 月 12 日（月）セイコーエプソン株式会社
・11 月 16 日（金）スズキ株式会社
・11 月 19 日（月）コニカミノルタ株式会社
・11 月 26 日（月）デンソーテクノ株式会社
・11 月 30 日（金）工機ホールディングス株式会社
・12 月 3 日（月）株式会社 LIXIL（卒業生来校）
・12 月 7 日（金）株式会社デンソー
・12 月 10 日（月）トヨタ車体株式会社
・12 月 11 日（火）ケイテック株式会社
・12 月 14 日（金）シャープ株式会社（卒業生来校）
・12 月 17 日（月）ソニー株式会社（卒業生来校）
・12 月 17 日（月）マツダ株式会社
・12 月 21 日（金）株式会社ニコン
・1 月 11 日（金）ブラザー工業株式会社（卒業生来校）
・2 月 8 日（金）特許庁 意匠審査官
・2 月 12 日（火）3 限　大日本印刷株式会社（卒業生来校）

・建築・都市デザイン領域インターンシップ

建築・都市デザイン領域では，5 月にインターンシップ説明会を開催し，意義や重要性を周知し，参加手続きについて説明を行った．報告会は 1 月中旬に実施した．低年次生に

は聴講の機会を設け，キャリア形成への意識醸成の場とした．総社市インターンシップをはじめ建築設計事務所（JIA 日本建築家協会所属）などで模型作成，図面作成，建築見学，現場見学などを行った．平成 30 年度建築・都市デザインインターンシップ参加者は 17 名である．

・ミナモト建築工房
・松山建築設計室
・Y&M design office
・総社市役所
・仁科建築設計事務所
・K.ASSOCIATES
・妹島建築設計事務所
・伊東豊雄建築設計事務所
・マウントフジアーキテクツスタジオ
・Y&M design office
・トリムデザイン
・画工房
・五井建築研究所
・CONNECT Web SHOP
・長尾健建築研究所
・たいとう歴史都市研究会
・ケイ・アソシエイツ

5-4-3 造形デザイン学科

5-4-3-1 導入教育（フレシュマンセミナー）

外部講師として，デザイナー4 名（卒業生）および学外講師を招き，初年次生向けのキャリア教育としてフレッシュマンセミナーを実施した．大学生として学修に必要となるノートの取り方を初め，デザイナーとして必要なデザイン能力やプレゼン力とともに，社会人としての倫理観，価値感の異なった他者との協働，そして人間力養成への理解を高めることを認識させることを目的とした．また，各授業の講師に対し質問票を用いて学生が講師へ質問を行い，講師の回答を次週に返却する相互方式を登用し，学生の授業参加意識を高めることができた． 講義を聞くだけではなく， 振り返りレポートを作成させ，自己の中での学びの統括によるキャリアに関する意識と知識の定着を図った． また， 大学の推進するキャリアカルテの実際の使用についての導入を行い， 今後の大学生活における学びの情報や経験の管理についての啓蒙を図った． アドバイザー教員との接点を設けることで，必要に応じて相談しやすいキッカケ作りをした．以下が実施したプログラムである．

造形デザイン学科（履修生 52 名）

	日程	内容	講師	対象
1	4/16	1. オリエンテーション：「これからデザインを学ぶ」，「ノートと大学生活」，新入生アンケート	難波久美子 柴田奈美 藤井夏美	造形デ学科長 日本語文章作法担当教員
2	4/23	2. 造形デザイン学科学生の将来設計：ビジュアルデザイン系（H20 卒業生）	山下彰太	株式会社アド近鉄 広告プランナー磁器作家 陶芸工房講師
3	5/2	3. 造形デザイン学科学生の将来設計：造形デザイン系（H27 卒業生）	大比賀千春	株式会社 IDA デザイナー

4	5/7	4. 造形デザイン学科学生の将来設計：造形デザイン系（H15 大学院修了生）	木村知子	磁器作家・陶芸工房講師
5	5/14	5. 造形デザイン学科学生の将来設計：造形デザイン系（H27 卒業生）	長谷川雅美	凸版印刷株式会社 デザイナー
6	5/21	6. キャリアプランの扉 1：「デザインスペシャリストの視点」	手代木聡	株式会社電通西日本 コピーライター
7	5/28	7. キャリアプランの扉 2：「進学ノススメ」まとめ（振り返りレポート作成）	山口深里 難波久美子	作家・大学院 OG 造形デザイン学科長
8	6/4	8. キャリアプランの扉 3：「キャリアカルテを使いこなす」，「アドバイザーと話そう」，授業アンケート・ノート提出	齋藤美絵子 南川茂樹 関崎哲 山下万吉 作元朋子	キャリア形成支援部会 1 年担当アドバイザー教員，造形デザイン学科長

5-4-3-2 カリキュラム及び授業方法の改善

造形デザイン学科では，クォーター制の導入によるその効果と改善について，前年に引き続き，検討と分析を行った．具体的には，学部生の基礎力アップを支援するため，院生TAを演習科目に配置したり，卒業研究にルーブリック評価による試行を継続して行い，成績評価の公平性と透明化を向上させることを目指した．また，学生の専門能力育成を図っるため，一部授業において担当教員を交代するなど，学生が学修の幅を自身で選択できるカリキュラムが用意を用意した．昨年度までは自身のキャリアプランとは関係なく授業履修した学生の学修深度における若干の未熟さが指摘されていたが，年度当初のオリエンテーションで，目標とする人材教育に必要な科目選択を効果的に行えるよう領域毎に設定した履修モデルをしっかりと学生に説明したこともあり，卒業研究では成果として現れつつある．

5-4-3-3 学生支援

造形デザイン学科では，事前に，岡山県内のデザイン関連企業等とインターンシップ受入れに関する取決め書類を交換し，年度当初に学生にインターンシップ先の情報を開示している． 今年度は学科 3 年生 39 名がインターンシップを行い， 以下 15 の受入れ先に 16（1 件の事業所で 2 件のプログラム受入れ）のインターンシッププログラムの実施があった．事前準備と報告会開催も必須とし，広く学生を支援した．報告会は，前年度以上に学生が主体的に運営し自主性の向上を見ることができた．今年度初めての試みとして，平成 30 年度インターンシップ報告書を作成し， 報告会参加者への資料とした他， 受入れ先に配布することで実施状況の共有を図った．

・株式会社三浦印刷所［パックロード製本］
・広和印刷株式会社
・株式会社矢野デザイン事務所
・ワシュウ印刷株式会社
・サンコー印刷株式会
・岡山第一ビデオ株式会社
・株式会社マック
・株式会社ウィルコミュニケーションデザイン事務所
・岡山県立美術館
・庭瀬陶芸工房
・ギャラリーKICHIZAEMON

・株式会社 OHK エンタープライズ
・エクスライフ（有限会社三井商会）
・株式会社シファカ
・株式会社リペアル

5-4-4 中国・四国地域人材育成連携協議会

平成 28 年度以降は，平成 24～26 年度実施の文部科学省補助事業テーマ A「産業界のニーズに対応した自律的な技術者養成プログラム」及び，平成 26～27 年度実施の同テーマ B「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化)」事業終了後も教育力向上を目的に学外連携事業として取組を継続している．

5-4-4-1 中国・四国地域大学グループ会議及びシンポジウム等への参加

デザイン学部では，中国・四国地域人材育成連携協議会が開催する大学グループ会議及び組織運営委員会主催のシンポジウム等への参加を継続して行った．

・第 1 回中国・四国地域大学グループ会議及び連携協議会（1 名）
　平成 30 年 10 月 17 日（木）岡山国際交流センター5 階会議室
・中四国産学連携合宿授業（学生 4 名，教員 1 名）
　平成 30 年 8 月 30 日（木）～9 日 1 日（土）　マツダ本社，サテライトキャンパス広島
・第 2 回中国・四国地域大学グループ会議及び連携協議会（2 名）
　平成 31 年 3 月 25 日（月）広島オフィスセンター第 10 会議室

5-4-4-2 ３大学連携事業

平成 27 年度より，サブグループ 3 校（岡山理科大学，山口東京理科大学，岡山県立大学）は，3 大学連携の協定書を結び，連携会議による大学相互の授業見学等による教育力向上を目的にした取組を行っている．取組から 4 年目となる本年度は，岡山理科大学が幹事校を担当し，3大学連携会議,相互授業参観，学生による取組の合同発表会が実施された．

(1) 3 大学連携会議（平成 31 年 2 月 1 日）
　山口東京理科大学にて開催された「産業界のニーズに対応した自律的な技術者養成プログラム」第４回 3 大学連携会議において，各大学における取組の近況が確認され,今後の連携取組の方針及び事業計画について検討した．

(2)連携大学による相互授業参観（平成 31 年 2 月 1 日）
　各大学において平成 30 年度の見学可能授業をリストアップし，岡山理科大学にて集約，３大学のリストが公開された．(岡山県立大学：9 科目，岡山理科大学：12 科目，山口東京理科大学 :11 科目)本年度は，山口東京理科大学の公開授業に本学から教員 1 名，学生 2 名が参観した．

(山口東京理科大学 授業見学)
日時：2 月 1 日（金）10 時 40 分～12 時 10 分
科目：「デザイン工学Ⅱ」
担当：森田 廣教授（学長）
　授業概要：デザイン工学とは工学における知識の蓄積を企画,設計,製作,評価の一連の過程に効率的に適用して人類社会に役立つ製品や技術をつくりあげるための総合的な学問分野である．この講義ではより実践的な考え方やツールを習得し,幾つかの事例を通じてそれらを実際の製品や技術開発の場でどのように生かすかを学ぶ．JABEE 必修科目．

(3)学生による取組の合同発表会（平成 31 年 2 月 1 日）

山口東京理科大学において，各大学学生による取組の発表会が開催された（岡山理科大学：3 件，岡山県立大学：1 件，山口東京理科大学：3 件）．岡山理科大学から「ものづくり」を主体としたプロジェクト科目群である工学プロジェクトコースの事例発表，岡山県立大学から学部生が参加した応募型産学プロジェクトの事例，及び院生が参加した産学協同授業の事例発表，山口東京理科大学から学科・学年の枠を問わず望する学生を公募してチームを編成する，プロジェクト教育の事例が発表された．各大学の産業界ニーズを教育に組み込む工夫について有益な情報交換がなされるとともに，学生フォーミュラプロジェクトの見学などを通じ学生間の交流が図られた．

5-4-5 国際交流推進（国際交流活動事業）

デザイン学部の国際交流推進活動を広く市民に紹介するために，平成 30 年度卒業制作展示会（平成 31 年 2 月 27 日～3 月 3 日，天神山文化プラザ）にて，特別コーナーを設け，展示した．

5-4-5-1 メキシコ・モンテレイ工科大学

- 平成 30 年 9 月 2 日～9 月 10 日（9 日間）メキシコへのスタディツアーを実施し，教員 2 名学生 13 名が参加した．モンテレイ工科大学との共同授業（ワークショップ）では，タイルの制作を行ったが，学生同士積極的に交流をする様子が見られ，時間がない中でも最後まで完成することができ，メキシコと日本の交流ワークショップとしてデザイン学部の展示スペースに展示することになった．
- 平成 31 年 3 月 21 日メキシコ・モンテレイ工科大学の高等学校による本学訪問，学生 8 名，教員 2 名が参加した．本国際交流事業では，１日間の見学と紙版画ワークショップが行なった．

モンテレイ工科大学との共同授業

モンテレイ工科大学高等部による本学訪問

5-4-5-2 イタリア・フィレンツエ大学

・平成 30 年 9 月 7 日～9 月 17 日（ 11 日間）建築・都市デザイン領域学生 14 名と教員 1 名がフィレンツェ大学建築学部を訪問し，同大学名誉教授 Adolfo Natali 氏の講義を受講した．受講後，学生たちは Adolfo Natali 氏を始め，建築学部教員との意見交換などを行った．

・平成 30 年 11 月 25 日～12 月 8 日（14 日間）岩本教授が，スリランカ国立モラトワ大学建築学部で招聘講義を行い，同大学建築学部の教授昇進に関する外部評価に協力した．

Adolfo Natali 名誉教授の講義

スリランカ国立モラトワ大学建築学部での講義

5-4-5-3 韓国・又松大学校

平成 29 年 12 月，韓国・又松大学校での両大学間での交換留学生および教員間の共同研究推進に関する具体的な協議にもとづき，平成 30 年 7 月韓国・又松大学校の卒業制作展示会に本学の平成 29 年度卒業研究優秀作品の展示をおこなった．また，7 月末，又松大学校より 5 名の学生と教員との共同授業を実施，平成 31 年 2 月 27 日本学部の卒業制作展示会（2.27～3.3）に又松大学校デザイン学部長（Park Jongbin 教授）を招へいし又松大学校の学生優秀作品の展示を実施した．

・共同授業課題：岡山県立大学を又松大学校に紹介する作品（映像 or デジタル写真集）
・参加学生：又松大学校 5 名　岡山県立大学 6 名
・教員：又松大学校デザイン学部長（Park Jongbin 教授），嘉数彰彦教授，石王美助教

又松大学校との共同授業

5-4-5-4 その他

・平成 30 年 10 月 9 日～12 日，デザイン学部国際交流オープンレクチャーとして，台湾国立台南芸術大学教員２名を招聘し，本学学生対象に，教育プログラムや学生作品および教員研究の紹介を英語でプレゼンしていただき，本学部生の国際的視野を広げる取り組

みを行った.今後の MOU 締結に向け，交換留学や共同研究について具体的に教員間で協議した.

・平成 30 年 10 月 23 日，フランスの草木染め研究者を研究滞在先の京都から招聘し，本学学生対象に，フランスやヨーロッパにおける草木染めの歴史や現在についてを英語で講義いただき，また，実作や収集された資料群の閲覧により，デザインの専門性を改めてグローバルに考える機会を創出した.

・平成 30 年 12 月 10 日，建築・都市デザイン領域学生が米国・ポートランド州立大学へ私費留学を行った縁で，3 名の建築家が来校し，ポートランドのまちづくりに関する特別講義を行い，建築・都市デザイン領域の学生を中心に聴講した．なお，留学生が通訳を担当した.

5-5 まとめと課題

5-5-1　保健福祉学部

海外において看護・栄養・福祉等の保健福祉学分野の教育を経験することにより，これらの分野におけるグローバルな視点を養い，異文化理解を深めるとともに，外国語で異文化圏の人達と専門分野を含め広くコミュニケーションをはかる力を高めることを目的とし，科目名も海外研修（保健福祉学）に変更，実施され，学生の派遣先としては韓国又松大学校，香港理工大学ならびにオーストラリア TAFE　SA を設定している．グローバル教育の充実に向け，学部間学術交流協定を締結した香港理工大学看護学院へは海外研修（保健福祉学）の研修先となり，本年度は本学から８名の学生が研修に参加し，香港理工大学からは 6 名が来学し，また，又松大学から 10 名，本学から 8 名の学生が交流し，交流協定が着実に進行している．一方，保健･医療・福祉等の各専門職として地域創生を目指した取り組みでは，各学科で専門職を活かした体験学修等を行い，地域連携教育を推進した.

5-5-2 情報工学部

情報工学部の 3 学科共，基礎学力の補強を軸に学生支援をきめ細かく実施している．教育方法については，学部として岡山県工学教育協議会主催の「岡山県工学教育協議会シンポジウム」に教員を派遣し，近隣大学･高専等の最新の教育方法に関する情報を収集すると共に，本学部の教育プログラムに関する発表を行い，他大学教員からの意見を聴取した．また，enPiT2 の 4 分野（ビッグデータ・AI 分野，セキュリティ分野，組込みシステム分野，ビジネスシステムデザイン分野）に対し，連携校（組込みシステム分野）あるいは参加校（セキュリティ分野，ビジネスシステムデザイン分野）として参加し，活動を行った．平成 27 年度に採択された COC+事業に関連して，H28 年度入学生からはカリキュラムの一部に地域との協働による授業科目が設置しているが，これらの授業科目と学内で実施する授業科目と

の連携により，高い教育効果を上げることが今後の課題である．今後は，平成 30 年度に発足した主に民間企業を会員とする「岡山県立大学協力会」と，教育についての連携を進める予定である．

5-5-3 デザイン学部

新入生対象の導入教育（フレシュマンセミナー）は，将来デザイナーとして求められる資質や基礎知識が身につく教育プログラムとして，平成 24 年度文部科学省補助事業テーマ A「産業界のニーズに対応した自律的な技術者養成プログラム」採択以降 7 年間継続して実施してきた．その意味ではデザイン学部独自のカリキュラムとして成果はあったものの，平成 33 年度以降の新たなカリキュラムポリシーを視野に入れた教育プログラムとして再編成が求められている．また文部科学省補助事業と並行して，演習科目を中心に，地域との協働・連携型のプログラムに重点を置いてきた成果からか中国・四国地域や県内企業への就職も微増している．さらに，グローバル教育の充実に向けては，学術交流協定を締結した大学間での教員・学生間交流を推進してきた成果もあり，米国・ポートランド州立大学への私費留学生（1 年間），フィンランド・ラハティ応用科学への公費留学生の決定（6 ヵ月間）を始め，まだ学部としては微微たる実績しかないが，着実にその根が広がっている．

第２章　地域連携教育（ＣＯＣ＋）における教育活動と成果

1-1 概要

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に本学が代表校となって応募した「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」(以下，本 COC+事業）が，平成 27 年度に選定されたことを受け，平成 28 年度入学生より，副専攻「岡山創生学」が開設された．すなわち，今年度は副専攻「岡山創生学」の第 3 年度であり，1 年次生を対象とする 3 科目「おかやまボランティア論」,「おかやまボランティア演習」,「おかやまを学ぶ」, 2 年次生を対象とする 2 科目「地域再生実践論」,「地域協働演習」に加え，3 年次生を対象とする長期インターンシップ 2 科目「地域インターンシップ」及び「エンジニアリング演習」が新規に開講された.「地域インターンシップ」は，平成 27 年度より設定されている共通教育科目の社会連携カテゴリーに属している．一方,「エンジニアリング演習」は情報工学部の学部教育科目として，従前の「インターンシップ」(2 単位演習科目）を約 4 週間の演習期間となるよう 4 単位科目に拡張したものである．副専攻「岡山創生学」授業科目は，1-3 項で述べるように，共通教育科目に加え，各学部の学部教育科目で構成されており，年次進行で副専攻「岡山創生学」科目として開講していくこととしており，今年度をもって，全ての副専攻「岡山創生学」科目が開講されるようになった．現在，共通教育科目の社会連携カテゴリーに配置されている全ての授業科目が，副専攻を構成する科目になっている．

本 COC+事業は，岡山県の「晴れの国おかやま生き活きプラン」(平成 26 年度から 3 年間）及び「おかやま創生総合戦略」（平成 27 年 10 月）とも方向を一にしており，また，県内の事業協働自治体の政策課題も取り込みながら，学長の強力なリーダーシップの下，これまで本学が取り組んできた教育改革，域学連携，産学連携活動を，表 1 に示す県内大学，自治体，団体，企業等と協働して発展させ，地域志向事業として推進することによって，事業協働地域内への若者の定着率を向上させることを目的としている．そのために，岡山県をはじめ，各事業協働自治体の地域戦略を反映した下記 3 つの目標を設定し，本事業期間内（平成 27 年度～平成 31 年度の 5 年間）を通して,「教育改革」,「域学連携」及び「産学連携」活動を相互に連携・実施しながら，若者の地域定着を進める産・学・官・民協働の体制を整備し，地域で学び，地域を志向し，“生き活きおかやま”を創生する人材を育成する（図 1 参照）.

表 1.「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」協働機関

参加大学	岡山大学，岡山理科大学，ノートルダム清心女子大学，就実大学，山陽学園大学，吉備国際大学（COC 既採択校），倉敷芸術科学大学（COC 既採択校），くらしき作陽大学（COC 既採択校）
参加自治体	岡山県，総社市，笠岡市，備前市，真庭市，岡山市，倉敷市，高梁市，赤磐市
参加経済団体等	岡山県経済団体連絡協議会，岡山県商工会議所連合会，岡山県経営者協会，一般社団法人岡山経済同友会，岡山県中小企業団体中央会，岡山県商工会連合会，岡山県産業振興財団
参加企業等	株式会社中国銀行，株式会社トマト銀行，一般財団法人岡山経済研究所，株式会社山陽新聞社，特定非営利活動法人岡山 NPO センター

図 1．COC+事業の概要

なお，文部科学省より本 COC+事業に対して助成されるのは平成 31 年度までとされているが，本学の地域連携教育は，「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し，地域に貢献する」という教育研究の理念に基づき，平成 32 年度以降も継続・発展される予定としている．

［目標Ⅰ（教育改革)］
地域を志向し，地域の未来を切り拓く知識と高度な専門性を身につけた実践力のある人材の育成
［目標Ⅱ（域学連携)］
子育て・教育支援，高齢者・障害者支援，防災・減災支援等により，安心して生活することのできる魅力ある地域づくり
［目標Ⅲ（産学連携)］
岡山県内の市町村の共通課題である健康寿命の延伸，中小企業・小規模事業者の技術支援，観光振興などの分野の研究開発を通した雇用創出

1-2 組織体制

副専攻「岡山創生学」は，学長の掲げる 3 つの運営方針の一つ「地域貢献について戦略的に取り組む」を，教育面で具現化したものである．副専攻「岡山創生学」では，共通教育科目内カテゴリー「社会連携」をさらに強化するとともに，各学部の学部教育科目とも連携しつつ地域連携教育を構築していく．

本 COC+事業「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」は，若者の地元定着率の 10%向上を目的として，教育改革，域学連携及び産学連携により地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行う．教育改革では，「岡山創生学」を副専攻として新設し，実践的な専門性と高い地域志向を有する人材の育成を図る．そのため，今年度から導入されたクォーター制を活用し，長期インターンシップ，ボランティア等を実施する．域学連携では，自治体，NPO 等と協働で子育て，高齢者・障害者支援等を実践し，住みやすく，安心安全で魅力ある地域づくりに貢献する．そして，協働機関との連携の場として「地域創生コモンズ」を設置・運営し，教育改革における地域演習科目実施を支援する．産学連携では，地場産業の支援による産業活性化を推進し，魅力的な雇用創出に努めるとともに，雇用マッチングシステムを開発することで雇用開拓と若者の地域への就業機会を拡大し，学生の県内定着を促進する．

本 COC+事業は，表 1 に示す事業協働機関との連携の下，図 2 に示す実施体制により組織される．

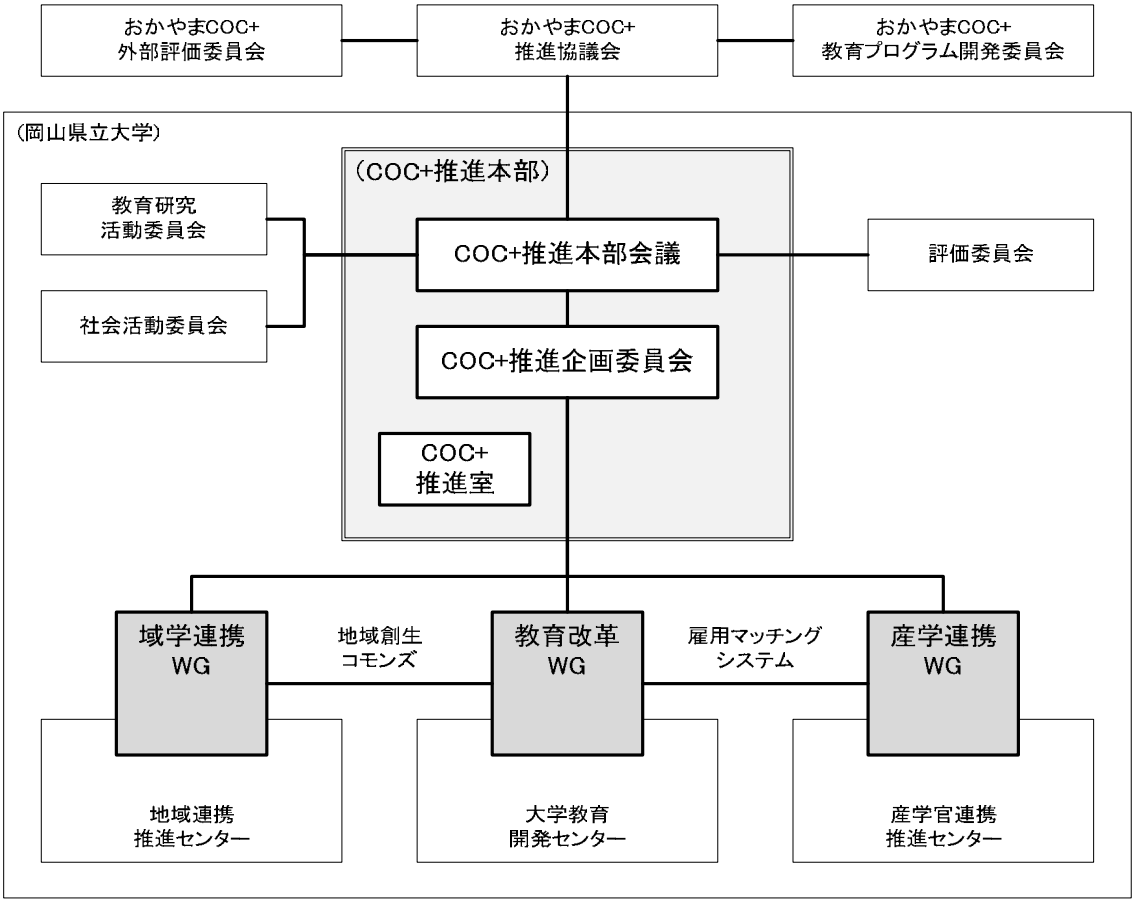


図 2．COC+実施体制

本 COC+事業における教育改革の概要は，次のとおりである．

a.「岡山創生学」科目群の開設

本学では，地域を志向する教育プログラムとして，「岡山創生学」科目群を新設する．本科目群は基礎と実践に大別され，基礎科目では，地域を知るために，社会連携に繋がる基礎知識や岡山県の地域政策等を学ぶ．実践科目では，地域学習の場である「地域創生コモンズ」を拠点とし，アクション・ラーニングを通して学ぶ．

b．クォーター制を活用した長期インターンシップシステムの開発
本学が平成29年度に導入したクォーター制を活用し，自治体，企業等に向けた，実施方法や評価方法，事前・最中・事後の学生指導をシステム化した「長期インターンシップ」(1ヶ月以上）を高年次に開設する．
c．「岡山創生学」科目群を実効性あるものにするための方策
「岡山創生学」科目群の学びを副専攻と位置付ける．また，学生一人一人の学修過程を教員が指導できるように「学生ポートフォリオ」を導入する．
これらの教育改革は，COC+推進本部（COC+推進企画委員会）の下に設置された教育改革WGを主体として企画立案され，共通教育部及び各学部において実施される．教育改革WGの所掌業務は，

- 本学が進める副専攻「岡山創生学」の開発に関すること
- 本学が進める学生ポートフォリオの開発等のキャリア形成支援に関することと
  と定められている．教育改革WGは，大学教育開発センターと直結し，
- 大学教育開発センター・センター長（WG長）
  （平成28年度以前は，大学教育開発センター・副センター長がWG長）
- 大学教育開発センター・共通教育部会長（副WG長）
- 大学教育開発センター・キャリア形成支援部会長
- 共通教育部・社会連携教育推進室長
- 本学教員
- COC+推進室副室長
- COC+推進室員

が構成員とされている．

1-3 授業の構築

1-3-1 育成する人材像と修得すべき能力

副専攻「岡山創生学」では，学びの中で地域の魅力に触れ，コミュニケーションや協働の中で地域課題を認識し，ともにその解決までのプロセスを体験することで地域への愛着の形成や共感力を高め，それを基盤として専門性を存分に発揮して地域の持続的発展のために貢献することができ，社会の変化に対して高い適応能力をもつ人材を育てるものである．このような人材になるために修得すべき能力を次のように設定する．
(1) 地域「おかやま」の実態を体験的に学び，「おかやま」の魅力を発信する力
(2) 実践的学習の中からアクション・ラーニングのプロセスを通じて課題を認識する力
(3) 地域で人とコミュニケーションを取りながら協働して課題解決に取り組む力
(4) 学部・学科の専門性を活かし，自律的に課題解決法を考える応用力
(5) 持続可能な地域「おかやま」の未来を展望し，一市民としてまた専門家として社会に参画する力

1-3-2 教育プログラムの内容

副専攻「岡山創生学」では，低年次に「おかやま」の魅力と課題を学ぶ地域志向基礎科目，高年次に地元就職を意識させる地域志向実践科目を配置して，事業協働地域への定着を図っている．本副専攻の教育プログラムを岡山県の代表農産物である“もも”の育成に模して，1年次に地域志向の動機を「知る（植え付け)」，2年次に各学部・学科の専門性を加味して「学ぶ（受粉)」，高年次により専門的な視点から「実践（摘果)」の3段階に分け，卒業時に「収穫・出荷」できるようなイメージで設計している．
(1) 1年次では，地域「おかやま」を知り，地域と協働するための準備をする授業科目を配置している．岡山を中心とした地域の現状とグローバル化の中にある岡山の位置付けを知識として学び，地域に住む様々な人と接するために，現代社会で求められるボラン

ティアなどを通して，また，大学生と社会の接点の現状やあり方についての学びを通して，地域志向を植え付ける．

(2) 2年次では，地域「おかやま」の課題を，学外における協働を通して発見し，解決に向けた取組を実践する授業科目を配置している．学部・学科の専門性にとらわれることなく地域社会を見つめる冷静な観察眼を習得するだけでなく，入学後に学んだ専門性を受粉させ，専門の学びが，どのように地域課題の解決に役立てられるかを自律的に考える．

(3) 3年次では，より専門的な視点から地域「おかやま」の課題を見つめ直し，自己のキャリア形成を支援する授業科目を配置している．地方自治や企業活動の仕組み，地域社会における自己の役割認識を涵養する学びの後，長期インターンシップを通して，より実践的な地域協働を体験することで，専門性による摘果を行う．

(4) 教育課程は共通教育科目と学部教育科目から厳選された授業科目から構成され，また，講義科目での学びの後に演習科目を配置することで，実学としての地域協働を涵養する．

前述した「修得すべき能力」を学修させるために，「岡山創生学」科目群は，平成27年度入学生から全学科必修科目として開設している共通教育科目「地域ボランティア論」,「少子高齢社会論」の内容を強化し，新設する5科目を加えた計12科目で教育プログラムを構築している．各科目の開講計画を表2に，各授業科目の相互関係を示すカリキュラムマップを図3に示す．このうち，「おかやまボランティア論」は，平成27年度より開設した「地域ボランティア論」を名称変更及び内容見直しをしたものであり，同様に，「おかやまを学ぶ」は，「少子高齢社会論」の後継科目である．副専攻「岡山創生学」としては，共通教育科目として「おかやまボランティア演習」,「地域再生実践論」,「地域協働演習」を，情報工学部の学部教育科目として「エンジニアリング演習」を新設する．さらに，1年次対象の「おかやまボランティア論」と「おかやまボランティア演習」，2 年次対象の「地域再生実践論」と「地域協働演習」は，それぞれ，前者は後者の演習科目を意識した講義科目として設計され，後者は前者の講義科目における学びをフィールドに出ることでさらに深化させる設計となっている．このため，学生には，それぞれをペアとしての履修を推奨している．

なお，当初より，学部教育科目あるいは COC+参加大学製作の授業コンテンツを今後，順次追加していく予定としているところである．平成29年度入学生より，保健福祉学部の学部教育科目として「地域保健福祉演習」（演習1単位）が追加された．その後，「地域保健福祉演習」（演習1単位）が平成28年度入学生に対して「臨時に設ける科目」として卒業要件として認められたことより，副専攻「岡山創生学」科目として認定することとされた．また，平成28年度以降入学生に対し，保健福祉学部で既に開講されている「統合実習」,「公衆栄養学実習Ⅰ」,「公衆栄養学実習Ⅱ」,「ソーシャルワーク実習」及び「保育実習ⅠB」の中から2単位以上を取得すれば，副専攻「岡山創生学」の学部教育科目として2単位を修得したものとすることになった（表2欄外※印部分が平成28年度以降入学生に追記される）．

表 2.「岡山創生学」授業科目表（平成 30 年度入学生）

区分	授業科目名	授業の方法	開講時間数	開講単位数	開講年次 1	2	3	4	必要単位数
共通教育	おかやまボランティア論	講義	15	1	◎				6単位
	おかやまボランティア演習	演習	30	1	★				
	おかやまを学ぶ	講義	15	1	◎				
	地域再生実践論	講義	15	1		★			
	地域協働演習	演習	60	2		★			
	地方自治論	講義	30	2			○		4単位
	地域インターンシップ	演習	120	4			◆		
	企業の組織と活動	講義	15	1			○		
	起業の条件	講義	15	1			○		
学部教育	チームガバナビリティ演習	演習	30	1			◆		
	地域保健福祉演習	演習	30	1			◆		
	エンジニアリング演習	演習	120	4			◆		
	デザインプロジェクト演習	演習	120	4			◆		

【注】 ◎印で示される授業科目は全学必修科目である.
★印で示される授業科目は，通常は選択科目であるが，地域創生推進士の認定を受けるためには，必ず修得すること.
◆印で示される授業科目を 1 科目以上修得すること.
※ 保健福祉学部で既に開講されている「統合実習」,「公衆栄養学実習Ⅰ」,「公衆栄養学実習Ⅱ」,「ソーシャルワーク実習」及び「保育実習ⅠB」の中から 2 単位以上を取得すれば，必要単位数の中から 2 単位を修得したものとする.

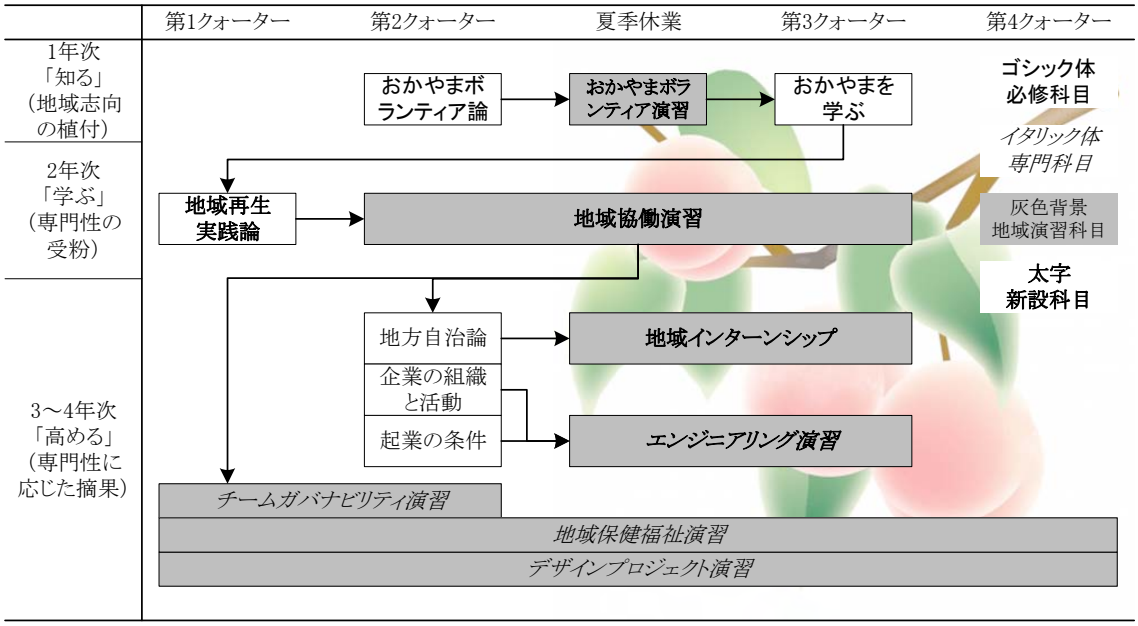


図 3. 副専攻「岡山創生学」カリキュラムマップ

1-3-3 学生への周知

学生は，学科（専攻）毎に実施される入学試験に合格して本学に入学している．副専攻「岡山創生学」に関する情報を，大学案内及び高校生向け岡山創生学パンフレットなどにより受験生に提供しているところではあるが，十分な浸透，理解を得られたうえで入学しているとは言い難い面がある．このため，年度当初に開催されるオリエンテーションにおいて，副専攻「岡山創生学」の位置付け，特徴を学生に周知するようにしている．

新入生に対しては，入学式翌日に学部別で実施される共通教育及び履修登録の説明の中で，副専攻「岡山創生学」をアピールするチラシ（図 4 参照）を配布し，特に，選択科目である「おかやまボランティア演習」の履修を勧めた．

新 2 年次生に対しては，学科ごとに実施される在学生オリエンテーションの中で，選択科目である「地域再生実践論」及び「地域協働演習」を強調した新入生とは異なるチラシ（図 5 参照）を配布するとともに，両科目のペア履修を推奨した．

図 4. 年度当初オリエンテーションで配布し新入生向けチラシ

図 5. 年度当初オリエンテーションで配布した新 2 年次生向けチラシ

新 3 年次生に対しても，学科ごとに実施される在学生オリエンテーションの中で，今年度から新設される「地域インターンシップ」及び「エンジニアリング練習」のチラシ（図 6 参照）を配布し，両科目の履修を推奨した．

図 6．年度当初オリエンテーションで配布した新 3 年次生向けチラシ

1-3-4 実施状況

今年度は，副専攻「岡山創生学」の 3 年目に当たり，全ての副専攻「岡山創生学」科目を初めて開講した．1 年次対象の 3 科目（「おかやまボランティア論」，「おかやまボランティア演習」，「おかやまを学ぶ」）及び 2 年次対象の 2 科目（「地域再生実践論」，「地域協働演習」）に加え，従来は社会連携カテゴリー科目として開講していた 3 科目（「企業の組織と活動」，「起業の条件」，「地方自治論」）は，副専攻「岡山創生学」科目として開講した．さらに上述のように，長期インターンシップ 2 科目として，共通教育科目「地域インターンシップ」及び学部教育科目「エンジニアリング演習」を新規に開講した．

①「おかやまボランティア論」第 2 クォーター・全学 1 年次生・1 単位（必修）

平成 27 年度に開講された「地域ボランティア論」（1 年次生・1 単位必修科目）の名称変更と内容強化を行うようデザインし，平成 28 年度から開講している授業科目である．今年度は副専攻「岡山創生学」の 3 度目の授業科目として開講したことから，昨年度に引き続き，大規模授業としての課題を克服すべく，後述のようにアクティブ・ラーニングの手法を取り込んだ形態で実施した．また，昨年に設定した到達目標 2 項目 (1) (2) に (3) (4) を加え，今年度は，次の 4 項目を授業科目の到達目標とした．

(1) ボランティア・NPO 活動，社会貢献の意義について理解を深める．
(2) 主体性，創造性，社会性について理解を深める．
(3) 地域には様々な課題が潜んでいることを理解する．

(4) 市民としてのボランティア活動の意義，必要性を考える．

授業科目と COC+事業との関連性，ボランティア活動の意義を，初回講義において丁寧に説明した．2 回目以降の講義では，本学 3 学部の特性も踏まえ，主に県内の様々なボランティア活動者及び NPO 法人で活躍している活動者を外部講師として招聘し，各々の活動内容の説明を聞いた後，COC+推進室コーディネーターの協力の下，学生自身の考えをまとめ，周囲の学生と意見交換し，グループの意見をまとめるというものであった．今年度も昨年度と同様，②で述べる「おかやまボランティア演習」における活動先に関連する内容を中心とするテーマとした．学生個々にとっては，興味が湧く内容と，必ずしもそうでない内容があったように見受けられるが，全体的には，それぞれの外部講師から多くのことを学びとることができたことを，講義ごとのミニッツペーパーから伺い知ることができた．

今年度の外部講師と各講義でのテーマは表 3 のとおりである．

表 3. 平成 30 年度「おかやまボランティア論」スケジュール

No.	月日	担当	テーマ
1	6/13	本学教員	オリエンテーション及び「ボランティアとは」
2	6/20	フレームデザイン株式会社	アートと NPO 活動
		NPO 法人 KUKKA	“居場所活動”倉敷市における取組
3	6/27	認定 NPO 法人 ハーモニーネット未来	子どもからお年寄りまでの支援
		認定 NPO 法人 おかやまエネルギーの未来を考える会	未来のエネルギー
4	7/ 4	NPO 法人 総社商店街筋の古民家を活用する会	ボランティア活動の意義，心構え
5	7/11	本学教員	
6	7/25	一般社団法人 パフォーマンス教育協会	
7	8/ 1	岡山トヨペット株式会社	企業の社会的責任とその役割
8	8/ 8	本学教員	まとめ

なお，7 月 11 日(水)及び 25 日(水)は，当初，総社市役所市民生活部人権・まちづくり課国際・交流推進係の担当で「総社市における市民活動支援と行政の役割」及び総社市社会福祉協議会の担当で「総社市における市民活動支援とボランティアセンターの役割」をそれぞれ予定していた．しかし，6 月 28 日(木)から 7 月 8 日(日)にかけて発生した西日本豪雨災害への対応のため，急遽，担当を変更した．また，今年度からの試みとして，産業界からも担当（岡山トヨペット株式会社）を招き，より広義のボランティア活動に関して理解を深めることができるように配慮した．

履修者 402 名（1 年次生 389 名，2 年次生 13 名）に対する大規模授業を，昼食後の 3 時限に講堂で実施する際の問題点として，どのようにして受講学生の興味を 90 分持続させるかが第一である．今年度は，昨年度に引き続き，授業の到達目標達成に向け，8 回の授業を通しての「学習への動機付け」，「学習への参加・醸成」，「学習成果の定着」のみならず，各回の授業内においても，「学びの発見（課題意識の発芽）」，「学びへの深化（意識の醸成）」，「学びの定着(意見の共有，振り返り)」を明確にした上で授業の進行を試みた．これを具現化するため，

(1) 講堂内における座席を学籍番号により指定した．
(2) 図 7 に示すように，授業時間内における進行を分刻みで設定した．
(3) Think-Pair-Share の講義形態に基づき，学生個人個人での意見を形成する時間，4 名グループ内で各自の意見を交換する時間，グループとしての意見をまとめる時間を設けた．
(4) 学生個人の意見，他者の意見，グループとしての学びなどを A4 サイズのミニッツペーパーに記述させた．

を実践した．大学入学後の他の授業科目とは大いに異なる授業進行であったため，当初は，学生に戸惑いも見られたが，ミニッツペーパーの記述内容からも，高い学習効果を得ることができたと考えている．

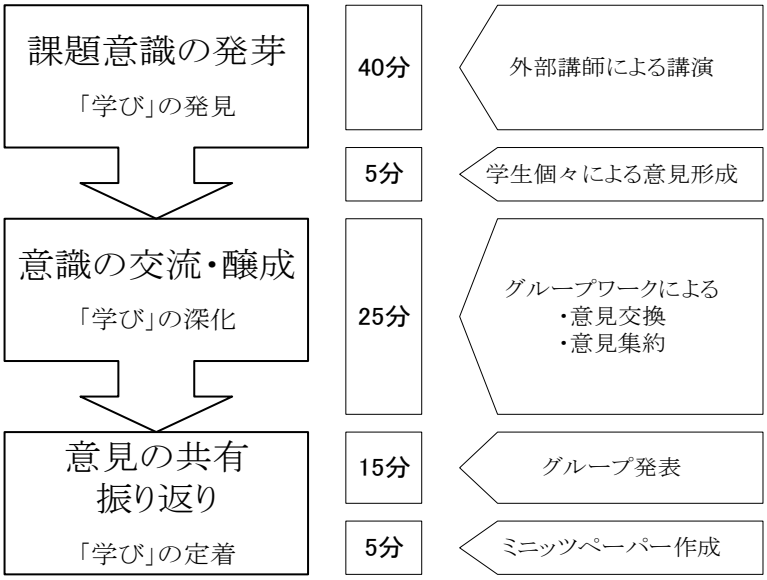


図 7．毎回の授業進行

外部講師による講演

グループワーク

②「おかやまボランティア演習」通年（主に夏季休業中）・全学 1 年次生・1 単位（選択）

副専攻「岡山創生学」科目として昨年度から新設された演習科目である．第 2 クォーターに必修科目として受講した「おかやまボランティア論」における学びを，フィールドワークにより学生自身が確認し，体験することを目的としている．授業科目の到達目標は，

(1) ボランティア原理である主体性，自主性，創造性の涵養
(2) 地域「おかやま」の理解
(3) 社会人基礎力及び学士力の涵養

である．

学生は数名～10 数名のグループに分かれ，8 月 6 日(月)の事前学習（グループの顔合わせ，活動目標の設定，注意事項など）の後，協定を締結している 4 市（総社市，笠岡市，備前市，真庭市）及び岡山市，倉敷市，早島町において，7 月～10 月初旬の期間内で各活動先，グループごとに 3 日間のフィールドワークを実施した．各活動先における活動概要と受入実績数を表 4 に示す．今年度は，昨年度の約 1.3 倍となる 203 名の学生が，フィールドワー

クに取り組んだ．そして，活動報告を含む事後学習が 10 月 21 日(日)に開催された．履修者が増えた要因として，

(1) 年度当初の新入生オリエンテーション時に実施した副専攻「岡山創生学」履修の勧め，
(2) 第 2 クォーター開講の「おかやまボランティア論」初回（6 月 13 日）において，「おかやまボランティア演習」と合わせて履修することで学修効果が高まることをアナウンスしたこと，

が功を奏したのではないかと考えられる．

表 4.「おかやまボランティア演習」活動受入先と実績

No.	主な活動場所	活動先	テーマ	参加者数		
				H30	H29	H28
1	倉敷市	NPO 法人 KUKKA	不登校児童の居場所支援	6	7	6
2	岡山市	NPO 法人 岡山子どもセンター	子どもの遊び支援	20	11	17
3	笠岡市	認定 NPO 法人 ハーモニーネット未来	子ども，お年寄り支援	16	15	15
4	岡山市	NPO 法人 岡山 NPO センター	NPO 支援	5	7	4
5	真庭市	NPO 法人 勝山・町並み委員会	クラフト市の支援	9	10	9
6	総社市	NPO 法人 総社商店街筋の古民家を活用する会	小中学生の学習支援	31	22	21
7	岡山市	認定 NPO 法人 おかやまエネルギーを考える会	地球元気イベントプログラム支援	2	5	4
8	総社市	服部地区社会福祉協議会	地区活動への参加	15	11	11
9	備前市	片上地区支えあい実行委員会	地区住民との交流	5	20	12
10	笠岡市	笠岡市社会福祉協議会	地区での福祉活動	5	9	12
11	早島町	早島町社会福祉協議会	地区活動	12	7	8
12	岡山市	NPO 法人 だっぴ	活動支援	7	4	－
13	岡山市	NPO 法人 岡山ロボット技術子供育成協会	ロボットプログラミング支援	2	4	－
14	真庭市	真庭市社会福祉協議会	地域をつなぐ納涼祭支援	8	6	－
15	倉敷市	玉島商業高校	パソコン学習支援	2	2	－
16	岡山市	キッズビジネスパーク in 岡山	小学生の職業体験支援	27	12	－
17	倉敷市	倉敷商業高等学校	パソコン学習支援	2	－	－
18	総社市	総社高等学校	パソコン学習支援	4	－	－
19	総社市	吉備路ボランティア観光ガイド協会	ボランティア観光ガイド	20	－	－
20	総社市	そうじゃ ぼっけえ造形の会	造形活動を楽しみながら，感性を豊かにし『生きる力』をはぐくもう」	5	－	－
			合計	203	152	119

開講初年度の平成 28 年度は，手探り状態での実施であった．履修学生 119 名を 3～5 名という少人数グループに分けての活動であったため，教員及びコーディネーターによる巡回作業が煩雑になったり，グループによっては活動終了後から事後学習までに長い期間が空いてしまい，学修成果の十分な定着を図ることができなかったりしたことが大きな課題であった．昨年度は，受入先との調整の後，グループ人数を 10 名以上とするなどの対策を取ったり，活動日誌の作成を義務付けたりするなどによる学修成果の定着を試みた．今年度も，昨年度と同様の取組みとしたが，履修者数の増加により，十分な指導を行うことができなかったことが反省点である．

また，事後学習においては，グループが順にポスター発表をする形式ではなく，ポスターを講義室内に掲示し，学生が他グループを巡回しながら質疑応答を行う形式（ワールドカフェ形式）とした．この形式による発表は，学生に対して自主的に他グループの活動に興味を持たせることができるとともに，ポスター発表担当者と間近で質疑応答をすることができるという利点があり，次年度以降も，継続して実施する予定である．

活動の様子

事後学習では，ワールドカフェ形式形式とし，他グループの活動を知る機会を設けた．

③「おかやまを学ぶ」第 3 クォーター・全学 1 年次生・1 単位（必修）

本科目は，第 2 クォーター「おかやまボランティア論」と同様に，平成 27 年度に開講された「少子高齢社会論」（1 年次生・1 単位必修科目）の名称変更と，副専攻「岡山創生学」に即した内容強化を行った授業科目である．今年度は，授業科目の到達目標を，

(1) 経済，産業，文化，歴史，メディア，教育，行政など，様々な視点から「おかやま」の魅力を知る．
(2) 特定の地域課題に対し，自己の関わり方を考え，未来志向の意見を持つ．
(3) アクティブ・ラーニングを通じて，主体的に物事を捉え，発信する．特に連携 4 市との授業では，市職員と学生が積極的なディスカッションを通して認識を深める．

とし，表 5 に示すテーマで開講した．特に，COC+協働機関である 4 市（総社市，笠岡市，備前市，真庭市）に加え，今年度は，文化，経済，海外事業，メディア，人権，歴史・教育など各回にテーマを設け，様々な視点から見た岡山の現状を知ってもらう目的で，新たな学外講師を招聘した．「おかやまボランティア論」に引き続き，講師との質疑応答などアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた．さらに，各回の授業を録画し，オンデマンドに配信できるように環境及びコンテンツを整備した．なお，11 月 14 日(水)の授業では，総社市役所に就職した本学卒業生 2 名が，1 年次生に向け講演を実施した．

表 5．平成 30 年度「おかやまを学ぶ」スケジュール

No.	月日	担当	テーマ
1	9/26	本学教員	オリエンテーション
		備前焼ミュージアム	【文化】岡山の歴史と文化から見る「特質」と今
2	10/ 3	一般財団法人 岡山経済研究所	【経済】経済指標で見る岡山県
3	10/10	日本貿易振興機構(ジェトロ)	【海外事業】岡山県企業の海外事業展開
4	10/17	株式会社 山陽新聞社	【メディア】新聞記者から見た岡山県
5	10/24	山陽放送 株式会社	【人権】見捨てられた人々
6	10/31	公益財団法人 特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会	【歴史・教育】学びの原郷・閑谷学校
7	11/14	総社市，笠岡市，真庭市，備前市	【行政】魅力や特色，地域課題から提案へ
8	11/21	本学教員	まとめ，総括

外部講師による講演

グループワーク

講師との質疑応答

④**「地域再生実践論」**第 1 クォーター・2 年次生・1 単位（選択）

副専攻「岡山創生学」の創設に伴い，2 年次生対象に開講する選択科目として新設された講義科目であり，昨年度から開講している．後続する副専攻「岡山創生学」2 年次対象演習科目「地域協働演習」に向けた事前講義科目としての側面が強くなるように設計されている．授業科目の到達目標を，

(1) 地域課題の解決に向けた地域資源の活用事例から，その効果を理解する．
(2) 地域活性化に向けた地域資源の活用法を，学部・学科の専門性から考える．
(3) アクティブ・ラーニングを通じて，主体的に物事を捉え，発信する．

と設定している．

開講初年度となる昨年度は 113 名の履修を得ることができたが，開講 2 年目となる今年度は 96 名の履修にとどまった．表 6 のスケジュールに示すように，COC+協働機関である 4 市（総社市，笠岡市，備前市，真庭市）から，「地域協働演習」における活動先を中心に外部講師を招聘し，各地域における課題解決に向けた実践活動例の紹介，課題解決の困難さ，学生・若者への地域の期待などを講演していただいた．1 年次対象の「おかやまボランティア論」あるいは「おかやまを学ぶ」のように 400 名前後の規模ではないが，100 名近い履修者があったため，隣席学生との意見交換，グループワークなど，アクティブ・ラーニングの要素を取り入れながら実施をした．

表 6. 平成 30 年度「地域再生実践論」スケジュール

No.	月日	担当	テーマ
1	4/11	本学教員	オリエンテーション
2	4/18	木山寺郷土保存会	真庭市の地域活動や課題
3	4/25	総社市社会福祉協議会，NPO 法人 総社商店街筋の古民家を活用する会，ボランティアグループ英 PLAY	総社市の地域活動や課題
4	5/ 9	そうじゃ ぼっけえ造形の会	総社市の地域活動や課題
5	5/16	笠岡市まちづくり協議会	笠岡市の地域活動や課題
6	5/23	備前市片上地区支えあい実行委員会	備前市の地域活動や課題
7	5/30	岡山大学教員	まちづくりの前線で活動するための心構え
8	6/ 6	本学教員	まとめ

学生も積極的に活動しました．

⑤**「地域協働演習」**通年（主に夏季休業中）・2 年次生・2 単位（選択）

前述の「地域再生実践論」同様，副専攻「岡山創生学」の創設に伴い，2 年次生対象に開講する選択科目として昨年度に新設された演習科目であり,今年度は 2 年目の開講となる．授業科目の到達目標は,

(1) 地域住民や NPO との協働を通して，地域資源を発見し，地域課題を見定める．
(2) 地域住民や NPO との協働を通して，リーダーシップとフォロワーシップを適切に発揮し，地域課題の解決，地方創生に向けた提案をする．
(3) これまでに修得した学部･学科の専門性が,どのように地域社会に貢献できるかを自ら考える．

と設定されている．

開講初年度となる昨年度は，63 名の学生が 10 名前後の 5 グループに分かれて実施した．

今年度は，48 名の学生が 7 グループに分かれて地域課題に取り組んだ．6 月 16 日(土)の事前学習（グループの顔合わせ，活動目標の設定，注意事項など）の後，協定を締結している 4 市（総社市，笠岡市，備前市，真庭市）において，概ね 6 月下旬～9 月初旬の期間内で活動先ごとに 8 日間のフィールドワークを実施した．そして，活動報告を含む事後学習が 9 月 24 日(月)に開催された．事後学習では，グループ毎に，地域活動での成果を,「おかやまボランティア演習」の事後学習と同様に，学生が他グループを巡回しながら質疑応答を行う形式（ワールドカフェ形式）で発表した．昨年度は，グループ毎の発表形式とした（ただし，ビデオカメラで撮影したポスターをスクリーンに投影し，後部座席からも見やすくなるようにした）．しかし，発表者以外は，ただ聞き入るだけとなってしまい，思うような学習効果を得ることができなかったが，ワールドカフェ形式の導入により，履修学生は，他地区での活動内容を効果的に共有できることができた．

[A] 総社市「英語を学び，英語であそぶ．子どもたちと創ろう“夏の英 PLAY イベント”」

参加人数　5 名
受入団体　ボランティアグループ英 PLAY
活動内容　英語特区とそうでない地区に住む子ども達の英語に対する関心や学習度の溝を埋める，英語に対して興味を持ってもらうという課題に対して，英語を使用してお店で会話したり，イベントを開き，説明を英語で行ったりすることで，英語に触れ合うことのできる機会を作ることを提案した．また，イベントの企画提案から実行までを体験することで，物事に意欲をもって取り組む姿勢を持つことができた．
日　程　7/28，8/4，8/20　山手公民館西郡文館
8/21，22　本学学部共通棟（東）
8/23，24，25，27　ふれあいセンター山手
9/3　本学学部共通棟（南）

活動の様子

[B] 総社市「『こども造形ひろば・特別講座』のための企画・立案」
参加人数　6名
受入団体　そうじゃ ぼっけえ造形の会
活動内容　学習要領の改訂により，子ども達が芸術に触れあう機会が少なくなっているという課題に対して，小学生と地域の方々との年齢や学校を越えた造形活動の場を設けることで，子ども達が自由に発想・表現して芸術に楽しむ機会を増やすことを提案した.
日　程　7/2　きび工房「結」
7/28，8/16　もりのいえ「かね房」
8/20，8/21　本学デザイン学部アトリエ棟
9/14，9/15　総社市立図書館
9/16　きび工房「結」，総社市立図書館

活動の様子

[C] 総社市「地域の豊かな生活を創るイベント『あかりおひろい』魅力化プロジェクト」
参加人数　5名
受入団体　NPO法人総社商店街筋の古民家を活用する会
活動内容　総社の文化を遺しつつ，全世代から親しまれる「まち」になるために学生の協力が必要であるが，「したい人（学生)」と「ほしい人（受入先)」のミスマッチがあるという課題に対して，地域の人の希望を取り入れながら，幅広い年齢層が満足できる街づくり，若者から高齢者まで楽しまるカフェ作りなどを提案し，イベント「あかりおひろい」に参加した.
日　程　6/16　本学学部共通棟（南）
6/23，7/28，8/18，9/16，9/21，9/22,9/23　旧堀和平邸

活動の様子

[D] 笠岡市「若者から見た白石島の魅力を発信するための WEB 素材作成」

参加人数　10 名

受入団体　白石・島づくり委員会

活動内容　白石島では，多くの観光資源があるにも関わらず，観光客が少なく活気がない印象をもった．情報発信はされているが認知度が低く，特に若者に知る機会が少ないという課題に対して，若者と白石島の情報を結ぶために，発見した島の魅力を動画にまとめ，SNS などを利用して情報発信をすることを提案した．

日　　程　8/11　地域創生コモンズかさおか
8/20～23　白石島（国際交流ヴィラ）
9/11　本学学部共通棟（南）

活動の様子

[E] 笠岡市「漁業・海洋資源を生かした NEW プランの提案」

参加人数　4 名

受入団体　NPO 法人大島まちづくり協議会

活動内容　大島地区では，公共交通機関が整っていない，若者を受け入れる取り組みがなされている一方で，他所者は地域の輪に入りにくい雰囲気があるなどの課題に対して，大島地区の魅力が伝わる若者受けしそうな観光ルートを提案した．

日　　程　8/11　地域創生コモンズかさおか
8/28～31　大島地区（ゲストハウス「マリエさんの家」）
9/11　本学学部共通棟（南）

活動の様子

[F] 備前市「山陽道と片上宿 ～片上盆踊りの復活に向けて」

参加人数　6 名

受入団体　片上地区支えあい実行委員会

活動内容　主催団体参加者の高齢化のため，盆踊りの伝承が困難になっている．また，支援団体の減少により花火大会を開催できなくなっているという課題に対して，大学生など若者が参加しやすい空間の設置，SNS によって広めやすいイベントの開催，流行に乗ったダンスの取り入れ，ビンゴ大会の開催などを提案した．

日　程

7/21	片上歴史資料館
7/28	備前市市民センター
8/11～12	備前かたかみ盆踊り（荒木旅館）
8/28	備前焼ミュージアム
8/30	耐火物遺産の街「三石」
8/31	特別史跡「旧閑谷学校」
9/ 7	備前市市民センター

活動の様子

[G] 真庭市「木山を親子で楽しめる『遊び場』に変えていく」

参加人数　10 名

受入団体　木山郷土保存会

活動内容　木山に多くの若者や家族連れが訪れてくれるに活性化するという課題に対して，昨年度の活動で作成した遊具（秘密基地）の老朽化対策，補強を行い，学生が企画して作成した遊具を，より多くの子ども達に利用してもらえるような提案をした．

日　程　8/21～23，9/11～13，9/22　木山寺

活動の様子

ワールドカフェ形式による事後学習

⑥「企業の組織と活動」前期集中・3 年次生・1 単位（選択）
企業とはどういうものか，その組織と活動から働くことの意味等，役員クラスの 3 名のオムニバス方式で講義を進めた．講義の感想レポートと出席で評価している．学生からは，琴線にふれる内容で感動した旨の感想も多い．

⑦「起業の条件」前期集中・3 年次生・1 単位（選択）
講義内容については，起業のために必要な知識（ベンチャー立上げとその持続及び知的財産）の修得を目的としており，その目的に沿った内容になっている．授業アンケートを通した評価は高く，有意義な講義を実施していると判断される．授業担当者として，実務経験者 2 名を非常勤講師としている．これは本授業の目的から，実務経験者が最適であり，今後も実務経験者雇用の継続が望ましいと考える．履修学生は，デザイン学部と情報工学部の学生である．将来，起業を考えている学生は，極めて熱心に受講している．

⑧「地方自治論」第 2 クォーター・3 年次生・2 単位（選択）
3 年次対象科目であることから，今年度より副専攻「岡山創生学」科目としての開講となった．このため，今年度から新設される自治体での長期インターンシップ科目「地域インターンシップ」の事前学習も兼ねる内容となるよう，地方自治の仕組みや制度，地方自治体の活動や住民との関係性について理解を深め，地方自治の現状と課題，特に，地方自治体にとって喫緊の課題である地方創生について，岡山県の状況を中心に考察する機会とする内容とした．あわせて，行政サービスを提供する側，受ける側の観点から，それぞれの責任と役割を考える契機とした．

⑨「地域インターンシップ」通年（主に夏季休業中）・3 年次生・4 単位（選択）
共通教育科目として，今年度から開講となった自治体における長期インターンシップ科目である．主に夏季休業期間の約 4 週間を活用し，自治体での職場体験活動を通して，仕事や組織の仕組み，仕事の流れ，職場における人間関係などの理解を深めることを目的としている．特に，
(1) 自治体職員との交流を通して，学生視点では得られない地域との関わりを理解する．
(2) 自治体でのインターンシップを通して，社会人として必要なスキルや行動規範を身に付ける．
(3) 行政サービスを受ける側の視点から，提供する側への提言を行う．
ことを主眼とした．今年度は，3 年次生 21 名（情報工学部 20 名，デザイン学部 1 名）が表 7 に示す自治体で職場体験活動を行った．

表 7. 平成 30 年度「地域インターンシップ」受入自治体と実績

No.	受入自治体	主な受入部署（順不同）	人数
1	岡山県庁	情報政策課	7
2	総社市役所	政策調整課，文化課，そうじゃ吉備路マラソン推進室，観光プロジェクト課，地域応援課，危機管理室，消防本部，人口増推進室，ふるさと納税推進室，環境課，交通政策課，学校教育局，秘書室，農林課，建築住宅課，市政情報課	11
3	笠岡市役所	協働のまちづくり課，地域福祉課，市民課，人権推進課，生涯学習課，人事課	2
4	備前市役所	農政水産課，産業観光課	1
		合計	21

自治体における実習の様子

実際に自治体に出向くまでの事前学習は，「地域インターンシップ」と同様に今年度から開講する企業における長期インターンシップ科目「エンジニアリング演習」と合同で，次のスケジュールで実施した．

5 月 7 日　インターンシップ説明会（学生支援班と共同開催）
5 月 7 日～25 日　マッチング相談，自治体事前面接(希望自治体のみ)，ｴﾝﾄﾘｰｼｰﾄ提出
5 月 21 日　インターンシップ説明会
6 月 7 日　進路就職ガイダンス（学生支援班開催）
6 月 12 日～19 日　受入先決定通知，学生カード・誓約書の提出
6 月 28 日　事前学習
7 月 5 日　マナー講座
7 月 6 日～31 日　受入先への事前訪問（受入先が希望する場合）

5 月 7 日(月)開催のインターンシップ説明会は，従前，学生支援班が開催していた説明会を活用し，短期インターンシップへの参加説明を含む形で行われた．6 月 28 日(木)開催の事前学習では，長期インターンシップ科目の履修者に対し，各科目の達成目標，成績評価，事務的な手続きなどを説明した．また，7 月 5 日(木)開催のマナー講座では，岡山県社会保険労務士会から社会保険労務士の資格を持つキャリア設計デザイナーを外部講師として招き，働くことの意義，社会人としてのマナーなどを，実習を含む形式で学んだ．

「エンジニアリング演習」と合同で外部講師を招いてのマナー講座

インターンシップ終了後，11 月 15 日(木)に受入先担当者を招いての報告会を学内で開催した．通常の授業では，決して得られることのできない貴重な体験を積んだことが報告された．また，同じ自治体であっても，配属部署によって業務内容が異なることなどを実体験として得ることができたようである．

受入先担当者を招いての成果報告会

⑩「エンジニアリング演習」通年（主に夏季休業中）・3 年次生・4 単位（選択）

情報工学部の学部教育科目として，今年度から開講となった企業における長期インターンシップ科目である．主に夏季休業期間の約 4 週間を活用し，アルバイトとは違う「働く（就業体験)」を通して，職場の雰囲気，社会の基本的なルールやマナーに触れ，自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としている．専門分野に関連する業務活動を企業や団体で体験することで，技術者としての自覚，授業で修得した知識・技術の応用力，進路選択への心構え等を育成することが期待される．今年度は，情報工学部 3 年次生 34 名が，表 8 に示す企業 20 社で職場体験活動を行った．

表 8．平成 30 年度「エンジニアリング演習」受入企業と実績

No.	受入企業	人数
1	井原精機(株)	2
2	内山工業(株)	1
3	岡山ネットワーク(株)	2
4	興南設計(株)	2
5	三乗工業(株)	1
6	山陽電研(株)	1
7	シャープタカヤ電子工業(株)	1
8	(株)英田エンジニアリング	1
9	(株)システムズナカシマ	3
10	(株)ベネッセインフォシェル	3
11	オーエム機器(株)	2
12	オーエム産業(株)	1
13	オージー技研(株)	1
14	カイタック(株)	2
15	シバセ工業(株)	2
16	セリオ(株)	2
17	タカヤ(株)	1
18	日進ゴム(株)	2
19	ユアサシステム機器(株)	1
20	(株)アステア	3
	合計	34

企業における実習の様子

実際に企業に出向くまでの事前学習は，「地域インターンシップ」と合同で，先に述べたスケジュールで実施した．

インターンシップ終了後，10 月 25 日(木)に受入先担当者を招いての報告会を学内で開催した．通常の授業では，決して得られることのできない貴重な体験を積んだことが報告された．

受入先担当者を招いての成果報告会

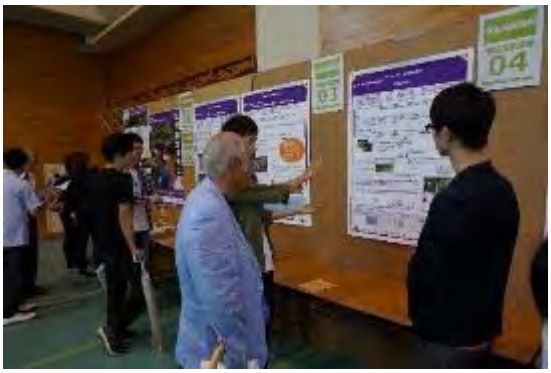
1-4 学修成果の発表

1-4-1 「OPU フォーラム 2018」

開学記念日となる 5 月 29 日に毎年開催されている「OPU フォーラム」において，昨年度の「地域協働演習」履修学生が，5 つのテーマでポスター発表を行った．

(1) 総社市「街道を歩く」
(2) 総社市「夏のイベント開催」(ボランティアグループ英 PLAY)
(3) 笠岡市「農業・漁業・海洋資源を活かした観光ルートの提案」(NPO 法人 大島まちづくり協議会，六島まちづくり協議会)

(4) 備前市「YO～MA～ブランドで地域おこし」(NPO 法人 ふれあいサポートちゃてぃず)
(5) 真庭市「木山寺 PROJECT」(木山郷土保存会)



「OPU フォーラム 2018」ポスター発表

1-4-2 全国公立大学学生大会「LINKtopos」

今年度の「地域協働演習」を履修した 2 年次生 3 名が，10 月 6 日(土)～8 日(月)に静岡県立焼津青少年の家及び静岡県立大学草薙キャンパスで開催された平成 30 年度全国公立大学学生大会「LINKtopos in 静岡」に参加した．「LINKtopos」は，2011 年の東日本大震災を契機に，2013 年に発足した公立大学学生ネットワーク（通称：LINKtopos）が中心となって毎年開催されている．今回は全国 41 の公立大学から 180 名以上の学生・教職員が参加した．

第 1 日は，各大学における地域活動を報告し合い，意見交換や課題を共有した．

第 2 日は，外部講師より，「災害ボランティア」，「学生から見た地域」，「地域から見た学生」の 3 テーマに分かれ，ワークショップを開催した．

第 3 日は，地区別に分かれ，今後の大会への展望についての意見交換の後，公立大学協会主催「平成 30 年度第 1 回公立大学学長会議」と合流し，出席した学長らと共にポスターセッション及びランチ交流会が行われた．また，「学長会議」のプログラムの一つとしての「学生・学長合同セッション」では，公立大学学生ネットワークからの大会報告と 2 大学（名古屋市立大学，静岡県立大学）の参加学生から地域活動の報告が行われ，学生・学長・教職員を交えて，会場全体で活発な意見交換が行われた．

本学のように COC/COC+事業の一環として参加している大学もあれば，サークル，ゼミでの地域貢献活動の発表の場として参加している大学もあった．後者のほうが，活動の持続性において望ましい．本学においても，副専攻「岡山創生学」授業科目での学び，地域連携活動を，学生たちが，その後も継続して関わることができるよう，あるいは後輩に受け継がれていくようにするためには，どのような仕掛けが必要かを考えることが求められる．

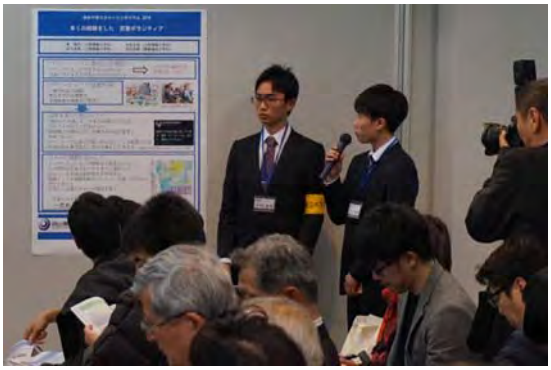
「学生・学長合同セッション」で交流を広げました.

1-4-3 おかやま COC+シンポジウム 2019

今年度における副専攻「岡山創生学」の学修成果として，2 月 18 日(月)に岡山シンフォーニーホールにて開催された「おかやま COC+シンポジウム 2019」では，「地域創生推進士」候補学生計 28 名が，副専攻「岡山創生学」の 3 年に渡る学修成果のポスター発表（8 件）を行うだけでなく，シンポジウムの企画段階から関わり，当日の受付，会場案内，総合司会，パネリスト，コーディネーターなど多種多様に担当した.

表 9.「おかやま COC+シンポジウム 2018」ポスター発表

No.	受入企業	人数
1	地域創生推進士 A	4
2	地域創生推進士 B	3
3	地域インターンシップ	5
4	エンジニアリング演習	4
5	デザインプロジェクト演習	3
6	チームガバナビリティ演習	3
7	総社市政策提言	3
8	豪雨災害ボランティア	4
	合計（1 名は重複）	28



「おかやま COC＋シンポジウム 2019」にて登壇し，ポスター発表しました.

1-5 「地域創生推進士」の授与

副専攻「岡山創生学」は，地域「おかやま」を知り，地域「おかやま」を学ぶだけでなく，地域「おかやま」に飛び出して，学生の社会人力を地域とともに育てることを目的としており，表 2 に示す必要単位数を修得し，修了認定を受けた者に『地域創生推進士』の称号を授与することとしている．従来は卒業時に『地域創生推進士』の称号を授与することとしていた.

しかし，学生の就職活動が本格化する 3 年次 3 月には授与することにより，履歴書への記入など学生の就職活動に利することとの判断から，今年度，次に示す認定要件と共に詳細を決定した．その結果，3 年次生の 28 名が「地域創生推進士」の候補者となり，3 月 4 日(月)に「地域創生推進士」認定証の授与式を開催し，学長より授与した．

【地域創生推進士の認定要件】

次の（1）及び（2）を満たす学生に「地域創生推進士」の称号を授与する．

(1) 表 2 中，次に示す必要単位を取得すること．

(ア)「おかやまボランティア論」,「おかやまボランティア演習」,「おかやまを学ぶ」,「地域再生実践論」,「地域協働演習」の計 6 単位．なお，★印で示される授業科目は，通常は選択科目であるが，地域創生推進士の認定を受けるためには，必ず修得すること．

(イ)「地方自治論」,「地域インターンシップ」,「企業の組織と活動」,「起業の条件」,「チームガバナビリティ演習」,「地域保健福祉演習」,「エンジニアリング演習」,「デザインプロジェクト演習」の中から 4 単位．ただし，保健福祉学部学生は「統合実習」,「公衆栄養学実習Ⅰ」,「公衆栄養学実習Ⅱ」,「ソーシャルワーク実習」,「保育実習ⅠB」の中から 2 単位以上を修得すれば，必要単位数の中から 2 単位を修得したものとする．なお，◆印で示される授業科目を 1 科目以上含むこと．

(2) 次に示す公開イベントのいずれかにおいてポスター発表あるいは口頭発表を行うこと．

(ア)おかやま COC+シンポジウム

(イ)OPU フォーラム

(ウ)公立大学協会 LINKtopos 学生大会

(エ)その他，COC+推進本部会議が認定する公開イベント（地域創生コモンズ開所式など）
ただし，今後変更することがある．

「地域創生推進士」授与式（3 月 4 日(月)）

1-6 PROG テストによる学修評価

9 月～10 月にかけて，副専攻「岡山創生学」1 期生である 3 年次生がジェネリックスキル（リテラシー及びコンピテンシー）を定量的に測定する PROG テスト（河合塾，(株)リアセック共同開発）を受験した．3 年次生は入学時の平成 28 年 6 月にも PROG テストを受験しており，入学後 3 年間の学修成果としてのジェネリックスキルの成長を評価した．PROG テストにより，表 10 に示すリテラシー，コンピテンシーに関する構成要素を定量的に測定することができる（コンピテンシーについては，さらに計 33 個の小分類が定義されている）．これらの構成要素は，経済産業省が 2006 年に提唱した「社会人基礎力」，文部科学省中央教育審議会が 2008 年に定義した「学士力」に対応するものとなっている．

表 10．PROG テストの構成要素

	大分類	中分類	
		要素名	定義
リテラシー	問題解決力	情報収集力	課題発見・課題解決に必要な情報を見定め，適切な手段を用いて収集・調査，整理する力
		情報分析力	収集した個々の情報を多角的に分析し，現状を正確に把握する力
		課題発見力	現象や事実の中に隠れている問題点やその要因を発見し，解決すべき課題を設定する力
		構想力	さまざまな条件・制約を考慮して，解決策を吟味・選択し，具体化する力
	言語処理力		語彙や同義語，言葉のかかり受けなど，日本語の運用に関する基礎的な能力
	非言語処理力		数的処理や推論，図の読み取りなど，情報を読み解くために必要な（言語以外の）基礎的な能力
コンピテンシー	対人基礎力	親和力	相手の立場に立ち，思いやりを持ち，共感的に接することができる．また，多様な価値観を柔軟に受け入れることができる．
		協働力	お互いの役割を理解し，情報共有しながら連携してチーム活動することができる．また，時には自分の役割外のことでも進んで助けることができる．
		統率力	どんな場・どんな相手に対しても臆せず発言でき，自分の考えをわかりやすく伝えることができる．また，そのことが議論の活性化につながることを知っており，周囲にもそうするよう働きかけることができる．
	対自己基礎力	感情制御力	自分の感情や気持ちをつかみ，状況にあわせ言動をコントロールできる．また，落ち込んだり，動揺したりした時に，独自で気持ちを立て直すことができる．
		自信創出力	他者と自分の違いを認め，自分の強みを認識することができる．また，「やればなんとかなる．自分がやれば大丈夫」と自分を信頼し，奮い立たせることができる．
		行動持続力	一度決めたこと，やり始めたことは粘り強く取り組みやり遂げることができる．また，それは自分が自分の意思・判断で行っていることだと納得をして取り組むことができる．
	対課題基礎力	課題発見力	さまざまな角度から情報を集め，分析し，本質的な問題の全体をとらえることができる．また，原因は何なのかを特定し，課題を抽出することができる．
		計画立案力	目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てることができる．また，その計画が妥当なものであるか，一貫した関連性があるものかを評価し，ブラッシュアップできる．
		実践力	幅広い視点からリスクを想定し，事前に対策を講じる．まら，得られた結果に対しても検証をし，次回の改善につなげることができる．

（出典）リアセックキャリア総合研究所(監修)，「PROG 白書 2018」，学事出版，2018

平成 28 年度入学生に対して，「地域創生推進士」候補者と候補者以外で，入学後の 2 年間でジェネリックスキルの変化に差がみられるかを考える．なお，対象のデータ数は表 11 に示すとおりである．

表 11．平成 28 年度入学制の PROG テスト受験者数

	1 年次受験者数 （平成 28 年 6 月受験）	3 年次受験者数 （平成 30 年 9～10 月受験）
「地域創生推進士」候補者	28	19
「地域創生推進士」候補者以外	380	298
計	408	317

表 10 に掲げたリテラシー6 項目（中分類 4 項目と大分類 2 項目），コンピテンシー3 項目（大分類）に対して，「地域創生推進士」候補者と候補者以外の平均値の経年変化を図 8 に示す．なお，図 8 のエラーバーは標準偏差としている．

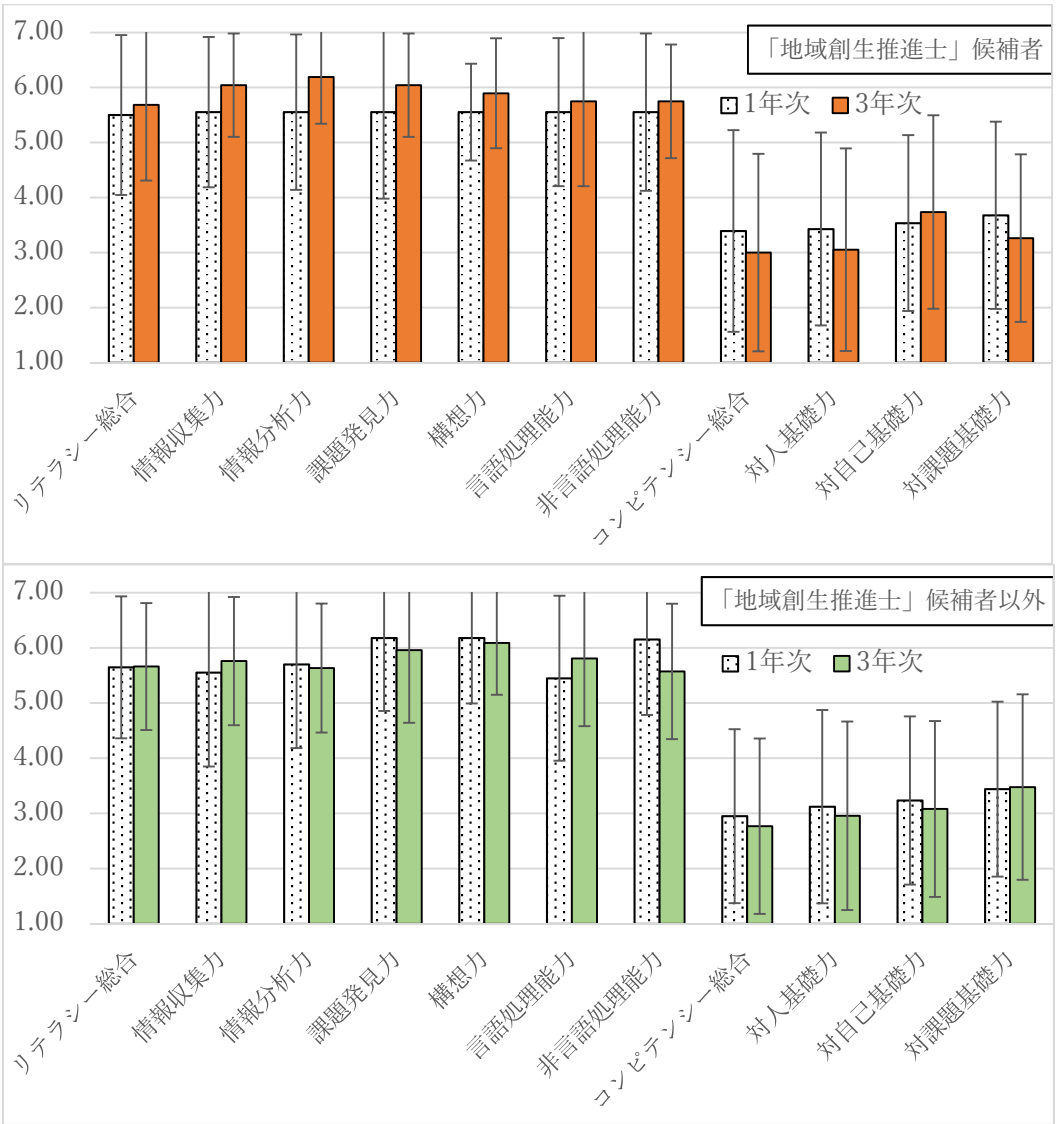


図 8.「地域創生推進士」候補者と候補者以外の PROG テスト結果 2 年間の変化．ただし，リテラシー6 項目（情報収集力から非言語処理能力まで）は本来 5 点満点であるが，これを 7 点満点に換算した．他の項目は 7 点満点である．

概して，大きな成長を示す結果は得られなかったが，「地域創生推進士」候補者の特徴として，次の事項が考えられる．

(1) リテラシーに関しては，全ての項目で1年次からスコアが向上している．

(2) コンピテンシーに関しては，入学時において，候補者以外よりもやや高いスコアを有している．「地域創生推進士」候補者は，入学時から，地域活動などに関心を持っていた者が受講したのではないかと推察される．

(3) コンピテンシーの対自己基礎力が増加している反面，対課題基礎力が減少している．「地域創生推進士」候補者は，3年間にわたり毎年度，地域活動を行う副専攻「岡山創生学」演習科目を履修しており，自己の成長を感じ取ることができた一方において，実際の地域課題の複雑さ，課題解決への困難さを実感したためではないかと考察される．

また，3年次における平均値を，有意水準5%でt検定を実施したところ，

- リテラシー中分類［情報分析力］($t(315) = -2.041$, $p < 0.05$)
- コンピテンシー小分類［情報収集力］($t(315) = -2.141$, $p < 0.05$)

において，「地域創生推進士」候補者と候補者以外で有意差が見られ，他の項目では，有意差が見られなかった．毎年度の地域活動を，受入先あるいは受入先利用者とコミュニケーションを取ったり，協働したりする過程を通して，様々な情報を主体的に幅広く入手し，即座に分析・判断する必要がある機会を経験したことで，これらの力を成長させることができたと考えられる．

なお，来年度は，昨年度の副専攻「岡山創生学」2期生（平成29年度入学生）が3年次生となるため，PROGテストを3年次生全員に受験させ，副専攻「岡山創生学」の学修効果を測定することとしている．また，平成30年6月には，全1年次生（平成30年度入学生）がPROGテストを受験している．2年後の平成32年度に再びPROGテストを受験できる機会を設け，副専攻「岡山創生学」による学修効果を測定することが望まれる．

1-7 正課外での活動

副専攻「岡山創生学」の授業科目以外（正課外）においても，表12に示す課外活動を学生が実践している．

表12. 正課外における地域活動

No.	日程	活動地区	概要	学生数(学科)
1	4月14日	備前市片上地区	チョイヤサ2018でのボランティア	4名(情報工学部)
2	5月27日	笠岡市白石島	島の大運動会でのボランティア	7名(保健福祉学研究科) 13名(保健福祉学科)
3	7月 1日	岡山市池田動物園	「すけっと」プロジェクトでのボランティア	39名(造形デザイン学科)
4	7月10日	備前市	食育講座(健康講話と調理実習)	4名(栄養学科)
5	8月 4日	本学	コモンズキャンパス(親子で学ぶプログラミング教室)	6名(情報系工学研究科)
6	8月～11月	備前市吉永	HATTOJI プロジェクト，ふるさと写真館の設置	3名(保健福祉学科) 3名(情報通信工学科) 1名(情報システム工学科) 1名(人間情報工学科) 1名(デザイン工学科) 3名(造形デザイン学科)
7	10月17日	地域創生コモンズかさおか	コモンズキャンパス(ウォーキングの秘訣)	1名(情報系工学研究科)
8	10月23日 10月30日 11月 6日	総社市山手	“歩得”「がんばろう総社! 災害復興ウォーキング講座	2名(人間情報工学科)

9	10 月 26 日	本学	“歩得”支援講座　歩得・食得　元気なからだ教室	5 名（栄養学科）
10	10 月 30 日	総社市山手	“歩得”「がんばろう総社!　災害復興ウォーキング講座	2 名（人間情報工学科）
11	10 月～12 月	真庭市社	やしろ竹あかり竹灯籠プロジェクト	4 名（造形デザイン学科）
12	11 月　4 日	笠岡市保健センター	健康まつり in かさおかでの健康・身体測定	2 名（情報系工学研究科）
13	11 月　6 日	総社市山手	“歩得”「がんばろう総社!　災害復興ウォーキング講座	2 名（人間情報工学科）
14	11 月 10 日	備前市総合運動公園	子ども応援フェスタでの子育て支援活動	17 名（保健福祉学科）
15	11 月 11 日	備前市吉永	HATTOJI プロジェクト，缶バッチワークショップ	3 名（保健福祉学科） 1 名（情報通信工学科） 1 名（人間情報工学科） 1 名（デザイン工学科） 3 名（造形デザイン学科）
16	11 月 22 日	本学	豪雨復興支援事業「県立大学でリフレッシュ!　復興支援健康教室」	3 名（栄養学科） 6 名（人間情報工学科） 4 名（情報系工学研究科）
17	11 月～1 月	県内当該施設	アーキツーリズムガイドブック（仮称）の作成への協力	6 名（デザイン工学科） 1 名（造形デザイン学科）
18	12 月　5 日	地域創生コモンズ　かさおか	コモンズキャンパス（ウォーキングの秘訣）	1 名（情報系工学研究科）

活動の様子

1-8 まとめと課題

今年度は，平成 27 年度に選定された COC+事業「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」に基づいて設置された副専攻「岡山創生学」の第 3 年度であった．1 年次対象の 3 科目（「おかやまボランティア論」，「おかやまボランティア演習」，「おかやまを学ぶ」），2 年次対象の 2 科目（「地域再生実践論」，「地域協働演習」）を昨年度に引き続き開講した．さらに，3 年次対象の 2 科目（「地域インターンシップ」，「エンジニアリング演習」）を新設開講した（以前から開講している授業科目については，副専攻「岡山創生学」授業科目として開講）．3 度目の開講となった 1 年次対象科目では，

- アクティブ・ラーニングの強化（「おかやまボランティア論」，「おかやまを学ぶ」），
- より広い業種におけるボランティア実践者の招聘（「おかやまボランティア論」），
- 岡山県内の各界からの講師による講演の導入（「おかやまを学ぶ」），
- 活動日誌などの文書整備（「おかやまボランティア演習」），
- 事後学習におけるワールドカフェ形式の導入（「おかやまボランティア演習」）

などの改善を行い，必ずしも十分ではないものの，昨年度より高い学修効果を得ることができた．2 度目の開講となった 2 年次対象科目では，

- 「地域協働演習」での活動先を意識した外部講師の選定（「地域再生実践論」），
- アクティブ・ラーニングの積極的な導入（「地域再生実践論」），
- 活動日誌などの文書整備（「地域協働演習」）
- 事後学習におけるワールドカフェ形式の導入（「地域共同演習」）

などを意識した授業設計を行った．また，初めての開講となった 3 年次対象の長期インターンシップ科目（「地域インターンシップ」，「エンジニアリング演習」）では，

- 外部講師によるマナー講座など事前学習の充実，
- 受入先担当者を招いた報告会の開催

などに力を入れて授業を実施した．

平成 27 年度からの副専攻「岡山創生学」3 年間の実施，成果を踏まえ，次年度に向けた課題として，例えば，以下のものが挙げられる．

(1) 副専攻「岡山創生学」としての教育目標を，より一層明確化し，学修成果の評価指標及び評価方法を継続的に改善する．
(2) 1 年次対象科目「おかやまボランティア論」，「おかやまボランティア演習」，「おかやまを学ぶ」の連携を強め，副専攻「岡山創生学」の教育方針により即した授業内容を検討する．
(3) 2 年次生対象の「地域再生実践論」，「地域協働演習」の学修成果を分析し，共通教育科目としての副専攻「岡山創生学」にける位置付けを，より明確にする．
(4) 3 年次生対象の「地域インターンシップ」，「エンジニアリング演習」など，自治体，県内企業における長期インターンシップを含む授業科目を適切に設計するためには，域学連携 WG，産学連携 WG との協働が必須であり，今まで以上に密な連携が求められる．
(5) 各授業科目及び副専攻「岡山創生学」を通した評価方法を確立させる必要がある．
(6) 副専攻「岡山創生学」授業科目及び正課外活動を通じた学生のキャリア形成，社会人基礎力・学士力を涵養する学内教育システムを構築しなければならない．
(7) COC+事業が来年度で終了することを見据え，公立大学としての本学の地域連携教育の位置づけを明確にするとともに，教職員一体となったシステム作りは，来年度からスタートする第 3 期中期計画における急務である．

一方において，学生が主体となって結成されたボランティア団体には，「おかやまボランティア演習」を受講した 1 年次生，「地域協働演習」を受講した 2 年次生，ボランティアに興味を示す学生が参加しており，地域連携教育に対する教育改革の効果が出ている．今後は，これまでの実績に基づき，地域社会と学生ボランティア団体との繋がりを強化し，これらをコーディネートする組織の設置，システム化を進めていくことが必要となる．

第３章　大学院における教育活動と成果

1 大学院における教育活動と成果

1-1 概要

本学大学院では,各研究科・専攻で設定するディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき,より高度な専門性を備え,社会進出にあたって指導的な立場に立つことのできる人材や研究者の育成を目指している.以上を基本として,少子高齢化やグローバル化さらには地方創生の観点から地域連携の視点に基づいて,専門分野の知識・スキルを活かして課題解決を図ることのできる人材育成のため,各研究科において,従来の高度な専門教育に加えて教育プログラムの多様化や授業内容及び研究指導法の工夫改善に取組んでいる.

以上の取組を実社会において活かせるようマネジメントの視点から総合学習し，かつアクティブ・ラーニングにより主体的な学習態度を形成するため，試行をへて前年度から授業科目「プロジェクトマネジメント実践論」（英語使用）を研究科共通科目として開講するほか，次年度から英語による「アカデミック・プレゼンテーション演習」ならびに,「学際研究論」を研究科共通科目として開講することとし，研究科学生におけるグローバルな研究姿勢や幅広く学際的な研究視野の獲得に資することとした.

1-2　保健福祉学研究科

1-2-1　概要

本学大学院では，各研究科・専攻で設定するカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに基づき，高度な専門性を備え，社会進出にあたって指導的な立場に立つことのできる人材や研究者の育成を目指している．少子高齢化やグローバル化に対応して，専門分野の視点から課題解決を図ることのできる人材育成のため，各研究科において，大学院教育プログラムや授業内容及び研究指導法の工夫改善の取組みを継続している.

1-2-2　博士前期課程

1-2-2-1 看護学専攻

(1)グローバル教育

「国際保健看護学特論」では，国際的な視野で精神保健を考えることをテーマにネパールでの演習を行った．現地ではトリブバン大学病院の精神科教授と病棟視察，精神看護学教授との看護教育についての会談，アユールベーダ医師の講義，看護協会の見学，地域フィールド調査を実施し，見識を深めた.

香港理工大学での短期研修（9 月）に大学院生 1 名が参加し，香港での医療及び文化について学んだ.

(2)地域連携教育

公衆衛生看護学実習（備中保健所・総社市）は受け入れ人数の制限があるため，2 班体制（5 月 21 日～6 月 22 日 3 人，1 月 21 日～2 月 22 日 3 人）で実施できるよう，第 3 クォーターまでに，主要科目の進度調整をした．また予期せぬ 7 月豪雨があったので，保健師としての学修と地域貢献の点から，展開論演習等では被災地の検診活動を取り入れた.

さらに，公衆衛生看護診断論・演習における認知症カフェは，個人・集団の評価案を作成し，包括職員と共有し試行した．加えて，この学修と公衆衛生展開論・演習及び公衆衛生看護管理論を連動させて，アセスメントから施策化できることをめざして演習した．演習成果

（総社市認知症対策への提言）は，総社市保健師・事務職にプレゼンし講評を得た．アセスメントについては第3回岡山県地域包括ケアシステム学会でポスター発表した．

なお，総社市東部北地域包括支援センターとの共催による認知症カフェ（年６回）は，単位取得済のM2がＴＡとして加わり，さらに，8月は院生が地域保健福祉演習を履修した学部生4名に助言しながら実施するという，屋根瓦方式の演習を試行した．結果，院生は学びを深化させ，学部生は身近な先輩と共に学び，看護師教育から保健師教育への円滑な連動となった．

1-2-2-2　栄養学専攻

(1)グローバル教育

平成30年6月15日に，カセサート大学（タイ）と岡山県立大学合同ワークショップが開催されSombat Chinawong博士を含む3名の研究者および本学栄養学科教員3名の発表をもとに質疑応答や情報交換が行われた．ワークショップには本学学生のうち博士後期課程学生3名，博士前期課程学生9名，学部生18名が参加し理解を深めた．

平成30年10月16日に，岡山国際交流センターにて国際学会“Okayama Bioactive 2018 (BAO2018) -3rd International Conference on Biologically Active Substances-“が開催された．本会議は，毎年，日本，韓国，中国の提携校とで開催されているJoint Conference on Nutrition and Food Scienceとの合同会議である．本会議では，博士後期課程学生4名，博士前期課程学生10名，学部生4名が参加し，会議スタッフとして運営に参画した．さらに，博士後期課程学生3名，博士前期課程学生2名が口頭発表とポスター発表を行い，そのうち，博士後期課程学生2名，博士前期課程学生1名が優秀学生プレゼンテーション賞(Best Student Presentation Award）を受賞した．これにより，英語でのプレゼンテーションの機会を得るとともに，会議ならびにその後の交流会において意見交換し，海外研究者との交流を深めた．

また，平成30年10月17日には，本学にて南昌大学Qiang Yu氏により「Current advance of research on food science in Nanchang University」，四川大学Bisong Yue氏による「Whole Genome Sequencing and Analysis of Medicinal American Cockroach」の特別講義が行われ，本学科大学院生9名，学部生3名も参加し活発な研究討論が行われた．同日午後からは備前市研修交流イベントとして，備前市日生にて里海協議会の協力のもとに日生町漁業協同組合の天倉氏による「アマモ再生と日生牡蠣養殖の取り組み」の講演会が催された．講演後は海外研究者や学生の質疑や外国語での文化交流が行われ，食を取り巻く環境保護の取組に対してグローバルな視点から活発に議論され理解を深めた．

(2)地域連携教育

西日本豪雨災害時のボランティア活動として，専門性を活かした野菜料理の提供プロジェクトへの参加を促し，災害時における専門職としての役割や多職種連携の重要性を認識したり，地産地消の推進のための米粉活用レシピの開発等に携わる機会を通じて学生の地域思考の醸成に努めた．

1-2-2-3　保健福祉学専攻

(1)グローバル教育

平成30年11月16日に，又松大学の柳漢守准教授を招聘し，韓国の社会問題に関する現状と課題に関する講義を開講した．3 名の院生が聴講し，韓国の自殺，少子高齢化問題等について学ぶことができた．

(2)地域連携教育

1名の院生が，地域で開催された，児童虐待予防のためのコモンセンスペアレンティングプログラムに関わる講演会と子どもの貧困に関わる講演会に参加し，地域住民とともに，地域の子どもが抱える課題と課題解決方法について学ぶことができた.

1-2-3　博士後期課程

1-2-3-1　看護学大講座

学術交流協定校であるネパールのトリブバン大学から留学生1名（指導教員：井上幸子准教授）を受け入れ，研究指導が進められている.

1-2-3-2　栄養学大講座

学術交流協定校であるインドネシアのハサヌディン大学から1名の留学生が本年度で修了し，博士学位取得見込みである．また，同じくハサヌディン大学から1名の留学生を博士後期課程に来年度から受け入れる予定で，交流協定校との交流が着実に進んでいる.

平成30年6月15日に，カセサート大学（タイ）と岡山県立大学合同ワークショップが本学栄養学科にて開催され，本学学生のうち博士後期課程学生3名，博士前期課程学生9名，学部生18名が参加した.

平成30年10月16日に，岡山国際交流センターにて国際学会“Okayama Bioactive 2018 (BAO2018) -3rd International Conference on Biologically Active Substances-“が開催され，博士後期課程学生3名，博士前期課程学生2名が口頭発表とポスター発表を行った．そのうち，博士後期課程学生2名，博士前期課程学生1名が優秀学生プレゼンテーション賞（Best Student Presentation Award）を受賞した．また本学にて17日には南昌大学Qiang Yu氏により「Current advance of research on food science in Nanchang University」，四川大学Bisong Yue氏による「Whole Genome Sequencing and Analysis of Medicinal American Cockroach」の特別講義が行われ，本学科大学院学生9名，学部生3名が参加し活発な研究討論が行われた.

さらに平成30年12月6-8日には，香港大学にて開催された国際学会“Global Challenges in Food, Nutrition & Environment Symposium”に，博士後期課程学生1名が参加し，口頭発表を行った．その発表により，優秀学生プレゼンテーション賞（2位）を受賞した．これにより，英語でのプレゼンテーションが評価されたとともに，海外研究者との意見交換や海外学生とのコミュニケーションを深める機会となり，国際的な視点を養うことができた.

1-2-3-3　保健福祉学大講座

平成30年12月6日に，スウェーデン農業科学大学のパトリック・グラン教授を招聘し，うつ病の失業者を対象にした，自然を利用したセラピーとその効果に関する講義を開講した.2名の院生が聴講し，先進的なスウェーデンのプログラムについて学ぶことができた.

1-2-4　まとめと課題

栄養学大講座では学術交流協定校であるインドネシアのハサヌディン大学から1名の留学生が博士学位取得の見込みで，さらに学術交流協定校である中国の南昌大学から栄養学大講座と栄養学専攻にそれぞれ1名ずつ留学生を受け入れ，交流を深めている．来年度にはさらにハサヌディン大学から1名の留学生を受け入れる予定である．さらに看護学大講座では学術交流協定校であるネパールのトリブバン大学から留学生1名(指導教員:井上幸子准教授)を看護学大講座に受け入れ，研究指導を行っている．今後は交流のさらなる質的充実を目指し，国際的な共同研究ならびにグローバル教育への活用を進めていく必要がある．一方，2019年度は栄養学専攻および保健福祉学専攻で入学者が定員を下回っており，今後は本学学生や社会人に本学教員の研究内容をわかりやすく伝えるなど，地道な広報活動を続けることも必要である.

1-3　情報系工学研究科

1-3-1　概要

情報系工学研究科では，急速に発展する環境の変化に対応するために，既存の教育研究分野にとらわれず幅広い視野を持ち，それぞれの研究内容のみならず融合型研究を深化させるための取組を行っている．

1-3-2　博士前期課程

1-3-2-1　学生指導体制

平成 25 年度に，情報工学部 3 学科に積み上げた 3 専攻（電子情報通信工学専攻，機械情報システム工学専攻，人間情報システム工学専攻）から 1 専攻に改組し，専攻内に 5 領域（情報工学領域，電子通信工学領域，ヒューマン・ロボティクス領域，機械プロセス・エネルギー工学領域，人間情報工学領域）を設けた．平成 24 年度以前の 3 専攻体制では，学生が所属する専攻を超えた授業科目を履修することは，専攻共通に開講される授業科目以外では，ほとんど見られなかった．しかしながら，1 専攻化により，従前の専攻の枠を超えた授業科目の履修が，特に情報工学系の授業科目で活発になり，また，領域が細分化された関係で，多くの学生が領域を超えた授業科目を履修している．

表 1 に，3 専攻最後となった平成 24 年度入学生に対する授業科目（選択科目）を平成 25 年度以降の 5 領域に対応するよう分類し，平成 24 年度入学生がどの領域の授業科目に対して単位を取得しているかに関する分布を示す．表 1 において，太字斜体で示される数値は，学生の所属領域外の授業科目で単位を取得していることを表している．
同様に，平成 27 年度入学生に対する選択科目の単位取得分布を表 2 に示す．

表 1 と表 2 を比較することにより，1 専攻化によって，学生は所属領域以外の授業科目を履修する行動をとっていることが顕著となっている．

表 1．平成 24 年度入学生の所属領域別に見た選択科目の取得単位数の領域別分布
（3 専攻の授業科目を平成 27 年度の 5 領域に分類）
（太字斜体が所属領域外授業科目の単位を取得したことを示す）

学生の所属領域		取得単位数の分布(%)								合計
		情報			電子	ヒュ	機械	人間	共通	
		電子	機械	人間						
情報	電子	34.1			53.7				12.2	100.0
	機械		42.3		***1.6***	23.6	19.5		13.0	100.0
	人間									100.0
電子通信		22.5	***2.0***		66.5				9.0	100.0
ヒューマン・ロボ			30.1		***2.7***	31.5	19.2	***4.1***	12.3	100.0
機械・エネ			30.0		***0.9***	15.0	38.8	***5.3***	10.1	100.0
人間情報(注)			3.6		***30.6***	***9.0***	***7.2***	39.6	9.9	100.0

（注）人間情報システム工学専攻学生 5 名中 2 名は情報通信工学科卒業生のため，電子情報通信工学専攻科目を数多く履修している．

表２．平成 27 年度入学生の所属領域別に見た選択科目の取得単位数の領域別分布
（太字斜体が所属領域外授業科目の単位を取得したことを示す）

学生の所属領域		取得単位数の分布(%)								合計
		情報			電子	ヒュ	機械	人間	共通	
		電子	機械	人間						
情報	電子	20.4	***27.2***		42.7	***3.9***			5.8	100.0
	機械	***5.8***	46.7	***9.5***	***4.4***	14.6	10.9	***0.7***	7.3	100.0
	人間		***20.0***	10.0	***20.0***	***20.0***		20.0	10.0	100.0
電子通信		11.0	***15.0***		67.8	***0.5***	***2.8***		3.0	100.0
ヒューマン･ロボ		***2.9***	24.6	***4.3***	***1.4***	33.3	13.0	***17.4***	2.9	100.0
機械･エネ			27.8	***2.6***	***5.3***	17.2	37.1		9.9	100.0
人間情報					***9.2***	***8.1***	***8.1***	70.5	4.0	100.0

しかしながら，情報工学部卒業生の約半数が，システム工学（博士前期課程）に進学しており，また，学外から本専攻に入学する学生が少ない現状において，学士課程教育との連続性を十分に考慮した教育プログラムとする必要がある．この観点において，情報工学系の授業科目が単一領域に集約された点は，学生の履修行動に柔軟性を与えたことになり評価することができる．

一方で，情報システム工学科教員の所属領域が情報工学領域，ヒューマン・ロボティクス領域，機械プロセス・エネルギー工学領域に 3 分割されている点，人間情報工学科所属教員の授業科目が人間情報工学領域以外の領域に配置されている点などにおいて，学士課程教育との連続性が，必ずしも明確ではなかった．

このため，学生の履修行動などに基づいて，カリキュラム改善の PDCA サイクルを運用する際に，適切な評価をすることが困難となっていたことは否めない．また，学生の研究指導，修士論文作成指導に際しても，領域内での議論を十分に尽くすことができない状況となっていた．

これを改善するため，平成 27 年度において，博士前期課程における領域の再編を検討し，平成 28 年度入学生からは 1 専攻 3 領域（電子情報通信工学領域，機械情報システム工学領域，人間情報システム工学専攻）とすることとした．この再編により，各領域における教育体制が，情報工学部 3 学科の学士課程教育との連続性を担保すると同時に，1 専攻の利点を生かしつつ，他領域の学問分野との交流（授業科目の履修，異なる視点からの研究指導）が従来以上に活発になるような学生指導体制を整備した．

3 領域に再編した直後の入学生となる平成 28 年度入学生の履修状況を表 3 に示す．表 3 では，各領域の所属学生および授業科目を，「情報系」と「その他」に区別し，学生の単位履修状況分布が表されている．

表３．平成 28 年度入学生の所属領域別に見た選択科目の取得単位数の領域別分布
（太字斜体が所属領域外授業科目の単位を取得したことを示す）

学生の所属領域		取得単位数の分布(%)							合計
		電子情報		機械情報		人間情報		共通	
		情報系	その他	情報系	その他	情報系	その他		
電子情報	情報系	30.0	70.0						100.0
	その他	13.3	74.7	***6.0***	***6.0***				100.0
機械情報	情報系	***11.5***	***11.5***	38.5	17.3	***11.5***		9.6	100.0
	その他	***1.7***	***5.9***	27.6	53.6	***5.0***	***1.3***	5.0	100.0
人間情報	情報系				***40.0***	20.0	30.0	10.0	100.0
	その他				***11.8***	25.8	61.3	1.1	100.0
開講単位数		9.8	26.1	10.9	26.1	8.7	15.1	3.3	100.0

表４．平成 29 年度入学生の所属領域別に見た選択科目の取得単位数の領域別分布
（太字斜体が所属領域外授業科目の単位を取得したことを示す）

学生の所属領域		取得単位数の分布(%)							合計
		電子情報		機械情報		人間情報		共通	
		情報系	その他	情報系	その他	情報系	その他		
電子情報	情報系	25.0	25.0	***30.0***	***7.5***	***7.5***	***2.5***	2.5	100.0
	その他	15.1	56.4	***11.7***	***1.4***	***1.4***	***0.7***	13.4	100.0
機械情報	情報系	***20.0***	***45.0***	15.0	20.0				100.0
	その他	***1.6***	***8.1***	21.1	50.2	4.9		14.2	100.0
人間情報	情報系	***3.3***		***9.8***	***19.7***	19.7	39.3	8.2	100.0
	その他			***4.9***	***11.5***	15.6	61.5	6.6	100.0
開講単位数		8.2	24.7	10.3	24.7	8.2	16.5	7.2	100.0

表５．平成 30 年度入学生の所属領域別に見た選択科目の取得単位数の領域別分布
（太字斜体が所属領域外授業科目の単位を取得したことを示す）

学生の所属領域		取得単位数の分布(%)							合計
		電子情報		機械情報		人間情報		共通	
		情報系	その他	情報系	その他	情報系	その他		
電子情報	情報系	17.7	43.5	***8.1***	***9.7***	***9.7***	***9.7***	1.6	100.0
	その他	16.7	61.1	***11.1***	***1.9***		***1.9***	7.4	100.0
機械情報	情報系	***22.0***	***8.0***	32.0	20.0			18.0	100.0
	その他	***4.3***	***7.7***	21.4	41.9	6.8		17.9	100.0
人間情報	情報系	***17.4***	***8.7***	***21.7***	***17.4***	17.4	8.7	8.7	100.0
	その他		***8.7***	***8.7***	***17.4***	17.4	30.4	17.4	100.0
開講単位数		8.2	24.7	10.3	24.8	8.2	16.5	7.2	100.0

表１に示す３専攻最後となる平成 24 年度入学生では，専攻を越えた単位取得が非常に低調であった．しかし，表４および表５に示す平成 29 年および平成 30 年入学生では電子情報工学領域および人間情報工学領域の学生にもその傾向は広がりを見せている．

すなわち，表３，表４および表５より，学生は，所属領域の授業科目を中心として他領域への履修を行うようになっている．平成 30 年入学生ではその傾向が広がりをみせており，表２に示す１専攻５領域での漫然とした履修行動が解消されていることも明らかである．

昨年に引続き大学教育開発センターによる 3 研究科共通講義として開講された「プロジェクトマネジメント実践論」に 15 名の１年次生および２名の２年次生が参加し，他研究科の大学院生とのグループワーク等を通じて自己のキャリアアップにつなげることができた．

テクニカルプレゼンテーション演習Ⅰ，Ⅱは開講から２年目であるが演習Ⅰの受講者数は 23%増，演習Ⅱは昨年と同数であり，グローバル化に伴い国際学会などでの英語によるコミュニケーション能力の習得を目指す学生が増えていることがうかがえる．

1-3-2-2　連携大学院

情報系工学研究科では，岡山県内の公共機関及び企業と連携大学院協定を締結し，学外の研究者による研究指導を受けることができる体制を整えている．平成 30 年度は岡山県工業技術センターおよびオーエム産業（株）表面処理研究所において各 1 名の大学院学生が研究の一部を遂行した．

1-3-3　博士後期課程

1-3-3-1　学生指導体制

博士後期課程は，平成 28 年度入学生より，講座制から領域制への転換を図り，電子情報通信工学領域，機械情報システム領域，人間情報システム工学領域の 3 領域制による学生指導体制にした．併せて，情報技術を多様な分野に展開できる人材育成を推進するため，従来の主指導・副指導教員に加えて，主指導教員とは専門分野の異なる教員を指導体制に加えることができる研究アドバイザー制度を導入した．平成 30 年度は，8 名の大学院学生に対して研究アドバイザーを割り当てた．また，社会人が学びやすい環境を整えることを目指し，平成 27 年度には早期修了要件を明確に定め，平成 28 年度入学生より修了要件を 12 単位に引き下げた．さらに，平成 28 年度には留学生及び社会人を対象とした秋入学制度を導入した．

1-3-4　まとめと課題

平成 25 年度の博士前期課程 1 専攻化により達成された幅広い視野を持ち融合型研究を深化させる特徴を維持しつつ，学部教育で実現された 3 学科の特色を大学院教育に引き継ぐため，平成 28 年度から博士前期課程を 3 領域（電子情報通信工学領域，機械情報システム工学領域，人間情報システム工学領域）に再編した．その結果，所属領域の授業科目を中心として他領域への履修を行うようになり，院生の履修行動の改善が確認された．

博士後期課程については，情報技術を多様な分野に展開できる人材育成を推し進めるため，平成 28 年度より，3 大講座を 3 領域に改め専門分野間の垣根を低くすると共に，専門分野以外の教員を指導体制に加える研究アドバイザー制度を導入している．平成 30 年度は，8 名の大学院学生に対して研究アドバイザーを配置し，異なる分野の観点から助言を行った．

1-4 デザイン学研究科

1-4-1 概要

受験者数の減少や定員割れへの対応に加え，2021年度からの学科再編に合わせて，定員の見直しや専攻科再編についての検討を開始した．OPUフォーラムやオープンキャンパス等大学開放のイベントを利用して，進学説明会を実施し，さらに県外での進学説明会など新たな取り組みを行った．2020年度以降の学位規程の見直しに向けて，修士研究における予備審査やルーブリック評価の検証を引き続き行い，本施行に向けての実施環境を整備した．国際交流協定締結大学の院生との交流の促進や研究の質向上を図るため，海外からの教員や研究者の招へいを行った．

1-4-2 修士課程

デザイン工学専攻では，修士研究テーマに関して，研究の社会的ニーズの確保というという観点から，以下の学生が取り組んだ．

1）パドルの表面加工による流水抵抗増加の研究／水泳用パドル（野﨑　司）
2）熱伝導を利用して急速冷却とそれを応用したプロダクトデザインの研究／カクテルシェイカー ”Unicold”（丸山純平）

造形デザイン学専攻では，研修士研究テーマに関して，研究の社会的ニーズの確保というという観点から，以下の学生が取り組んだ．

1）来岡外国人観光客の満足度の向上に関する研究（星野彩佳）
2）布復元性を持つ布の加工方法の開発とその展開例（藤井夏美）

デザイン学研究科では，学部生の教育力向上を目的に，院生をTAとして学部専門科目を中心に雇用し，指導的実務者・研究者としてのデザイナー育成に取り組んだ．実施科目は以下の通りである．

・フレッシュマンセミナー
・エルゴノミクス
・タイポグラフィII
・メディアコミュニケーション
・平面構成演習II
・造形デザイン領域演習IIIc
・基礎造形III
・ビジュアルデザイン領域演習I
・造形デザイン領域演習I
・造形デザイン領域演習IIb

修士研究予備審査の本格施行にあたり，質の評価につながるルーブリック評価を指導計画に組み込み，研究の状況を正確に把握するなど，研究の質向上に繋げた．また，最終試験終了後に教員からの意見聴取（アンケート）を行い，実施環境への整備を行った．

1-4-3 まとめと課題

専門的思考力・技術及び国際的・総合的視野を備えた指導的実務者，研究者としてのデザイナーを育成するため，教育内容・実施体制を見直しなどの対策を実施してはいるが，具体的な成果は見えなかった．就職状況の回復などから受験者数の減少による定員割れへの現状から脱却するためには，学部の定員数に応じた適正な定員数への見直しだけでなく，リカレント教育などへの重点的な対応など新たな取り組みへの検討など根本的な見直しが必要である．

2 大学院における研究活動と国際交流

2-1 概要

本学大学院では,研究科学生において社会進出する際に必要とされる高度な専門性を備えた職業人あるいは研究者として活躍できるよう,教員による研究指導の過程において,関係する学会での研究発表や論文投稿を奨励している.その範囲は国内,国際を問わず多岐にわたっており,学会における受賞等の実績を積み上げている．全国的に厳しさを増しつつある学生募集の観点からは，これらの取組が学生のモチベーション高揚及びキャリア形成のためのものであることについて,一層の周知が図られるべきであり，また研究の活性化のためにも件数増が大いに期待されるところである.

また本学大学院では,各研究科のディプロマ・ポリシーにおいてグローバル人材の育成を掲げている.国際会議での研究発表等のほか,学術交流協定を締結した大学との交流について従来の締結校との交流に加えて,締結校の増加に伴う交流準備活動に教員・学生共々参加している．以上の活動の実質化を推進することにより，ディプロマ・ポリシーの十全な達成に向けて,今後さらに取組の拡充が期待されるところである.そのためにも，各研究科で少数であっても意欲と能力を備えた留学生を受け入れるための更なる実績づくりが必要である．また,研究科共通科目等でのグローバル視点の涵養及び締結校との交流を足がかりとした，本学研究科学生の海外留学等によるグローバル化が引き続き求められている.

2-2　保健福祉学研究科

2-2-1　看護学専攻

2-2-1-1　学会発表

(1)国内学会

1. 緩和ケア病棟看護師の「その人らしさの尊重」をするための倫理的関心と看護実践,（指導教員：名越恵美）寺下由華，名越恵美：東京，日本看護倫理学会第 11 回年次大会，　2018 年 5 月 26，　27 日
2. サーモグラフィを用いたバスキュラーアクセス描出に関する検討,（指導教員：佐々木新介）中村友樹,佐々木新介:鹿児島,日本サーモロジー学会第 35 回大会,2018 年 7 月 20 日，21 日，口頭発表
3. 4 年目看護師の臨床判断力獲得過程,（指導教員:名越恵美)津曲真弥,名越恵美:岡山,第 49 回日本看護学会―ヘルスプロモーション―学術集会,2018 年 9 月 20,21 日
4. 認知症に焦点を当てた地域包括ケアシステムにおける地域の見守り体制～認知症になっても地域で生活できるように～,（指導教員：二宮一枝）大村真由 小野薫,後藤瑞貴，佐藤鈴菜，西百々佳，松田安奈，村田未来，二宮一枝：岡山，第 3 回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会，2018 年 9 月 30 日，ポスター発表
5. A 県内一般病院における退院支援の実態,（指導教員：二宮一枝）江田純子・二宮一枝:岡山,第 3 回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会,2018 年 9 月 30 日,ポスター発表
6. 育児期の父親の産後うつと睡眠障害,児への愛着の実態,（指導教員:池田理恵）佐藤鈴菜，安部瑞生，伊藤菜保子，築山桃香，池田理恵：新潟,第 59 回日本母性衛生学会学術集会，2018 年 10 月 19 日，口頭発表
7. A 県内の病院看護師の退院支援実践能力の実態,(指導教員:二宮一枝)江田純子,二宮一枝：福島，日本公衆衛生学会，2018 年 10 月 24 日，ポスター発表
8. 産後 1 か月の母親の睡眠の質が産後 4 か月の マターナルボンディングを予測できるか,（指導教員：池田理恵）笹尾由香,池田理恵：宇部,第 7 回日本公衆衛生看護学会学術集会，2019 年 1 月 27 日.ポスター発表

(2)国際学会
なし

(3)受賞
１．佐藤鈴菜（指導教員：池田理恵），育児期の父親の産後うつと睡眠障害，児への愛着の実態，第 59 回日本母性衛生学会学術集会コメディカル愛育賞（平成 30 年 10 月 19 日）

2-2-1-2　論文発表
(1)国内誌
1. サーモグラフィを活用した表在静脈の描出に関する基礎的検討，（指導教員：佐々木新介）中村友樹，佐々木新介， Biomedical THERMOLOGY，38(2)，(2019) 印刷中
2. 病棟に勤務する看護師の臨床判断の実態に関する国内文献の概観，（指導教員：名越恵美）津曲 真弥， 名越 恵美：インターナショナル Nursing Care Research 17(4)，111-120 (2018)
3. 統合失調症患者の受け入れがたい言動に対する精神科熟練看護師の視点取得に至るプロセス，（指導教員：沖本克子）松本陽子，沖本克子：日本精神保健看護学会誌，27(1)，9-20，(2018)
4. A 県内一般病院における退院支援体制と在宅復帰との関係，(指導教員：二宮一枝) 江田純子，二宮一枝：岡山県立大学保健福祉学部紀要 25，(2018) 印刷中

(2)国際誌
なし

2-2-2　栄養学専攻
2-2-2-1　学会発表
(1)国内学会
1. チシャトウおよびその含有成分の抗アレルギー作用に関する基礎的研究（指導教員：伊東秀之）杉本幸雄，坪井駿尚，稲垣勇翔，武田侑子，藤本啓太，藤原克成，趙秋娥，川脇美祐，土海ちあき，我如古菜月，伊東秀之，佐伯綾希子，林泰資，岡山，第 72 回日本栄養・食糧学会大会，2018 年 5 月 11 日-13 日，口頭発表
2. ローズマリー抽出物の機能性評価（指導教員：伊東秀之）山田直史，中桐実奈美，山脇香菜，新實祐理，伊東秀之，宗蔵日光里，山崎勤，中西徹，中村宜督，西宮，日本調理科学会平成 30 年度大会，2018 年 8 月 30 日-31 日，ポスター発表
3. ウシ生乳中脂質メディエーターの分析と新規乳房炎バイオマーカーの探索（指導教員：山本登志子）長崎祐樹，川井恵梨佳，田中充樹，戸田圭祐，津嘉山泉，川上祐生，高橋吉孝，木本眞順美， 山本登志子，岡山，第 72 回日本栄養・食糧学会大会，2018 年 5 月 11 日-13 日，口頭発表
4. 乳汁中脂質メディエーターの分析ならびに乳腺炎との関係（指導教員：山本登志子）山本登志子，長崎祐樹，戸田圭祐，岡﨑愉加，川上祐生，高橋吉孝，岡山県立大学 OPU フォーラム 2018，2018 年 5 月 29 日，岡山，ポスター発表
5. 慢性炎症性疾患の新規治療法開発に向けた基礎研究（指導教員：山本登志子）高橋吉孝， 森香子， 北條奈々， 川上祐生， 山本登志子， 神崎圭太，岡山県立大学 OPU フォーラム 2018，2018 年 5 月 29 日，岡山，ポスター発表
6. 思春期の食・生活習慣および健康状態の変化（指導教員：川上貴代）中桐規代，川上貴代，岡山，第 72 回日本栄養・食糧学会大会，2018 年 5 月 11 日-13 日，口頭発表

7. 大学生の野菜摂取実態と栄養教育の検討（指導教員：川上貴代）川上貴代，平松智子，田淵真愉美，中桐規代，久保田恵，新潟，第65回日本栄養改善学会学術総会，2018年9月3日-5日，ポスター発表

(2)国際学会

1. Effect of Bifidobacterium fermented milk on anti-obesity（指導教員：山下広美）Hitomi Maruta, Chengduo Wang, Haruna Tenma, Yun Ma, Syoji Nakamura, Yusuke Fujii, Naoki Toyokawa, and Hiromi Yamashita, 3rd International Conference on Biologically Active Substances Bioactive Okayama 2018, Joint Conference of Okayama Bioactive Research Society Symposium and 12th Joint Conference on Nutrition and Food Science, Okayama, 2018.10.16, 口頭発表・ポスター発表
2. Beneficial effect of functional foods on fatty liver（指導教員：山下広美）Chengduo Wang, Hitomi Maruta, Yun Ma, Syoji Nakamura, Yusuke Fujii, Naoki Toyokawa, Hiromi Yamashita, 3rd International Conference on Biologically Active Substances Bioactive Okayama 2018, Joint Conference of Okayama Bioactive Research Society Symposium and 12th Joint Conference on Nutrition and Food Science, Okayama, 2018.10.16, 口頭発表・ポスター発表
3. Diosgenin suppresses COX-2 and mPGES-1 mediated with glucocrticoid receptor and improves LPS-induced mouse liver injury（指導教員：山本登志子）Izumi Tsukayama, Nana Hojo, Takuto Mega, Keisuke Toda, Yuka Konoike, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi, Toshiko Suzuki-Yamamoto. 59th International Conference on the Bioscience of Lipids, Helsinki, Finland, 2018.9. 4-7, ポスター発表
4. Lipocalin-type prostaglandin D synthase as a potential biomarker of bovine mastitis（指導教員：山本登志子）Yuki Nagasaki, Erika Kawai, Mitsuki Tanaka, Keisuke Toda, Izumi Tsukayama, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi, Masumi Kimoto, Yuka Okazaki, Yoshimi Miki, Kei Yamamoto, Makoto Murakami, Toshiko Suzuki-Yamamoto. 59th International Conference on the Bioscience of Lipids, Helsinki, Finland, 2018.9. 4-7, ポスター発表
5. Lipocalin-type prostaglandin D synthase as a potential biomarker of bovine mastitis（指導教員：山本登志子）Yuki Nagasaki, Erika Kawai, Mitsuki Tanaka, Keisuke Toda, Izumi Tsukayama, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi, Masami Kimoto and Toshiko Suzuki-Yamamoto. 3rd International Conference on Biologically Active Substances Bioactive Okayama 2018, Joint Conference of Okayama Bioactive Research Society Symposium and 12th Joint Conference on Nutrition and Food Science, Okayama, 2018.10.16, 口頭発表・ポスター発表

(3)受賞

1. Yuki Nagasaki. “Bioactive Okayama 2018, Best Student Presentation Award”

2-2-2-2 論文発表

(1)国内誌

なし

(2)国際誌

なし

2-2-3　保健福祉学専攻

2-2-3-1 学会発表

(1) 国内学会

1. 居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象とした認知症に関する知識尺度の検討（指導教員：竹本与志人）倉本亜優未・谷口将太・杉山京・仲井達哉・竹本与志人，第 23 回日本在宅ケア学会学術集会，大阪市，平成 30 年 6 月 20 日．ポスター発表
2. 介護支援専門員を対象とした社会保障制度の知識の認識に関する研究 若年性認知症者への支援に有用な社会保障制度に焦点を当てて（指導教員：竹本与志人）谷口将太・倉本亜優未・杉山京・仲井達哉・竹本与志人，第 23 回日本在宅ケア学会学術集会，大阪市，平成 30 年 6 月 20 日．ポスター発表
3. 介護支援専門員における若年性認知症者の経済支援に関する研究 -模擬事例に対する社会保障制度の利用に関する理解の状況-（指導教員：竹本与志人）竹本与志人・杉山京・倉本亜優未・仲井達哉，日本社会福祉学会第 66 回秋季大会，名古屋市，平成 30 年 9 月 9 日．ポスター発表
4. 地域包括支援センターの専門職を対象とした認知症専門医療機関との連携とその関連要（指導教員：竹本与志人）杉山京・倉本亜優未・竹本与志人，日本社会福祉学会第 66 回秋季大会，名古屋市，平成 30 年 9 月 9 日．ポスター発表
5. 医療ソーシャルワーカーを対象とした退院援助における家族評価の実践状況の類型化および関連要因の検討（指導教員：竹本与志人）倉本亜優未・杉山京・仲井達哉・竹本与志人，日本社会福祉学会第 66 回秋季大会，名古屋市，平成 30 年 9 月 9 日．ポスター発表

2-2-3-2 論文発表

(1) 国内誌

1. 介護支援専門員を対象とした認知症者の経済問題に対する支援内容とその展開過程，竹本与志人・杉山京・倉本亜優未・仲井達哉（指導教員：竹本与志人），社会医学研究，36（1），2019（印刷中）
2. 居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象とした認知症に関する知識尺度の検討，倉本亜優未・谷口将太・杉山京・仲井達哉・竹本与志人（指導教員：竹本与志人），岡山県立大学保健福祉学部紀要，27，2019（印刷中）．

2-2-4　保健福祉科学専攻

2-2-4-1　看護学大講座

(1)学会発表

1. 統括保健師が児童相談所保健師に必要と認識する専門的能力ーデルファイ法による検討ー，(指導教員：二宮一枝) 石井陽子，二宮一枝：岐阜，日本地域看護学会，2018 年 8 月 11 日，ポスター発表
2. 児童相談所保健師の活動からみた専門的能力，(指導教員：二宮一枝)石井陽子，富田早苗，二宮一枝:宇部，日本公衆衛生看護学会，2019 年1月 26，27 日，ポスター発表

(2)論文発表

1. 統括保健師が児童相談所保健師に求める専門的能力と重視する事柄―デルファイ法と自由記述からの検討，(指導教員：二宮一枝) 石井陽子，二宮一枝：岡山県立大学保健福祉学部紀要 25，(2018)　印刷中

2-2-4-2　栄養学大講座

(1)学会発表

1. ザクロアリルに含まれるポリフェノール成分とその抗糖化作用（指導教員：伊東秀之）Bastian Februadi，我如古菜月，好村守生，天倉吉章，伊東秀之，岡山，第 72 回日本栄養・食糧学会大会，2018 年 5 月 11 日-13 日，口頭発表
2. ヒスタミン合成酵素変異体の過酸化水素生成（指導教員；新田陽子）竹島大貴，小森博文，植野洋志，新田陽子，日本生物高分子学会，2018 年 9 月 16，17 日，京都大学農学部，口頭発表
3. 赤米プロアントシアニジンによる 5-リポキシゲナーゼ活性阻害と乾癬予防効果（指導教員：山本登志子）戸田圭祐，長崎祐樹，津嘉山泉，鴻池優佳，我如古菜月，伊東秀之，川上祐生，高橋吉孝，山本登志子，第 72 回日本栄養・食糧学会大会，2018 年 5 月 11-13 日，岡山，口頭発表・ポスター発表
4. 5-リポキシゲナーゼ活性を抑制するナツメグ含有成分による気管支喘息の軽減作用（指導教員：山本登志子）川上祐生，森香子，戸田圭祐，神崎圭太，山本登志子，伊東秀之，高橋吉孝，第 72 回日本栄養・食糧学会大会，2018 年 5 月 11-13 日，岡山，口頭発表・ポスター発表
5. ロイコトリエン合成系を標的とした食品の抗アレルギー作用の解明．川上祐生，山本登志子，伊東秀之，高橋吉孝，森香子，戸田圭祐（指導教員：山本登志子）岡山県立大学 OPU フォーラム 2018，岡山，2018 年 5 月 29 日，ポスター発表
6. Polyphenols from arils of *Punica granatum* and their anti-glycation activities(指導教員:伊東秀之)Februadi Bastian, Natsuki Ganeko, Morio Yoshimura, Yoshiaki Amakura, and Hideyuki Ito, XXIX International Conference on Polyphenols and 9th Tannin Conference, Madison, WI, USA, 2018.7.16-20, ポスター発表
7. New polyphenols from Punica granatum and their anti-glycation activities（指導教員：伊東秀之）Februadi Bastian, Natsuki Ganeko, Morio Yoshimura, Yoshiaki Amakura, and Hideyuki Ito, 3rd International Conference on Biologically Active Substances Bioactive Okayama 2018, Joint Conference of Okayama Bioactive Research Society Symposium and 12th Joint Conference on Nutrition and Food Science, Okayama, 2018.10.16, ポスター発表
8. Study on mechanism of taurine function on skeletal muscle of aged rats（指導教員：山下広美）Yun Ma, Hitomi Maruta, Chengduo Wang, Hiromi Yamashita, 3rd International Conference on Biologically Active Substances Bioactive Okayama 2018, Joint Conference of Okayama Bioactive Research Society Symposium and 12th Joint Conference on Nutrition and Food Science, Okayama, 2018.10.16, 口頭発表・ポスター発表
9. Effect of acetic acid intake on muscle quality and expressions of atrophy-related genes of aged rats（指導教員：山下広美）Hitomi Maruta, Reina Abe, Ma Yun, Aya Araki, Chiaki Isono, Hiromi Yamashita, 11th International SCWD Conference on Cachexia, Sarcopenia and Muscle Wasting,Maastricht, Netherlands（オランダ），2018.12.7-9, ポスター発表
10. Preventive effect of red rice proanthocyanidin on psoriasis via inhibition of arachidonate 5-lipoxygenase（指導教員：山本登志子）Keisuke Toda, Yuki Nagasaki, Izumi Tsukayama, Yuka Konoike, Natsuki Ganeko, Hideyuki Ito, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi and Toshiko Suzuki-Yamamoto, 3rd International Conference on Biologically Active Substances Bioactive Okayama 2018, Joint Conference of Okayama Bioactive Research Society Symposium and 12th Joint Conference on Nutrition and Food Science, Okayama, 2018.10.16, 口頭発表・ポスター発表

11. Anti-cancer effect of *Dioscorea japonica* and the constituent diosgenin through down-regulation of prostaglandin E_2 synthetic pathway (指導教員：山本登志子) Izumi Tsukayama, Keisuke Toda, Takuto Mega, Yasunori Takeda, Yuka Konoike, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi and Toshiko Suzuki-Yamamoto, 3rd International Conference on Biologically Active Substances Bioactive Okayama 2018, Joint Conference of Okayama Bioactive Research Society Symposium and 12th Joint Conference on Nutrition and Food Science, Okayama, 2018.10.16, 口頭発表・ポスター発表
12. Red rice proanthocyanidin inhibits leukotriene B_4 synthesis and has a preventive effect on psoriasis (指導教員：山本登志子) Keisuke Toda, Yuki Nagasaki, Izumi Tsukayama, Asako Tamenobu, Yuka Konoike, Natsuki Ganeko, Hideyuki Ito, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi and Toshiko Suzuki-Yamamoto. Global Challenges in Food, Nutrition and Environmental Symposium (GCFNE), Hong Kong, 2018.12. 6-8, 口頭発表
13. Prevention of chronic inflammation by food functionalities targeting omega-6 PUFA arachidonic acid metabolic pathway (指導教員：山本登志子) Toshiko Suzuki-Yamamoto, Izumi Tsukayama, Keisuke Toda, Yuki Nagasaki, Asako Tamenobu, Yuka Konoike, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi. Global Challenges in Food, Nutrition and Environmental Symposium (GCFNE), Hong Kong, 2018.12. 6-8, 口頭発表
14. Inhibition of leukotriene synthesis and preventive effects on psoriasis by red rice proanthocyanidin (指導教員：山本登志子) Toshiko Suzuki-Yamamoto, Keisuke Toda, Yuki Nagasaki, Izumi Tsukayama, Yuka Konoike, Natsuki Ganeko, Hideyuki Ito, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi. ASEAN-JAPANゲノム医療研究推進会議 (AGPC), Okayama, 2018 7. 9-11, 口頭発表

(2)論文発表

(1)国内誌

なし

(2)国際誌

1. Simultaneous quantification of ellagitannins and related polyphenols in *Geranium thunbergii* using quantitative NMR (指導教員：伊東秀之) Februadi Bastian, Yurie Ito, Erika Ogahara, Natsuki Ganeko, Tsutomu Hatano, and Hideyuki Ito, *Molecules*, 23・6, 1346 (2018).
2. Proanthocyanidin and anthocyanins from the hulls and beards of red-kerneled rice and their antiglycation properties (指導教員：伊東秀之) Natsuki Ganeko, Nana Kato, Saki Watanabe, Februadi Bastian, Masateru Miyake, and Hideyuki Ito, *Biosci. Biotech. Biochem.*, Published online: 2018.12.5.

(3)受賞

1. Keisuke Toda. “Bioactive Okayama 2018, Best Student Presentation Award”
2. Keisuke Toda. “Global Challenges in Food, Nutrition & Environment Symposium, First Runner-up Prize for Outstanding Presentation”

2-2-4-3　保健福祉学大講座

(1)学会発表

1. 医療観察法病棟における精神看護学実習体験に関する研究ー看護学生の体験の内容分析から指導方法の検討ー(指導教員：坂野純子)浅原佳紀，澤田由美，揚野裕紀子：第49回日本看護学会-精神看護-学術集会，徳島市，平成30年7月1日．ポスター発表
2. 公立中学校における生徒のこころの健康の現状と課題-教職員への意識調査から-（指導教員：坂野純子）曽谷貴子，井田裕子，揚野裕子，澤田由美，浅原佳紀，第49回日本看護学会-精神看護-学術集会，徳島市，平成30年7月1日．ポスター発表

(2)論文発表

1. 元被疑者・被告人のサービス利用開始後における障害福祉サービス事業所における支援内容の検討（指導教員：村社卓）京俊介・村社卓，司法福祉学研究，18，60-78，2018.
2. 通所介護事業所に勤務する生活相談員のソーシャルワーク実践に関する研究，合田衣里・杉山京・竹本与志人（指導教員：竹本与志人）社会福祉学，59(2)，24-36，2018.
3. 地域高齢者を対象としたSocial Provisions Scale（SPS）短縮化の試み　― 項目反応理論分析による検討 ―（指導教員：坂野純子）大片久・澤田陽一・矢嶋裕樹・矢庭さゆり・坂野純子，岡山県立大学保健福祉学部紀要，27，2019（印刷中）

2-3 情報系工学研究科

2-3-1　研究活動

博士前期課程では，システム工学専攻として3領域（平成27年度以前入学生は5領域）のいずれかに，博士後期課程では，システム工学専攻として3領域（平成27年度以前入学生は3大講座）のいずれかに属しながら研究活動を展開している．平成28年度の大学院博士前期課程学生による研究発表実績を表1に示す.

表1　博士前期課程の研究発表件数

発表内容	件数 (H30年度)	件数 (H29年度)	件数 (H28年度)
査読付き学術論文	9	6	21
国際会議録	14	17	31
全国大会発表	70	74	97
支部大会発表	32	30	52
学術表彰・受賞	24	18	11

査読付き学術論文，国際会議録，全国大会発表および支部大会発表のいずれも昨年度と同程度の件数である．平成28年度に比べると少ないが，これは好景気により大学院進学者数が減少していることが原因と考えられる．学外発表のさらなる奨励が必要であろう．一方，受賞件数は24件と昨年度より6件多く，高い研究レベルを維持していると言えよう．なお，受賞の主な内容は，The 14th International Conference on Industrial Management (ICIM2018) Excellent Paper Award，平成30年度電子情報通信学会中国支部奨励賞，同学生功労賞，日本材料学会半導体エレクトロニクス部門委員会平成30年度第1回講演会学生優秀講演賞，LOD(linked open data)チャレンジ2018 IoT賞，第13回コンピュータ大貧民大会ライト級敢闘賞，第20回IEEE広島支部学生シンポジウム（HISS2018）HISS優秀研究賞 4件，同マイクロンアワード，同敢闘賞，同功労賞8件，応用物理学会中国四国支部2018年度支部学術講演会発表奨励賞，第17回情報科学技術フォーラム(FIT2018) FIT奨励賞 2件，第10回軽金属学会中国四国支部講演大会優秀講演賞である．

表２　博士後期課程の研究発表件数

発表内容	件数 (H30 年度)	件数 (H29 年度)	件数 (H28 年度)
査読付き学術論文	3	4	2
国際会議録	4	5	4
全国大会発表	5	3	4
支部大会発表	0	0	0
学術表彰・受賞	2	1	0

博士後期課程では，ほとんどが社会人学生であり，本年度は業務多忙等による休学者が多く，必ずしもその活動は活発ではないが，査読付き学術論文 3 件，国際会議録 4 件，全国大会発表 5 件，受賞 2 件がある．また，本年度は，特に優れた業績を上げた者として博士後期課程での在学期間が 2 年で博士の学位を取得し，研究者として 1 名の大学院生がそのスタートを切った．今後は，入学者数の増加及び休学者の減少も含め，研究の活性化が必要である．

2-3-2 国際交流

情報系工学研究科では，国際交流を活発に行っている．まず，学術交流協定大学との活動について述べる．

インドネシア・ハサヌディン大学（UNHAS）については，博士後期課程に学生 1 名を受け入れている．また，UNHAS での学内競争研究費 Unhas International Cooperation Research に採択され，A Development of Smart Home using Camera Device Based on Deep Learning and Data Mining を研究課題とした国際共同研究の運びとなった．なお，本学側の研究メンバーは教員 3 名と前述の大学院博士後期課程学生 1 名である．

韓国・又松大学校については，IT 融合学部学生 10 名（スマート IT 保安専攻 7 名，コンピュータ情報保安専攻 3 名）が引率教員と共に来岡し，情報工学部において，次のスケジュールでサマースクールを開催した．

7 月 10 日(火)　ワイヤレス技術入門（講義），マイコンプログラミング技術入門（実験）
7 月 11 日(水)　学長表敬訪問，学生交流，企業見学（(株)両備ヘルシーケア）
7 月 12 日(木)　情報ネットワーク入門（講義，実験）
7 月 13 日(金)　生活を支える人間情報工学（講義，実験），修了証書交付
7 月 14 日(土)　文化施設見学（岡山城，後楽園，倉敷美観地区）

なお，7 月 9 日(月)にもプログラムを予定していたが，西日本豪雨災害の影響で中止となった．実験パートでは，情報工学部学生（学部生，大学院生）12 名を TA として参加させた．自らの学びを又松大学校学生に教えることで更に深化させ，グローバルな視点を養うことができた．また，又松大学校学生に本学および岡山県の魅力を知ってもらい，交流協定に基づく情報工学部への転学，大学院への入学等に向けたプロモーションを行うことができた．

タイ・カセサート大学については，短期インターンとして工学部の学生 2 名を平成 30 年 6 月 1 日～8 月 17 日の間受け入れた．また，平成 31 年 2 月 20 日にカセサート大学で学生交流のためのワークショップを行い，両大学の学生によるグループディスカッションおよび発表を行った．さらに，Peerayuth Charnsethikul 工学部長と会談を行い，次年度のインターン受け入れや本学からの学生留学について打ち合わせを行った．

中国・四川大学電気信息学院については，平成 30 年 10 月に本学部教員 5 名が訪問し，学術交流ワークショップを行った．

中国・上海交通大学については，平成 31 年 3 月に本学部教員 4 名が訪問し，学術交流ワークショップを行った．

学術交流協定の締結には至っていないが，平成 30 年 9 月 28 日に，マレーシア日本国際工科院（MJIIT）において研究交流を目的としたワークショップを開催した．両大学の学生による技術発表を行うとともに，MJIIT の益子教授と会談を行い，国際交流協定の締結も視野に入れた今後の交流事業について情報交換を行った．

また，海外研究者の招聘については，平成 30 年 11 月に中国工程院フェロー，IEEE（米国電気電子学会）フェロー，IFAC（国際自動制御連合会）フェローであり，制御工学に関する国際的にもトップ級の専門家である柴天祐教授を本学に招き，「CPS(サイバーフィジカルシステム)駆動型制御システム」に関する情報提供を頂いた．平成 31 年 3 月には，中国東南大学自動化学院の副学院長であり，メカトロニクス系の外乱抑制制御の専門家である李世華教授を招聘し，メカトロニクス系の外乱抑制制御に関する情報提供を頂いた．

以上に述べた以外にも，情報系工学研究科では院生の国際会議での研究発表を推奨しており，前節で述べたように，平成 30 年度は 18 件の実績を上げ，うち 2 件が受賞した．

2-4 デザイン学研究科

2-4-1 研究活動

2-4-1-1 デザイン工学専攻

1) 製品・情報デザイン学領域では，香川県高松市丸亀町商店街にて，平成 30 年度実施の産学共同研究プロジェクトの研究発表を実施した．（平成 30 年 4 月 7 日）
2) 製品･情報デザイン学領域では，山口東京理科大学の相互参観授業を聴講し，学生による研究交流会にて修士研究テーマの発表を行った．この授業は，平成 27 年度より中国･四国地域人材育成連携事業の後継事業(3 大学連携事業:岡山理科大学，岡山県立大学，山口東京理科大学)で教育力向上を目的として実施している．（平成 31 年 2 月 1 日）
3) 建築・都市デザイン学領域では，院生 2 名が「第 5 回学生・若手実務者のための構造デザインコンペティション」において最優秀賞を受賞し，日本建築学会中国支部において受賞テーマの研究報告を行った．（平成 31 年 3 月 2～3 日）
4) 建築･都市デザイン学領域では，総社市街地の老朽化した空き家(島村邸)をシェアハウスとして活用するための改修プロジェクトを実施した．(平成 30 年 4 月 1 日～平成 2 月 28 日)
5) 建築・都市デザイン学領域では，岡山市陣屋町足守地区において，旧薬局・野崎邸を地域に開く施設として活用するための改修プロジェクトに取り組んだ．この活動は，「2018 年度岡山市学生チャレンジ事業」に採択されている．（平成 30 年 7 月 7 日～平成 31 年 2 月 17 日）

2-4-1-2 造形デザイン学専攻

1) 造形デザイン学領域では，学会発表等への助成制度を利用して，大学院 2 年生が，修士研究作品を「JAPANTEX（東京ビックサイト)」に出展した．来場者や他大学の教員や学生とのギャラリートークを通じての相互交流を実施したことで，研究意欲向上と研究内容のレベルアップに繋げた．（平成 30 年 11 月 20 日～22 日）

2-4-2 国際交流

本年度は，研究科における国際交流協定大学との具体的な交流はなかったが，国際交流の一環として，海外からの研究者や建築家を招いての英語による特別講義を実施し，院生の国際的視野の拡大に努めた．

1) 台湾国立台南芸術大学芸術学部の教員 2 名を招聘し，本学学生対象に，教育プログラムや学生作品および教員研究の紹介を英語でプレゼンし，本学部生の国際的視野を広げる取り組みを行った．（平成 30 年 10 月 9 日～12 日）
2) フランスの草木染め研究者を招聘し，本学学生対象に，フランスやヨーロッパにおける草木染めの歴史や現在についての特別講義を英語で行い，デザインの専門性をグローバルに考える機会を創出した．（平成 30 年 10 月 23 日）
3) 建築・都市デザイン領域学部生が米国・ポートランド州立大学へ私費留学を行った縁で，3 名の建築家が来校し，ポートランドのまちづくりに関する特別講義を英語で行った．（平成 30 年 12 月 10 日）

2-5 まとめと課題

2-5-1 保健福祉学研究科

大学院のグローバル教育の推進に関連して，海外特別奨学生としてインドネシアのハサヌディン大学から栄養学大講座への 1 名の受け入れ（指導教員：伊東秀之教授），今年度末には博士学位取得見込みである．さらに中国の南昌大学から留学生 1 名を栄養学大講座へ受け入れ（指導教員：山下広美教授），その研究成果も国際学会で発表され，着実に共同研究が進んでいる．さらに看護学大講座でも学術交流協定校であるネパールのトリブバン大学から留学生 1 名（指導教員：井上幸子准教授）を受け入れ，研究指導が進められている．来年度はさらに海外特別奨学生としてインドネシアのハサヌディン大学から留学生 1 名（入江康至教授）を栄養学大講座で受け入れる予定で，新制度を活用した留学生の増加は順調に進んでおり，さらなる共同研究の成果が期待される．

2-5-2 情報系工学研究科

博士前期課程の研究活動は概ね順調である．一方，博士後期課程については，休学者の多いことが大きな理由ではあるが，研究活動の活性化が望まれる．平成 27 年度には博士後期課程の早期修了要件を明確に定め，研究活動の活性化を図ると共に，既に研究業績を有する社会人の修学環境を整備し，本年度，早期修了制度による初めての博士を輩出した．また，平成 28 年度より，社会人が学びやすい環境への改善に取り組んでおり，平成 31 年度 4 月の入学予定者は社会人 5 名まで増加したが，さらなる広報活動が必要である．

情報系工学研究科では，大学間協定校のみならず，独自に協定を締結した大学との学術交流も推進している．これらの活動を足がかりに，大学院生による国際交流のさらなる活性化を期待したい．

2-5-3 デザイン学研究科

大学院における研究活動については，入学者数の減少が続き十分活性化しているとは言えないが，COC+事業や国際交流活動を利用して，専門的思考力や技術だけでなく，国際的・総合的視野を備えた指導的実務者，研究者としてのデザイナーや建築家を育成するための意識付けが必要といえる．その中で，近年，国際交流協定締結大学などからデザイナーや建築家を招いて特別講義やワークショップを実施するなど，院生の研究意欲向上と研究内容のレベルアップに繋げる環境づくりが増加している．また，台湾雲林科技大学からの留学生が平成 30 年度に科目履修生として，平成 31 年度からは国立台湾芸術大学卒業生が大学院生として入学するなど，大学院の国際化に向けて新たな人材の流入が，活性化のきっかけになることを期待したい．

第２部　教育研究開発機構の活動と成果

平成 26 年度 10 月に大学教育開発センター，国際交流センターの 2 センターが発足し，平成 27 年 10 月からはさらに学術研究推進センターがスタートして 2 年が経過した．この間，平成 27 年度における「教育研究開発機構」への 3 センターの合流・再編があった．このため，昨年度より，教育年報においても本学の全学的な教育研究活動に関するまとめについても，この新組織の下で第 2 部として再構成し，その内容を 3 章構成で記述することとなった．

平成 30 年度は，第 2 期中期計画の最終年度として，昨年度に引き続き各センターが大学活動委員会で承認された年度事業計画のもとで所定の課題に取組むとともに，その成果とさらなる課題を明確にして，関係委員会と連携した改善活動のサイクルを軌道に乗せていく年でもある．とりわけ大学教育開発センターにおいては，大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価受審を経て，次の評価サイクルに向けて教学 IR（Institution Research）を本格的に実施するための本学教育の自己点検・評価に資するデータベースの構築に着手したことが特筆される．

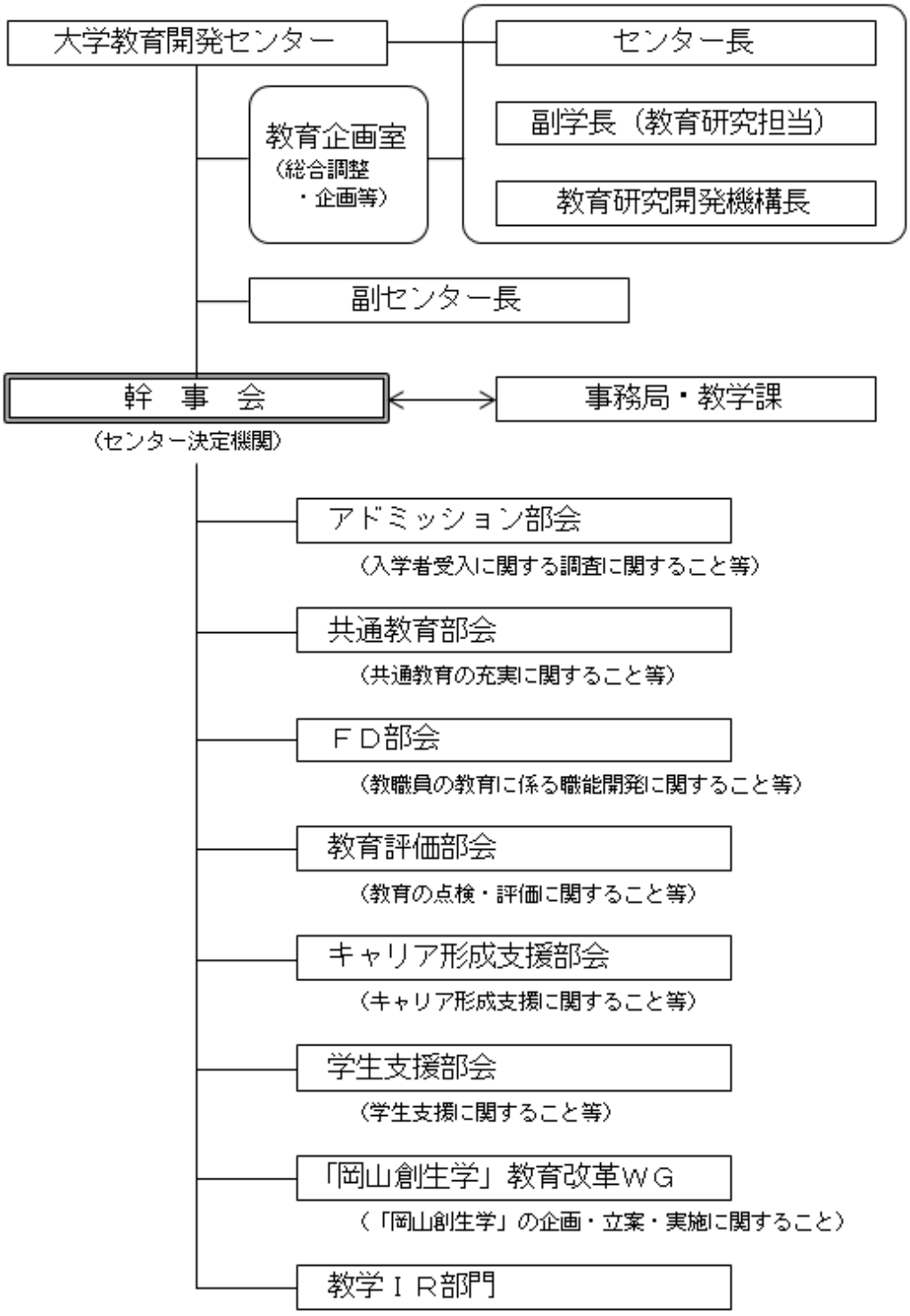
第 2 部は次のように構成されている．第 1 章は大学教育開発センターの 6 部会の活動と成果，教育力向上支援事業の順で記述した．第 2 章は国際交流センターにおける，本学方針の一つであるグローバル化戦略に基づいた，国際交流締結（MOU）校を主対象とする教育研究交流活動の支援を中心に，また，第 3 章は学術研究推進センターにおける研究倫理に関する啓蒙活動や研究支援に関する実績を柱にまとめて記述した．

第１章　大学教育開発センターの活動と成果

1 概要

大学教育開発センターは，平成 26 年 4 月から半年の準備室の期間を経て，同年 10 月に発足し活動を開始した．平成 27 年 4 月にはメンバー（センター員及び幹事）を充実して大略現在の構成となって 2 年間の任期で活動を開始した．平成 31 年 3 月で発足以来 4 年半を迎えるが，当初，「アドミッション部会」，「共通教育部会」，「FD 部会」，「教育評価部会」，「キャリア形成支援部会」，「学生支援部会」の機能的 6 部会制でスタートし，各部会と大学教育開発センター全体の取りまとめを行うための「教育企画室」も同時に発足させた．また，平成 27 年度に本学は文部科学省補助金事業である「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+)」に選定された．地域人材育成のために副専攻「岡山創生学」を立て，大学教育開発センターの所掌として「教育改革ＷＧ」として大学教育開発センターにおける地域連携教育部門として平成 28 年度から 6 部会＋1ＷＧ体制となっている．現在の大学教育開発センターの組織図を下に掲げる（平成 30 年度末）．なお，次年度からは，キャリア形成支援部会，学生支援部会が，新たに設置される「キャリア・学生生活支援センター」に移行することが決定している．

大学教育開発センター組織図



（センターと学部・学科との連絡調整について）
・幹事は、部会の長を兼ね部会の業務を統括するとともに、
　学部等との連絡調整を行う。
・推進員は、幹事が行う学部等との連絡調整を補佐する。

2 各部会活動

2-1 概要

現在,大学教育開発センターは,教育企画室,6 部会（アドミッション部会,共通教育部会,FD 部会,教育評価部会,キャリア形成支援部会,学生支援部会）と平成 27 年度文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC＋)」に採択されたのを機に設置された「教育改革ワーキンググループ(教育改革WG)」から成り立っている．教育企画室は，幹事（部会長等）会を主宰し，各部会の事業計画を取りまとめ，部会単独で行う事業と部会間連携事業とすることが適当な業務，また他機関等との協働の調整を行い，円滑な部会業務の実施を目指している．

大学教育開発センターのメンバーは，委員会等における学部・学科の割当制ではなく,自薦,他薦で選ばれた積極的な部会活動が見込まれるメンバーによって構成されている．そのため,センター員は必ずしも全ての学科を網羅しているわけではない．しかし,情報の全学的疎通や,学科からの情報を得るに当たっては不便もあること等から,センター員を出していない学科においては，平成 29 年度から推進員を置くこととした．推進員は学科からの推薦によって選ばれている．大学教育開発センターは大学における事業実施機関ではなく,教育改革に係る自発的な企画や提案,また学長,理事会等の諮問を受けて検討を行い，提案等を行う機関である.しかし,将来定着する可能性のある新規教育関連事業については，予算を得て，部会等が責任者となって試行する期間を設けて評価を行った後，大学に引き渡す形を取っている.

教育関係事業の実施においては，教・職のコラボレーションが絶対的に必要となる状況であることから,事務局職員も教員と対等の立場で大学教育開発センターの全部会に参加が求められる．教職協働を実践することによって，大学の本分である教育と研究を促進する体制の改革がより容易になると共に，従来の委員会体制では実現が難しかった課題についても継続的に取り組むことができると考えられる．教職協働は非常に重要であるが，学生の大学運営参加という視点も非常に重要である．これについては，主に学生支援班が取り組んでいるところであり，来年度からは「キャリア・学生生活支援センター」において，その取り組みを更に発展させる方向性が出されている．

2-2 教育企画室

2-2-1　概要

教育企画室は，大学教育開発センター幹事会の主催及び各部会（アドミッション部会，共通教育部会，FD 部会，教育評価部会，キャリア形成支援部会，学生支援部会,教育改革WG（COC+「岡山創生学」）の運営に必要な企画調整機能と事務局機能を担っている．このため，各部会業務を俯瞰し,各部会における業務実施を縦断的及び横断的に連携させ，効率的及び効果的な事業を実施できるように大学の各種委員会及び各種組織との調整を図ることを目的とし，教育研究担当理事(副学長)，大学教育開発センター長，教育研究開発機構長によって構成される.

2-2-2　FD・SD 研修会の実施

現在，教育企画室では，①幹事会の招集，②事業計画の取りまとめと進行管理補助，③関係委員会（大学活動委員会，評価委員会，教務専門委員会）への提案や諮問対応，④認証評価対応，⑤教育年報の企画・編集等を主要な業務としている．さらに，各部会と協力して，学内の FD・SD に資する研修会の開催を支援している．研修会は，次の 3 種に類別し，それぞれの目的に適したテーマ，講師の選定を行っている．

①全学研修会

全教職員の出席を原則とする研修会である．外部から講師を招聘し,最新の教育関連情報を得て全学的な教育改革に役立つ情報を得ることを目的にしている．このため，データ選定に際しては，教員，職員の両者にとって有用な研修の機会になるように配慮している．

また，京都大学高等教育研究開発推進センターが運営する「あさがお ML」等を利用して学外へも広報し，広く一般からの参加者も募っている．

②教育開発講座

各部会が主催し，外部講師を招聘する，あるいは内部の講師を立てるなど部会の采配でテーマ，人選を自主的に行うものである．センター関係者の出席を原則としているが，それ以外の教職員の参加は任意としている．テーマによっては，京都大学高等教育研究開発推進センターが運営する「あさがお ML」等を利用して学外へ広報し，一般からの参加者を募ることもある．

③センター・ワークショップ

大学教育開発センター内での教育に関する研修の機会として設定したものであり,研修会への参加報告,部会等による調査・研究成果の発表を主眼として行う．「教育開発講座」と同様，センター関係者の出席を原則としているが，それ以外の教職員の参加は任意としている．ただし，学外者の参加は原則，受け付けないこととしている．

平成 30 年度の開催実績は表 1 に示す通りである．詳細は各部会での報告を参照されたい．また，大学教育開発センター開設以来の件数を表 2 に示す．

表 1　FD・SD 研修事業：平成 30 年度実施状況

開催日・種別，「テーマ」，（主催部会）	参加者			
	教員	職員	学生	学外
5 月 31 日・第 1 回センター・ワークショップ 「学生の特性に応じたキャリア形成支援を考える」（キャリア形成支援部会）	46	5	5	0
6 月 14 日・第 2 回センター・ワークショップ 「障がいのある方へのちょっとした手助けのために」（学生支援部会）	22	6	32	0
9 月 14 日・第 3 回センター・ワークショップ 「新入生の不安を安心と期待に変えるには？」（FD 部会）	28	2	0	0
10 月 5 日・第 1 回教育開発講座 「高大接続改革が目指すもの」（アドミッション部会）	40	11	0	9
12 月 14 日・第 2 回教育開発講座 「学習と評価が一体化した ICE ルーブリックの体験」（教育評価部会，教育企画室）	29	5	0	11

表 2　全学研修会，教育開発講座，センター・ワークショップ開催回数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
全学研修会	3	2	1	0
教育開発講座	6	2	2	2
センター・ワークショップ	3	3	3	3

2-2-3　2021 年度版カリキュラム改革ワーキンググループ会議

2-2-3-1　目的

本学は 2019 年度からの 6 カ年にわたる第 3 期中期計画期間において．教育研究の一層の充実を目指し，学士課程において学科再編を計画している．再編年度については，国の高大接続改革プランに基づく新たな入試制度がスタートする，2021 年度を予定している．

また再編学科のスタートにあたり，新学科の国への届出（含む資格課程の各種申請）を準備する期間が必要とされるため，教学レベルでは，2021 年度版ポリシー（DP・CP・AP）の策定プロセスをにらみつつ，第３期中期目標に盛込まれた教育改革のミッションに基づいて，カリキュラム改革の準備作業に着手する必要が生じている．

以上のロードマップに基づき，教育改革に向けた重要な取組として，本学教務専門委員会及び教務班からメンバーを構成し，カリキュラム改革ワーキング会議（以下，カリ WG，常設メンバーは計 17 名）を形成した．その目的は，これまでの本学教育の体系およびその運用面の課題を抽出し,第 3 期中期目標の達成に適うカリキュラム案を準備することにある．

2-2-3-2　2021 年度版カリキュラム案作成にあたっての全学的視点・課題

カリ WG の活動にあたり，大学としてのカリキュラム体系の要諦や，学修成果視点の重視といった今日的な改革動向を確認し，かつ第２期から引き続いて本学にて重視される教養教育・社会連携教育・グローバル教育等を推進するための全学的視点・課題を確認した．

（１）体系化

学問領域として基幹コア科目を柱に科目ナンバリングの手法により表現されるカリキュラムの体系化，及び学士力指標（中教審）を意識した DP 及びこれを達成するための CP に基づく体系化が意識された案となっているか，をめぐる視点・課題．

（２）実質化

機関別認証評価の動向にみられる，学生における学修成果の向上を基本方針として，予復習・自主学習時間の確保を念頭においた単位の実質化，及びクォーター制を活かし学生の学外学習機会の確保を念頭においた単位の実質化を図るため，必要な科目の精選（削減）等の工夫がなされた案となっているか，をめぐる視点・課題．

（３）特色化

第 3 期中期計画に盛込まれた，COC+岡山創生学を軸とする地域連携教育，グローバル教育及びキャリア教育を共通−専門教育にわたり展開するために必要な科目及び教育プログラムが考慮された案となっているか，をめぐる視点・課題．

2-2-3-3　カリキュラム改革ワーキンググループ会議の経過

（１）対象となる学科等および会議メンバー（常設・計 17 名，追加・3 名）

2021 年度学科再編時カリキュラムを検討するための学科等（メンバー）は以下の通り．

○ 議長等：カリ WG 議長（吉原教務専門委員長），学生部長（高橋教務専門副委員長・キャリア教育），教育研究開発機構長（榊原教務専門委員・社会連携教育），大学教育開発センター長（田内教務専門委員・科目ナンバリング），教務班（岡本班長及び岡副参事）
○ 共通教育部：共通教育（綾部教務専門委員）
○ 保健福祉学部：看護学科（住吉教務専門委員），栄養学科（久保田教務専門委員），現代福祉学科【社会福祉学専攻及び介護福祉マネジメント学専攻】（高戸教務専門委員），子ども学科（京林准教授）.
○ 情報工学部：情報通信工学科（稲井教務専門委員），情報システム工学科（小松教務専門委員），人間情報工学科（穂苅教務専門委員）.
○ デザイン学部：建築学科（福濱教務専門委員），工芸工業デザイン学科（南川教務専門委員），ビジュアルデザイン学科（野宮教授）.
○ 追加メンバー（デザイン学部：嘉数教授・中西俊准教授・益岡准教授）

（２）議事経過

計７回にわたるカリ WG の日程及び議事は以下の通りである.

第１回 WG：2018 年８月９日（木）
・ (報告)メンバーの確認
・ (協議) WG の目的及び活動方針について
・ (協議) 新カリキュラム計画上の要件・課題について
・ (報告) 新カリキュラムにおける体系化について―レクチャー及び質疑

第２回 WG：2018 年９月 20 日（木）
・ (報告) 関係他大学カリキュラム研究：「体系化」の状況や見えてくる本学課題について
・ (報告) ご担当の分野からみた本学の現状課題：「体系化」の状況，「運用上」の課題等について
・ その他（追加メンバー確認，スケジュール及びポリシーに関する意見聴取）

第３回 WG：2018 年 10 月 25 日(木)
・ （協議）全学的な教育：「共通教育」「岡山創生学」「グローバル教育」「キャリア教育」について
・その他

第４回 WG：2018 年 11 月 22 日(木)
・ （協議）全学的な教育：「共通教育」を中心に計画を改訂案検討
・ （協議）専門教育：「学科共通」「学科」「コース等」カリキュラムについて方針案検討
・ その他

第５回 WG：2018 年 12 月 20 日(木)
・ （協議）全学的な教育：「共通教育」を中心に計画を改訂案検討（継続分）
・ （協議）専門教育：「学科共通」「学科」「コース等」カリキュラム改訂案について
＊ 修正案協議のため，関係メンバーにて資料をご準備の上，ご提案願います.

第 6 回 WG：2019 年 1 月 31 日(木)
・ （協議）共通教育及び専門教育カリキュラム素案について
a. 直近案における前回 WG からの修正点について確認（報告）
b. 直近案における共通教育部及び各学科等の今後に向けた課題（報告及び協議）
c. 次回最終 WG（第 7 回）に向けた作業の確認
第 7 回 WG：2019 年 3 月 6 日(水) 最終回
・WG 最終案（30 年度答申案）のとりまとめ

最終回にて取りまとめたカリキュラム改訂案をベースとする資料一式を，2019 年 3 月 14 日(木)開催の教務専門委員会へ報告の上，同日，大学活動委員会にて学長に答申した．

（3）答申資料

学長への答申資料は以下の内訳である．

○2021 年度版 共通教育カリキュラム改訂案（含むナンバリング入）
・ 同上 チェックリスト（課題入）
○2021 年度版 学科教育※カリキュラム改訂案（含むナンバリング入）
・ 同上 卒業要件（表）
・ 同上 カリキュラム・マップ
・ 同上 履修モデル
・ 同上 チェックリスト（課題入）
※ 保健福祉学部：看護学科，栄養学科，現代福祉学科（社会福祉学専攻及び介護福祉マネジメント学専攻），子ども学科
※ 情報工学部：情報通信工学科，情報システム工学科，人間情報工学科
※ デザイン学部：建築学科，工芸工業デザイン学科，ビジュアルデザイン学科

2-2-4 まとめと課題

研修会については，全学研修会を開催することができなかったなど，やや低調に終わった感は否めない．しなしながら，2021 年度入学者選抜試験から実施される大学入学共通テストの入試改革に向けたテーマ，今後に益々重要になる教育の質保証向上に向けたテーマなど，最新の時流に合致した研修会を開催することができ，教員への意識付けは行うことができたと考えている．

2021 年度版カリキュラム改革 WG の活動は，そもそも 2017 年２月に立ち上がった将来構想委員会（部局等の代表により編成，議長は学長）をベースとして検討が始まった第３期中期計画のための教学ロードマップに位置づけられるものであった．そのため，国による高大接続改革方針（ポリシーの義務化，及びアセスメント・ポリシーに基づく達成状況評価の一体的改革）をにらみ「入試改革元年（2021 年度）に学科再編を同期し，内部質保証体制を整備する」という一体的改革構想のもと，2018 年度中に新ポリシー，新カリキュラム，新

入試の概要及び教育評価体制を整備する予定であった．しかしながら，執筆時点で以下の課題が残されており，2019 年度における検討，整備作業が急がれる．

・ DP,CP,AP の策定が完了していないため，カリキュラム答申案の裏付け(CP)が未完．
・ 上記事由により，再編学科における教育の特色について，一部の学科で曖昧化．
・ アセスメント・ポリシーは策定されたが，教学アセスメントの運用体制が未整備．
・ アセスメント運用の前提となる教学 IR のためのバックアップ環境が未整備．

さらに，本学は，従来，教育 IR（Institutional Research of Education）への取り組みが十分ではないため，教育改革に必要なデータを利用することが極めて難しい状況にあった．その観点から，平成 29 年度から教学システム（Campus Square）が導入され，教学 IR を担当する特任教員を採用した．これらを活用した教育の質保証に向けた教育改革が急務である．

2-3　アドミッション部会

2-3-1　概要

2021 年度入試から実施される大学入学者選抜改革が公表され，今年度中のアドミッション・ポリシーの公表に向けて，各学部学科において入学日程，入学試験の実施方法を含めてポリシーの策定を行った．入試環境調査として入学時アンケート調査ならびに入試日程別成績追跡調査を全学的に実施し，入試広報活動としてはオープンキャンパスならびに高校訪問，高大接続事業として高校生のための大学授業開放を，いずれも全学的に実施した．学内研修会としては，教育開発講座を主催した．

2-3-2　入試改革

入試改革に向けたアドミッション・ポリシーの策定

高大接続システム改革会議最終報告を受け，本年度は本学の 3 つのポリシーを一貫性のある形に見直す中で，全学および各学部学科アドミッション・ポリシーの見直しを行い入試日程別に入学者選抜の基本方針を示した．

2-3-3　入試環境調査

(1)　入学時アンケート結果

- 実施日時：2018 年 4 月 6 日～4 月 27 日
- 実施方法：Web アンケートサイト（Questant）上で実施
- 対象者：総数 390 人中，回答数 389 人（回収率 99.8%）

1　回収率

回収率が低い学科に対して，アンケート締め切りを延長し，その期間に，複数回実施の機会を設けた．このため，回収率は全体で 99.8%と非常に高くなったが，詳細を確認すると，

一部の学科で在籍人数以上の回答が行われていることが分かった．今回，1 つの端末から 1 回のみ入力可能にするというオプションを用いなかったため，複数回送信した回答者がいたと考えられる．次回は，対策を考える必要がある．

2　基本情報：出身県

岡山県内出身者が多い学科は，看護学科（82.2%），保健福祉学科子ども学専攻（75.0%），保健福祉学科社会福祉学専攻（62.2%）の順である．

岡山県内出身者が少ない学科は，デザイン工学科（29.5%），情報通信工学科（35.6%）である．それ以外の学科は，栄養学科（45.2%），情報システム工学科（46.9%），人間情報工学科（43.2%），造形デザイン学科（56.3%）と 4〜5 割程度になっている．

3　基本情報：本学志望順位

本学を第一志望とする学生が多いのは造形デザイン学科（95.8%），保健福祉学科社会福祉学専攻（86.7%），保健福祉学科子ども学専攻（85.0%），栄養学科（83.3%）がいずれも 8 割を超えていた．一方，情報工学部は情報通信工学科（40.7%），情報システム工学科（46.9%），人間情報工学科（51.4%）と何れの学科も 4〜5 割程度に留まっている．（3 学科の中で人間情報工学科の第一志望が最も多いのは，他にない特徴である．）

4　学修モチベーション：今の気持ち

本学で学び始めるにあたっての今の気持ちを聞いた質問では，学修モチベーションに関する「真剣に学んで，多くの知識や技術を身につけたい」を選んだ学生が全ての学科で最も多く，情報通信工学科（76.3%），造形デザイン学科（68.8%），デザイン工学科（68.2%），看護学科（62.2%），情報システム工学科（61.2%）が 6 割超であった．

5　広報等：受験の参考にしたもの

本学受験で一番参考にしたものは「大学案内」とした学科は，看護学科（22.2%），栄養学科（23.8%），保健福祉学科子ども学専攻（30.0%），デザイン工学科（20.5%）であった．

ホームページを参考にしたものは，大学と学科のホームページという 2 つの選択肢を合算すると，看護学科（22.2%），栄養学科（23.8%），保健福祉学科社会福祉学専攻（26.7%），保健福祉学科子ども学専攻（35.0%），情報通信工学科（23.7%），情報システム工学科（30.6%），人間情報工学科（37.8%），デザイン工学科（22.7%）となり，ほとんどの学科でトップである．唯一，造形デザイン学科だけは，本学のオープンキャンパスで得た情報（20.8%），大学／学科のホームページ（18.8%）であるが，1 人分の差はだけである．

ホームページで公開しているアドミッション・ポリシーについては，よく理解できたを選んだ学生が高い順から看護学科（71.1%），保健福祉学科子ども学専攻（70.0%），造形デザイン学科（60.4%），栄養学科（57.1%），保健福祉学科社会福祉学専攻（51.1%），人間情

報工学科（43.2%），デザイン工学科（38.6%），情報通信工学科（32.2%），情報システム工学科（28.6%）であり，上位と下位で２倍以上の開きがあった．

6　情報提供：入学前にもっと知りたかった情報

入学前にもっと知りたかった情報として情報工学部以外の全学部で「カリキュラムや授業内容」を挙げる学生がトップだった．情報工学部については，情報通信工学科と情報システム工学科では「各学部・学科の特色」，人間情報工学科では「取得できる資格と合格率」「就職先と就職率」がトップであった．

7　志望動機：本学を志望した動機の１位

本学を志望した動機の１位は，保健福祉学部の全学科で「希望する資格が得られる」がトップである．情報工学部，デザイン学部では「教育内容が希望に近い」がいずれもトップになった．

8　期待：本学に対する期待の１位

本学に対する期待の１位だったものは，全学部で「充実した専門教育」がトップになった．それに次ぐものは保健福祉学部では「充実した国家試験対策」である．他学科ではややばらついているが，造形デザイン学科の「充実した学内教育設備」，人間情報工学科の「充実した語学教育」，情報通信工学科の「充実した一般教養教育」等が挙げられる．

9　受験科目：受験しやすさ

大学入試センター試験については，看護学科，保健福祉学科子ども学専攻，情報通信工学科，デザイン工学科，造形デザイン学科の８割超が受験しやすかったと答えており，残る学科も７割以上が同じ答えをしている．

個別試験に関する質問では，看護学科，栄養学科，保健福祉学科子ども学専攻がもし個別試験にあったら受験しなかった科目として，プレゼンテーションをトップに挙げていた．その他については，保健福祉学科社会福祉学専攻は数学，情報通信工学科と情報システム工学科については小論文，人間情報工学科とデザイン学部はTOEICや英検をトップに挙げていた．

10　大学授業開放

受講者が入学者の30%を超えていたのは造形デザイン学科（35.4%），保健福祉学科社会福祉学専攻（33.3%）である．知っていれば受講したと答えた学生は，保健福祉学科子ども学専攻（66.7%）が特に高かった．

また，「受講態度やレポートなどで評価する入試」については，保健福祉学科子ども学専攻（50.0%），看護学科（48.9%）が半数近く「利用したい」と答えていた．

11　卒業後進路希望

卒業後の進路希望については，保健福祉学部の県内就職希望者はどの学科（専攻）も多く，保健福祉学科子ども学専攻（60.0%）と看護学科（55.6%），保健福祉学科社会福祉学専攻（44.4%），栄養学科（35.7%）となった．一方で，デザイン工学科（9.1%）と人間情報工学科（10.8%）は少なかった．

他大学の大学院を含めて大学院進学を希望するものは，情報工学部が情報通信工学科（35.6%），情報システム工学科（44.9%），人間情報工学科（48.6%）といずれも高かった．

一方で，「まだわからない」とする学生もデザイン工学科（45.5%），情報通信工学科（40.7%），造形デザイン学科（39.6%），情報システム工学科（32.7%）と多かった．

12　本学で身につけたい能力

身に付けたい能力としては，情報通信工学科と人間情報工学科以外で「コミュニケーションスキル（日本語)」を挙げる学生が最も多かった．

情報通信工学科では，「情報の収集・分析・発信力（ICT を利用する力）」が最も多く，それに次いで「コミュニケーションスキル（日本語）」を挙げていた．人間情報工学科では，「コミュニケーションスキル（外国語）」がトップで，その次に「コミュニケーションスキル（日本語）」が来ている．

人間情報工学科の学生は本学に対する期待として「充実した語学教育」を挙げていたり，個別試験に関して「TOEIC や英検があったら受験しなかった」を選ぶ学生が多いことから，語学に関して苦手意識が強い一方で，入学後の教育には期待していることが推測できる．

(2) 入試日程別成績追跡調査

(2-1) 半年後累積 GPA の調査

今年度入学した学生の半年後の累積 GPA を追跡調査した．累積 GPA の平均値を入試区分及び学科・専攻別にまとめ，前年度の学生と比較した（表 1）．

入試区分別では，全ての区分で前年度より減少（－0.02～－0.30）していた．学科・専攻別では人間情報工学科が横ばい（0.00），子ども学専攻（－0.01）もほぼ横ばいであるが，その他は減少（－0.03～－0.24）していた．入試区分及び学科・専攻別では，人間情報工学科の推薦（＋0.30），栄養学科の推薦（＋0.17），情報通信工学科の中期（＋0.16），子ども学専攻の後期（＋0.05）の順に増加の度合いが大きく，その他は横ばいか減少傾向にあった．ただし，このうち後期には 2，3 人のごく少数なケースがあるため，極端な値が出ている可能性がある．

表 1　平成 30 年度入学生　入学半年後の累積 GPA 平均値と，昨年度との差異

2018(H30)年度入学生 入学半年後の「累積GPA」平均値	度数	一般入試 前期	一般入試 中期	一般入試 後期	推薦	(学科・専攻全体)
保健福祉学部・看護学科	44	2.78		2.60	2.79	2.73
保健福祉学部・栄養学科	42	2.95		2.88	2.78	2.87
保健福祉学部・保健福祉学科社会福祉学専攻	41	2.69		2.54	2.76	2.66
保健福祉学部・保健福祉学科子ども学専攻	20	2.88		2.98	3.06	2.97
情報工学部・情報通信工学科	59	2.43	2.76		2.28	2.49
情報工学部・情報システム工学科	50	2.57	2.25		2.19	2.34
情報工学部・人間情報工学科	40	2.50	2.61		2.65	2.59
デザイン学部・デザイン工学科	43	2.41			2.44	2.43
デザイン学部・造形デザイン学科	50	2.64			2.55	2.60
(入試区分全体)	389	2.65	2.54	2.75	2.61	

2017(H29)年度入学生 入学半年後との差異	度数	一般入試 前期	一般入試 中期	一般入試 後期	推薦	(学科・専攻全体)
保健福祉学部・看護学科	3	−0.19		−0.29	−0.10	−0.19
保健福祉学部・栄養学科	−2	−0.16		−0.73	0.17	−0.24
保健福祉学部・保健福祉学科社会福祉学専攻	0	−0.12		−0.23	−0.07	−0.14
保健福祉学部・保健福祉学科子ども学専攻	−1	−0.02		0.05	−0.05	−0.01
情報工学部・情報通信工学科	−5	−0.23	0.16		−0.03	−0.03
情報工学部・情報システム工学科	−12	−0.16	−0.26		−0.02	−0.15
情報工学部・人間情報工学科	−1	−0.09	−0.20		0.30	0.00
デザイン学部・デザイン工学科	4	−0.07			−0.08	−0.07
デザイン学部・造形デザイン学科	1	0.00			−0.26	−0.13
(入試区分全体)	−13	−0.12	−0.10	−0.30	−0.02	

大学全体で，半年後累積 GPA がどのように推移しているのか，過去 4 年間の結果を利用して比較した（図 1）．大学全体では，前期（2.73→2.65），中期（2.65→2.56）及び推薦（2.70→2.58）が若干の減少，後期（2.97→2.66）が減少傾向にあることが分かった．（学科・専攻別の推移は付録を参照）

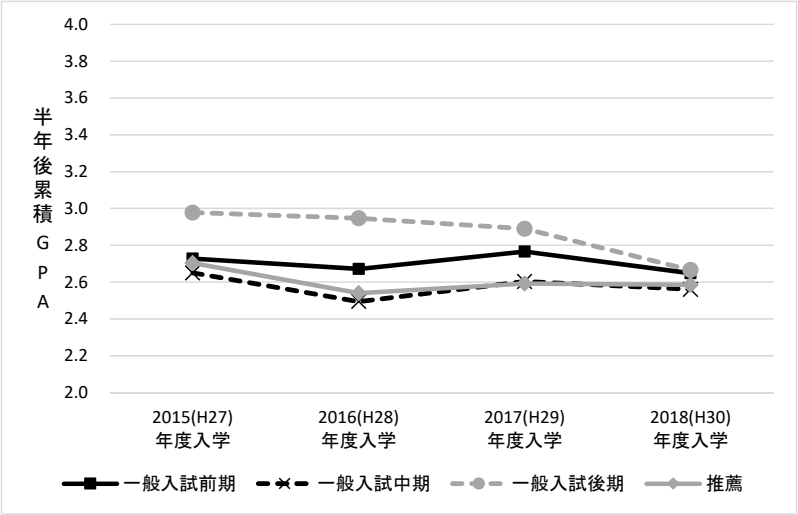


図 1●　半年後累積 GPA（全学）平均値の推移（n = 390, 403, 402, 389）

（2-2）大学入試センター試験合計点の推移

今年度入学した学生のセンター試験合計点の比較を行った（表 2）．学科・専攻によって各科目の配点が異なるため，満点を 100%換算した値を使用した．これによると，入試区分別では，後期（＋0.83）及び中期日程（＋0.38）が増加し，前期日程（－1.11）は減少した．

学科・専攻別では，造形デザイン学科（＋1.33）及び情報システム工学科（＋1.30），情報通信工学科（＋1.15）が増加し，それ以外は横ばいまたは減少した．また，入試区分及び学科・専攻別では，子ども学専攻の後期（＋4.75）及び情報通信工学科の中期（＋3.31），情報システム工学科の前期（＋1.93），人間情報工学科の前期（＋1.35），造形デザイン学科の前期（＋1.33），社会福祉学専攻の後期（＋1.17），情報システム工学科の中期（＋0.66），看護学科の後期（＋0.10）の順に増加傾向にあり，その他は減少した．なお，先と同様，後期は少数であり，極端な値が出ている可能性がある．また，センター試験を使用していない推薦は本比較の対象外である．

表 2　平成 30 年度入学生　センター試験合計点の平均値と，昨年度との差異

2018(H30)年度入学生のセンター試験平均値(100%換算)	度数	一般入試前期	一般入試中期	一般入試後期	(学科・専攻全体)
保健福祉学部・看護学科	30	68.25		69.66	68.95
保健福祉学部・栄養学科	30	67.54		76.44	71.99
保健福祉学部・保健福祉学科社会福祉学専攻	29	67.08		65.08	66.08
保健福祉学部・保健福祉学科子ども学専攻	14	70.53		72.96	71.74
情報工学部・情報通信工学科	46	59.49	63.33		61.41
情報工学部・情報システム工学科	37	59.37	64.56		61.97
情報工学部・人間情報工学科	27	57.11	60.95		59.03
デザイン学部・デザイン工学科	33	68.73			68.73
デザイン学部・造形デザイン学科	37	59.80			59.80
（入試区分全体）	283	64.21	62.95	71.03	

2017(H29)年度入学生との差異	度数	一般入試前期	一般入試中期	一般入試後期	(学科・専攻全体)
保健福祉学部・看護学科	2	−1.06		0.10	−0.48
保健福祉学部・栄養学科	−2	−0.59		−2.69	−1.64
保健福祉学部・保健福祉学科社会福祉学専攻	1	−4.86		1.17	−1.85
保健福祉学部・保健福祉学科子ども学専攻	−1	−4.88		4.75	−0.06
情報工学部・情報通信工学科	−5	−1.01	3.31		1.15
情報工学部・情報システム工学科	−11	1.93	0.66		1.30
情報工学部・人間情報工学科	−2	1.35	−2.82		−0.74
デザイン学部・デザイン工学科	4	−2.16			−2.16
デザイン学部・造形デザイン学科	−2	1.33			1.33
（入試区分全体）	−16	−1.11	0.38	0.83	

過去４年の推移を見ると前期は若干の減少傾向（66.10→64.57）で，中期は減少から少し増加傾向（67.12→62.24→63.17）へ，後期は振れ幅が大きいが減少から増加（72.45→67.63→69.47）傾向がみられた（図 2）.（学科・専攻別の推移は付録を参照）

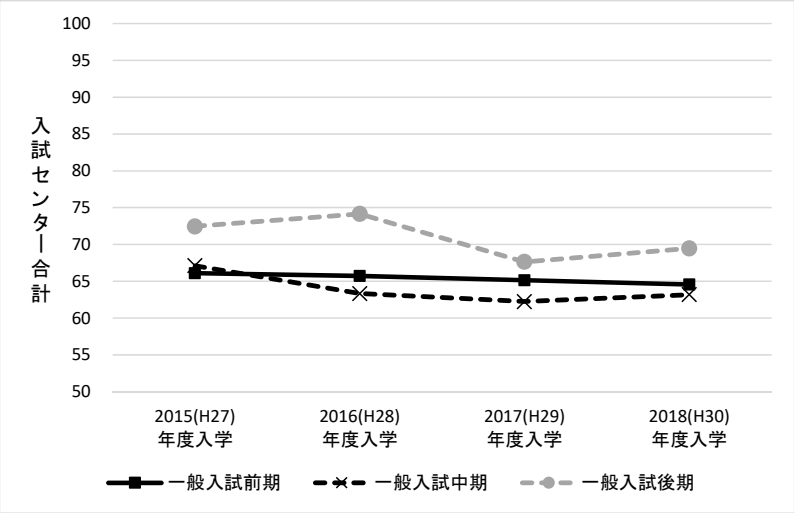


図 2　センター試験合計点（全学）平均値の推移（n = 292, 311, 299, 283）

（2-3）入試総得点の分布

今年度入学した学生の入試総得点（センター試験及び個別試験の総計）について，満点を100%に換算したものを縦軸に，入学半年後の累積 GPA を横軸にした散布図を示す（図 3～図 6）．これにより，入試で評価している能力と入学後の授業で評価される能力がどの程度，適合しているかを測ると共に，どのような学生が入学したかを推測する．近似線の傾きが大きなものは入試総得点と累積 GPA の相関が強く，入試で能力判定が正確に出来ていることを示している．

この結果，推薦では総得点 80%前後の学生を獲得し，GPA は 1.5～3.3 と比較的均質に分布していることが分かった．前期では総得点 65%前後の学生を獲得し，GPA は 1.4～3.6 と幅広い分布になった．中期では総得点 65%前後の学生を獲得し，GPA は 1.7～3.7 とやや高めに分布し，最も優秀な層が含まれていた．後期は総得点 70%前後と最も優秀な一般入試得点を獲得した層であるが，GPA は 1.6～3.2 に分布しており，入試得点の高さの割に GPA は低めに留まった．

各入試区分別の近似線の傾きは前期（3.9684），後期（1.4427），推薦（1.241），中期（1.1179）の順に大きく，前期が最も正確な能力判定をしていると考えられる．これは前期が最も多様な入試科目を課していることからも推測できる結論である．また，中期は傾きが小さいものの優秀層が含まれていて幅広い．一方，後期は一般に多様性を確保することを狙った入試区分で，前期と異なる能力を持つ学生を選抜することを目的にしているが，本学の累積 GPA からはその良さを読み取ることはできなかった．後期の学生の能力を通常の学力尺度で測るのは難しい可能性もあるが，後期は過去 4 年間の推移を見ても累積 GPA の低下傾向が続いており，注視が必要である．

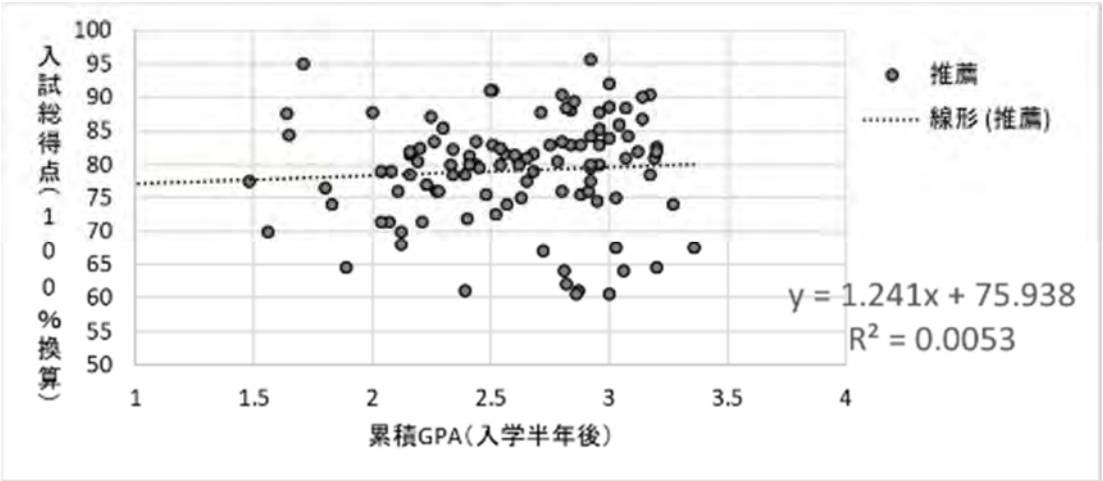


図 3　推薦入学者の入試総得点と累積 GPA の分布（n = 107）

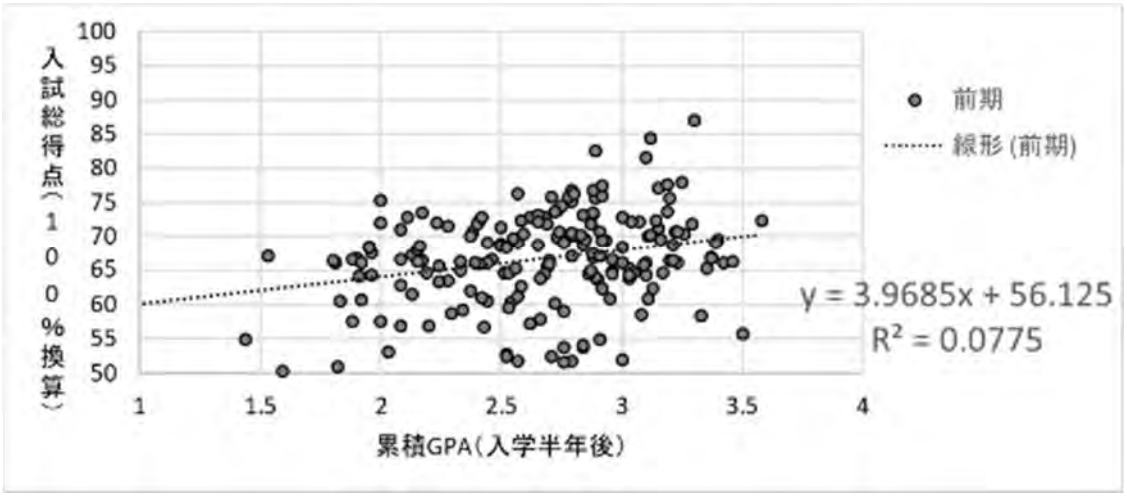


図 4　前期入学者の入試総得点と累積 GPA の分布（n = 194）

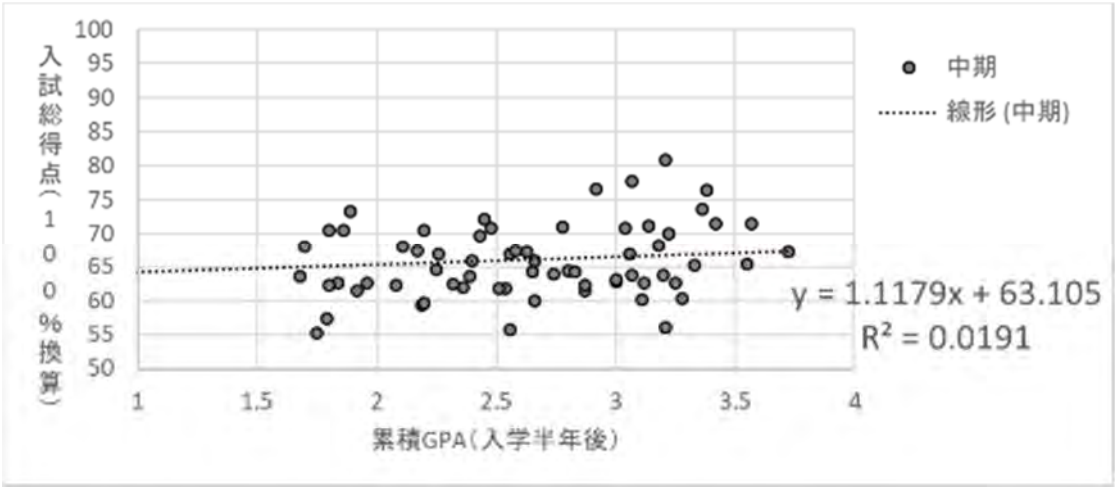


図 5　中期入学者の入試総得点と累積 GPA の分布（n = 68）

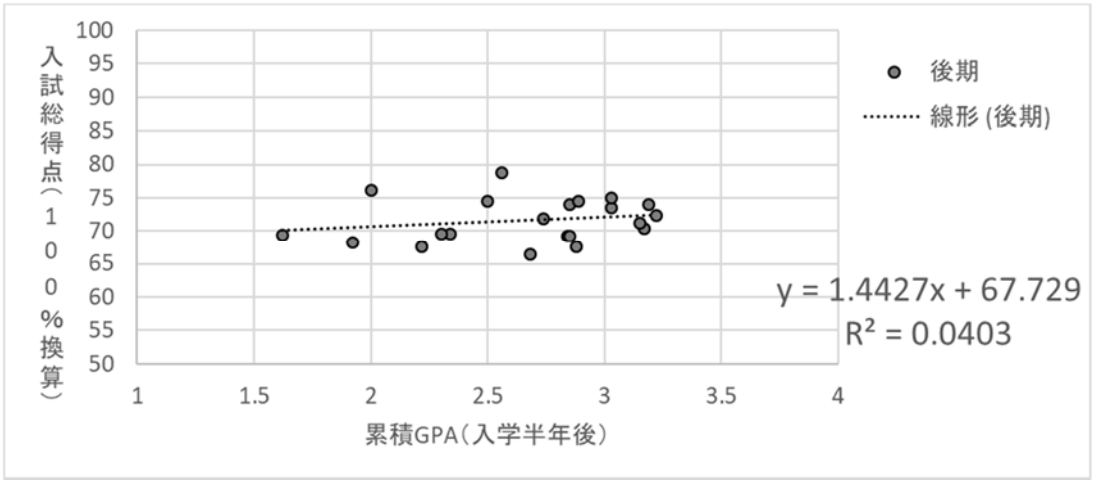


図 6　後期入学者の入試総得点と累積 GPA の分布（n = 21）

（2-4）半年後累積 GPA と各入試科目の点数との相関

入学半年後の累積 GPA と各入試科目の得点の相関を調査した．結果のうち，度数 10 以上，5%水準で有意になった科目のみを表 3 に示す．「入試総合計」は入試で課した科目を全て足し合わせたものであり，この値で合格判定を行っている．また，「入試センター合計」は大学入試センター試験で課した科目を各学科の配点に従って合計した値である（これに個別試験を足し合わせたものが「入試総合計」になる）．

この結果，全体として「入試総合計」「入試センター合計」ともに弱い正の相関が認められ，入試区分別では前期のみ正の相関が認められた．「入試総合計」「入試センター合計」は，その他に学科別でも一部，正の相関が認められている．それら以外では，社会福祉学専攻の「前期・国語」，情報システム工学科の「中期・外国語」，造形デザイン学科の「前期・外国語」で正の相関が認められた．

一方で，子ども学専攻の「前期・面接（個別試験）」や情報システム工学科の「前期・外国語」，人間情報工学科の「入試総合計」「数学（個別試験）」で負の相関が認められる結果になった．これらの科目については，毎年同じ傾向なのか，どのような状況でどのような試験が課されているのかなどを確認するとともに，その他に関連する要因がないかを精査する必要があるだろう．

表 3　入学半年後の累積 GPA との相関

				Pearson の相関係数	有意確率（両側）	度数
全体			入試総合計	.121*	0.02	389
			入試センター合計	.237**	0.00	282
		一般入試前期	入試総合計	.278**	0.00	193
			入試センター合計	.247**	0.00	193
保健福祉学部	保健福祉学科社会福祉学専攻	一般入試前期	入試総合計	.577**	0.00	23
			入試センター合計	.569**	0.00	23
			国語	.618**	0.00	23
	保健福祉学科子ども学専攻	一般入試前期	面接（個別試験）	−.639*	0.03	11
情報工学部	情報通信工学科	一般入試前期	入試総合計	.568*	0.02	16
	情報システム工学科	一般入試前期	外国語	−.552*	0.03	15
		一般入試中期	外国語	.433*	0.04	22
	人間情報工学科	一般入試前期	入試総合計	−.780**	0.00	11
			数学（個別試験）	−.857**	0.00	11
デザイン学部	造形デザイン学科	一般入試前期	入試総合計	.565**	0.00	37
			入試センター合計	.494**	0.00	37
			外国語	.601**	0.00	37

**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。　（度数10以上、5%水準で有意のものを掲示）

*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

2-3-4 研修会等の実施

(1) 教育開発講座

平成 33 年度からの大学入試改革について,本学でも検討を進めているところではあるが,未だ「多面的・総合的評価の手法」や「段階別表示の導入後の合否判定への影響」など,検討・研究が進んでいない部分もある.そこで当該内容で専門的知識を有し,講演及び研究発表の実績を持つ名古屋工業大学 工業教育総合センター アドミッションオフィスの林篤裕教授を講師として講演いただくことで,本学のアドミッション・ポリシー策定方針など大いに参考となった.なお参加者は,教員 40 人,事務員 11 人,学外者 9 人の計 60 人が参加した.

(演　　題)「高大接続改革が目指すもの　―その方向性と大学入試のこれから―」
(講　　師)林　篤裕　教授　名古屋工業大学 工業教育総合センター
アドミッションオフィス
(日　　時)平成 30 年 10 月 5 日(金)
(講演時間)13:00～14:30 講演　16:30～17:00,その後ディスカッション 30 分
(会　　場)学部共通棟北 8105 講義室

2-3-5 入試広報活動

(1) オープンキャンパス 2018

オープンキャンパス 2018 が平成 30 年 7 月 21 日から 22 日にかけて,本学で開催された.

各学部,各学科別の参加者数およびアンケートの男女比,参加者の県内外の状況について以下にまとめた.今年の参加者数は昨年よりも減少したが,これは隔年で増減する傾向がここ数年みられる.少子化に向けた対策として,少しでも良い学生を確保するためにもオープンキャンパスの参加者を増やすために今後より積極的な工法が必要である.

1　開催日
平成３０年７月２１日（土）情報工学部、デザイン学部
平成３０年７月２２日（日）保健福祉学部

2　学部・学科参加者数

学部	参加者総数	(参考) 直近３年の参加者数			前年度比較	
		平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	H30－H29	H30/29
保健福祉学部	1，580	1，850	1，680	1，890	－270	－15％
(看護学科)	(550)	(710)	(550)	(670)	(－160)	(－23％)
(栄養学科)	(400)	(560)	(500)	(580)	(－160)	(－29％)
(保健福祉学科)	(630)	(580)	(630)	(640)	(＋50)	(＋9％)
情報工学部	420	490	220	320	－70	－14％
デザイン学部	500	580	580	530	－80	－14％
大学計	2，500	2，920	2，480	2，740	－420	－14％

(比率の小数点以下は四捨五入)

3　アンケートの実施

当日、参加者を対象にアンケート調査を行い９８９人から回答を得た。

【内訳】保健福祉学部延べ７６２人、情報工学部延べ１９１人、デザイン学部延べ１８５人

（内訳計：１１３８人　※学科・専攻の項目が複数回答のため重複有り）

（1）男女比と学年構成比

（男女比）　単位：%

学　部	男子	女子
保健福祉	6	94
情報工	87	13
デザイン	13	87
全体	21	79

※未回答者は除外している。

（学年構成比）　単位：%

区分	平成30年度	平成29年度
3年生	41	37
2年生	38	41
1年生	19	18
その他	2	4

※未回答者は除外している。

（2）県内外の状況

（県内外比率）　単位：%

学　部	県　内	県　外	平成29年度の県外比率
保健福祉	78	22	20
情報工	74	26	19
デザイン	61	39	44
全体	75	25	24

※未回答者は除外している。

（出身県上位１０県）

順位	県名	回答者数	順位	県名	回答者数
1	岡山	844	6	徳島	13
2	兵庫	70	7	島根	12
3	広島	63	8	鳥取	11
4	香川	38	9	山口・高知・福岡	6
5	愛媛	25	10	愛知・京都	4

(2)　大学院オープンキャンパス

１．保健福祉学研究科のオープンキャンパス２０１８の開催状況

・開催日時

平成３０年５月２６日（土）

９：３０～　　受付開始（８２０１）

１０：００～　　全体説明（同上）

・ 研究科長がパワポで全体説明，試験日程，長期履修制度，授業料減免，奨学金等についても説明をした.

１０：３５～　　各専攻に分かれて説明

１０：３５～１５：００

経済的支援の相談窓口及び過去問閲覧コーナー（８２０１）を設置した.

・参加人数

看護学専攻・看護学大講座：２８名

栄養学専攻・栄養学大講座：１２名

保健福祉学専攻・保健福祉学大講座：６４名

２．情報系工学研究科およびデザイン学研究科のオープンキャンパス２０１８の開催状況

日時　平成３０年5月２９日（火）１４：２０～１７：００

場所　ＯＰＵフォーラムの展示会場に大学院情報系工学研究科およびデザイン学研究科のブースを設ける．

内容　パンフレット，募集要項等を配布するとともに，研究領域，入試情報，早期修了制度，長期履修制度などの説明・相談を行った．

⑶ 高校訪問

本年度も昨年度に引き続き各学部学科別に高校訪問を行い，高校側に本学の情報を提供した．

1．保健福祉学部

①看護学科

平成 30 年度，看護学科は 22 校の高校訪問を実施した（29 年度より 1 校増）．訪問前に前年度の報告内容を共有，在校生の出身校を把握して訪問した．その結果，高校の担当教諭に卒業後の様子（大学生活・授業等）について具体的に伝えることが可能であった．全体的に看護学科への進学を希望する生徒は多く，教諭からは入試や，入学後の実習，助産師に関する質問があった．特に，入試に関する質問としては，推薦入試（基準（A 判定）緩和），面接や英語外部試験に関する質問があった．少子化に伴い，大学進学者や受験者数は今後減少するため，本学においても高校訪問を継続し，高校教諭との信頼関係の構築等が重要だと考える．

高校訪問の際には大学の情報提供のみならず，4 月に入学した学生の現状を知らせることが好評だと思われた．このため，次年度も事前に訪問先の卒業生（本学在校生）の状況を把握して訪問していきたい．看護学科では訪問する高校が増える傾向にあるため，訪問する高校の選定方法については，翌年度の効果（受験者数，合格者数など）も含め検討する必要があるかもしれない．

②栄養学科

平成 30 年度は，県内 7 校，県外 4 校の計 11 校の高校を訪問した．大学案内 2019，栄養学科紹介チラシ，高校生のための大学授業開放チラシ，栄養学科授業開放 2017 チラシ，岡山創生学パンフレット，大学院紹介パンフレットを持参資料とし，マニュアルに従い学科および学部の説明を行った．オープンキャンパスと授業開放について紹介し，興味を示す生徒がいれば参加を勧めていただけるよう要請した．

県内の高校は，例年の訪問でよくご存じの様子であり，栄養学科について希望者はいるというお返事が多く見られた．栄養学科は理系という認識であり，入ってからついていけないので文系生徒には進路として指導しないとの高校があったが，推薦など受験可能であると伝えたところ，認識がかわり希望生徒にしっかり伝えておくとのことであった．機会があるごとに繰り返し推薦入試の内容など説明する必要があると考えられた．

県外の高校は，今回は香川県に絞り，在学生のいる 2 校とこれまで入学者のいない 2 校を訪問した．開拓先の 1 校は私立進学校であり，岡山県から通学する生徒が少なからず在籍するとのことであった．岡山県立大学の知名度も比較的高く，アピール次第で本学科の受験者を増やせる可能性があると思われた．もう 1 校は高校側の誤解や理解不足があり，地理的な条件も勘案すれば，十分に練られた出前授業などを企画するなど本学科側の努力次第で受験生を送ってくれる可能性はあると思われた．

③保健福祉学科

保健福祉学科では，保健福祉学部の他学科の教員と共に，11 高校の訪問を行った．

訪問教員からの主な報告事項は以下の通りである．

- 保健福祉学科については，各校共に，希望者も安定しており，受験者は見込まれる．岡山県立大学に多く受験者を出している高校を回ったことからも，本学への理解は高いように感じた．
- しかしながら，入試の動向についての質問が多いことから，今後の入試の変更点，ポートフォリオの活用の方法などは，可能な限り早めに大学として方向性を示し，情報提供することが望まれる．
- 社会福祉学専攻については，資格が増え，コース分けが始まることへの質問も出ており，「全ての資格を取れるわけではないこと」「複数資格にはパターンがあること」などを引き続き様々な機会を活用して丁寧に説明しておくことが求められる．
- 高校も地域研究を始めていることから，岡山創生学の取り組みに関する話題も多く，岡山創生学の取り組みを紹介する報告書などを配布することも必要である．

2. 情報工学部

情報工学部を広く正しく知ってもらうために入試広報活動の一環として，平成 29 年度から情報工学部教員による高校訪問を実施し，平成 30 年度は，県内 34 校，県外 2 校（兵庫県 1 校，広島県 1 校），計 36 校の高校を訪問した．

訪問担当教員が，学部学科の教育や研究の概要，主な就職先，入学試験，オープンキャンパス，大学授業開放，COC+事業に関する資料を用いて説明するとともに，平成 29 年度高校訪問の反省から，事前に訪問先高校出身者の修学状況や進路状況を把握し，高校側へ伝えることとした．また，情報工学部をより詳しく知ってもらうために，訪問の開始時期をオープンキャンパス実施日よりも早い時期に実施した．一方，18 歳人口の減少を見据え，県内に留まらず，近隣各県の高校訪問の実施も検討すべき課題である．高校側からの質問として，入試や卒業後の進路に関することが多く，一部の高校からは COC+事業の取り組みに関するものもあった．

訪問開始以降，図 7 で示すように特別入試（推薦入試）の志願倍率が増加傾向にある．科学的根拠はないが，高校訪問による情報工学部および 3 学科の説明が，情報工学部を志願する生徒の増加に寄与している可能性がある．今後，入試全般における志願者数の増減を把握し，高校訪問の在り方の再検討が必要と思われる．

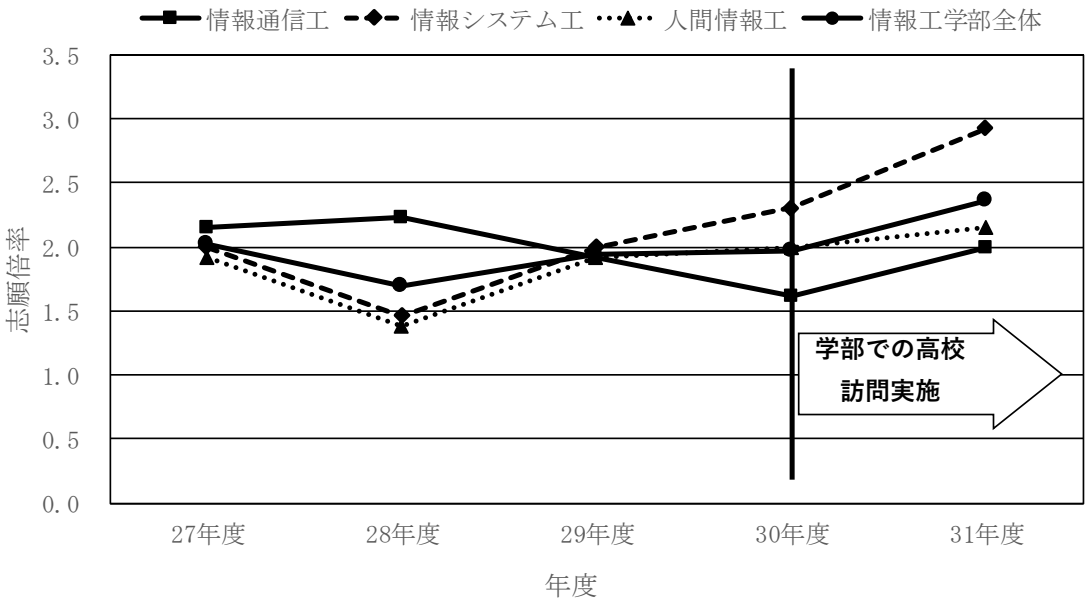


図 7　平成 27 年度以降の特別入試（推薦入試）に関する志願倍率の推移
（情報工学部 3 学科と情報工学部全体）

2-3-6 高大接続事業

(1) 高校生のための大学授業開放

Ⅰ　実施日

平成 30 年 8 月 18 日（土）

10：00～（保健福祉学部）

10：20～（情報工学部）

13：30～（デザイン学部）

Ⅱ　授業内容

1．保健福祉学部看護学科

10 : 10～11 : 40　高校生のための小児看護学入門 : 子どもの運動機能の発達（講義）
沖本克子教授，網野裕子助教（6316）

13：00～14：30　高校生のための老年看護学演習：認知症をもつ高齢者とのかかわり（演習）
實金栄准教授，井上かおり助教（6413）

13 : 00～14 : 30　高校生のための基礎看護学演習 : 聴診器で聴いてみよう！身体（心臓）の音（演習）
佐々木新介准教授，佐藤美恵准教授，高林範子助教 他（6412）

２．保健福祉学部栄養学科

10：10～11：40　高校生のための生化学入門（講義）高橋吉孝教授（8201）

10：10～11：40　高校生のための食品学入門（講義）伊東秀之教授（8202）

13：00～16：00　高校生のための分子生物学実験（実験）
山本登志子教授，津嘉山泉助教（8207）

13：00～16：00　高校生のための調理学実験（実験）新田陽子准教授（8107）

３．保健福祉学部保健福祉学科社会福祉学専攻

10:10～10:55　高校生のための国際福祉論・地域福祉論（講義）近藤理恵教授（8901）

11：00～11：55　高校生のためのユニバーサルデザインの理論と実践（講義）
高戸仁郎教授（8901）

12：40～13：20，13：30～14：10　高校生のためのソーシャルワーク演習（演習）
岩満賢次准教授（8901）

12：40～13：20，13：30～14：10　高校生のための精神科ソーシャルワーク演習（演習）坂野純子教授（8903）

12：40～13：20，13：30～14：10　高校生のためのスクールソーシャルワーク演習（演習）周防美智子准教授（8126）

12：40～13：20，13：30～14：10　高校生のための介護福祉演習（演習）
佐藤ゆかり准教授（8902）

４．保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻

10：10～11：50　高校生のための教育心理学：子どものやる気を促す関り（講義）
楠本千里講師（8904）
高校生のための家庭支援論（講義）中野菜穂子准教授（8904）

13：10～14：40　高校生のための保育内容（表現）（演習）
岡﨑順子特任教授，新山順子准教授（5201）

13：10～14：40　高校生のための乳児保育演習（演習）柏まり准教授（8904）

５．情報工学部

10：20～11：50　高校生のためのトランジスタ入門（講義）伊藤信之教授（8102）

10：20～11：50　高校生のためのプログラミング言語入門（講義）
横川智教准教授（8103）

10：20～11：50　生活を支える人間情報工学（講義）穂苅真樹教授（8104）

12：40～14：10　高校生のためのディジタル回路（演習）
森下賢幸准教授，小椋清孝助教（2317）

12：40～14：10　高校生のための 3 次元 CAD 入門（演習）
福田忠生准教授，芝世弐助教（2207）

12：40～14：10　生活を支える人間情報工学（実験）
井上貴浩准教授，大田慎一郎准教授（2906）

６．デザイン学部

14：00～15：30　イスと建築のデザインにまつわる5つの物語（講義）福濱嘉宏教授
14：00～15：30　つかいやすいをデザインする（講義）益岡了准教授
14：00～15：30　ゲーム制作ミニワークショップ（講義）山下万吉講師
14：00～15：30　造形デザインの気づきと見立て（講義）吉原直彦　教授
14：00～16：00　建築のデジタルデザイン（実技）畠和宏助教
14：00～16：00　レーザーカッター入門（実技）中原嘉之助手
14：00～16：00　印刷で表現の幅を広げる（実技）関﨑哲准教授
14：00～16：00　フェルトメイキング（実技）
難波久美子教授，島田清徳准教授，岡本汐加助教

Ⅲ　実施状況

１．参加者数（アンケート回収数より）カッコ内昨年度実績

全体：393 名　　（昨年度 477 名）

保健福祉学部 255 名　　（昨年度：300 名）

（看護 88 名，栄養 75 名，保福 92 名）　昨年度(看護 92 名, 栄養 98 名, 保福 110 名)

情報工学部 51 名　　（昨年度 83 名）

デザイン学部 87 名　　（昨年度 94 名）

参加者数内訳：

学年別参加者（%）

学年	看護学科	栄養学科	保健福祉学科 社会福祉専攻	保健福祉学科 子ども学専攻	デザイン学部	総計
3 年生	45(51.1%)	42(56.0%)	21(60.0%)	34(59.7%)	36(41.4%)	178（52.0%）
2 年生	35(39.8%)	22(29.3%)	9（25.7%）	17(29.8%)	36(41.4%)	119（34.8%）
1 年生	8（9.1%）	11(14.7%)	5（14.3%）	6（10.5%）	14(16.1%)	44(12.9%)
不明	0（0%）	0（0%）	0（0%）	0（0%）	1（1.1%）	1（0.3%）

県内，県外参加者

看護学科	栄養学科	保健福祉学科 社会福祉専攻	保健福祉学科 子ども学専攻	デザイン学部	総計
県内 86	県内 64	県内 30	県内 54	県内 63	県内 297 (86.8%)
広島 2	兵庫 3	兵庫 2	兵庫 1	兵庫 13	県外 45 (13.2%)
	香川 2	香川 1	香川 1	香川 3	
	鳥取 2	島根 1	広島 1	広島 2	
	広島 1	広島 1		大阪 2	
	高知 1			鳥取 1	
	京都 1			山口 1	
	沖縄 1			愛媛 1	
				熊本 1	

全学部の参加者数は昨年度（477 名）と比較して 84 名減少したが，一昨年（393 名）と同程度であった. 内訳は 1 年生が 12.9%(昨年度 14.8%), 2 年生が 34.8%(昨年度 26.2%), 3 年生が 52.0%（昨年度 59.0%）と特に 2 年生の参加者の割合が昨年度より増加しており，高校での学習のモチベーションの向上や進路決定への影響の観点からも意義があると考えられる．また県外からは主に関西以西，南は沖縄県からの参加者もあり，県外からの参加者数は 13.2%と昨年度（15.5%）より若干減少した．学部別ではデザイン学部の県外参加者の割合が 27.6%（昨年度 30.9%）と最も多く，続いて栄養学科が 14.7%（昨年度 19.4%）であり，今後広く参加者を募るためには県外高校への積極的な広報が必要である．今年度は全体の参加者数の減少がみられたが，大手予備校の模試と日程が前後したために参加者が減少したことも考えられる．

２．各学科におけるアンケート結果

２－１．看護学科

看護学科では，午前は講義「高校生のための小児看護学入門 : 子どもの運動機能の発達」を実施した．定員 70 名に対して 63 名のアンケート回収であった．内容への関心は「大変関心が持てた」53 名(84.1%),「まあまあ関心が持てた」10 名(15.9%)であった．内容の理解も全員が「完全に理解できた」「まあまあ理解できた」であった.

午後に演習 A「高校生のための老年看護学演習 : 認知症をもつ高齢者とのかかわり」では定員 30 名に対して 26 名のアンケート回収であった. 内容への関心は「大変関心が持てた」24 名(92.3%),「まあまあ関心が持てた」2 名(7.8%)であった．内容の理解も全員が「完全に理解できた」「まあまあ理解できた」であった.

演習 B「高校生のための基礎看護学演習：聴診器で聴いてみよう！身体（心臓）の音」では定員 30 名に対して 25 名のアンケート回収であった．内容への関心は「大変関心が持てた」21 名(92.0%)，「まあまあ関心が持てた」3 名(1.2%)，「無回答」1 名(0.4%)であった．内容の理解は無回答 1 名を除き，全員が「完全に理解できた」「まあまあ理解できた」であった．

看護学科の授業開放全体に対する満足度は 88 名中，85 名（無回答 3 名を除く）が「大変満足した」「まあまあ満足できた」であり，好評であったと思われる．自由記述の記載内容も概ね好評な意見であるが，演習時間がもっと長ければ良かったとの意見もあったため，次年度以降にいかしていきたい．午前の講義，午後の演習いずれも定員を満たして応募が〆切となったため，今後は定員の増加等を検討する必要があると思われる．また，参加者の高校は岡山芳泉（11 名），総社南（10 名），総社（9 名），笠岡（6 名），金光学園（6 名）などといずれも高校訪問を行った高校であり本学への進学実績の高い高校であった．

保護者と一緒に来た高校生もいたため，保護者の待機場所を保健福祉学部棟の中にも準備していたため，良かった．

２－２．栄養学科

アンケート回収数は 75 人で，講義，実験のいずれも，ほぼすべての回答が「大変関心が持てた」，「まあまあ関心が持てた」であったこと，「完全に理解できた」，「まあまあ理解できた」であったことから，内容はいずれも適当であったと考えられる．また，「大変満足できた」が 85%，「まあまあ満足できた」が 12%，「どちらとも言えない」が 3%（無回答を除く）であった．

アドミッション・ポリシーの理解は，「完全に理解できた」が 51%，「まあまあ理解できた」が 43%，「どちらとも言えない」が 4%，「あまり理解できなかった」が 1%（無回答を除く）であったことから，ほとんどの人が理解したと考えられる．

「高校生のための授業開放」を何で知ったかは，「本学ホームページ」が 44%と最も多く，次いで「オープンキャンパス」が 23%，「高校の先生」が 18%であった．

「高校生のための授業開放」に参加した理由は，「授業の雰囲気を知りたい」が 45%と最も多く，次いで「教員の雰囲気を知りたい」が 19%であった．

受験の予定は，「分からない」が 31%と最も多く，次いで「推薦入試のみ」が 28%であった．

開催時期については，「今回の時期で良い」の回答がほとんどであった．

受講者は約半数が 1・2 年生ということもあり，受験の予定が「分からない」の回答が多くなったと考えられる．１・２年生が多く受講する傾向は続いていることから，授業開放の内容は 1～3 年生を対象としたものにすることが望ましいと考える．

２－３．保健福祉学科

＜社会福祉学専攻＞

社会福祉学専攻の今年度の企画については，昨年度より演習科目を 1 つ増やし入学後に取得できる資格にそろえた企画構成であった．当日参加者数は下表のとおりである．

企画名		参加者数	うち高 3	高２	高１	不明
1	高校生のための国際福祉・地域福祉論 高校生のためのユニバーサルデザインの理論と実践	36	25	5	4	2
２－A	高校生のためのソーシャルワーク演習	17	13	3	1	0
２－B	高校生のための精神科ソーシャルワーク演習	10	8	1	1	0
２－C	高校生のためのスクールソーシャルワーク演習	8	6	1	1	0
２－D	高校生のための介護福祉演習	3	1	2	0	0
３－A	高校生のためのソーシャルワーク演習	9	7	1	1	0
３－B	高校生のための精神科ソーシャルワーク演習	9	4	2	3	0
３－C	高校生のためのスクールソーシャルワーク演習	9	6	2	1	0
３－D	高校生のための介護福祉演習	3	2	1	0	0

アンケート回収数は 35 であった．25 高校（岡山県内 29 校，兵庫県 2 校，香川県 1 校，島根 1 校），3 年生 21 名，2 年生 9 名，1 年生 5 名からの回答である．昨年度と比べても各学年の比率や県内・県外高校からの参加比率に大きな変わりはない．

すべての授業において，「内容への関心」や「内容の理解」への回答は「大変関心が持てた」「完全に理解できた」に集中しており，次に多かった「まあまあ関心が持てた」「まあまあ理解できた」への回答と合わせるとほぼ全数となる．参加者は 1 年生から 3 年生まで幅が広いが，適切な内容であったことがうかがえる．全体の満足度についても「大変満足できた」に 82.8%の回答があった．昨年度は同じ質問について「大変満足できた」が 77.5%であり，満足度が若干上昇していた．

「アドミッション・ポリシーの理解」については，「完全に理解できた」が昨年度の 38.7%から 48.5%へと上昇している．昨年度は 2 専攻合同での実施であったが，今年度は専攻別で説明しているため，受講者数が昨年度の 100 名超から 36 人に減っている．いわば高校のクラス環境と同様の人数であったことが影響したのではないだろうか．

「今回の＜高校生のための大学授業開放＞を何で知ったか」については，昨年度の「オープンキャンパス」32.6%，「大学 HP」38.7%，「高校の先生」40.8%から大きく変わり，「大学 HP 」45.7%，「オープンキャンパス」25.7%，「高校の先生」22.8%であった．今年度は早めに HP へ掲載したことが奏功したと推察される．

「参加理由」については「授業の雰囲気を知りたい」94.2%,「教員の雰囲気を知りたい」37.1%,「受験をするかどうかの判断材料」28.5%であった.「受験の予定」については，最も多いのが「わからない」37.1%であった．次いで「一般入試のみ」22.8%,「推薦のみ」と「推薦と一般の両方」が 20%であった．これは昨年度と目立った変化はない．授業満足度が高かったことは,「わからない」と回答した生徒が，この企画を「受験するかどうかの判断材料」とする際の好材料となるであろう.

なお，自由記述の内容及び傾向を見ると，社会福祉への理解や関心が高まったことを述べているものやわかりやすい授業内容や演習形態への支持を伸べているものが多かった．先にあげた「参加理由」への回答の「授業の雰囲気を知りたい」「教員の雰囲気を知りたい」という高校生のニーズに合致していたことがうかがえた.

＜子ども学専攻＞

子ども学専攻の企画内容は，授業科目が 1 科目変更したのみでほぼ昨年と同様の企画であった．当日参加者は下表のとおりである.

企画名		参加者数	うち高 3	高 2	高 1	不明
1	高校生のための教育心理学 高校生のための家庭支援論	43	24	13	6	0
2	高校生のための保育内容(表現) 高校生のための乳児保育演習	44	26	15	3	0

午前のみ，午後のみの参加者もいたため，アンケート回収数は 57 であった．33 校（岡山県内 28 校，香川県 3 校，広島県 1 校，兵庫県 1 校)，3 年生 34 名，2 年生 17 名，1 年生 6 名からの回答である．子ども学専攻においても，昨年度と比べて各学年の比率や県内・県外高校からの参加比率に大きな変わりはない.

授業評価については，講義科目は「内容への関心」や「内容の理解」への回答は「大変関心が持てた」「完全に理解できた」に集中しており，次に多かった「まあまあ関心が持てた」「まあまあ理解できた」への回答と合わせるとほぼ全数となる．一方，演習授業については回答のあった全数が「大変関心が持てた」「完全に理解できた」と回答していた．特に演習授業が保育に関心のある高校生にとってふさわしい内容であったことがうかがえる．全体の満足度については「大変満足できた」が 82.4%であり，ほぼ昨年同様であった.

「アドミッション・ポリシーの理解」については,「完全に理解できた」が昨年度の 42.6%から 68.4%へと大きく上昇している．先にも述べたが，今年度は専攻別で説明しているため，高校のクラス環境と同様の人数での受講であったことが影響したと推察される.

「今回の＜高校生のための大学授業開放＞を何で知ったか」については，昨年度の「「大学 HP」34.4%，オープンキャンパス」29.5%,「高校の先生」37.7%から,「大学 HP 」49.1%,「オープンキャンパス」15.5%,「高校の先生」24.5%と変化した．早めに HP へ掲載したことが影響していると推察される.

「参加理由」については「授業の雰囲気を知りたい」96.4%,「教員の雰囲気を知りたい」47.3%,「受験をするかどうかの判断材料」19.2%であった.「受験の予定」については,最も多いのが「わからない」45.6%であった.次いで「推薦入試のみ」21%,「一般入試のみ」19.2%,「推薦と一般の両方」が 14%であった.昨年度と比較すると「推薦入試のみ」が微増(昨年度 16.3%)しているが「一般入試のみ」(昨年度 34.4%)が減り,「わからない」(昨年度 31.1)が増えているのが目立つ.これまで,子ども学専攻においては,本企画の受講者は高い割合で志願し,入学する傾向があった.今年度のアンケートでの,受験するかどうか「わからない」し,「受験するかどうかの判断」より,子ども学専攻の授業や教員に関心があったが,受講しての満足度は高いという結果が,今年度の志願状況や合格・入学の状況にどのように反映されるか,注視する必要がある.

なお,自由記述の内容や傾向からは,楽しい体験型授業への評価が多かった.また保育への関心の高まりや新たな学びについての記述も多く見られた.併せて教員の魅力についての記述もあり,「授業の雰囲気」や「教員の雰囲気」を知りたいという高校生のニーズに合致していたことがうかがえた.

２－４.情報通信工学科

午前に講義「高校生のためのトランジスタ入門」,午後に演習「高校生のためのディジタル回路」を実施した.参加人数はそれぞれ 5,4 名であったが,その内 2 名が両方とも受講したため,実際の参加人数は午前午後で計 7 名であった.昨年に比べて参加人数が激減したが,これはハードウェアの授業であったためと思われる.オープンキャンパスの体験授業でもそうであるが,学部名が情報工学部であるせいか,ソフトウェアの授業の人気が高い.参加人数を増やすためにはソフトウェアの授業をすればよいが,学科の性格上ハードウェアの授業の方が多いので,その点を十分に広報し,入学後にミスマッチが起こらないようにする必要がある.

参加者全員のアンケートを回収することができた.授業への関心については,「関心が持てた」,「まあまあ関心が持てた」,「どちらとも言えない」,「あまり関心が持てなかった」,「関心が持てなかった」の 5 段階で尋ねた.「どちらとも言えない」は 1 名のみで,その他の受講者は「関心が持てた」または「まあまあ関心が持てた」と回答した.また,授業内容の理解については,「理解できた」,「まあまあ理解できた」,「どちらとも言えない」,「あまり理解できなかった」,「理解できなかった」の 5 段階で尋ねた.「どちらとも言えない」と「あまり理解できなかった」が 1 名ずつで,他の受講者は「理解できた」または「まあまあ理解できた」と回答した.そもそも関心を持って申し込んでいるはずなので,いずれも妥当な結果と考えられる.授業の冒頭で説明したアドミッション・ポリシーについても,「どちらとも言えない」は 1 名のみで,他の受講生は「理解できた」または「まあまあ理解できた」と回答した.

授業開放を知った手段(複数回答可)は,最も多かったのが「ホームページ」の 3 名で,例年と同様である.参加理由(複数回答可)は,「授業の雰囲気を知りたかった」が 5 名,

次いで「設備を知りたかった」と「受験するかどうかの判断材料にしたかった」が２名ずつであり，これも例年と変わらない．これに対して，本学部の受験予定については，学科まで決めて受験予定と回答したのは２名のみで，中期日程受験予定が１名，未定が４名であった．人数が少ないので，何とも言えないが，例年は受験予定の回答が多いのに対して，今年度は未定の回答が多かった.「既に関心があり，授業開放で意志を固める」という傾向から，「授業開放を判断材料の一つにする」という傾向に変わりつつあるのかもしれない.

２－５．情報システム工学科

午前に講義「高校生のためのプログラミング言語入門」，午後に演習「高校生のための３次元ＣＡＤ入門」を実施した．高校生のための大学授業開放が開始されて３年目になるが，毎年同じ題目で実施してきた．出席者は２９名で，講義２６名，演習９名であった．講義への出席者数は昨年度とほぼ同数だが演習は半減した．原因は不明である．毎年高校３年生の受講者が多いので，題目が昨年度と同じことが原因とは考えられない.

アンケートは出席者全員から回収できた．授業内容への関心度は講義，演習共に８割ほどが「関心が持てた」で，残りはすべて「まあまあ関心が持てた」であった．授業内容の理解度は講義の５割，演習の７割弱が「理解できた」としており，共に昨年度と比べて大きく伸びた．また「まあまあ理解できた」を含めると講義は８割，演習は９割に達する．授業の満足度は５割強が「満足できた」で，「まあまあ満足できた」を含めると８割になり昨年度より伸びているが，残りの２割は無回答であり，他の設問と比べて無回答の割合が極めて大きい.

これはアンケート用紙における設問の配置が悪く，満足度を問う設問を見逃したと考えられる．無回答者の中に自由記述欄で満足感を示した者がいることがそれを裏付けている．授業開始時に説明したアドミッション・ポリシーの理解度は７割強が「理解できた」としており昨年度よりも大幅に伸びた．残りは無回答１名を除き「まあまあ理解できた」としている.

今後は全員が理解できるようにする必要がある．授業開放を知った媒体の上位は「大学のホームページ」６２％，「オープンキャンパス」３８％，「高校の先生から」１４％であり，昨年度と比べて上位二項目が伸びて，第三位が半減している．参加した理由の上位は「本学の授業の雰囲気を知りたかった」７９％，「本学を受験するかどうかの判断材料にしたかった」５５％，「本学の教員の雰囲気を知りたかった」４５％であり，第３位は昨年度３位の「本学の設備を知りたかった」１４％と入れ替わった．また，全員が上位二項目のどちらかを選択している．授業開放の開催希望時期については，１名が補習授業のため８月上旬を希望し，１名が現状かまたはもっと遅い時期を希望したほかはすべて現状で良いとした．参加者の半数以上が本学情報工学部の受験を考えている．推薦入試と一般入試の内訳を含めて昨年度とほぼ同じ傾向が見られる.

２－６．人間情報工学科

人間情報工学科が行った授業開放に対するアンケート結果の分析として，まず内容の関心については，講義・実験とも８割以上が関心をもって参加していた．また内容の理解にお

いても，実験については十分に理解できたようであるが，講義の理解に関しては，一部の参加者にはやや難しかったようである．総合的評価しては，「満足した」が 67%，「まあまあ満足」が 27%であり，「満足できなかった」の回答がなく，自由記述で好意的な感想が述べられていた点を踏まえると，ほぼ全員が授業開放に満足できたようである．

開催情報の取得元は，「高校の先生」からが最も高く，次いで「大学ホームページ」からであった．前年と同様に「高校の先生」からの値が高かったのは，7 月に行った人間情報工学科教員の高校訪問での PR が有効であったためと考えられる．特に，地域創生コモンズまにわに対して今回初めて行った授業開放のネット配信（午前の配信において，人間情報工学科の講義を配信）にも，6 名の高校生と高校の先生が参加しており，地域創生コモンズまにわ近隣高校への訪問が有効であったと考えられる．

授業開放に参加した理由は，「授業の雰囲気を知りたい」と「受験の判断基準」の二つがが，全参加者の 7 割を占めていた．講義と実験の参加者のほぼ半数が人間情報工学科受験（推薦および前期）を希望している点を考慮すると，人間情報工学科受験を想定した下見を兼ねての参加者が多かったものと考えられる．

２－７．デザイン学部

2018 年度はアンケート回収数 87 名で，一昨年度の 84 名と同程度，昨年度の 94 名からは 7 名減少した．高校別では，県外からの参加者が，昨年度との比較では減少したが一昨年度と同数であった．（24 名→29 名→24 名）．学年別では， 3 年生の参加者が 36 名（昨年度 55 名）， 1 年の参加者が 14 名（昨年度 17 名）と減少し，2 年の参加者が昨年 36 名（昨年度 22 名）と大きく増加した．

講義，演習に対する関心・理解では，昨年と内容・担当者ともに異なっているので単純な比較はできないが，内容への関心では 2 名の無回答を除き「大変関心が持てた」「まあまあ関心が持てた」となっており，内容の理解では 3 名の無回答以外は「完全に理解できた」「まあまあ理解できた」であった．満足度は無回答 3 名を除き，「大変満足」「まあまあ満足」であった．AP の理解は，「まあまあ理解できた」が 45 名で最多，次いで「理解できた」が 36 名，「どちらとも言えない」は 4 名，「無回答」が 2 名となっていた．

授業解放を何で知ったか，では「大学ホームページ」44 名，「オープンキャンパス」26 名と約 80%を占め，「高校の先生」は 18 名，「友人」4 名となっていた．授業解放に参加した理由では，過去 2 年間と同様の傾向が見られ「授業の雰囲気を知りたい」「教員の雰囲気を知りたい」が多く，「設備を知りたい」と「受験をするかの判断材料」が同数でそれらに続いて多かった．開催時期は「今回で良い」が 86%を占めていた．

受験の予定では，昨年度と比べ「分からない」との回答が増加していた（29 名→39 名）．これは 2 年生の参加者が多くなった事とも関係していると思われるが，県外から授業解放に参加した 24 名に対して，一般入試のみを受験予定と回答した学生が 14 名であったことから，授業開放に参加することを「受験をするかの判断材料」とする傾向があるのではないかと推測する．

２－８．「コモンズまにわ」における LIVE 配信

授業開放の講義について，双方向会議システムを使った LIVE 配信を「コモンズまにわ」にて今年度初めて試みた．事前の広報では，「コモンズまにわ」に近い勝山高校には高校訪問で直接案内をしていたことから，勝山高校の教員，高校生延べ６名の参加者があった．対象の講義は，情報工学部の穂苅真樹教授の「生活を支える人間情報工学」およびデザイン学部の益岡了准教授の「つかいやすいをデザインする」であった．本学に双方向システムが１式しかないことや，現地ではネット環境が整っていることや現地スタッフが必要であることなど，継続に関しては実施体制を含めて今後の課題である．

３．授業開放参加者の入試受験状況（平成 29 年度）

授業開放参加全体に対する入学者の割合は，全学では 18.4%であり昨年度と差はないが，デザイン学部が 28.1%で昨年度（18.4%）と比較して 10%程割合が増えた．高校 3 年生および既卒者の参加者に対する入学者は全体で 30.1%を占め，特にデザイン学部では 48.2%で，参加者の約半数近くが入学していることになる．また，入学者の中で授業開放に参加していた割合は，情報工学部で 12.1%と低かったが，全体で 22.6%を占めた．

平成 29 年度の授業開放参加者全体に対する平成 30 年度入学者の割合（詳細は付録を参照）

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
授業開放参加者（全体）に対する入学者の割合	14.5% (17.2%)	20.9% (20.8%)	28.1% (18.4%)	18.4% (18.0%)
授業開放参加者（高 3，既卒）に対する入学者の割合	24.0%	31.6%	48.2%	30.1%
入学者に対する授業開放参加者の割合	29.1% (32.0%)	12.1% (8.9%)	29.0% (17.4%)	22.6% (19.2%)

括弧内：平成 28 年度の授業開放参加者全体に対する平成 29 年度入学者の割合

４．今後の課題

授業開放における受験生の参加者の中で，本学に入学した割合が 30%で，さらに入学者の 5 人に 1 人の割合で授業開放に参加していた結果から，高大接続事業として本事業が高校生にとって進路の参考となることは必須の課題であり，今後もさらに広報活動を強化し，調査を続ける必要がある．今年度初めて試みた LIVE 配信については，ネット環境や実施体制など，今後の継続にはさらなる環境整備が課題である．出前講義の依頼が一件もなかったことについては，各学科に高校側からの直接依頼の授業との区別を含めて，あり方そのものを検討する必要がある．また，当日の会場案内の充実や熱中症の発症予防に向けて引き続き大学としての十分な対策が必要である．

高校生のための調理学実験

高校生のための保育内容

生活を支える人間情報工学

フェルトメイキング

(2) その他の高大接続事業

本学に高校生が来校し，講義や実験などを受ける形で実施した連携事業は以下の通りである．

実施日：平成 31 年 2 月 7 日（木），2 月 12 日（火）　いずれも 16 時～18 時

内容：食品の機能性を測定する実験方法の指導

受講者：清心女子高等学校

総合的な学習・物質科学課題研究選択者　２年生 5 名，引率教員 1 名

場所：保健福祉学部棟 6214 生理・生化学実験室，学部共通棟（南）6207 理化学実験室

担当教員：栄養学科　伊東秀之教授

2-3-6 まとめと課題

2021 年度からの大学入学共通テストの導入を控え，平成 30 年度初頭にアドミッション・ポリシーおよび入試概要を公表した．これまでに収集した入学者成績追跡調査ならびに入学時アンケートの分析結果，他大学の入試改革状況，外部試験実施準備状況など鑑みて，学力の3要素を醸成に向けた高大接続改革を進め，今後，高大接続事業や入試広報などの改革を積極的に進め，高校側との信頼関係を深めながら高大接続の更なる充実を図ることが必要と考えられる．

2-4 共通教育部会

共通教育部会は，大学教育開発センター規程第2条第1項第7号に示される「共通教育の充実及び共通教育と専門教育との連携に関する」業務を実施するために設置された部会である．共通教育科目に対するカリキュラムの企画・立案を行うとともに，教養教育の体系化，教養教育に対する評価基準の作成と実施，共通教育におけるアクティブ・ラーニング授業の企画と実施などが具体的な業務である．今年度の取組について，概要は以下の通りである．

・共通教育科目の各カテゴリーにおいて，学生アンケート等を活用して開講科目と開講形式の検討を行った．その結果，英語教育の学修成果はセメスター制の方が高いと判断し，平成31年度時間割りにおいて，英語ELP1～6をセメスター制で開講することを共通教育部に提案した．また，複合PBL科目のうち2科目を廃止し，1科目を1単位化するなどの科目削減を共通教育部に提案した．

・共通教育科目修了時における学修成果の評価法について検討を行った．(1)次年度から成績や履修人数の経年変化を調査する，(2)共通教育科目の履修比重が高い2年終了時点において，共通教育科目の達成度等に関する学生アンケートを実施する，(3)各教員が行っている評価法を調査して，カリキュラム全体の評価に活用する，などの意見を集約した．

・共通教育におけるアクティブ・ラーニングの導入を推進するため，複合PBL科目についてアクティブ・ラーニング導入に必要な予算の設置を共通教育部に提案した．

・共通教育部会主催のワークショップ「ドイツ語・韓国語ミニミニ講座」を企画し，大学祭の初日において，語学教育推進室主催のスピーカーズコーナーと連携して実施した．

最後に共通教育部会の今後の課題について，スケジュールも含めて述べる．

1. 共通教育全般について，目標を達成すべく内容を継続して検討，評価し，評価結果に応じて改善する．

2. H30 年度から導入した教養新カリキュラム（人文・社会科学，自然科学，健康科学）について，複合 PBL 科目を中心に，単位数の適正化や科目数の削減も視野に入れつつ内容を検討，評価し，評価結果に応じて改善する．

3. 語学国際では，(1) ELP の学修成果指標の 1 つである TOEIC の全学平均点について，第 3 期中期計画の目標を達成できるように，講義や演習のさらなる充実を図る．また，(2) 国際交流センターと協働で，語学文化研修，海外研修として効果的な実施先と実施数を継続して検討する．

4. 社会連携では，H31 年度で終了する COC+事業について，その後のカリキュラムについて検討する．さらに，H32 年度から定常的な開講へ移行する．

	第 3 期中期計画					
	H31	H32	H33	H34	H35	H36
1. 共通教育の検討，評価と改善	検討，評価，改善					
2. 教養新カリの実施，評価と改善	実施と評価			改善		
3(1). ELP の実施，評価と改善	実施と評価		改善			
3(2). 国際交流	研修実施先と実施数の検討			定常的な開講		
4. 社会連携	ポスト COC+の検討		定常的な開講			

2-5 FD 部会

2-5-1 概要

FD 部会では，「教育の質の改善」を目的に，主として，1) 相互授業参観，2) 授業評価アンケート，3) FD 研修会について取り組んだ．FD 研修会では，初年次教育に関する講演およびワークショップを企画した．また，相互授業参観結果を授業の実践に活かすための授業改善意見交換会を企画すると共に，教員への支援に関する取組を行った．以下，各取組についての詳細を報告する．

2-5-2 相互授業参観

2-5-2-1 相互授業参観の概要

(1) 平成 30 年度授業参観の方針

平成 17 年度の講演会，平成 18 年度のモデル授業参観の実績を踏まえ，平成 19 年度より授業の工夫や改善のための研鑽機会を設けるという目的のもと，全専任教員を対象とした相互授業参観を継続実施してきた．本年度においては，実施方法及び実施時期（第３クォーター及び第４クォーター）は昨年度取組と同様とし，公開教員数及び参観教員数の増加を図るため実施期間を各クォーター2 週間から 3 週間に延長した．

(2) 平成 30 年度授業参観の実施内容

1) 目的

具体的な授業の進め方や指導技術について学び，自己の授業環境で活かすことのできる指導方法を模索することにより，よりよい授業づくりを推進する．

2)実施方法

①公開授業の開示

すべての専任教員（助手を除く）は，第３クォーターまたは第４クォーターより，公開する授業科目１コマ（授業形態は問わない）を選び，授業概要，月日，時限，教室名を知らせる．共通教育を兼務する教員は当該科目の公開を行なうものとする．ただし実施期間に該当するものがない場合は学部教育科目でもよい．2 コマ以上の連続授業については，原則そのうちの１コマを公開する．

②参観授業の選択

教員は公開授業一覧より参観希望授業を選択する（他学部教員の公開授業を参観してもよい)．

③実施期間

第３クォーター　10 月 17 日（水）～11 月 9 日（火）(3 週間)　および

第４クォーター　12 月 5 日（水）～1 月 11 日（金）(3 週間)

3)授業参観レポート

授業参観終了後，参観教員は下記項目についてレポートを作成し，公開教員に提出する．

① 観点別 6 項目の意見・助言（意見・助言の記述及び，特に参考になった項目へのチェック）

項目 1　授業の準備・導入

（例）環境づくり，出欠確認の仕方，前回授業内容のふりかえり，学習目標の確認　等

項目 2　授業の構成

（例）形式・構成，時間配分，アクティブ・ラーニングの活用　等

項目 3　授業の展開技術

（例）重要ポイントの強調，話し方，板書の仕方　等

項目 4　教材の内容・活用

（例）(適切な）内容・形態，視聴覚機材等の適切な選択と使い方，教材提示のタイミング　等

項目 5　学生への関わり

（例）学生とのコミュニケーションの仕方，学生の意欲や理解を高める関わり方，理解力の異なる学生への配慮　等

項目 6　授業のまとめ

（例）授業内容のふりかえり，予復習など自己学習の促進　等

②その他，授業全体を通して参考となった点・工夫が見られた点・助言等（自由記述形式）

③今後，自身の授業改善において具体的に採り入れたい点（自由記述形式）

公開教員はコメント欄にコメント記入し，レポートを参観教員と各学科授業参観担当委員の双方に提出する．

4)授業改善意見交換会

相互授業参観活動を基に，具体的な授業の進め方や指導技術について意見交換・情報共有し今後の授業改善に役立てることを目的に，平成 31 年２月 15 日に授業改善意見交換会を開催した（詳細は後述）.

2-5-2-2　相互授業参観の結果

相互授業参観後に提出された授業参観レポート 47 件を分析した結果は次に示す内容であった.

(1) 参観報告者と授業公開者の集計表

H30年度授業改善意見交換会　相互授業参観　参観報告者と授業公開者の集計表　　平成31年2月15日

学科	看護学科	栄養学科	保健福祉学科	情報通信工学科	情報システム工学科	人間情報工学科	デザイン工学科	造形デザイン学科	地域共同研究機構	計
教員数	21	19	28	20	18	13	19	22	1	全教員166名
公開者数	12	8	24	16	17	11	11	17	0	全公開者115名
参観された教員数	4	3	7	6	7	7	2	6	0	42名
参観した教員数	2	8	9	6	3	7	3	7	2	47名

参観した ＼ 参観された	看護学科	栄養学科	保健福祉学科	情報通信工学科	情報システム工学科	人間情報工学科	デザイン工学科	造形デザイン学科	地域共同研究機構	参観した教員数計
看護学科	2									2
栄養学科	1	6	1							8
保健福祉学科	1	1	5				1	1		9
情報通信工学科			1	5						6
情報システム工学科				1	2					3
人間情報工学科					1	5				7
デザイン工学科							3			3
造形デザイン学科							1	6		7
地域共同研究機構		1	1							2

(2) ６つの観点別の意見・助言の結果

授業の準備・導入では，43 件の意見があった.「具体的な流れのわかるプリントを配布」「ふりかえりなどパワポで示す」など，効果的な前回授業の振り返りに関してや，「それぞれの課題で何に注目してほしいのか分かりやすく説明」「演習の目的や今後のスケジュールを伝える」など，効果的な授業中の学生への指針に関して，肯定的な意見があった.また「出席カードを一人ずつに配布」「出欠確認と宿題提出をあわせて行う」など，効率的な出席の確認方法が確認された.

授業の構成では，44 件の意見があった.「グループ間での共通点や相違点を確認」「学生が考え，意見を言う時間を十分にとる」などアクティブ・ラーニングを効果的に活用していた意見や，「最後に授業内容のまとめと今後の展開を説明する」「課題の解答→今回の単元内容説明→今回の単元」など効率的な時間の使い方に関する意見がある一方，「課題をこなす時間が少しだけ長すぎた感じがあり」という否定的な意見もあった.「講義時間の中ごろに，映像つきの音楽を聴く」といった効率的な機材の活用に関する意見があった.

授業の展開技術では，42 件の意見があった.「タブレットにテキスト本文を映して解説」「コメントを PDF 化し全員が閲覧でき振り返りに効果的」など，授業の展開に関しての肯定的な意見，「細かい点まで発表者の成果を観察して指摘できている」「ゆっくり，丁寧に

授業を進めて」など，話し方・態度・技術に関しても肯定的な意見があった．また，「多面的な思考を促す」「特に確認が必要な際には，概念による整理を行う」など学生の理解度・到達度を確認する肯定的な意見があった．

教材の内容・活用では 45 件の意見があった．「事前にしっかりと準備されたプリント，それに対する指示を絶秒なタイミングで提示」「実験テキストが詳しく，丁寧に作られていた」「印象的な写真を見せることで重要事項を学生に印象付ける工夫」など，教材の内容だけではなく，学生への指示のタイミングにも知識の習得に効果があることが述べられていた．その一方で，「パワポの文字がもう少し大きいと見やすい」といった指摘もあった．

学生への関わりでは，46 件の意見があった．「苦手意識を持たせることのないように配慮」「全員の努力を認め誉めるコメントがあり学生の自信につながっている」など，学生個々への対応ができているといった意見や，「少し工夫すればやれそうと学生が思えるような助言」「適宜クリッカーを利用」など，学生の参加を促す工夫が取り上げられていた．また「学生につねに問いかけ」「助言のタイミングがとても適切」「本人に気付かせるような絶妙な声かけ」といった学生の集中力持続への工夫，授業の雰囲気づくりへの工夫が取り上げられていた．

授業のまとめでは，46 件の意見があった．「次回の小テストの範囲を示す」「授業のまとめは，はっとりんで行う」「グループワークで取り組んだ内容が次回以降の授業でどのように関係していくかを伝える」「事前課題の確認と，間違えやすいポイントを説明する」など，予習・復習，自己学習を促す工夫に対しての意見が挙げられていた．また「新たな課題・疑問点指摘し，次回授業予告とする」「最後の 5〜10 分で，今回のまとめを黒板に書く」「演習の開始前に次の授業で解説を行うこと，定期試験は主に演習問題から出題することを伝える」「講義した内容をどう生かしていくのか，どういう視点で必要なのかなどが具体例をあげる」など，まとめ方の工夫があったことが取り上げられていた．

授業全体を通して参考となった点や工夫が見られた点では，47 件の意見があった．「質問に対して，自分なりの考えを答えている」「学生の相互的な学びを促している」「何を教えたではなく，何を学んだのかをきちんと伝わる工夫」など，学生を興味深く聞き入れさせることや，学生の理解度を高めるための工夫があったこと，また，「本日の実験内容の要点が簡潔に述べられ，続いて，実験の具体的な内容や注意事項がまとめられているれ，学生が何をすべきか認識し易い」「本授業の流れや課題のプロセスの中での位置づけを，充分理解させる」との報告もあり，学生の現在の到達点や，到達目標を具体化する工夫があったことも報告されていた．さらに，「教員と学生の親密な関係性の中で，表現活動を楽しんでいる学生の姿が印象的」などの意見もあった．

今後，ご自身の授業改善において具体的に採り入れたい点では，47 件の意見があった．「ゆっくり丁寧に話すよう気を付けたい」「コミュニケーション練習などの学生を飽きさせない工夫」「学生同士で意見を出し合う」「授業最後に，まとめと今後の展開を説明する」といった今後採り入れたいことや，「ICT に（必ずしも）依存しない，紙とペン，それらを

用いた参加学生間での対話的学びから醸成される個の思考の深化こそが，これからの“アクティブ・ラーニング”のあるべき姿ではなかろうか」など，アクティブ・ラーニングの手法についての意見もあった.

授業公開教員コメントでは,47 件のコメントがあった.参観者の意見や助言を受けて,「PowerPoint のみ，板書のみ，配布資料のみ，とならないよう，それぞれのよさをなるべく活かした授業づくりができるようにこころがけている」という意見や,「遅刻者の扱い，導入の時間，復習問題の配布のタイミングなどは今後検討していきたい」など助言に対し今後取り入れていきたいといったコメントがあった.また,参観者の肯定的な意見や参考にしたい内容に対して公開教員から丁寧に補足説明がされているコメントもあった.

2-5-3　授業評価アンケート

本学では，FD 活動の一環として，平成 16 年度より定期的（毎学期末）に授業評価アンケートを行っている.授業科目ごとの集計結果は各授業担当者にフィードバックし授業改善に活用してもらうとともに，　これらのデータに基づいた評価尺度の妥当性･信頼性の検討,評価得点の経年変化の吟味など統計的分析も随時行っている．また，組織的（学部・学科・コース・カテゴリー 別授業科目単位等）な教育改善の資料として用いられてもいる．今まで，授業評価アンケートは変遷を経てきたが，平成 29 年度から教学システム（Campus Square,「はっとりん」）が導入されたのを機に，新しい Web アンケートを開始した．新アンケートの質問項目は，以下の 19 問に自由記述を加えたものである.

新アンケート質問項目

問１　　授業１回あたりの学習時間
問２　　授業の出席率
問３　　真剣に受講した
問４　　この授業を理解するために努力した
問５　　授業は計画的に行われていた
問６　　授業では考える機会や時間が与えられた
問７　　授業で用いた教科書や資料は適切だった
問８　　授業は学生の理解度を確認しながら進められた
問９　　授業では教員に熱意があった
問１０　教員は学生の質問に対して丁寧に対応した
問１１　授業は丁寧に進められた
問１２　授業中に課された提出物は内容をよく評価していた

問１３　シラバスの内容はよく理解できた
問１４　授業内容はシラバスにある目標に合っていた
問１５　シラバスの説明は十分に行われた
問１６　教員の説明はわかりやすかった
問１７　受講して内容に興味や関心が湧いた
問１８　この授業を受けて力がついた
問１９　この授業を友人や後輩にも勧めたい

(1)授業評価アンケートの実施方法・活用方法

原則として全授業科目（非常勤講師担当科目を含む）を評価対象とするが，学外実習をともなう科目や履修者が 4 人未満の科目などは，本学統一様式によるアンケート対象からは除いた．アンケートは授業科目ごとに全受講生を対象として無記名で学期末に実施した．回収されたアンケートは大学教育開発センターIR 部門が集計し，後日，統計処理した資料を授業担当者に送付している．学部・学科・コース・授業科目によっては，これらの資料に基づいた授業改善策などの検討が行われている状況である．

一方，アンケートの回答者である学生に対する直接的なフィードバックは現在行われていない状況である．現在のシラバスに有用と思われる情報を記して科目を履修登録する際の参考に供する方法が検討されているが，未だ具体案とはなっていない状況である．

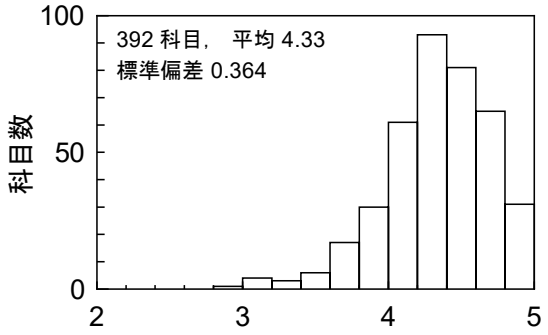
(2)アンケート集計結果の概要（平成 30 年度後前期及び後期）

学部授業科目については，平成 30 年度後前期の実施科目数は 392 科目（実施率 99.2%，延べ受講生数 17,324 人），平均回収率は 51.4%であり，平成 30 年度後期の実施科目数は 361 科目（実施率 96.8%，延べ受講生数 15,034 人），平均回収率は 48.4%であった．実施率は 96.8%以上と高いが，回収率は 50%程度である．Web アンケートに移行以来回収率が低く，その向上が課題である．

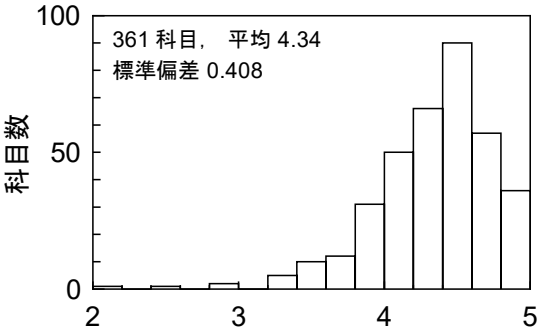
大学院授業科目については，平成 30 年度後前期の実施科目数は 35 科目（実施率 71.4%，延べ受講生数 414 人），平均回収率は 45.7%であり，平成 30 年度後期の実施科目数は 16 科目（実施率 55.2%，延べ受講生数 170 人），平均回収率は 38.2%であった．実施率が学部に比べて低く，その向上が課題である．

平成 30 年度前期及び後期に実施した授業評価アンケートの平均評価点の分布をヒストグラムにて示す．なお，ヒストグラムに示される平均評価点は，問３から問１９の１７項目に対する平均値である．

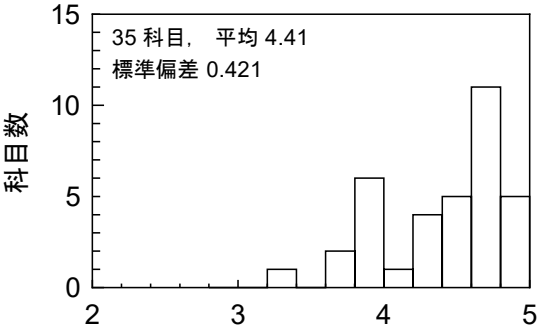
学部授業科目については，平成 30 年度前期実施アンケートの平均評価点は 4.33（SD=0.364），後期実施アンケートの平均評価点は 4.34（SD=0.408）であった．次いで，大学院授業科目については，前期実施アンケートの平均評価点は 4.41（SD=0.421），後期実施アンケートの平均評価点は 4.45（SD=0.351）であった．学部，大学院ともに高い評価を得た．



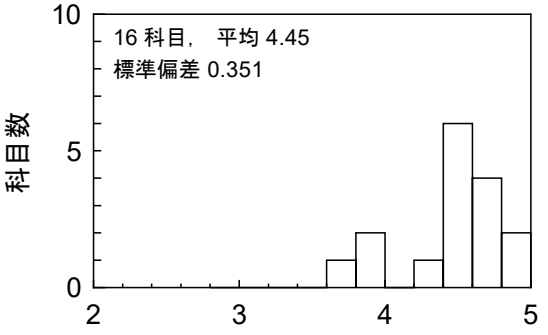
H30 前期平均評価点（学部授業科目）



H30 後期平均評価点（学部授業科目）



H30 前期平均評価点（大学院授業科目）



H30 後期平均評価点（大学院授業科目）

2-5-4 FD 研修会

平成 30 年度は，教育力向上支援事業成果報告会を行い研究成果の教員への周知を図ると共に，初年次教育に関する研修会を実施し，相互授業参観結果を授業の実践に活かすため，授業改善意見交換会を企画した．また，岡山県工学教育協議会主催の「教育シンポジウム～工学教育における実習・演習の取り組み～」（2019 年 1 月 12 日開催）に参加し，他大学の事例を調査した．

2-5-4-1 教育力向上支援事業成果報告会

(1)開催概要

教育の充実・質の向上及び教員の教育力の向上に直接結びつく調査並びに実践活動に交付する学内競争的資金である教育力向上支援事業の成果について，従来は報告書提出のみ

であったが，昨年度より，教員間での共有を促進するとともに広く公表するために，報告会を開催することとした．本年度は，平成 29 年度末に完了した事業を対象に，下記のように成果報告会を実施した．なお事業名に※を付した 1 件については，岡山県立大学教育研究紀要で成果が公表された．

日　　時	平成 30 年 5 月 29 日（火），13:00～17:00（OPU フォーラムと同時開催）
場　　所	体育館
発表方法	ポスター展示 各ブースには B1 サイズ（縦 1030mm×横 728mm）スチレンボード 1 枚を設置し，指定ブースにポスターを展示した．また，事業関係者 1 名以上がブースに常駐し来場者への発表と議論を行った．

(2) 参加者と結果

辻学長をはじめとして多くの参加者による聴講及び議論が活発になされ，教員間の情報共有が促進された．その結果，各教員の教育力向上のための改善策が多く生まれる良い機会になった．また，今年度から OPU フォーラムとの同時開催となったため来場者が多く，保健福祉分野・情報工学分野・デザイン分野に携わる様々な企業の方，地域の方，教職員が参加し意見交換を行った．

事業代表者（学科）	事　業　名
齋藤美絵子（造形デザイン学科）	情報工学部・デザイン学部合同による協働教育プログラムの実践
山下万吉（造形デザイン学科）	キャリア形成支援のためのポートフォリオセミナー及び企画提案力向上を目的とした教育プログラムの実施
野宮謙吾（造形デザイン学科）	大学間連携によるキャリア教育プログラムの実践
島田清徳（造形デザイン学科）	ワークショップを活用した学生のキャリア形成プログラム
瀬島吉裕（人間情報工学科）	機械系科目の接続を考慮した学習教材の開発
井上貴浩（人間情報工学科）	実用的課題の実験科目への導入とメカトロ教育への実践
高戸仁郎（人間情報工学科）	地域資源を活用したスポーツ授業の開発と効果検証
佐藤和順（保健福祉学科）	リアリティショックを克服し就業継続できる力量を有した保育者養成のプログラム開発
森下眞行（デザイン工学科）	デザインパテントコンテストを活用した実践型創造力創出教育プログラムの開発※

2-5-4-2　大学教育開発センターFD 部会第 3 回 センター・ワークショップ，「『新入生の不安を安心と期待に変えるには？』～『初年次適応』教員がすべきことは何かを考える～」

(1)開催概要

新入生は何が不安で，教員は何をすればいいのか？学生とどう向き合い，何を提供しどのような授業をしたらいいのか？新入生の「不安」を「安心」に変え，どのように期待感を醸成するか，また学生が安心する場をどう上手く創るかに関して，講義のあとで「記者会見」の演習を行い，参加者全体で学び，考えた．

開催日時	平成 30 年 9 月 14 日（金）14：20～17：30
開催場所	岡山県立大学　学部共通棟（北）8105 講義室
講師	本田貴継先生（株式会社ラーニングバリュー専務取締役）

(2)参加者

参加者数は教員が 28 人，職員が 2 人の合計 30 人であった．

(3)アンケート結果

参加者には用意したアンケートの回答を要請し，全員の回答を回収した．研修会の満足度や講師についての満足度は以下の通りであった．

設問	教員・職員の別	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
研修会の満足度	教員	80%	16%	4%	0%	0%
	職員	0%	100%	0%	0%	0%
講師についての満足度	教員	88%	12%	0%	0%	0%
	職員	100%	0%	0%	0%	0%

自由記述の中から，(A)今回の報告は全体を通して有益だったかどうかの感想・意見，(B)今後，自分の活動で本日得た知識や方法を活用する考えについて，(C)今回のワークショップ（講演，実施方法等）に対する感想・意見，(D)今後のワークショップに希望するテーマ，の四つについて分類したものを以下に示す．

(A)今回の報告は全体を通して有益だったかどうかの感想・意見

分類	記述
有用な点	・記者会見の研修では，見られていることに気づかないくらい楽しみに集中した． ・記者会見はとても楽しかった．人と話すことが苦手な私のような学生にとっては，とても良い機会になるだろう． ・実際に記者会見というアクティビティを体験することで，話を聞くだけでなく実感として研修することができた． ・学生の不安感を認識できてよかった．　・学生への接し方について参考になった． ・授業やその他の時間の学生への接し方などを考え直す良い機会になった．

意見	・学びにはなるが，よくある研修かと思う．研修はインフォーマルな関係の「仲良くなること」が目的．しかし，私たちはフォーマルな関係で仕事をしている．フォーマルで問題があれば，インフォーマルも困難になる．組織は多様な人が集まっているので，相手の文化などへの考慮が必要かと思う．

(B)今後，自分の活動で本日得た知識や方法を活用する考えについて

分類	記述
有用な点	・事務職だが，学生を集めて関わる機会があり，主体となってもらいたいが意見が出にくい時に，以降は参考にしたい． ・自身が担当している共通教育のオムニバス授業で，全ての学部，全学年参加のアクティブラーニングを実施している．その最初に自己紹介を行っているが，本日の自己紹介ネーム立ては良いので，次回より活用したい． ・１年生と接するときに大切にしようとか，気をつけようと思う内容がたくさんあり，とても勉強になった． ・記者会見は始めて経験したが，大変役立つ手法だと思った． ・信頼関係を作る，徐々に場を作る，よく見る（時々，場に混ざる），場の安定のため笑顔になる（する）ことが大事か． ・関係性を大事にしていきたい．
意見	

(C)今回のワークショップ（講演，実施方法等）に対する感想・意見

分類	記述
有用な点	・グループでの記者会見を体験した後に資料を使用しての説明があり，わかりやすかった． ・大変参考になった． ・グループの先生方と親しくお話する機会が得られて有意義だった． ・学生のファシリテーションは，あの様な若いプロの方が行うと学生もついてきやすいのではないか． ・講師の本田先生には大変分かりやすく具体的な事まで教示いただき感謝．
意見	・後半に若干ダレ気味になってしまったかもしれない．

(D)今後のワークに希望するテーマ

・グループ学習の是非やノウハウ． ・チームビルディングの手法． ・ルーブリックについて（講義と演習・実習のルーブリック）．

2-5-4-3　授業改善意見交換会

(1)実施概要

相互授業参観活動を基に，具体的な授業の進め方や指導技術について意見交換・情報共有し，今後の授業改善に役立てることを目的に，授業改善意見交換会を開催した．

本年度については，昨年度に引き続き分野別の議論深化を図ることを目的とし，学部及び共通教育部別のグルーピングとした．

開催日時：平成 31 年 2 月 15 日（金）12:40～14:20

開催場所：岡山県立大学 8105 講義室

プログラム：

１ 開会（尾崎 FD 部会長）

２ 相互授業参観の実施結果報告（荻野）

３ グループディスカッション（野宮）

テーマ：「よりよい授業づくりの方法とは」

相互参観授業レポートの観点 6 項目より最大 3 項目を選び，「よりよい授業づくりの方法とは」をテーマにディスカッションする．

・ディスカッション後，模造紙にまとめる

・各班の代表者にて発表する

４ まとめ（田内大学教育開発センター長）

５ 閉会（尾崎 FD 部会長）

(2) 参加者

参加者数は 53 人，その内訳は教員が 52 人，職員が 1 人であった．

(3)グループディスカッションについて

学部及び共通教育部別による８班（各班 6～7 名）をグルーピングし，「よりよい授業づくりの方法とは」をテーマに班別のディスカッション（約 40 分間）を行った．次に各班の代表者により，ディスカッションの結果を発表した（各班約 3 分）．

写真 1（ディスカッション風景 1）

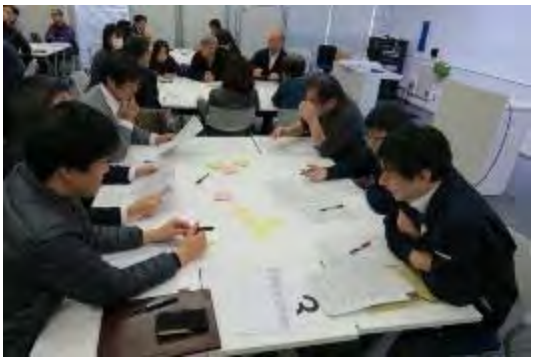


写真 2（ディスカッション風景 1）

各班において選択された項目とディスカッションの内容（抜粋）は下記の通りであった.

【項目 1 授業の準備，導入】

・出欠確認が宿題提出を兼ねていて集中して始めることができていた.
・クリッカーを使用していた.
・教室の座席(机の配置)を描いた紙を回す．代返防止に効果あり，かつ，後ろの席によく座る学生を把握できる.
・インターネット上に PowerPoint の PDF 版をあげておくことで，新しい言葉などの予習ができ，予習シートを作成する.

【項目 2 授業の構成】

・PowerPoint では大事な所は抜いて自分で書かせることで，ノートをとらせる.
・PowerPoint と板書は，併用することが良さそうである.
・演習は，クォーター制からの週 2 回よりも週 1 回が適当.
・アクティブ･ラーニングに向いている科目と，基礎科目などのように向いていない科目があるのでは.

【項目 3 授業の展開技術】

・レポートで，途中経過を書かず答えのみのものは，修正させるために返却，再提出の必要があり，電子ファイルを使用している.
・授業の最初に，スマートフォンを使用しない，板書等，約束事を課す.

【項目 4 教材の内容・活用】

・アクティブ・ラーニングの為の教室が必要である.
・学生に iPad などの端末を持たせた ICT を活用した授業展開ができればよい．e-ポートフォリオシステム，履修カルテの電子化，WIFI 環境，AV 環境の整備があればよい.
・書画カメラが使いやすい.
・配布資料の配布のタイミングを適切にするとよい. 内容に応じてその都度配布すると集中させやすい.
・教科書は指定すべきだが，教科書だけでは難しい. 教科書と教える内容の間にギャップがある.

【項目 5 学生への関わり】

・40 分経過したら，2～4 分休みを取りリフレッシュさせる.
・課題の返却時に一言声をかける．特に問題のある学生には研究室に呼び出して話をし，成績上位者には，レベルの高い課題を出す.
・複数の教員が様々な立場から評価される必要があり，複数の教員がどうやって分担して学生を指導するかを検討しなければならない.
・全員への対応が難しい．できる学生が不満の無いよう，中間より上の学生にポイントを置くことが良いのではないだろうか.
・クリッカーの活用により意欲が高まるのではないか.
・授業中に私語をする学生に対し，巡回し近くに寄ってジェスチャーで伝える.
・15 分で 1 クールなど，途中で切り替えられる工夫をする.
・着席について「後ろ 3 列を空けるよう」「前 1 列を空けて」，自由に座らせるなど様々であるが，席の工夫が必要だ.
・大人数の授業では，学生同士チェックさせてから，更に教員が確認することが有効だ.

【項目 6 授業のまとめ】

学生の理解度を確認するための小テストの方法について以下の意見が出た.

・学生の理解度を測れるだけではなく，出席代わりになり，かつ，小テストに向けて学生がより真剣に勉強する.

・限られた 90 分の講義時間中に毎回実施することは困難である.

・可能であれば小テストを実施したいと考える教員が多い.

学生に復習を行ってもらうためのアイディアとして以下の意見が出た.

・講義時間内で質問時間を設けることが困難であることの対処方法として，講義終了後に学生が教員にメールを送る．ただし強制ではなく，メールを送った学生は加点の対象になるようにしている．そのメールの内容は「講義中によく理解できたこと」「よく理解できなかったこと」である．教員は可能な限りメールで補足説明をしている．学生氏名は非公開で「よく理解できなかったこと」について学内専用の web ページで公開している.

なお，ディスカッションのテーマとして選択された項目の総数は下記の通りであった.

項目１　授業の準備・導入・・・４

項目２　授業の構成・・・３

項目３　授業の展開技術・・・２

項目４　教材の内容・活用・・・５

項目５　学生への関わり・・・６

項目６　授業のまとめ・・・３

⑷アンケート結果

参加者には用意したアンケートの回答を要請した．回収した回答は 39 通（教員 39 名）であった．意見交換会の満足度等は以下の通りであった.

(A)意見交換会について	とても満足 26.7%	割合満足 53.3%	どちらともいえない 15.6%	やや不満・とても不満　4.4%
(B)実施方法について	とても満足 20%	割合満足 57.8%	どちらともいえない 13.3%	やや不満・とても不満　8.9%
(C)講師の発表について	とても満足 15.6%	割合満足 26.7%	どちらともいえない 24.4%	やや不満・とても不満　4.4%
(D)会の長さについて	とても長い 2.2%	やや長い 8.9%	ちょうどよい 71.1%	やや短い・とても短い　17.7%
(E)必要な知識・方法は学べたか	かなりできた 24.4%	できた 55.6%	どちらともいえない 13.3%	あまりできない 4.4%
(F)得た知識・方法を活用しますか	是非活用したい 26.7%	できたら活用したい 53.3%	どちらともいえない 13.3%	

自由記述の中から，(A) 意見交換会についてその理由，(B) 実施方法についてその理由，(C) 講師の発表についてその理由，(D) 会の長さについてその理由，(E) 必要な知識・方法は学べたか，それはどのような点か，(F) 得た知識・方法を活用しますか，それはどのような点か，(G) 意見・要望の七つについて分類したものを以下に示す.

(A) 意見交換会についてその理由

分類	記述
肯定的な意見	・いろいろな建設的な意見や事例を聞くことができた. ・学部ごとにグループを作ったので，話がかみ合いやすかった. ・授業改善へ向けて参考になるアイディアを得た. ・他学科の先生と意見交換ができた ・多くの先生の取り組みや意見を聞け，大変勉強になった. ・同じ学部教員で内容を共有できた. ・同じ分野の教員間の意見が聞けた. ・有意義な意見交換（アイディア）が行えた. ・他の先生方の工夫されている点が良くわかりとても参考となった.
否定的な意見	なし

(B) 実施方法についてその理由

分類	記述
肯定的な意見	・グループのサイズが丁度よい. ・ディスカッション形式でフリーな話合いができた. ・先生方の授業方法が参考になった. ・同じ学部の先生と近い話ができて良かった. ・具体的意見を聞くことができた.
否定的な意見	・40 分のグループディスカッションが短いと感じた．模造紙へまとめることができなかった. ・レポートの観点６項目の中からでも構わないが，何か議論のテーマを定めておいた方がよいと思う. ・各班の発表は不要か，長い．発表は１ポイントに絞る. ・各班の発表が全班すると長すぎ，内容も浅くなるのでワールドカフェのような方法でのシェアが良い. ・時期が悪い.

(C) 講師について，その理由

分類	記述
肯定的な意見	・各グループ３分程度がよかった.
否定的な意見	・レポート意見の羅列的紹介は不要．的を絞って面白い点を詳しく紹介してほしい. ・単なる報告だ.

(D) 会の長さについてその理由

分類	記述
肯定的な意見	・集中力の観点からも 90 分がちょうど良い. ・問題点の確認ができた.
否定的な意見	・90 分は長いと授業を実施する中でも感じている. ・議論 40 分は少し足りない感じであった．質疑時間が取れなのは良くないと思う．全グループ発表でなく，一部発表で質疑時間をとったほうが，理解が深まったと思う.

(E) 必要な知識・方法は学べたか，それはどのような点か

記述
・４月に着任したため，クリッカークリッカーなどの ICT 機器の有無や場所がわからなかったが，ここで話し合うことで知ることができた.
・さまざまな取り組みを共有できた.
・ディスカッションを通じて，授業の目的や方針について整理ができた.
・演習といっても運び方は様々である.
・学生への関わりの工夫がいろいろ聞けた.
・出欠のチェック，学生との関わりについて.
・授業の展開について，工夫がみられる内容を確認できた.
・他班の発表で，授業後に「わかったこと」「わからなかったこと」をメールさせ，評価に加える方法はやってみようと思った.
・板書とパワポ，どちらが良いか？検討できた.
・問題点は確認できたが，効果的な対策等は結論づけできなかった.
・クリッカーの使用方法，出席確認の工夫について.

(F) 得た知識・方法を活用しますか，それはどのような点か

記述
・クリッカーの活用.
・クリッカーの導入，ソフトを個人で購入しなければならないため.
・グループディスカッションで得たアイディア（次回予告と事前準備（予習指示）の方法）を早速来年度から活用したい.
・スマホの活用を当方授業でやるには，どうすればよいか？
・ペアワーク，学生同士での相互作用をもった課題の遂行.
・講義の展開過程.
・座席業を使って出席をとるなど.
・事前準備からの授業展開方法について考えてみたい.
・授業の準備と計画.
・授業前に振り返りを行う.
・授業内でのショートブレイク.

・出欠の確認，復習.
・成績評価の仕方.
・電子ファイルでの採点.

(G) 意見・要望

記述
・アンケートは無記名にすべきだと思います.
・このアンケートの性質上，１の項目は不要と思われます.
・授業改善の効果をどのように判断するのか？授業アンケートの点数に現れるとは思えません.
・授業改善意見交換会で出された意見が反映されるとうれしい．例えば，教室の教材機器や机の整備など.
・クリッカーのソフトを導入してほしい.
・グループワークの時間がもう少し長いと良い.
・よい授業とはどのようなものであろうかということについて，自分の考えがまとまらないのでより勉強したい.
・交換会の内容が活かされているか.
・授業参加者が増えるような工夫が必要なのではないでしょうか.
・出席者が固定化されているように感じました.
・成績登録も済んだ後であったので，時期的には良かった.
・他の先生方も同じように悩まれていることがよく分かり，安心しました.
・繁忙感を感じる.「会」という形をとらず，ネットの掲示板にすればよいと思う.
・楽しかったです！

2-5-5　まとめと課題

平成 30 年度の FD 部会活動を総括する．相互授業参観と授業改善意見交換会を開催することにより，他者の授業からヒントを得るだけで無く，教員同士の意見交換を通じて多くの新しい気づきが生じており，良好な結果が得られた．FD 研修会では，初年次教育を題材に取り上げ，アンケートでは良好な評価を得た．授業評価アンケートに関しては，評価結果が高止まり傾向にあったため，平成 28 年度後期実施以降では教育評価部会と合同で検討した新しい質問項目に変更すると共に，Web で回答する方法へと改めた．しかし，平均回収率はマークシート方式に比べて低く，その向上が課題である．

2-6 教育評価部会

教育評価部会における平成 30 年度の主な活動は，(1) 平成 29 年度に見直しを行った学生授業評価アンケートの実施，(2) 学生授業評価アンケートの教員へのフィードバック様式の作成と実施，(3) 平成 29 年度に作成したナンバリングの平成 31 年度の履修案内への掲載，(4) ルーブリックに関する研修会の実施であった．以下にその概要を記す．

2-6-1 学生授業評価アンケートの見直しと実施

本学の学生による授業評価アンケートは，平成 29 年度から Web 上で実施されている．一方，アンケートの内容は平成 28 年度後期に現在に繋がる基本形態が完成し，紙の媒体で実施された．それ以前は，6 項目から成り立っていた授業評価アンケートであるが，その欠点として，下位項目を多く含む概念化された設問になっていたため，結果のフィードバックを受けた教員が授業改善を図ろうとしても具体的な指標にならないであろうという判定に基づいて改訂がなされた．アンケートとしての継続性も考慮し，従来の 6 項目も含む 20 設問程度の問いを設定し（下記，授業評価アンケート（2018 年度実施用）を参照），それを 5 つのカテゴリーに分類した．カテゴリー1 は授業に対する学生の取り組みを，カテゴリー2 は授業の資料や進め方を，カテゴリー3 はシラバスと授業の関係を，カテゴリー4 は授業の実施状況を，カテゴリー5 は総合的な評価（授業に対する受け止め）を見るための設問としている.なお,以下の実施用アンケートの 1～5 の項目とカテゴリーは一致するものではない．平成 30 年度においては，こうした考え方のもと，以下の授業評価アンケートを実施した．

授業評価アンケート（平成 30 年度実施用）

１ ： あなたは，この授業への取り組みはどうでしたか

問１ ： 予習や復習，課題等に使った授業１回当たりの平均時間を教えてください．0～999（分）を半角数字で入力してください 【記述式　3 文字以内】（回答必須）
問２ ： あなたのおよその出席率を教えてください．0～100（%）を半角数字で入力してください．【記述式　3 文字以内】（回答必須）
問３ ： この授業を真剣に受講した 【5 者択 1】（回答必須）
問４ ： この授業を理解するために努力した 【5 者択 1】（回答必須）

２ ： この授業の進め方はどうでしたか

問１ ： 授業は計画的に行われていた 【5 者択 1】（回答必須）
問２ ： 授業では考える機会や時間が与えられた 【5 者択 1】（回答必須）
問３ ： 授業で用いた教科書や資料は適切だった 【5 者択 1】（回答必須）
問４ ： 授業は学生の理解度を確認しながら進められた 【5 者択 1】（回答必須）
問５ ： 授業では教員に熱意があった 【5 者択 1】（回答必須）
問６ ： 教員は学生の質問に対して丁寧に対応した（課外含む） 【5 者択 1】（回答必須）
問７ ： 授業は丁寧に進められた 【5 者択 1】（回答必須）
問８ ： 授業中に課された提出物（小テスト・レポート等）は内容をよく評価していた 【5 者択 1】（回答必須）

３ ： シラバスやシラバスと授業との関連はどうでしたか

問１ ： シラバスの内容はよく理解できた 【5 者択 1】（回答必須）
問２ ： 授業内容はシラバスにある目標に合っていた 【5 者択 1】（回答必須）
問３ ： シラバスの説明は十分に行われた 【5 者択 1】（回答必須）

４ ： この授業を受け，総合的にみてあなたはどのように受け止めましたか

問１ ： 教員の説明はわかりやすかった 【5 者択 1】（回答必須）
問２ ： 受講して内容に興味や関心が湧いた 【5 者択 1】（回答必須）
問３ ： この授業を受けて力がついた 【5 者択 1】（回答必須）
問４ ： この授業を友人や後輩にも勧めたい 【5 者択 1】（回答必須）

５ ： 自由記述欄（以下のキーワードも参考にしてください：講義，時間配分，資料，評価方法，開講日時，設備） 【記述式 500 文字以内】

《各設問共通の回答選択肢》
I. そう思わない
II. あまりそう思わない
III. どちらとも言えない
IV. ややそう思う
V. そう思う

設問数を増やした新授業評価アンケートは,試行期間として設定していた 1 年余を経て，今後しばらく上に示したような設問と回答方式でデータ蓄積を実施する予定である．今後数年間は，本アンケートの評価を行うためにデータ蓄積が必要であるが，数年後には再度改訂する必要性が考えられる．例えば，設問中には，“シラバスの利用”“提出物の評価”等が設定されている．これは本学において，シラバスを教員が積極的に利用していない傾向があることから設けられたものである．また，課題等の提出物の評価については，現状では内容評価をしていない場合も認められるため設定である．提出物の評価がなされるかどうか曖昧な場合には，受講者の時間外学習に対する取り組み態度，延いては授業への取り組みにおいても好ましからざる傾向が生じる可能性が考えられる．このような，“現状の課題”解決に向けた設問設定は，課題が解決されれば除去されるであろうし，一方普遍的な課題は存続することになる．

2-6-2 学生授業評価アンケートの教員へのフィードバック様式の作成と実施

学生授業評価アンケートの教員へのフィーバック様式を作成した後，その様式を使用して，学生授業評価アンケートの教員へのフィードバックを実施した.

岡山県立大学　平成 30 年度前期大学授業評価アンケート：個人評価シート例

授業名	授業科目名 1				
学部・学科	保健福祉学部				
教員名	あああああ				
回答者数(全履修者数)	15	(80)	昨年実績		11

	質問項目	結果	昨年実績	学科平均	学部平均
	【取組み】授業１回あたりの学習時間（平均値：分）	39.23		22.50	24.80
	【取組み】授業の出席率（平均値：%）	100.00		96.96	96.85
①	【取組み】真剣に受講した	1.00	5.00	4.36	4.42
②	【取組み】この授業を理解するために努力した	2.00	4.00	4.36	4.39
③	【進め方】授業は計画的に行われていた	3.00	3.00	4.38	4.40
④	【進め方】授業では考える機会や時間が与えられた	4.00	2.00	4.28	4.30
⑤	【進め方】授業で用いた教科書や資料は適切だった	5.00	1.00	4.29	4.36
⑥	【進め方】授業は学生の理解度を確認しながら進められた	1.00	5.00	4.08	4.12
⑦	【対応】授業では教員に熱意があった	2.00	4.00	4.45	4.46
⑧	【対応】教員は学生の質問に対して丁寧に対応した	3.00	3.00	4.38	4.36
⑨	【対応】授業は丁寧に進められた	4.00	2.00	4.39	4.40
⑩	【対応】授業中に課された提出物は内容をよく評価していた	5.00	1.00	4.04	4.05
⑪	【シラバス】シラバスの内容はよく理解できた	1.00	5.00	4.19	4.19
⑫	【シラバス】授業内容はシラバスにある目標に合っていた	2.00	4.00	4.24	4.24
⑬	【シラバス】シラバスの説明は十分に行われた	3.00	3.00	4.05	3.96
⑭	【総合】教員の説明はわかりやすかった	4.00	1.00	3.61	3.60
⑮	【総合】受講して内容に興味や関心が湧いた	5.00	5.00	4.16	4.17
⑯	【総合】この授業を受けて力がついた	1.00	3.00	4.18	4.23
⑰	【総合】この授業を友人や後輩にも勧めたい	2.00		4.24	4.28

(回答1=そう思わない、回答2=あまりそう思わない、回答3=どちらとも言えない、回答4=ややそう思う、回答5=そう思う)

※今年度から変更された項目は、比較対象外（昨年実績が灰色）になっています

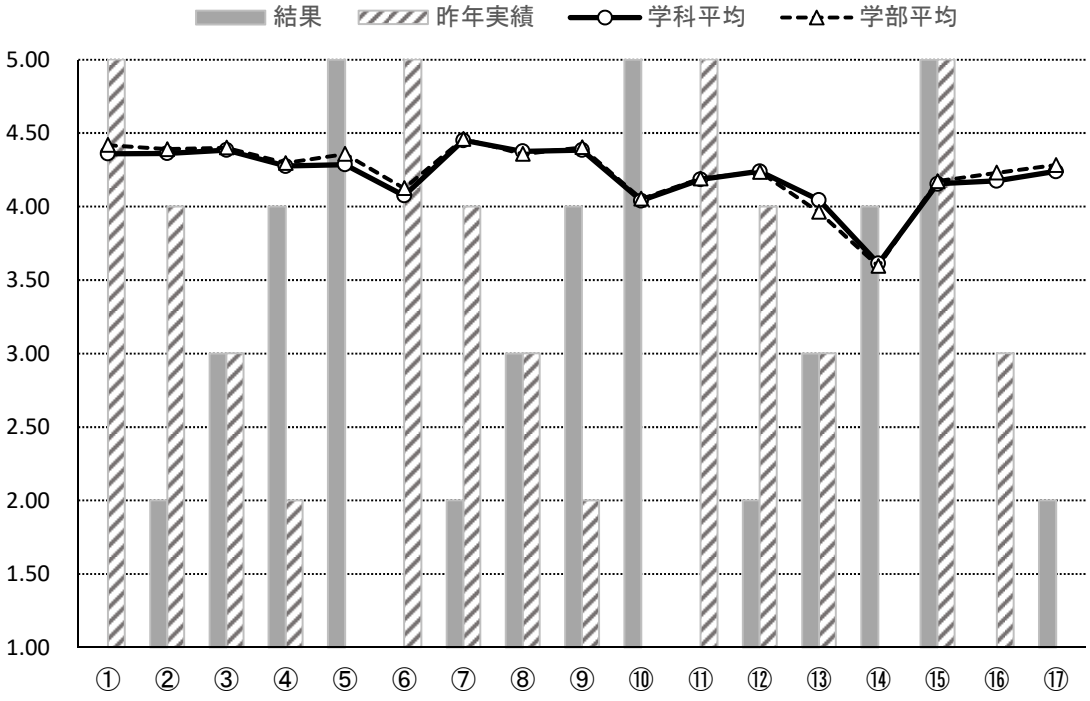
※昨年実績が無いものは、数値が0.00になっています

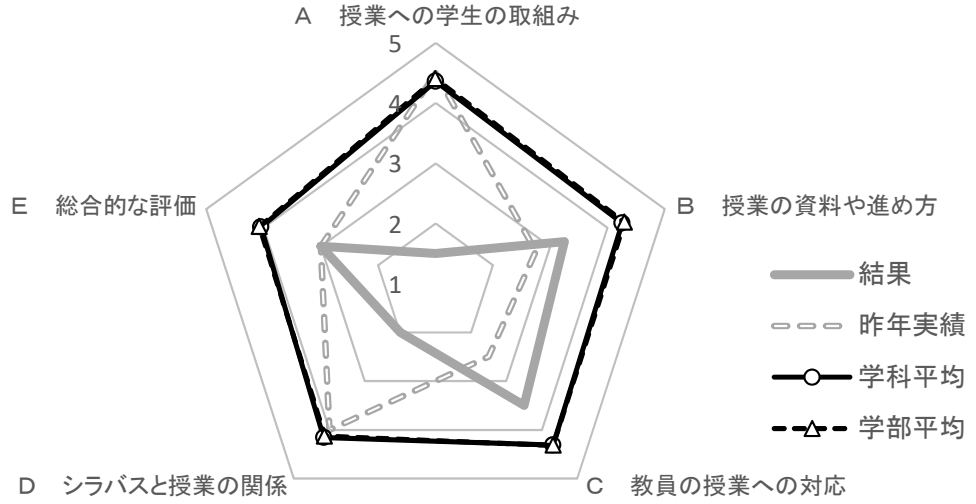
	質問項目	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	合計
①	【取組み】真剣に受講した	5	10	15	10	5	45
		(11.1%)	(22.2%)	(33.3%)	(22.2%)	(11.1%)	(100.0%)
②	【取組み】この授業を理解するために努力した	15	20	25	20	15	95
		(15.8%)	(21.1%)	(26.3%)	(21.1%)	(15.8%)	(100.0%)
③	【進め方】授業は計画的に行われていた	25	30	35	30	25	145
		(17.2%)	(20.7%)	(24.1%)	(20.7%)	(17.2%)	(100.0%)
④	【進め方】授業では考える機会や時間が与えられた	35	40	45	40	35	195
		(17.9%)	(20.5%)	(23.1%)	(20.5%)	(17.9%)	(100.0%)
⑤	【進め方】授業で用いた教科書や資料は適切だった	45	50	55	50	45	245
		(18.4%)	(20.4%)	(22.4%)	(20.4%)	(18.4%)	(100.0%)
⑥	【進め方】授業は学生の理解度を確認しながら進められた	55	60	65	60	55	295
		(18.6%)	(20.3%)	(22.0%)	(20.3%)	(18.6%)	(100.0%)
⑦	【対応】授業では教員に熱意があった	65	70	75	70	65	345
		(18.8%)	(20.3%)	(21.7%)	(20.3%)	(18.8%)	(100.0%)
⑧	【対応】教員は学生の質問に対して丁寧に対応した	75	80	85	80	75	395
		(19.0%)	(20.3%)	(21.5%)	(20.3%)	(19.0%)	(100.0%)
⑨	【対応】授業は丁寧に進められた	85	90	95	90	85	445
		(19.1%)	(20.2%)	(21.3%)	(20.2%)	(19.1%)	(100.0%)
⑩	【対応】授業中に課された提出物は内容をよく評価していた	95	100	105	100	95	495
		(19.2%)	(20.2%)	(21.2%)	(20.2%)	(19.2%)	(100.0%)
⑪	【シラバス】シラバスの内容はよく理解できた	105	110	115	110	105	545
		(19.3%)	(20.2%)	(21.1%)	(20.2%)	(19.3%)	(100.0%)
⑫	【シラバス】授業内容はシラバスにある目標に合っていた	115	120	125	120	115	595
		(19.3%)	(20.2%)	(21.0%)	(20.2%)	(19.3%)	(100.0%)
⑬	【シラバス】シラバスの説明は十分に行われた	125	130	135	130	125	645
		(19.4%)	(20.2%)	(20.9%)	(20.2%)	(19.4%)	(100.0%)
⑭	【総合】教員の説明はわかりやすかった	135	140	145	140	135	695
		(19.4%)	(20.1%)	(20.9%)	(20.1%)	(19.4%)	(100.0%)
⑮	【総合】受講して内容に興味や関心が湧いた	145	150	155	150	145	745
		(19.5%)	(20.1%)	(20.8%)	(20.1%)	(19.5%)	(100.0%)
⑯	【総合】この授業を受けて力がついた	155	160	165	160	155	795
		(19.5%)	(20.1%)	(20.8%)	(20.1%)	(19.5%)	(100.0%)
⑰	【総合】この授業を友人や後輩にも勧めたい	165	170	175	170	165	845
		(19.5%)	(20.1%)	(20.7%)	(20.1%)	(19.5%)	(100.0%)

(回答1=そう思わない、回答2=あまりそう思わない、回答3=どちらとも言えない、回答4=ややそう思う、回答5=そう思う)

	最小値	平均値	最大値
学習時間（分）	0	39.23	60
出席率（%）	0	100.00	100

＊総合評点	
①～⑰の平均	2.82
（昨年実績）	3.19
（学科平均）	4.21
（学部平均）	4.23





2-6-3 科目ナンバリングの履修案内への掲載準備

科目ナンバリングは，体系的な教育カリキュラムを作るのに必要な情報を各科目について付与するものである．特に，学修順序が数（ナンバー）で示されるのが重要なポイントになる．科目ナンバリングで示される情報は，カリキュラム作成にとって有効であるばかりでなく，学生が科目を履修する際にも役立つものである．

それは，(1) 学習順序はどの様に位置づけられているか，ということに加えて，(2) 履修したい科目がどの様な分野に属しているか，(3) その科目は必修か選択か，(4) 授業の形態（講義，演習，実習等）はどの様なものか，(5) 資格や免許との関連はどうか，などの情報が含まれているためである．

この様に科目ナンバリングには様々な情報が含まれるため，それを短く表現するために略号や数字を用いている．そのため，科目ナンバリングを有効に使うためには，数字や記号の意味を予め知っておくとよい．特に，上述の(1)，(3)，(4)，(5)を憶えると利用しやすくなる．

こうした考え方のもと，平成 31 年度用の履修案内に，以下のような科目ナンバリングを掲載する準備を行った．

2　科目ナンバリングの表示方法

AAA.BBB-N_1N_2-N_3C-DN_4　（科目ナンバリング）

（A, B, C, Dにはアルファベット表示、$N_{1\sim4}$には数字が入る）

【表1】

表示	記号の意味	表示方法	備考
AAA	学問分野第1略号	科目の属する学問分野・領域を表す。	
BBB	学問分野第2略号	科目を表す。	同名科目で番号が付されている場合は数字を含むこととがある。
N_1	学部等	0＝共通教育部、1＝保健福祉学部、2＝情報工学部、3＝デザイン学部	
N_2	学科等	【保健福祉学部】 0=複数学科、 1＝看護学科、 2＝栄養学科、 3＝保健福祉学科・社会福祉学専攻、 4＝保健福祉学科・こども学専攻 【情報工学部】 0=複数学科、 1＝情報通信工学科、 2＝情報システム工学科、 3＝人間情報工学科 【デザイン学部】 0=複数学科、 1＝デザイン工学科、 2＝造形デザイン学科	
N_3	レベルコード	0 学士課程教育の4年間において、特に履修の年次を定めない科目 1 学士課程教育の4年間において、概ね1年次に履修することが相応しい科目 2 学士課程教育の4年間において、概ね2年次に履修することが相応しい科目 3 学士課程教育の4年間において、概ね3年次に履修することが相応しい科目 4 学士課程教育の4年間において、概ね4年次に履修することが相応しい科目 5 大学院の博士前期課程において、基礎的な内容の科目及び大学院共通授業科目等 6 大学院の博士前期課程において、専門性の高い科目、発展的な内容の科目及び研究指導科目等 7 大学院の博士後期課程における科目、研究指導科目等 8 その他、分類やレベル分けが難しい科目等	
C	必修/選択記号	R=必修科目（Required）、　E=選択科目（Elective）	
D	授業形態	L=講義（Lecture） S=演習（Seminar） P=実験、実習及び実技（Practice）	
N_4	免許資格科目	0＝免許資格に関係の無い科目、1＝免許資格に関係の有る科目	

3	科目ナンバリングの実例			
	SWS.COD-13-2R-L1　（AAA.BBB-N_1N_2-N_3C-DN_4）			
	【表2】			
	AAA	学問分野第1略号	SWS	Social Work Study 社会福祉学
	BBB	学問分野第2略号	COD	Community Organization地域福祉論
	N_1	学部等	1	保健福祉学部
	N_2	学科等	3	保健福祉学科
	N_3	レベルコード	2	概ね2年次に履修することが相応しい
	C	必修/選択記号	R	Required 必修
	D	授業形態	L	Lecture 講義
	N_4	免許資格科目	1	免許資格科目

2-6-4 ルーブリックに関する研修会の開催

教育開発講座「学習と評価が一体化した ICE ルーブリックの体験」，を以下のとおり，開催した．

題目：学習と評価が一体化した ICE ルーブリックの体験

講師：土持ゲーリー法一　先生（帝京大学　学修・研究支援センター長）

日時：2018 年 12 月 14 日（金）14：30～16：30　場所：岡山県立大学・学部共通棟（北）8105 講義室

＊講師略歴

1945 年中国撫順市生まれ．1978 年コロンビア大学東アジア研究所研究科修了．1980 年コロンビア大学大学院ティーチャーズ・カレッジ(比較教育学専攻)で教育学博士号取得．1990 年東京大学大学院で教育学博士号取得．国立大学法人弘前大学 21 世紀教育センター高等教育研究開発室教授．現在，帝京大学　学修・研究支援センター長・教授

本研修では，学生と教員との間に齟齬の理由は，学習パラダイムの転換ができていなからであるという考えのもと，評価と学習方法が一体化した ICE ルーブリックが，カナダのタイーンズ大学で開発されたことが紹介された．近年，日本に導入されたこの理論は，これまでの教授法の悩みを解消するだけなく，主体的学びにつなげる画期的な学習方法であるとして注目されている理論である．こうしたなか，本研修では，ICE ルーブリックの講義と演習を通して，学習パラダイムとは何かについて学んだ．

演習では，「糖尿病」というテーマで実施された．演習では，テーマに関わらず ICE ルーブリックの考え方(Ideas:考え，Connections:つながり，Extensions:応用)を展開できることが示された．ICE ルーブリックは評価ツールではなく授業設計用ツールの趣のあることが示されたが，同時に授業設計と成績評価は密接不離であることが明快に示された研修会であり，非常に有意義であり，今後の本学の授業に生かしていただくことが期待される．

＊出席者

学内 34 人(教員 29 人・職員 5 人)・学外 11 人

(アンケート回答による内訳)

所属		教授	准教授	講師	助教	事務・管理職	合計
学内教員	保健福祉	2	3	1	0	0	6
	情報工	0	4	0	1	0	5
	デザイン	2	2	0	0	0	4
	センター等	1	0	1	0	0	2
学内職員	事務局	0	0	0	0	2	2
学外							9

本講座に対するアンケート結果は，以下の通りであった．

質問項目	今回(平均値)	過去 4 回の平均
研修会のテーマ・内容は適切だった	4.59	4.53
講師の説明は適切だった	4.48	4.49
講師の用意した資料(投影資料，配布資料など)は適切だった	4.28	4.39
研修会の長さは適切だった	4.00	4.27
研修会で自分に必要な情報，知識等を得ることができた	4.31	4.30
研修会は全体を通して有用だった	4.41	4.35
今回得た知識や方法を自分の活動で活用したい	4.31	4.09

＊研修の様子

2-6-5 まとめと課題

平成 30 年度においては，(1) 修正版の学生授業評価アンケートの実施，(2) 学生授業評価アンケートの教員へのフィードバック様式の作成と実施，(3) ナンバリングの履修案内への掲載を行った．

今後，これらの実施後の教育効果と課題について明らかにしていく必要がある．また，今年度実施した研修会の内容を踏まえ，各教員によるルーブリックの活用が望まれる．さらに，学生授業評価アンケートの自由記述部分の授業改善方法について検討していく必要がある．

2-7 キャリア形成支援部会

2-7-1 概要

キャリア形成支援部会は，学部学科横断的な全学的取組みとして以下の調査研究・企画立案業務を掲げ，本学学生のキャリア形成を支援することを目的としている．まず，キャリア教育および就職支援プログラムの現状調査と検証として，具体的には，就職支援活動とインターンシップ支援，『県大吉備塾』の企画・実施，学生のキャリア形成支援において重要なツールとなる『キャリアカルテ』の整備と運用など，学生のキャリア形成意識の向上を目指した．その他，本学卒業生との連携に必要な課題抽出のため，岡山県立大学２期生の主催する『Reunion Day』に協力した．加えて，本学における教育研究や学生支援のための活動の充実に向けた基礎資料を得ることを目的とした『就職先アンケート』『卒業生アンケート』『修了生アンケート』を実施した．以下に本年度の活動概要を記す．

2-7-2 就職支援活動とインターンシップ

2-7-2-1 就職支援活動と実績

全学部を対象として，就職活動の時期に合わせ就職ガイダンスや自己分析検査，各種模擬テストを実施するとともに，大規模な合同企業説明会へ就職活動バスを運行するなどの支援を行った．また，専門のキャリアカウンセラーによる就職相談を週 3～4 日（休業期間等を除く）実施し，学生への個別指導等を行った（詳細は付録１Ｆを参照のこと）．さらに，平成 30 年 8 月から，学生の志望企業に関する相談や，来学する企業の対応を行う就職支援相談窓口を設置し，企業と学生とのマッチングを促進した．

各学科においても，就職担当教員が中心となり，学科の特性に応じた就職指導やセミナー，企業説明会等を開催し，学生を細やかに支援した．

2-7-2-2 インターンシップ

本学では，学生のキャリア形成を支援するため，自らの専攻，将来のキャリアに関連した就業体験を行うため，キャンパスウェブシステムや総社市，真庭市，病院や民間企業等との連携を図り，インターンシップ参加希望学生への支援を行った．なお，情報工学部とデザイン学部においては授業科目として取り組んでいるほか，保健福祉学部においては，

特定の資格取得を目的に各種実習として取り組んでいる．また，今年度より新規で開講された副専攻「岡山創生学」授業「地域インターンシップ」及び「エンジニアリング演習」にて長期インターンシップに取り組んでいる（地域連携教育（COC+）岡山創生学該当頁を参照）．保健福祉学部での実習及び「地域インターンシップ」「エンジニアリング演習」については本報告には含まれていない．

平成 30 年度のキャンパスウェブ，総社市及び真庭市におけるインターンシップの実施状況は次のとおりである．

（1）キャンパスウェブシステムの利用

本学では，厚生労働省が行っていたインターンシップ事業（平成 14～21 年度）を引き継いだ NPO 法人 WIL の流れをくむ(株)ナジック・アイ・サポートのインターンシップ支援サイト(キャンパスウェブ)を利用してインターンシップを実施した．平成 30 年度のキャンパスウェブシステムを利用したインターンシップ事業への参加学生は 1 人で，実習先は 1 企業(団体)であった．

〔厚生労働省及びキャンパスウエブを利用したインターンシップ実績〕　単位：社，人

年　度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	累計
受　入 企業社数	7	11	9	12	11	13	19	10	34	29	15	11	5	1	187
参　加 学生数	13	15	12	17	15	25	25	18	51	38	16	14	9	1	269

〔平成 30 年度実習先〕

実　習　先　企　業　・　団　体
高島鉱建株式会社〔滋賀県企業〕

※長期インターンシップ参加促進・民間求人サイトの充実による利用実績の低迷などから，インターンシップキャンパスウェブは平成 31 年度より廃止予定．

（2）総社市との連携

総社市のインターンシップは，本学と総社市の連携協力に関する協定の一環として平成 21 年度から実施しているもので，平成 30 年度は，長寿介護課，健康医療課，こども課，市民課，政策調整課，農林課，市政情報課，建築住宅課，総社保育所など多部署にわたり，17 名が参加した．また，インターンシップで体験した結果をもとに，学生が市に政策提言することを義務づけ，市はその提言の中から独創性や実現可能性などを評価して，7 名の学生を選び表彰した．

〔総社市インターンシップ参加者〕

年　度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	累計
人　数	11	19	23	21	15	12	19	19	30	17	186

（３）真庭市との連携

真庭市のインターンシップは，本学と真庭市の連携協力に関する協定の一環として平成27年度から実施している．平成30年度は，健康推進課，高齢者支援課，久世こども園などの部署にわたり，3名が参加した．

〔真庭市インターンシップ参加者〕

年　度	H27	H28	H29	H30	累計
人　数	1	3	3	3	10

2-7-3　県大吉備塾の開催

県大吉備塾は教育力向上支援事業の一環として平成 27 年度より取り組んでいる事業で，卒業生を特別講師として招聘し，講演会やワークショップ・ディスカッション等を開催し，学科学部を超えた教職協働の視点から在学生へのキャリア形成支援を目的として展開・構築しようとするものである．以下に平成 30 年度の第 20 回県大吉備塾から第 26 回までの開催概要を記す．いずれの回においても参加した学生および教員によるアンケート結果は，吉備塾の内容が意義のあるものであったとの回答が多かった．

第 20 回県大吉備塾

○学外講師

・（株）矢野デザイン事務所／グラフィックデザイナー　山本奈々氏　（2010 年卒業）
・ゲーム会社勤務後フリーランス／イラストレーター　宗尚志氏　（2014 年卒業）
・（株）イールドインテリアプロダクツ／家具製作　米川尚太郎氏　（2016 年卒業）
・ITOHEN DESIGN STUDIO／テキスタイルデザイナー　井上直美氏　（2004 年修了）

○テーマ：「デザイン学部で学んだことと現在の仕事」

○実施日時：平成 30 年 7 月 12 日（金）14:20～17:30

○会場：デザイン学部棟　3413 教室

○企画運営：難波久美子，齋藤美絵子，作元朋子，石王美

○参加人数と構成：学生 24 名／教員 9 名／計 33 名

第20回県大吉備塾では，昨年度と同様に， 招聘講師の専門分野は， 現在の造形デザイン学科で学ぶ学生にとってイメージしやすさを重要視し， グラフィック・CGイラスト・木材・テキスタイルとする一方で， ますます多様化するデザイン業界でのキャリア展開を意識した講師構成とした． 地域密着のデザイン会社に勤務するデザイナーからはデザイン業務に対処する柔軟性やこだわりの指摘， 会社勤務を経て独立したCGイラストレーターは， 仕事に対する熱意なども含んだキャリアチェンジについて紹介があった． また， 地域で起業後にフリーランス活動も展開するデザイナーからは， 多くの人々との関わりやサポートの重要性が述べられた． 第二部では今年度は聴講者を4グループに分け， 時間内で全ての講師と近距離で話ができるよう工夫した． 各講師持参の製品カタログ・描画・アイディアスケッチ・企画書・製作サンプルなど， 仕事の現場や内側が判る貴重な資料を身近に直接質問

できる時間となり， 活発な相互交流に繋がった． ただ， 参加者数（33名）が昨年度より低下したのは， 1年生対象（非常勤）授業と重なったことが要因の一つだと考えるため， 次年度は， 一部もしくは二部のみの参加も可能であることを事前に充分広報してゆきたい．

第 21 回県大吉備塾

○学外講師

・森下病院　管理栄養士　西田明美氏（2002 年卒業）

・岡山県備中保健所　行政管理栄養士　永易あゆ子氏（2013 年卒業）

・新見市立大佐中学校　学校栄養教諭　角野はるか氏（2016 年卒業）

・キッセイ薬品工業株式会社　企業　管理栄養士　加納祥子氏（2005 年修了）

○テーマ：「大学での学びは業務のこんなところで生かされている」

○実施日時：平成 30 年 7 月 28 日（土）13：00～16：00

○会場：学部共通棟(東) 8902 講義室

○企画運営：平松智子，田淵真愉美，都島梨紗，山下広美

○参加人数と構成：学生 14 名／教員 4 名／計 18 名

第 21 回の県大吉備塾では，第一部において各講師による仕事内容や学生時代の就職活動などに関するプレゼンテーションを行い，第二部では各講師を囲み座談会形式でそれぞれの職業について質疑を行った．岡山県備中保健所で管理栄養士として活躍中である永易あゆ子氏からは，水害被害における保健所管理栄養士の役割などについて講演いただき，次に栄養教諭としてご活躍中の角野はるか氏より栄養教諭としての仕事の概要や大学時代の就職活動などについて，また病院で管理栄養士として活躍中の西田明美氏からは，患者の体調に合わせた食事の提供や工夫など実践的な内容について，さらに企業で管理栄養士として活躍中の加納祥子氏からは，企業で求められる能力やストレスマネジメント等について講演いただいた．参加者の満足度は高く，進路を考える上で役に立ったとの意見が多かったが，第２Ｑでの実施であったため学生の参加者が少なかったことは今後の課題である．

第 22 回県大吉備塾

○学外講師

・株式会社シマノ／デザイン室自転車デザイン課　堀彰吾氏　（2017 年卒業）

・グローリー株式会社／開発本部　デザイン部　デザイン2G　木村直矢氏（2011 年卒業）

・京都工芸繊維大学大学院／工芸科学研究科建築学専攻 坂本佳子氏　（2017 年卒業）

・株式会社ライフステージ／企画戦略部・人事労務部 原田莉紗子氏　（2017 年卒業）

○テーマ：「将来役に立つ学生時代の学び」

○実施日時：平成 30 年 10 月 4 日（金）14:20～17:30

第一部：14:20～15:50 各講師によるプレゼンテーション

第二部：16:00～17:30　座談会形式トークセッション　（アンケート回収含む）

○会場：デザイン学部棟　3312 教室

○企画運営：林秀紀
○参加人数と構成：学生 28 名／教員 3 名／計 31 名

第22回県大吉備塾では，前年度同様に，製品・情報及び建築分野で活躍する若手卒業生（H22～28年度の卒業生）を招聘した．講師は学生と年齢が近いため，親しみを感じながら先輩の体験談やアドバイスに耳を傾ける学生が大多数であった．第一部では，インハウス・デザイナーの業務内容と生活面，在学時の卒業研究のほか，大学院での学習プログラムや就職活動について詳しい説明があった．第二部は各講師がパネリストとなり，質疑応答に応える形式で進めた．テーマ1は，学生時代やっておいた方が良いことについて議論した．社会人に必須となる業務スケジュールの管理や同僚間のコミュニケーションは，学生時代から習慣として身に着けておくのが望ましいという意見があった．また，デザインコンペなどの授業外活動は就活にも生かされることから，積極的に挑戦した方が良いとのアドバイスがあった．

テーマ2は，就職活動を取り上げた．ポートフォリオの準備の仕方，インターン参加の際の秘訣，実習先企業の選択方法，面接での注意事項など，講師が実体験した新鮮な内容やノウハウが共有され，就活を始める学生にとって非常に有意義な情報を得ることができた．講師から学生生活へのアドバイスとして，モチベーションを維持するために，情報から隔離されないよう常に新しいモノやコトに接触する機会を持つ必要性が挙げられ，学生の行動や意識改革に繋がったのではないかと感じた．今回は，時間配分の都合で講師のポートフォリオを説明する時間がとれなかったことが惜しまれる．そして，次回では設備が整ったより広い教室の使用を検討したい．

第 23 回県大吉備塾

○学外講師
- 津山児童相談所　吉木友里恵氏（2016 年卒業）
- 岡山大学病院　桐山陸氏（2018 年卒業）
- 特別養護老人ホームシルバーセンター後楽　上河謙太氏（2016 年卒業）

○テーマ：「福祉の仕事のやりがいと学生時代の過ごし方」
○実施日時：平成 30 年 11 月 8 日（木）12：40～14：10
○会場：学部共通棟（東）8901 講義室
○企画運営：桐野匡史
○参加人数と構成：学生 23 名／教員 2 名／計 25 名

第 23 回の県大吉備塾では，「福祉の仕事のやりがいと学生時代の過ごし方」をテーマとして，行政職（児童福祉司），保健医療職（医療ソーシャルワーカー），介護職の 3 名の卒業生から，福祉の仕事のやりがいや学生時代の過ごし方（各業種の仕事内容ややりがい，就職活動や学生時代にすべきことなど）について，体験談などを交えて話していただいた．全体的に，参加者の満足度は高く，「年齢の近い先輩で，話しやすく質問もしやすかった」，「経験されているからこそ分かる話を聞けて良かった」など好評であった．他方で，「もっと話す時間が欲しい」，「幅広い分野の話を聞きたい」などの意見もあり，今後の県大吉備塾の企画運営についていくつかの改善点も抽出できた．

第 24 回県大吉備塾

○学外講師

・藤沢湘南台病院　がん看護専門看護師　林ゑり子氏（1997 年卒業）

○テーマ：「大学での学びと海外研修経験は看護実践に活かされている」

○実施日時：平成 30 年 12 月 3 日（月）14：20～15：50

○会場：学部共通棟（東）8902 講義室

○企画運営：名越恵美

○参加人数と構成：学生 125 名／教員 2 名／計 127 名

第 24 回県大吉備塾は，がん看護学会理事でありがん看護専門看護師として日本の看護界をけん引している 1 期生を招き，助成金による海外研修の獲得への道のりやその学び，学生時代から看護師時代におけるキャリアップ，ご自身のワークライフバランスなどを語っていただいた．また，実践の話として看護師を支援する専門看護師としてのアセスメント視点を具体的に提示された．看護学科学部生 1 年生から 3 年生 125 名参加した．学生の評価は好評であり「具体的な将来のビジョンが描ける内容で面白かった」「特定の分野を学ぶことで視野が広がった」とコメントがあった．

第 25 回県大吉備塾

○学外講師

・富士通株式会社　エンタープライズビジネスグループ　梅田一彰氏（2010 年卒業）

・日本シグマックス株式会社　海外事業部海外企画開発課　町田啓氏（2010 年卒業）

○テーマ：「スポーツシステム工学科一期生が異なるフィールドで社会人生活を始めた結果と現在について」

○実施日時：平成 30 年 12 月 7 日（金）14:20～16:50

○会場：情報工学部教育・研究棟 2906 室

○企画運営：大田慎一郎

○参加人数と構成：学生 21 名／教員 5 名／計 26 名

第25回県大吉備塾では，情報・医療／スポーツ分野でそれぞれ活躍する卒業生を講師として招聘した．第一部では，情報分野の企業でシステムエンジニアの仕事を行っている講師からSE業界や仕事内容や就職活動について，詳しい説明を聞くことができた．次に，医療／スポーツ分野で製品開発等を実施している講師から事前アンケートに基づき，仕事内容の紹介，スポーツ分野における仕事の選び方，就職活動の極意など，わかり易く聞くことができた．第二部では，各講師がパネリストとなり，質疑応答に応える形式で進めた．質疑応答では，実際の残業時間，福利厚生，給与，女性の待遇など，企業説明会等では得ることができない内容を聞くことができ，今後就職活動を行う学生や既に内定が決まっている学生にとって有意義な情報を得ることができた．大企業や中小企業でそれぞれのメリットやデメリットがあり，それをしっかり把握した上で就職活動を実施する必要があることや，内定が決まっている学生は部署選びにおいてその企業でやりたいことを明確に提示する必要があることなどの話を聞くことができた．反省点としては，50名以上を想定していたが，全参加者が26名で想定より少なかったことである．学科の全学年が参加し易い開催日時を検討する必要がある．良かった点としては，3年生に事前アンケートを実施し，それを講演に生かした点である．

第 26 回県大吉備塾

○学外講師

・社会福祉法人瑠璃会第三福田保育園　磯崎三貴子氏（1998 年卒業）

・社会福祉法人橘会　御南認定子ども園　岡田恵太氏（2007 年卒業）

・特定非営利法人発達支援ネットワークつむぎ　つむぎ高梁　岩山祐貴氏(2011 年卒業)

・社会福祉法人梅香会浦田保育園　森あゆみ氏（2011 年卒業）

・岡山県立成徳学校　竹野美咲氏（2016 年卒業）

○テーマ：「現在のキャリアにつながる大学での学び」

○実施日時：平成 31 年 1 月 10 日（木）14：20～17：30

○会場：学部共通棟（北）8105 講義室

○企画運営：柏まり，樟本千里

○参加人数と構成：学生 38 名／教員 7 名／計 45 名

第 26 回の県大吉備塾では，保育園園長（管理職），保育園（担任保育士），認定こども園（主幹保育教諭），発達支援センター（支援員），児童自立支援施設（児童自立支援専門員）の 5 名の卒業生から，福祉・教育職のやりがいや学生時代の過ごし方について，体験談などを交えて話していただいた．また，在学生と卒業生との交流の時間を設け，学生が疑問に思ったこと，悩んでいることなど，直接話をお聞きすることができた．これから就職を目指す学生にとって，学生時代の過ごし方，将来の職業について考える有意義な機会となった．全体的に，参加者の満足度は高く，就職しての実際の話が聞けた，将来のことを考えるきっかけになった，など好評であった．他方で，トークセッションについてはもう少し絞り込みが必要など，今後の県大吉備塾の企画運営の改善点も抽出できた．

2-7-4　キャリアカルテの運用

近年では学士力あるいは社会人基礎力など総合的な能力が，学生に期待される指標として用いられており，学生にこれらに対する意識付けを行うことが必要とされている．しかし実際にシステムや制度の導入を想定した際の運用面については，利用率の低迷や運用コストなど様々な問題点が指摘されている．

本学においては，平成29年度に更新導入された学務系全学情報システム「はっとりん」に，学生のキャリア形成を支援する『キャリアカルテ』機能が含まれていることから，キャリア形成支援部会ではこの機能の運用方法について検討を進めてきた．本学におけるキャリアカルテ機能において，「入学前の自分について」「現在の自分について」「将来の自分について」と3つのカテゴリに分け，学生自身が入力し省察を促すことで，自己分析やその後の行動計画を支援する質問項目を整備した．また，『キャリアカルテ』は低年次から利用することでその効果が得られると考え，平成30年度入学生を対象に運用を開始し，より効果的な活用について共通教育科目「大学で学ぶ」の1/2単元を用い，その使用方法や活用の効果について促した．

キャリアカルテ１年次入力項目（平成30年度入学生用）

入学前の自分について（年度当初に記入）	入学以前の趣味（好きなことや楽しみ）	
	入学以前の特技（自信のある技術・技能）	
	入学以前に最も好きだった科目とその理由	
現在の自分について（現状・随時）	現在の趣味や特技とその楽しみ方	
	現在，最も好きな科目とその理由	
現在の自分について（年度当初の目標）	今年度，頑張りたい科目や習得したい知識・技術（学業・プライベートを問わず）	自己評価欄 有り（５段階・自由記述）
	現在，取得を目指している資格と取得目標時期（学業・プライベートを問わず）	自己評価欄 有り（５段階・自由記述）
	現在，できていないことや身につけたいこと（学業・プライベートを問わず）	自己評価欄 有り（５段階・自由記述）
	TOEIC 得点の目標（入力時点の目標）	自己評価欄 有り（５段階・自由記述）
現在の自分について（年度末の記録）	今年度，クラブやサークル，アルバイトなど，組織やグループに所属して行う活動で得たこと	
	卒業生のレクチャー（県大吉備塾など）を受講して受けた刺激や気付いたこと	
	参加した異文化交流（スタディツアーや留学，国際交流行事など）の具体的な活動とそこで得たこと	
	今年度，参加したボランティア活動で得たこと	
	今年度，自分の強みとなったことや自分が成長できたと感じたこと	
将来の自分について（年度末に記入）	来年度，頑張りたい科目	
	来年度，頑張りたい活動（部活，アルバイト，ボランティア，国際交流など）	
	現時点で興味のある仕事（業種・職種）	

2-7-5　卒業生と本学との連携課題（Reunion Dayへの協力）

岡山県立大学２期生主催のもと，本学同窓会後援，大学（キャリア形成部会）の協力で平成30年11月3日（土）に岡山県立大学卒業生の卒業20年を記念し，３学部に短期大学部を加えた合同同期会が開催された．出席者は67名（学内教員14名を含む）であった．県大祭や学内開放に足を運ぶ参加者もおり，150名の卒業生および54名の教職員（退職教員を含む）の連絡先がアップデートされ，卒業生とのネットワークづくりなど多面的な機会創出に寄与した．開催準備に際し，初回であった昨年度の役割分担を踏襲し，大学は実行委員に対し連絡等の人的協力，同窓会は金銭的支援，実行委員は学内教員や在学生との接点を設けるよう役割を分担した．今後，退職教員や卒業生に関する個人情報は関係者間で共有となる．中・長期視点をもって今後の継続を目指していく．

2-7-6　卒業生アンケート・修了生アンケート・就職先アンケートの実施

2-7-6-1　卒業生および修了生アンケート

（1）実施の背景

卒業生および修了生アンケートは，岡山県立大学・大学院の教育研究や学生支援のための活動の充実に向けた基礎資料を得ることを目的に，平成27年度に引き続き，平成30年度においてもアンケート調査を実施した.

今年度の卒業生および修了生アンケートは，卒業年度，修了年度を問わず，本学の卒業生および修了生が就職した事業所・機関等の協力を経て実施した（※就職先アンケートと併せて，事業所に在籍する卒業生・修了生への調査協力への依頼を行った).

（2）実施形態・回収結果

卒業生および修了生アンケートは，平成27年度に実施した就職先アンケートの依頼先のうち，225の事業所･機関等に対して，卒業生および修了生アンケートへの協力依頼を行った. 今年度は，Web（クエスタント）による電子アンケートを実施，無記名での回収を行った.

最終的に，卒業生アンケートは118名，修了生アンケートは35名から回答を得た.

1. 卒業生アンケート

卒業生アンケートの設問は34問で，前回（平成27年度）の設問内容と概ね同様である．ただし，設問の選択肢の見直しのほか，自由記述（自由回答）を新たに設定した．主な設問は以下のとおりである（アンケート結果は後部付録に記載).

- 「基本属性」に関する設問（問1～問4)
- 「教育・研究環境」に関する設問（問5～問12)
- 「学生支援・課外活動」に関する設問（問13～問14)
- 「習得した能力・技術・知識」に関する設問（問15～問31)
- 「総合的満足度」（問32～問33)
- 「岡山県立大学への期待や要望等」（自由記述：問34)

卒業生アンケートの結果をまとめると，以下のような特徴が明らかとなった.

- 「教育・研究環境（問5～問12)」に関する設問では，専門教育や実践的教育，少人数指導，学習面での施設や設備は，「どちらかといえばそう思う」，「そう思う」と回答した者の割合が半数を超えており，卒業生からの評価は高い傾向にあった．ただし，全学教育（一般教養)，外国語学習のサポートに関する項目では，他の項目と比較して「どちらともいえない」の回答がやや多くなっていた.
- 「学生支援・課外活動（問13～問14)」に関する設問では，いずれも「どちらともいえない」と回答した者の割合が高く，その評価は二分する傾向にあった.
- 「習得した能力・技術・知識（問15～問31)」に関する設問では，全体的には広く大学での教育や学生生活を通じて能力・技術・知識を習得できている傾向にあった．とくに専門分

野における知識や技術，専門知識や技術を実務に活かす力，実行力についてはその傾向が強かった．ただし，リーダーシップ，創造力については「どちらともいえない」，コミュニケーションスキル，異文化理解については「どちらかといえばそう思わない」と回答した者の割合が，他の項目と比較して多くなっていた．

・「総合的満足度（問32～問33)」に関する設問では，教育内容への満足度，卒業後の仕事や生活への役立ち度ともに高い満足度（卒業生の6割以上が「どちらかといえばそう思う」または「そう思う」と回答）であった．

・「岡山県立大学への期待や要望等（問34)」については，教育内容や教育環境の改善，資格取得，地域活動，学生交流，食堂等の充実等の回答が得られた．

2. 修了生アンケート

修了生アンケートの設問は34問で，前回（平成27年度）の設問内容と概ね同様である．ただし，設問の選択肢の見直しのほか，自由記述（自由回答）を新たに設定した．主な設問は以下のとおりである（アンケート結果は後部付録に記載)．

・「基本属性」に関する設問（問1～問4)

・「教育・研究環境」に関する設問（問5～問7)

・「習得した能力・技術・知識」に関する設問（問8～問18)

・「習得した能力・技術・知識の社会での役立ち度」に関する設問（問19～問29)

・「岡山県立大学大学院への期待や要望等」（自由記述：問30)

修了生アンケートの結果をまとめると，以下のような特徴が明らかとなった．

・「教育・研究環境（問5～問7)」に関する設問では，「どちらかといえばそう思う」，「そう思う」と回答した者の割合が6割を超えており，修了生からの評価は高い傾向にあった．

・「習得した能力・技術・知識（問8～問18)」に関する設問では，全体的には肯定的な回答が多い傾向にあったものの，「計画力」，「コミュニケーションスキル」，「異文化理解」に関する項目では，他の項目と比較して「どちらともいえない」または「どちらかといえばそう思わない」の回答がやや多い傾向にあった

・「習得した能力・技術・知識の社会での役立ち度（問19～問29)」に関する設問では，「創造力」，「計画力」，「コミュニケーションスキル」，「異文化理解」に関する項目では，「どちらともいえない」と回答した者がやや多かったものの，その他の項目では「どちらかといえばそう思う」，「そう思う」などの肯定的な回答が多い傾向にあった．

・「岡山県立大学大学院への期待や要望等（問30)」については，実際の仕事（社会）がイメージできるような取り組みや英語力の強化，インターンシップの充実や人間力の育成のほか，卒業生（修了生）の交流機会や高い能力の学生の輩出への期待などがあった．

（3）まとめ

今年度の卒業生・修了生アンケートでは，前回（平成27年度）よりも回答数が多く，また修了生からの回答も増加していた．ただし，卒業年度が多様であり，教育効果や満足度を評価す

る上では，さらなるサンプル数の確保とともに，学部・学科単位での詳細な分析が課題である．

なお，今回の卒業生・修了生アンケートを集計した結果，岡山県立大学・大学院での教育研究，能力・技術・知識の習得等に対する評価は，全体的にみれば概ね良好であった．しかしながら，より良い教育研究環境，学生支援環境の整備のためには，今後も継続した取り組みが必要であり，このような取り組みを成果として検証していくことが課題となってくる．

2-7-6-2　就職先アンケート

（１）実施の背景

岡山県立大学では，地域の発展に寄与できる人材を継続的に輩出していくため，本学の過去１０年の卒業生・修了生の就職先事業所の皆様にご協力をいただき，教育研究および学生支援の充実のために平成２７年度に引き続きアンケート調査を実施した．

各事業所における本学 OB・OG の人材像についての意見を聴取し，本学の教育課程，教育方法の改善に資することを目的としたものである．

（２）実施形態・回収結果

平成 27 年度に実施した就職先アンケートの依頼先のうち，225 の事業所・機関等に対して，アンケートの協力依頼を行った．今年度は，Web（クエスタント）による電子アンケートの実施，無記名での回収を行った．就職先アンケートでは，回答数が７３に留まった．

設問は２９問で，前回結果との統計比較の観点から，平成２７年度の設問から１問削除したものを Web 方式で実施した．（アンケート結果は後部付録に記載）

質問内容は，以下の項目で構成した．

・岡山県立大学 OB・OG の社会人基礎力について
・岡山県立大学に期待することについて
・今後，岡山県立大学に期待する人材育成について
・人材育成に向けた岡山県立大学との連携について
・岡山県立大生を採用する場合の判断基準に関して
・岡山県内事業所を対象とした，岡山県立大生を採用する場合の判断基準に関して

就職先アンケート結果に実施の数値をまとめた．以下にその内容分析結果を記載する．

問１～１０の岡山県立大学 OB・OG の社会人基礎力に関する評価項目については，前回と同様にどの項目でも平均以上の評価を受けている結果となった．その中での特記事項としては，社会人としての総合力の高さ　⑤そう思う　２８．８％，幅広い基礎学力　⑤そう思う　２０．５％，自律性・向上心等を有している⑤そう思う　２４．７％と高い評価である一方，語学力・グローバル化の評価は，③どちらとも言えない　５６．２％　に留まるものの，前回結果よりいくらかの向上が見られた．

問１１～１４の岡山県立大学に期待することについての問いについては，優れたコミュニケーション能力を有する人材の育成，豊かな人間性に溢れた人材の育成が，基礎学力・教養を有する人材の育成，高い専門性･能力を有する人材の育成よりも高い期待値が示され，前回と同様な傾向となった．

就職先としては，“人材”の本質的なところを重視していて，“良い人材，今後の成長が見込まれる人材”の供給の期待値が高い．基礎能力や高度な専門性については，優先度は低いが一定レベルの期待値と，就職先での教育・OJT 等での高度人材に向けての将来性を期待している傾向が，前回と同様に継続していると思われる．

問１５～１９の岡山県立大学の人材育成への期待値については，教養と強い精神力を兼ね備えた人材育成に高い期待があり，次いで高度な専門知識を有し即戦力となる人材となった．継続する技術革新やビジネスモデルの変遷，グローバル社会が加速される環境に適応していけるポテンシャルを持った人材育成に大きな期待がある．地域貢献，社会活動経験等については，前回結果からいくらか期待値が下がる結果となったが，基本的にこれらに係わる人材育成の期待値は変わらないが，就職先をとりまく環境の変化がアンケート結果に反映されたと思われる．

問２０～２２の人材育成に向けた岡山県立大学との連携については，最重要項目が，教養と強い精神力を兼ね備えた人材供給であり，前回結果と同じくインターンシップを含めた採用活動を背景にした，直接的な人材~~に~~供給に結びついている結果となった．

問２３，２４の採用活動での本学 OB・OG の実績に関する事や，問２５～２９の岡山県内事業所のみを対象とした，岡山県立大生を採用する場合の判断基準に関しては，参考程度の評価が示され，前回同様に人物本位ということが示された．

問２８，２９のＵターン OB・OG や採用に関しての大学との情報交換には高い期待値が示され，現在の就職先における人材確保に積極的であることを反映していると考えられる．

今回，Web でのアンケート実施を行ったが，回答数が７３に留まった点については，解析を進めていくべきである．また，回答した就職先の７５．３%が岡山県であり，地域の就職先情報としての有効に活用していけるものと考える．また，一方他府県の就職先情報についても，変化の激しい社会動向に対応した就職先の動向をウォッチしていくために~~の~~も，一定数のサンプルの確保が望ましい．

（3）まとめ

前回および今回のアンケートにより，就職先での OB・OG の評価の全体像はつかめたと思われる．現状での高評価のポイントである“良い人材，今後の成長が見込まれる人材”の育成を継続していくとともに，今後の変化の激しい時代への適応力を身につけていくためのさまざまな視点からの教育に取り組んでいくことが重要になってくる．

2-7-7　各学科におけるキャリア形成支援活動の集約と広報活動

キャリア形成支援部会は，学部学科の横断的な全学的取組みとして調査研究・企画立案業務を掲げ，学生支援班と協働して本学学生のキャリア形成を支援することを目的とした部会であることから，各学科の平成２９年度の『キャリア形成支援に関する活動』を集約し，とりまとめを行った．さらに平成３０年６月には大学の公式サイト（https://www.oka-pu.ac.jp/career/career_detail/index/51.html）にその全容を記載し，学内外へ向けて情報を提供した．

H29 年度　　キャリア支援に関する活動について

学科名	開催月	対象学生	イベント名	概要
看護学科	4月	3．4年生	就職・進学ガイダンス	卒業生10名による自施設の紹介と進学した学生によるカリキュラムの説明
看護学科	4月	在校生・卒業生	ホームカミングデー	卒業生と在校生対象の交流会
看護学科	1月	2年生	就活スタートアップ講座	外部業者による就活をスタートするにあたっての基本講座
看護学科	3月	4年生	就活アドバンス講座	外部業者による就活で気を付けるべき具体的内容の講座
保健福祉学科子ども学専攻	6 月	卒業生	ホームカミングデー	新卒者を対象とした交流会（勤務状況等の確認）
保健福祉学科子ども学専攻	12 月	3 年生・4 年生・卒業生	就職ガイダンス（卒業生を囲む会）	卒業生と在校生対象の交流会
保健福祉学科子ども学専攻	2 月	2・3 年生	就職ガイダンス	保育・福祉専門職従事者（卒業生）を講師に招いての懇話会
保健福祉学科子ども学専攻	2 月	3 年生	進学・就職懇話会	大学院在学生・各種一般・専門就職採用試験合格者（4 年生）によるガイダンス
栄養学科	4月	3年生	就職・進学ガイダンス	学科教員と本学キャリアカウンセラーによる説明会
栄養学科	7月	在学生	第1回就職支援セミナー（第13回県大吉備塾）	卒業生による講演会
栄養学科	1月	1～3年生，大学院生	第2回就職支援セミナー	就職内定者との意見交換会
人間情報工学科	2月	3年生，M1	学科進路ガイダンス	就職，進学についてのガイダンス，および卒業生と M2 による就活説明
情報通信工学科，情報システム工学科，人間情報工学科	3月	3年生，M1	合同企業説明会	県内外企業 96 社による県立大学での合同説明会
情報システム工学科	1月	3年生，M1	就職・進学ガイダンス1	進路（就職，進学）についての説明会1：基本的な考え方の説明
情報システム工学科	2月	3年生，M1	就職・進学ガイダンス2	進路（就職，進学）についての説明会2：データ分析等を踏まえての説明
情報システム工学科	8月9月1月	3年生	インターシップ講座	インターシップ実習および発表会の実施．2単位．
造形デザイン学科	10 月	全学年	スペシャルレクチャー	大手アニメーション制作会社プロデューサーによるスペシャルレクチャー
造形デザイン学科	12 月	3年生	ポートフォリオセミナー①	広告会社に勤務する卒業生を招いた学生のポートフォリオ講評会
造形デザイン学科	12 月	全学年	インターンシップ報告会	造形デザイン学科専門科目「インターンシップ」の報告会
造形デザイン学科	1 月	3年生	ポートフォリオセミナー②	大手印刷会社 国内デザイン部長を招いた学生のポートフォリオ講評会
造形デザイン学科	2 月	3年生	広告業界相談会	広告界社に勤務する卒業生を招いた業界相談会の開催
造形デザイン学科	3月	3年生	IT 業界就職ガイダンスおよび企業説明会	卒業生が勤務する大手システム会社人事担当者による業界・企業説明会
デザイン工学科	4 月	2～3 年生	H29 夏インターンシップ説明会	自動車部品メーカーによるインターンシップ案内と企業説明
デザイン工学科	11 月	2～3年生	企業説明会	大手電機メーカーによるインターンシップ案内と企業説明
デザイン工学科	12 月	2～3年生	企業説明会	大手電機・カメラ・自動車メーカーによるインターンシップ案内と企業説明
デザイン工学科	1 月	2～3年生	企業説明会	事務機器メーカーによる企業説明とインターンシップに関する説明
デザイン工学科	1 月	3年生	H29 夏インターンシップ報告会	デザイン工学科専門科目「インターンシップ」の報告会
デザイン工学科	2 月	3年生	企業説明会	大手電機メーカーによるインターンシップ案内と企業説明
デザイン工学科	4 月	3~4 年生	企業説明会	印刷会社によるインターンシップ案内と企業説明

2-7-8　教育開発ワークショップの実施

平成 30 年 5 月 31 日（木），COC+推進企画委員会 産学連携 WG の協力で「学生の特性に応じたキャリア形成支援を考える －本学雇用マッチングシステムの利用を通して－」と題してセンター・ワークショップを開催した．雇用マッチングシステムの開発者である株式会社オープンソース・ワークショップ 代表取締役 永原 篤 氏を講師に迎え，学生のジェネリックスキル分析ツールである PROG テスト結果を企業情報とマッチングさせ，相関の高い企業を出力するシステムの説明をいただいた．参加者は実際にシステムを使用し，本学での学生特性に応じたキャリア支援のあり方について意見交換が行われた．12：40～14：10 と 14：20～15：50 の 2 回，同じ内容にて開催され，教員 46 人，職員 5 人，学生 5 人の参加があった．

2-7-9　まとめ

キャリア形成支援部会は，学部学科横断的な全学的取組みとして調査研究・企画立案業務を掲げ，学生支援班と協働して本学学生のキャリア形成を支援することを目的とした部会である．卒業生の活躍を在学生の就職支援やキャリア形成支援に結びつける目的で実施した県大吉備塾においては出席した在学生や卒業生講師によるアンケートの結果より，本取り組みに対する満足度や期待度の高さが把握できた．平成 30 年度入学生を対象とし運用を開始したキャリアカルテについては，低年次における入力項目については適切であるといえるが，利用者の入力頻度や活用については検討の必要がある．卒業生・修了生・就職先を対象としたアンケートや，Reunion Day といった卒業生と本学との連携においてもそれぞれに課題が明確になり，継続して改善に取り組むことが望まれる．

2-8　学生支援部会

2-8-1　概要

学生支援部会は，学部学科横断の全学的取組みとして，１）学生生活支援，２）正課外活動支援，３）障がい学生支援，等の業務を所掌するが，部門として学生支援室・学生相談室・保健室を擁し，学生における心身の健康や主体性の涵養に資する広汎な調査研究・立案・実施の活動を行っている．

2-8-2　学生生活支援

（１）学生会館の整備

学生及び教職員の健康の維持・増進，人間関係やコミュニケーションの形成，豊かな人間性の育成における学生会館の役割は大きい．福利厚生施設である学生会館の運用に当たっては，改善と継続を旨とし，学生の生活・学習環境改善につなげる必要がある．そこで，2017 年に全教職員・学生を対象とした学生会館アンケートを実施した（結果の概要は教育年報 2017 で報告）．

その結果を受け，2018 年度は食堂と売店の改善に向けた検討に着手した．食堂の改善については，大学生協の導入について勉強会や視察などを重ねて検討してきたが 2018 年度中の解決には至らなかった．一方，売店については，教学課学生支援班を中心として，また PZL の協力のもと検討を重ね，平成３１年４月から，コンビニ（ポプラ「生活彩家」）のフランチャイズ化が決定し，今後は，豊富な商品，毎週提供の新商品，コンビニ限定商品，ファーストフードやスイーツ，挽きたてコーヒーなど充実した商品の提供に加え，電子マネー，クレジットによるキャッシュレス対応，ポイントカードなど，学生にとり魅力的な売店になることが期待されている．なお，解決に至らなかった食堂の改善や喫茶については，引き続き充実した施設になるよう検討を進める予定である．

（２）ホームページの改善の検討

今日の学生にとって，学内制度に関する情報や各種証明書，申請書の様式をウェブから得ることは一般的となっている．しかしながら本学のホームページによる学生への情報提供は，アクセシビリティの観点から十分に整備されているとは言い難い．そこで大学ホームページにおける学生向け情報の現状について調査を行った．そのうえで，学生が困ったときにどこを閲覧，確認すればよいのか分かりやすくすることを目標に，アクセスの入口として学内ウェブシステム（はっとりん）を活用すること，大学組織と対応したページ構成にすること，学生便覧をウェブ化することなどを検討し，改善作業に着手した．

（３）西日本豪雨災害（平成 30 年 7 月豪雨）の対応

平成３０年 7 月に発生した西日本豪雨災害では，本学の学生も大きな被害を被った．

本学では，電話及びメールによる学生の安否確認を行うとともに，次のとおり各種の支援を行った．

①経済的支援

・自宅が全壊，半壊，床上浸水などの被害を受けた在学生を対象に，平成３０年度後期の授業料の減免を行った．
（Ｈ３０年度後期授業料減免状況：１５件，３，２１４，８００円）
・災害で，教科書が消失，汚損，破損した在学生を対象に，教科書の無償貸与を行った．（無償貸与状況：５人の学生に計２８冊を無償貸与）
・大学後援会から見舞金を支給した．
・日本学生支援機構の支援金（返還不要：１０万円），緊急・応急奨学金（貸与型）の斡旋を行った．

②住居支援

・災害で自宅からの通学が困難となった学生を対象に，総社市内の教職員宿舎の提供を行った．（利用状況：４部屋（真備町在住の男子学生２名，女子学生２名））
・大学後援会から緊急時支援基金による支援（エアコン，冷蔵庫，布団，カーテンの設置等）を行った．

③人的支援

・７月１４日～１６日の３日間，総社市内の災害ボランティアに本学の学生も参加（教職員含め３日間で約２５０人）し，がれき撤去などの作業を行った．

・１１月３日と４日の大学祭開催時に本学において，学生支援団体ＰＺＬ（パズル）が，チャリティーフリーマーケットを開催，売上げの全額（４６，５４２円）を「平成３０年７月豪雨岡山県災害義援金」募金運動推進本部（本部長：県知事）に届けた．

（４）交通指導

学生の通学マナーの向上のため，第1クォーター開始（4/10～），第４クォーター開始（11/28～）にあわせ，学生支援部会の教員，職員が，総社市役所及び総社警察署の方と協働で，早朝（8:10～8:40）に，交通安全の現地指導を実施した．

第1クォーター開始時は4月11日(水)，13日（金）に，国道429号のツタヤ北交差点及び国道 180 号バイパス南溝手交差点に分かれ，主に自転車通学の学生に交通安全のチラシを渡し，運転中のスマートフォンやイヤホンで音楽を聴きながらの運転の禁止などを重点的に指導した．

第4クォーター開始時は12月11日（火）に，国道180号バイパス南溝手交差点，南溝手前交差点，総社警察署溝手駐在所付近十字路に分かれ，交差点では住宅路内を通行せずに国道429号，180号バイパス沿いに通学するよう指導した．駐在所前十字路では，一旦停止，イヤホンの着用，並列通行等を重点的に指導した．

2-8-3　正課外活動支援

（１）ボランティア活動推進体制の検討

本学におけるボランティア活動を通した地域貢献活動・地域連携活動を推進させるために，また，COC+事業が終了して以降もその意思をつなぎ地域における大学の役割を果たすためにも，既存の体制を整備することが必要である．

現状では，学生の主体的な正課外活動の推進に向けた取り組みとして，学生支援団体PZLの設立，学生支援室SASの設置，SAS登録学生制度の創設を進めてきた．正課外活動のうち，ボランティア活動においては，これまで多数の掲示板で乱立して発信していた情報に対して，SAS 登録学生制度をつくり，学生個人が興味のある活動分野についての情報をダイレクトに受け取ることができるようにした．また，紙ベースの掲示については学生支援室SASに一本化するよう進めてきた．さらに，これらは学生支援団体PZLが管理運営を行い，学生相互の支援体制で進めてきた．一方で，現状では，「ボランティア要請を発信しているのみであり，どの学生がどのボランティアに参加したのか把握できていない」といった課題や「大学に要請のあるボランティア活動は，先方が企画した内容のなかでの手伝い的なものが多く，都合よく使われる活動も少なくない」といった問題，さらには「要請されるボランティア活動の中には，1度や2度では終わらず，継続的な支援

を望むものも多く，行き帰りの交通費が負担になり，活動の参加を諦めるケースは少なくない」といった課題がある．

そこで,「学生のボランティア活動の把握」「ボランティア要請団体および活動内容の監視」「ボランティア活動助成金制度の設置」を柱に整備を進めてきた．しかし，金銭的な問題，人員的な問題に当たり，整備は完了しておらず，2019 年度以降も継続的に整備を進める．

（2）PZL 活動支援

学生支援団体 PZL は，日常の活動である学生支援室 SAS の管理や SAS 登録学生へ向けたボランティア情報の発信に加えて，2018 年度は以下の活動を行った．学生支援部会では，これらの活動をサポートした．

□PORU の発行

「学生にもっと教職員の方々に興味をもってもらい，両者の距離を縮め，いろいろなことを気軽に相談できる関係にしたい.」,「この冊子を通して，PZL のことを学生や教職員の方々に知ってもらい，正課外活動を発展させたい.」という PZL メンバーの思いで 2017 年度から始まった PORU．2017 年度は，学長，副学長，学生部長，学部長を紹介する内容で，2018 年度は各学科 1 名の教員を紹介する内容で発行した．企画や取材，原稿執筆，写真撮影などは全て PZL の PORU 担当学生が進め，取材依頼やアポ取り，印刷会社とのやり取りなどを学生支援部会でサポートした．

この活動は学生 FD 活動の一環として行われており，今後も年間に 1～2 回のペースで発行することになっている．

□しゃべり場（学生発キャリアアップ支援第二弾）開催（2018 年 12 月 13 日）

学生たちが現場で働いている人たちとほとんど会うことがなく社会に出ていくことに疑問と不安と感じて，自分たちで専門職の方との出会いをつくろうと考えて企画したイベント「しゃべり場（学生発キャリアアップ支援)」を開催した．2017 年年度に実施した第一弾に引き続き，第二弾も,「けんだい×そーしかい」と題して，保健福祉学科の学生を主対象として，講師には総社市社会福祉会の方々を招いた．イベントには 23 名（学生 18 名，社会人 7 名）が参加してグループワークなどを行った．

□チャリティーフリーマーケット開催【瀬島】

西日本豪雨災害支援のためのチャリティーフリーマーケットを大学祭の期間（11 月 3 日～4 日）に合わせて開催した．この取り組みは学生が主体となって，学生だけでなく教職員に広く呼び掛け，フリーマーケットへの出品を 2 週間という短い期間であったが集めた．そして，大学祭当日は学内関係者だけでなく学外の方も多く来場いただいた．その結果，全売り上げは 46,542 円となった．このチャリティーフリーマーケットの売り上げは，西日本豪雨災害支援のための義援金として，日本赤十字社岡山県支部，岡山県共同募金会等で構成される「平成 30 年 7 月豪雨岡山県災害義援金」募金運動推進本部（本部長：岡山県知事　受付：岡山県庁）に届けた．

□「平成 30 年 7 月豪雨」災害ボランティア活動補助

「平成 30 年 7 月豪雨」による災害発生を受けて，本学では 7 月 14 日からの三連休に大学をあげてのボランティア活動を総社市で実施した．PZL メンバーは，SNS を使ったボランティア活動の呼びかけや本学の実施本部にて受付業務等の補助をした．

□宮島サミット（2018 年 12 月 15，16 日）

広島県の宮島で毎年開催されている宮島サミット(主催:広島経済大学 興動館 学生 FD プロジェクト）に PZL のメンバーから 4 名の学生が参加し，学生 FD 活動を実施している中四国の大学（8 大学）の学生と意見交換などを行った．なお，本学の学生は学生 FD に関わる助成を受けて参加した．

2-8-4　障がい学生支援

（１）対応事例

2018 年度に提出された支援要請に対して学生支援室を中心として検討会議を重ね，合意形成がなされた項目について，以下の要請・支援を実施した（継続要請・支援も含む）．

・FM マイクが快適に使用できる環境の整備(ハウリング対応のマイクとプラグの設置)
・所属学科の教員に対して，学修面および学修面以外の配慮を要請
・排泄介助（学生支援班）
・通学介助（ピア・サポーターによる）
・その他，個別対応

（２）研修会開催

・大学教育開発センター・ワークショップ

『障がいのある方へのちょっとした手助けのために　あいサポート運動の取り組み』

日時：平成 30 年 6 月 14 日（木）

講師：中田雅章氏（岡山県社会福祉会顧問，岡山県権利擁護センター運営委員）

内容:障害者差別解消法の趣旨と岡山県における，あいサポート運動の取り組みについて紹介いただいた．また，様々な障がいのある方々が困っていること，それを補う工夫や配慮についてガイドブックと DVD の視聴を通して解説いただいた．なお，この研修の参加者は「あいサポーター」に認定された．

参加者：60 人（教員 22 人，職員 6 人，学生 32 人）

（３）研修会参加

・『平成 30 年度　障がい学生支援研修会』

日時：平成 30 年 8 月 28 日（火）13:30～16:30

場所：岡山大学

主催：岡山大学全学教育・学生支援機構　学生総合センター
　　大学コンソーシアム岡山　障がい学生支援委員会

参加者：京林部会員

内容：基調講座「障がい学生と企業をつなぐ－就労移行支援事業に関するミニ講座－」
（講師　池谷浩輔・岡山大学）
基調講演１．「障がいのある方の 超”短時間雇用制度「ショートタイムワーク制度」について」（講師　木村幸絵・ソフトバンク）
基調講演２．「発達障がい学生のための就職支援プロジェクト－社会福祉法人すいせいの取組－（講師　塚田吉澄・社会福祉法人すいせん）

（４）社会活動

・平成 30 年度版障害者白書事例報告掲載

内閣府において，本学の障がい学生支援の取組が先進的であると評価されたことを受け，同府からの依頼により，本学の障害者差別解消に関する取組事例を紹介するコラムの執筆を行った．なお，本コラムは，平成 30 年度版障害者白書および平成 29 年度障害者施策の概況（第 196 回国会（常会）提出）に掲載された．

2-8-5　学生相談室の活動

（１）相談体制

学生相談室は平成 6 年 5 月に開設された．開設当初は本部棟 1 階事務室横にあったが，平成 8 年からは図書館 2 階個人閲覧室の一室，平成 24 年度からは学部共通棟（西）へ移動し，さらに，平成 26 年度からは学生相談室の認知度向上を図る観点から環境を整備し，より入りやすくより安心して相談できる環境づくりを目指している．

相談室のスタッフは平成 6～9 年度は学内カウンセラー2 名（臨床心理士）により週 2 日，平成 10 年度からは臨床心理を専門とする学内カウンセラー1 名と学外嘱託カウンセラー（臨床心理士）1 名が新たに配置され，4 名体制で週 4 日開室していた．平成 11～12 年度は学内カウンセラー2 名と学外嘱託カウンセラー1 名の週 3 日，平成 13～16 年度は学内カウンセラー（臨床心理士，心理学専門）3 名と学外嘱託カウンセラー（臨床心理士）1 名の 4 名で週４日開室していた．平成 17 年度からは学内カウンセラー（臨床心理士，心理学専門）3 名と学外嘱託カウンセラー（臨床心理士）3 名の計 6 名体制となり，月～金曜日まで毎日開室できる体制となった（ただし，休業期間中を除く）．平成 30 年度の開室時間は週 24～27 時間である．

〔平成 30 年度　開室時間と運営スタッフ〕

曜日	時間	氏名	備考
相談室長		高橋　吉孝	学生部長
月	14:30～16:30＊1	周防　美智子	保健福祉学部准教授
	17:00～18:30＊2		
火	10:00～14:00	津川　美智子	学外カウンセラー
	15:00～17:30	井上　幸子	保健福祉学部准教授

水	9:30～13:30	斉藤　弘美	学外カウンセラー
	14:00～18:30	疋田　基道	学外カウンセラー
木	8:45～12:15	疋田　基道	学外カウンセラー
金	12:00～16:00	津川　美智子	学外カウンセラー
	16:30～18:30＊3	京林　由季子	保健福祉学部准教授

＊1　第１,第２，第４クォーターのみ

＊2　第３クォーターのみ

＊3　第１週,第２週のみ

平成 20 年～29 年度まで，精神科医である中田謙二医師が学校医として加わり，学生への面談や相談室カウンセラーへのコンサルテーションを行っており，学生相談室長（学生部長）を含め，計 8 名のスタッフで構成され，この他に保健室及び学生支援班と連携を図りながら運営している．平成 30 年度から精神科の学校医不在となっているが，相談内容の重要性から，後任の精神科医配置を予定している．

（２）相談室の取組

月～金曜日の開室時間内のカウンセリング以外に様々な取組を行っている．

入学式当日には，学生相談室（愛称：ほっとルーム）のパンフレットを配布し，カウンセラーの自己紹介や学生相談室の PR を行い，気軽に来室できる雰囲気作りを行っている．同時に，誰でも予約なしで学生相談室を来訪，見学できる「ちらっとほっとルームキャンペーン」を実施した．また，相談室会議やカンファレンスを年 3 回開催した．

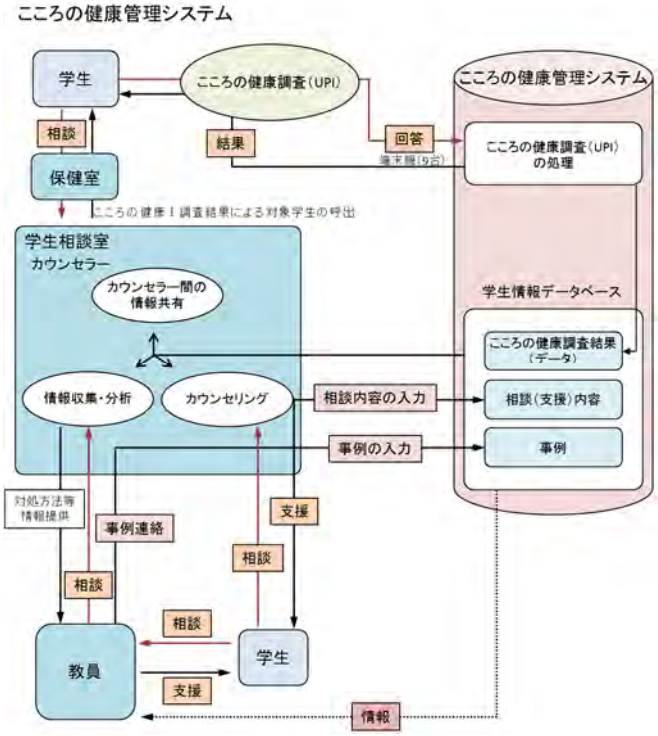
さらに，平成 26 年度より教育力向上支援事業に鑑み．デザイン学部の協力を得てパンフレットを刷新，より入りやすい雰囲気にするため外壁を装飾するなど.誰もが親しみを感じられるような明るく暖かい雰囲気の相談室にするための作業が始まっている．

〔学生相談室の取組〕

前期	概要
４月	入学オリエンテーション （ほっとルームパンフレット配布及び掲示） こころの健康調査（UPI） （ほっとルームカード配布） ちらっとほっとルームキャンペーン
６月	学生相談室会議・ケースカンファレンス
後期	概要
１２月	学生相談室会議・ケースカンファレンス
１月～２月	学生相談室会議・ケースカンファレンス

また，各学部教員から要請があった場合やカウンセラーが重要ケースと判断した場合，相談室長や複数のカウンセラー，関係する学部長や教員で対応について協議することとし，学生への緊急対応及び危機介入時には岡山県精神保健福祉センターに相談・協力を得ることにしている．

平成 23 年度からは，平成 22 年度に構築した「こころの健康管理システム」（別図参照）を活用し，「こころの健康調査（UPI：University Personality Inventory）」の結果や学生指導における事例等の情報管理を行い，学生個々のニーズに応じた効果的な相談を行っている．



（３）学生相談内容及び相談件数

学生相談室は来談者との秘密保持の遵守が必要である．相談の内容は，①対人関係（友人・親・教職員・アルバイト等の上司や同僚等），②修学や進路に関すること，③情緒的な問題，④教員へのコンサルテーション等である．件数は少ないが保護者からの相談もある．相談内容は多岐にわたり，中には病理水準域の学生も来室する．

来室のきっかけは，①学生の自発来談，②保健室からの紹介，③学生友人からの紹介，④教職員からの紹介に分類される．電話やメールでの相談対応は原則として行わないが，学生の状況によっては電話によるカウンセリングを行うこともある．

相談の基本的なスタンスは，学生に個別に会い，ゆったりと時間をとり，学生が語る内容を聴いて，心理臨床の専門家として必要な支援を行い，また，学生が自己を語り，自己を理解し，自己をまとめていく過程を大切にして，個々の学生の発達や成長という視点から心理教育的な関わりを行っている．危機介入が必要な場面を除いては学生本人が自ら解決できるように支援をしていきたいと考えている．

来談者の平成 29 年度及び平成 30 年度の月別人数は，下表のとおりである．

〔月別延来談者数〕　　(H31.3.29 現在)　(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		うち学生来談者数	
														うち実数	延数	実数
H30 年度	22	23	25	30	11	11	35	30	28	20	16	9	260	61	244	50
H29 年度	67	41	35	40	3	14	48	28	20	20	16	1	333	81	311	68

2-8-6 保健室の活動

（１）保健室業務

保健室は，開学時より本部棟 1 階にある．主に学生の健康診断，健康相談，健康診断証明書等の発行，けがや急病の手当等，学生の心身の健康に関わる業務を行っている．

保健室のスタッフは，常勤職員は養護教諭 1 名のみであるが，平成 27 年度より医師免許を持つ教員 2 名が保健室主任を，学生部長が保健室長を兼務している．

本学では，開学当初より平成 26 年度まで森下病院の森下和郎先生，平成 27 年度より済生会総合病院の塩出純二先生に学校医を委嘱しており，学生の健康や感染症予防対策，その他保健活動に関する相談をしている．

（２）具体的内容

保健室で行う主な取組は次のとおりである．

・学生定期健康診断
・学生の心身の相談
・オープンキャンパスや大学祭等における救護業務
・健康診断証明書，検査結果証明書等の証明書発行
・「保健だより」による健康に関する情報発信
・インフルエンザ流行時期等の感染症予防対策
・けがや病気の手当及び緊急時の救急搬送依頼
・学生相談室の予約等

（３）平成 30 年度保健室利用状況　　(H31.3.29 現在)　(人)

	内科	外科	その他疾病	検査	相談等	証明書	その他
H30 年度	81	123	11	93	772	300	7
H29 年度	80	82	16	74	324	193	7
H28 年度	118	97	10	673	765	611	5

2-8-7　学生生活アンケートの実施

平成30年12月から平成31年1月にかけて,本学学生からの意見聴取活動の一環として,学部生及び大学院生全員を対象とした学生生活アンケートを実施した．これは平成27年度に実施した学生アンケートの質問項目を見直したものである．全体構成は「学生生活全般」30問,「学修全般」30問の計60問である（所属，学年の問を除く）．これまではマークシート方式にて実施していたが，今回より全学情報システム（学務系）「はっとりん」のアンケート機能を活用し，実施した．アンケートの回答者数は学部生787名（回収率48.3%），大学院生55名（回収率31.4%），計842名（回収率46.7%）であった（全学的な回答状況の詳細は巻末付録１Ｂ参照）．回収率が低かった原因としては,「はっとりん」での実施に当たり,準備に時間を要したため，第4Q期間中での実施となった．現カリキュラムでは第4Qに3年次の必修科目がない，学外研修が実施されている，卒業研究・修士論文のまとめの時期であるなどの影響があったと考えられる．次回へ向けて実施時期，実施方法の改善などを検討する．

［学生生活全般アンケートの回答概要］

学生生活全般に関する質問は，通学に関するもの（4問），家計に関するもの（3問），部活動に関するもの（1問），悩みに関するもの（5問），情報提供や学習環境に関するもの（5問），キャンパスの安全に関するもの（1問）福利厚生に関するもの（3問），進路開拓支援に関するもの（6問），全般的な要望等（2問）の計30問とした．以下，幾つかの質問における回答状況からみられる特徴を述べる．

【通学・家計に関するもの】

学部生に関しては35%がJR桃太郎線を利用しており，残りは自転車，原付，自家用車等での通学であるが,大学院生になるとJR桃太郎線の利用率は14%まで減少している．また,アルバイトにて生活費を支えている学生（奨学金・仕送り等との併用含む）が 50%以上である．

【悩みに関するもの】

全体の約 50%の学生が進路や就職に関する悩みを抱えているようである．これらの悩みは学内の友人や先輩に相談することが最も多く，その次に家族・親戚に相談するようである．

しかしながら，誰にも相談しない（出来ない）学生も10人に1人はいるようである（学部生 11.4%，大学院生 12.7%）．学生相談室・保健室の場所を両方とも知っている学生は約70%であるが，両方とも知らない学生も存在している（学部生8.8%，大学院生3.6%）．利用については80%の学生が利用したことがないと回答しており,利用したことがある学生の中では半数以上の学生が満足度50%以上と回答している．

【学習環境に関するもの】

オフィスアワーやアドバイザー制度を利用した学生の半数以上が満足度 50%以上と回答しているが，利用したことがないもしくは知らないと回答した学生が学部生では51.0%，大学院生では81.8%に上っている．大学院生の場合は，教員とのコミュニケーションが日々の研究活動で密であるので,問題は少ないと考えるが学部生に関しては，より利用率を高める

方策が必要かもしれない．学外施設に関しては，図書館の利用率は高いが，語学センター・国際交流センター・情報教育センター・運動施設の利用が低く，こちらも何らかの方策が必要の可能性がある．学内施設の配慮・改善の必要性については特に感じていない学生は大学院生では 50%であるが，学部生では 25.5%で，通路やトイレ，照明等に配慮や改善を求められている．

【進路開拓支援に関するもの】

進路に向けた準備活動を始める時期として学部 3 年次の夏休み頃までに始める学生が約 45%と回答しており，少なくとも 4 年生までに始める学生は約 70%に上っている．県内企業を希望している学生は学部生で 33%，大学院生で 25%であり，これは大都市圏を希望する学生とほぼ同じ割合である．就職情報は主に民間の情報 WEB サイトを利用しており（学部生 39.4%，大学院生 65.6%），学内の求人情報や学内キャリアカウンセラーの利用率は併せても 10%程度である．就職支援に対する満足度については満足度 50%以上が学部生で 26%，大学院生で 27%であり，わからないと答えた学生が半数に上っている．

【全般的な要望】

全体として大学生活に満足度 50%以上と回答した学生が学部生で 67%，大学院生で 69%である．学部生は授業方法，カリキュラムの工夫・改革を望んでおり（46.7%），大学院生は実験室や実習室など機器設備の充実を望んでいる（40.0%）．

［学修全般アンケートの回答概要］

学修全般に関する質問は，学部生と大学院生で異なる．共通する問として，ポリシーに関するもの（2 問），履修登録に関するもの（5 問），シラバスに関するもの（3 問），教育全般に関するもの（7 問），留学に関するもの（2 問），ボランティア等課外活動に関するもの（2 問），学習全般に関するもの（2 問）の小計 23 問とした．学部生には共通教育に関するもの（4 問），学部教育に関するもの（2 問），教育全般に関するもの（1 問）を，大学院生には講義に関するもの（4 問），研究に関するもの（3 問）の小計 7 問を別途指定しており，それぞれ計 30 問である．以下，幾つかの質問における回答状況からみられる特徴を述べる．

【ポリシーに関するもの】

ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーについて聞いたことがない，内容までは知らないと回答した学生が，学部生で約 70%，大学院生で 50%を超えている．これらのポリシーの周知の方策が必要であると考えられる．

【シラバスに関するもの】

シラバスに関しては多くの学生が見ており，80%以上の学生が普通～役に立っていると感じているようである．また，はっとりんに関しても 70%以上の学生が満足度 50%以上と回答している．

【共通教育に関するもの（学部生）】

共通教育に関しては 60%以上の学生が満足度 50%以上と回答している．興味を持つ科目群は分散しているが，強化して欲しい科目群として語学・国際系を挙げている学生が多い（興

味 14.5%,強化 24.8%)．また，社会連携系も興味を持っている学生は 8.1%であるのに対し，強化して欲しいと感じている学生は 16.4%となっており興味深い．強化して欲しい点として授業内容の充実が 40.5%，授業方法の改善が 27.6%と高い．

【専門教育に関するもの（学部生)】

専門教育について満足度 50%以上と回答した学生は 80%を超えているが，強化して欲しい点として授業内容の充実が 33.0%，授業方法の改善が 32.0%となっている，

【講義に関するもの（大学院生)】

大学院の授業科目につては 75%以上の学生が満足度 50%以上と回答している．強化・充実して欲しい点として語学・国際系を挙げた学生が 50%近い．

【研究に関するもの（大学院生)】

指導教員による研究指導について 80%を超える学生が満足度 50%以上と回答している．ただし，半数を超える学生が研究テーマ・論文など研究に関することに悩みを抱いているようである．

【教育全般に関するもの】

自習時間について 1 週間辺り 10 時間未満と回答した学生が学部生で 60%を超えている(大学院生では 30%未満)．自習環境についても施設の拡充等要望があるため，この要望に答えれば，自習時間向上に良い影響があるかもしれない．

【留学に関するもの】

海外留学に関する意欲について，60％を超える学生が無いと回答している．また，留学意欲がある学生のなかでは，留学先の希望地域は欧米地域が圧倒的に高い．留学期間については学部生では短期留学を大学院生では 1 年以上を希望しているようである．

【ボランティア等課外活動に関するもの】

団体に所属して活動している学生は 10%程度とごくわずかであるが，任意に選び参加している学生も学部生で 33.5%，大学院生で 20.8%に上っている．また，活動経験はないが，情報が欲しいと答えた学生も，20%を超えている．インターンシップに関しては経験があるもしくは参加したいと回答した学生が，学部生で約 80%，大学院生で約 70%であった．

【学習全般に関するもの】

大学入学以来自身が成長したと感じている学生は学部生で約 70%，大学院生で約 85%であった．在籍年数が多くなるにつれ，成長を感じているようである．今後成長させていきたい点として，学部生は専門教育を通じたキャリア形成が 35.5%，人間力形成が 24.1%であり，大学院生はグローバルコミュニケーション力が 37.7%，専門教育を通じたキャリア形成が 34.0%と高かった．

2-8-8　まとめと課題

今年度は，学生生活支援として，「学生会館の整備」，「ホームページの改善の検討」，「西日本豪雨災害（平成 30 年 7 月豪雨）の対応」，「交通指導」を実施した．このうち，学生会館の整備については，売店のコンビニ化が実現した．これにより学生生活の利便性は向上す

ることが期待できるが，食堂と喫茶の課題は残されており，引き続き整備のための検討を進めていきたい．また，ホームページの改善については，本部会が移行するセンター内で引き続き整備を進め，特に学生にとってアクセシビリティの高いものにしていきたい．一方，正課外活動支援については，「ボランティア活動推進体制の検討」，「PZL 活動支援」を実施した．ボランティア活動推進体制については，今年度は検討段階で止まっており，2019 年度以降に具体的に体制整備を進めていきたいと考えている．また，PZL 活動支援については，PORU やしゃべり場，学生 FD 活動に関する他大学との交流といった活動が定着し，安定した活動になってきた．今後は，学内における学生 FD 活動が活発になるよう引き続き支援していきたいと考えている．障がい学生支援については，今年度新たに 3 名の学生の支援が始まった．合意形成された項目について，計画的に配慮実施が進むよう，多方面に継続的に働きかけるとともに，今後入学してくる学生についても迅速な対応ができるよう，受け入れ態勢整備を進めていく必要がある．

3 年ぶりに実施した「学生生活アンケート」では，平成 27 年度以降に整備を進めてきた事業の成果や課題がみえてきた．また，今後整備を強化していく必要があるものもみえてきた．2019 年度以降はこれらアンケート結果を根拠としながら，学修環境，生活環境の整備を進めていく．

2-9 まとめと課題

平成 30 年度について新規事業はそれほど特にユニークなものはなかったかもしれないが，昨年度までの事業の仕上げや次年度への準備を中心に各部会で事業が実施された．教育企画室では，昨年度に教学 IR 部門を立ち上げ，一昨年度から稼働している教学システム Campus Square（通称「はっとりん」）を本学の教学データの要のデータベースとするべく検討を加えた．これは，今後も各所の協力を得ながら継続的に実施され，来年度，再来年度の完全な構築を目指している．アドミッション部会では，昨年度に続いて Web を使った入学時アンケートを実施し，かなり豊富なデータを得ることができている．また，現在強く要請されている新しいアドミッション・ポリシーの策定と入試方法の刷新が検討された．共通教育部会では，新しい体系の共通教育の実践及びアクティブ・ラーニングの促進が行われた．FD 部会では，授業参観と授業改善意見交換を実施し，教員の教授能力向上に寄与する取り組みを行った．教育評価部会では，教学システム「はっとりん」上に置くシラバスの問題の解決に取り組み，今後の基礎を築くことができた．キャリア形成支援部会では，県大吉備塾を継続的に実施し本学に定着させている．また，学生の学士課程教育の期間におけるキャリア形成を促進するためのキャリアカルテの教学システム上での構築と評価を行い，実施に移す準備ができた．学生支援部会では，学生 FD の定着と発展及びボランティアセンターの機能とシステムの検討を行った．教育改革 WG においては，社会連携教育の方法論に関する手法を開発しつつ「岡山創生学」を進行させ，「地域創生推進士」の一期生が誕生した．

現時点では，大学教育開発センター事業で，本学の教育のブランド化に寄与する水準に至っているものは少ない．今後は，この点を意識した挑戦的な取り組みが望まれる所である．

3 教育力向上支援事業

3-1 目的

本学の教育力向上支援事業は大学全体や学部・学科等の人材養成の目的，学生に身につけさせるべき学修成果を明確にし，教育活動の成果として，本学が学生に保証する基本的な資質を身に付けた人材を輩出し，社会の信頼に応えるため，教育の充実・質の向上及び教員の教育力の向上に結びつく調査並びに実践活動に助成費を交付する事業である．

平成 30 年度事業における支援対象は教員の教育力向上・開発を前提として，共通・学部教育の連携推進，学部教育の改革推進，キャリア形成支援ならびに平成 31 年度からの第３期中期計画期間における学部教育の改革構想推進に関するものであった．申請書の審査にあたっては，教育研究担当理事・各学部長・共通教育部長・大学教育開発センター長ならびに教学課の協働による体制とし，採択に向けた作業を行った（７件・採択は平成 29 年度)．

なお，第２期中期計画期間における本事業の取組に一定の区切りをつけるため，何れの取組も今年度限りの計画とし，本事業の総括を経て後継事業の構想に着手することとした．

3-2 本年度実施事業及び来年度実施予定事業

（１）平成 30 年度教育力向上支援事業一覧

平成 30 年度において採択・実施された教育力向上支援事業は以下のとおり．

平成 30 年度 教育力向上支援事業 採択事業一覧（全 7 事業）

代表者所属	代表者氏名	事業名	査定額（千円）
保健福祉学部 栄養学科	新田 陽子	韓国又松大学校での調理実習を通したグローバル教育の推進	620
保健福祉学部 保健福祉学科	中村　光	「岡山創生学」としての保健・医療・福祉の多専門職連携教育プログラムの開発	517
保健福祉学部 看護学科	名越　恵美	SBAR を用いたシミュレーション演習プログラムの作成	390
保健福祉学部 看護学科	實金　栄	看護アセスメント力向上のための看護理工学の導入　第Ⅰ期	496
保健福祉学部 保健福祉学科	新山　順子	保育士養成課程の見直しに対応した岡山県立大学モデルカリキュラムの開発	522
デザイン学部 デザイン工学科	津田　勢太	建築学科（仮称）の教育体制構築に向けた課題調査	560
デザイン学部 造形デザイン学科	野宮 謙吾	デザイン学科（仮称）における DP・CP 達成に関する教育状況調査	550
		計（千円）	3,655

（２）平成 30 年度教育力向上支援事業の概要と成果

ア　共通・学部教育の連携推進に関わる取組

共通・学部教育の連携【グローバル教育の推進】新規

事　業　名	韓国又松大学校での調理実習を通したグローバル教育の推進
代　表　者	氏名 新田　陽子（所属 保健福祉学部栄養学科）
目的及び活動概要	（目的） ・ 韓国の又松大学校で韓国料理等を調理実習で学ぶ. ・ 「料理」という視点から学生に海外に目を向けて貰う. ・ 担当科目である，調理学および調理学実習の内容充実・向上.
	（活動概要） ・ 3 月：又松大学校での実習日，宿泊場所と交通手段について最終確認（8 月 20～24 日，サンシャインホテル，マイクロバス使用）旅行会社から航空券と空港近辺での宿泊場所手配 ・ 6月：定員を超えたため最終13名を選出，ホテルの部屋数確定 実習内容の最終確認 ・ オリエンテーション開催（6/22，7/20，8/3）旅行会社への支払 ・ 8/20：岡山空港に集合，出発，16時ごろ大田市に到着 大田市内の食文化体験 ・ 8/21：又松大学校にて午前1回，午後1回の調理実習 ・ 8/22：又松大学校にて午前1回，午後1回の調理実習 ・ 8/23：又松大学校にて午前1回の調理実習 ソウルへ移動し，仁川空港近辺のホテルに宿泊 ・ 8/24：8時発の岡山行きの飛行機に乗り帰国
成果	・ 韓国料理を現地で体験でき，質の高い食文化体験ができた. ・ 韓国の学生との交流を通じて学生がグローバルな視点を養えた. ・ 担当教員にとって，具体的に授業等に反映できる実習と体験ができ，実際に調理実習Ｉでは韓国料理の回を設けて，その内容に反映させた.
課題等	・ 又松大学校での調理実習体験は，各年開講で 4 回以上開催しており，最近２回は定員を超えるほどの参加希望者がいる．しかし，その実習内容には又松大学校側の意向が大きく影響しており，又松大学校側が提示する内容を受け入れるしかない状況にある．実習内容充実のためには，こちらの要望を聞き入れてもらえる実習先を開拓するか，より上のレベル（例えば学長レベルなど）での又松大学校側との交渉が今後は必要であると考える.

イ　学部教育の改革推進に関わる取組

学部教育【学科横断教育の推進】継続

事　業　名	「岡山創生学」としての保健・医療・福祉の多専門職連携教育プログラムの開発
代　表　者	中村　光（保健福祉学部　保健福祉学科）
目的及び活動概要	（目的） ・ 今日の複雑化・高度化した医療・福祉の現場において不可欠な保健・医療・福祉に関わる多専門職の連携（interprofessional working: IPW）を実践的に教育する授業「チームガバナビリティ演習」を，「岡山創生学」プログラムとして改良・再開発する．
	（活動概要） ・保健福祉学部 3 学科の 3 年次生を対象にした，「チームガバナビリティ演習」（選択，1 単位）を開講した． ・授業は，「IPW に関する講義」，「IPW のためのチームビルディング演習」，「クライエントとの交流」，「学外演習」，「成果報告会」から構成した．「クライエントとの交流」は，本年度は台風被害のため一部のみの実施であった． ・昨年度から導入した「学外演習」では，地域の医療機関を学生グループで訪問し，インタビュー調査等を通じて地域が抱える医療的な課題と医療チームへのニーズを発見した．
成果	・33 名の学生（看護学科 4，栄養学科 9，保健福祉学科 20）が受講した． ・学生の授業満足度は極めて高かった．例えば，大学の授業評価アンケートへの回答は平均 4.7（最大値 5）であった．独自の授業評価アンケートにて行った「授業科目の到達目標」に対する達成度の自己評価は，「自らの専門性と他専門職の専門性を理解し，他者にも伝えられる＝平均 4.9」，「チームパートナーシップに必要なことについて理解し，実行できる＝平均 4.9」，「チームマネジメントに必要なことについて理解し，実行できる＝平均 4.9」，「クライエントを全人的に理解する＝平均 5.0」（いずれも最大値 6）であった． ・２年目となる学外演習のプログラムは，事前学習をさらに充実させ，より効果的な形で実施できた．学生レポートでは，IPW に必要なこととして主に以下が挙げられた．①自分の専門性を高める，②他職種の専門性を理解する，③信頼関係を構築する，④率直な意見を交換する，⑤情報を共有する．

課題等	・自主学習の質が授業成果を大きく左右する授業であり，学生がより積極的に自主学習に取り組めるような，工夫および情報提供の強化が課題である. ・社会における医療的課題，医療機関の機能は変化し続けるものであり，今後もプログラムの不断の見直しが必要である.

学部教育【学科教育の推進】新規

事　業　名	SBAR を用いたシミュレーション演習プログラムの作成
代　表　者	氏名　名越　恵美　（所属　保健福祉学部看護学科）
目的及び活動概要	（目的） 1）SBAR を用いた報告を取り入れたシミュレーション演習の実施. 2）SBAR 用いた報告の学習効果についての評価
	（活動概要） 1） SBAR を用いた報告を取り入れたシミュレーション演習 ①「看護アセスメント学」において看護学科 3 年生を対象に「SBAR」（ Situation ： 状 況 ,Background ： 背 景 ,Assessment ： 評価,Recommendation：提案の順で，必要な情報を伝達しコミュニケーションを標準化するツール)についての講義を実施した.さらに，ペーパーペイシェントを使用して演習を行った.（1 時間） ②「看護アセスメント学」において看護学科 3 年生を対象に胃がん術後患者のシナリオを用いたシミュレーターを使用して観察を実施し,デブリーフィングを行いアセスメントの視点をグループで共有した.（２時間） ③「看護アセスメント学」において看護学科 3 年生を対象に胃がん術後患者のシナリオを用いたシミュレーターを使用し,情報収集した後内容を整理し「SBAR」を用いて報告するという一連のプログラムを実施した（2 時間） 2） 教育プログラムの評価 対象学生に対し SBAR について実習での使用状況とシミュレーションプログラム演習評価の調査を行った.

成果	1)　講義後の演習であったため，学生は関心を持って実施していた．B 情報収集のみならず A アセスメントの必要性があるため，学生は内容を整理する必要性と R 提案に困難感を感じていた． 2)　看護学生への使用状況調査では，臨地実習を 3 領域以上終えた時点でアンケート用紙を配布した．臨地実習における SBAR の使用は，いつも意識した 3%，時々意識した 34%，あまり意識していない 40%，全く意識していない 23%であった．SBAR を使用した学生のうち，とても役に立った 33%，まあまあ役に立った 67%と回答した．SBAR の使用により＜看護師への伝わりやすさ＞＜提案によるケアについての意見交換＞＜報告のしやすさ＞等，報告についての困難さは，＜患者の変化がないと報告することがない＞＜報告のタイミングがとれない＞＜提案の困難＞＜アセスメントの不十分さ＞＜情報の整理の不足＞等の内容であった． SBAR の使用は十分ではなかったが，使用したすべての学生は効果的に感じていた．SBAR を用いた報告によって正確な情報伝達が可能となり，報告の困難さが軽減され自らの提案もしやすくなっていた．今後は SBAR の使用促進のため，臨地実習での SBAR の記入用紙の使用を検討し，学びが実践につながるようプログラムを改善する． 3) 本事業は，第 38 回日本看護科学学会（H30 12 月）でポスター発表し，教育開発センター紀要に投稿中である．

学部教育【学科教育】継続

事　業　名	看護アセスメント力向上のための看護理工学の導入　第□期
代　表　者	氏名　實金 栄　（所属　保健福祉学部看護学科）
目的及び活動概要	（目的） 1）携帯型超音波画像診断装置の操作スキルの習得と画像の読影，アセスメントに関する教員への研修 2）看護基礎教育課程での試験的教育プログラムの実施
	（活動概要） 1） 教員への研修 超音波画像診断装置の操作スキル習得のための，学外および学内での教員研修を実施した． 2） 試験的教育プログラムの実施 導入可能な科目を検討し，試験的教育プログラムを行った．

成果	1)　教員研修 西日本で唯一研修を行っているメディカルシミュレーションセンターひめまりあにおいて基礎看護学 1 人と成人看護学 1 人が学外研修に，日本シグマックスによる学内研修に基礎看護学 2 人と老年看護学 2 人が参加できた. 2)　試験的教育プログラムの実施 ①　カリキュラムへの導入 基礎技術実験演習（選択，2Q），老年看護学（必修，3Q），母性看護学（必修，4Q）に導入可能と判断された．基礎技術実験演習では佐々木新介准教授により，基本的な画像の読影と，診断装置の基本的操作方法について教授した．老年看護学および母性看護学では，メディカルシュミレーションセンターひめマリアよりエグゼグティブディレクター田中宏治氏を講師に招き，静・動脈，膀胱の描出，母性看護学ではファントムを使用し，胎児の描出および頭囲等の測定による出生日の予測を行った. ②　現任看護師との連携演習 将来的には，卒業生が超音波画像の看護アセスメントに活用できることが目標となるが，そのためには臨地での指導者が必要となる，そのため一般社団法人ヘルスケア人材育成協会と連携し，現任看護師と共に教員，学生が 4Q に研修を行った.
課題等	試験的教育プログラムはすべて 2 年次生で行われているため，今後は①年次進行に応じたカリキュラムの検討，及び②演習に必要な超音波画像診断装置およびファントムの整備が課題である.

ウ　キャリア形成支援に関わる取組

学部教育【教育プログラムの改善開発及び学生のキャリア形成支援】新規

事　業　名	保育士養成課程の見直しに対応した岡山県立大学モデル・カリキュラムの開発
代　表　者	新山順子（保健福祉学科）
目的及び 活動概要	（目的） ・ 新しい『保育所保育指針』（平成 29 年改訂告示）に対応した保育士養成モデル・カリキュラムの開発

	（主な活動概要） ・ 乳児，1 歳以上 3 歳未満児への保育に関連する教科目の見直しや内容充実として…「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」「保育実習指導ⅠB」において，乳児モデルを活用した実践的な授業を実施した(2018 年 5～6 月ほか)． ・ 保育の内容に関する教科目の充実,「保育の計画と評価」に関する教科目の検討として…保育内容系列の科目では，「チュッピーひろば」を活用した地域貢献力・保育実践力の醸成を目指す協働授業を実施した．表現系の科目では，地域に向けて成果発表会を開催した（2018 年 8 月)． ・ 保育の活動全体を通じた「養護」の観点，安全な保育環境確保の養成等を踏まえた関連教科目の内容充実として…「子どもの発達と表現」の教授内容の一環として，保育所以外の各種施設(児童発達センター)等の見学及び外部講師による講演を実施した(2018 年 6 月)．また「社会的養護原理」の一環として，石井十次記念聖園を見学し石井十次の功績を学ぶと共に，小舎制児童養護施設を見学した(2018 年 6 月)． ・ 保育士の資質・専門性の向上等に関連する教科目の充実として…「保育・教職実践演習」の教授内容の一環として，保幼小の観点による現職小学校教諭の講演を実施した（2018 年 12 月)．また「基礎ゼミナール」合同研究発表会の実施，及び第 59 回中四国保育学生研究大会（於：山口学芸大学・山口芸術短期大学）に参加した．（研究発表題目「保育におけるマスキングテープ活用の可能性」）
成果	・ 乳児モデルを活用した演習では，実際の乳児では確かめられない身体の部位に触れることができるため，乳児の発育や身体特長についての理解を深めることができた．また，乳児モデルに触れることで，乳児への愛着を感じ取る学生の姿も見られ，保育に関する学習意欲の向上に繋がるものと考える． ・ 授業成果発表会「子どものためのアートパフォーマンス」の様子は，動画撮影をして DVD 化した．これにより，発表作品の振り返りを通して，今後の表現の取組みに対する各自の課題を確認することができ，次年度の学生には創作への動機づけとして用いることが可能である． ・ 施設見学を通して,障害や発達の遅れが気になる幼児の支援内容や保育環境を理解することができた．また，家族支援，地域支援，保育所等訪問支援等の取り組みを学び，当該施設が地域の療育の拠点として果たす役割の重要性を学ぶことができた．講師の講演では，個々の幼児の発達や障害の特性に応じたきめ細やかな発達支援や家族・地域支援などの今日の子どもの保育における実践課題への理解をより深めることができた．

	・ 石井十次記念聖園では，我が国初の児童養護施設の家族舎を見学し，石井十次の功績に触れると共に，家族主義・満腹主義など現代にも通じる社会的養護の基本理念の原点を学ぶことができた．併せて小舎ケアを原則とし，職員が住み込みの勤務形態で子どもの養護を提供する新天地育児院の見学と職員との対話を実施した.施設保育士の職務内容及び勤務の実際を把握し,保育士が働く場の幅広さ・奥深さをとらえることができた. ・ 保育士養成カリキュラムの重要観点である「小学校との連携」をテーマに,現職の小学校教諭から現状と課題について講義を受け,意見交換なども活発に行い，保幼小連携に必要な幼児期の育ちについて学びを深めることができた. ・ 「基礎ゼミナール」合同研究発表会の結果を踏まえ，保育学生研究大会にて研究発表を行い,研究力量の芽生えとすることができた.学修成果については，レポートにて学生自身に確認させ，次年度の「専門ゼミナール」との連続性・発展性にも言及することできた.
課題等	・ 保育士養成の教育課程改訂と合わせ，保健福祉学部・学科での保育者養成という本学養成教育の独自性を打ち出すカリキュラムとその内実化に向けて，引き続いての取り組みが求められる.

エ　学部教育の改革構想に関わる取組

学部教育【学部教育の改革構想推進】新規

事　業　名	建築学科（仮称）の教育体制構築に向けた課題調査
代　表　者	津田勢太（デザイン学部デザイン工学科　准教授）
目的及び活動概要	（目的） ・ H33 年度にデザイン学部に設置予定の建築学科（仮称）の教育プログラム構築に向けた課題調査を目的とする.
	（活動概要） ・ 他大学の教育方法の訪問調査:訪問大学は以下の 6 大学 (2019/2/19 現在) 高知工科大学／東京電機大学／首都大学東京／大阪市立大学／武蔵野美術大学／近畿大学 ・ ランドスケープデザイン特別講義の実施 (2018/10/4):講師／林 英理子氏（ランドスケープデザイナー，リュースリング代表） ・ 建築レクチャー＋合同講評会の開催 (2019/2/14):講師／魚谷 繁礼氏 (建築家，魚谷繁礼建築研究所代表)，竹内 泰氏 (東北工業大学工学部建築学科 准教授) ・大学間連携による教育交流活動についての調査

成　果	・ 大学訪問調査により，カリキュラムや授業手法，施設運用などについて調査をおこなった．特に，設計課題の流れや授業方法，卒業研究と卒業制作の履修方法について参考となる知見を得た． ・ 特別講義では，ランドスケープデザイン，古民家改修設計，被災地活動の 3 人の専門家に講義していただいた．地方公立大学の建築学科が特色を出す活動テーマと成り得る内容であり，示唆に富むものであった． ・ 合同講評会では，2 年生から 4 年生まで計 10 組の学生が，設計演習課題や卒業制作，学外活動の成果を発表した．全体の流れを俯瞰的に見ることができ，低年次学生に意欲を促す場ともなった． ・ 大学間の連携交流活動について，ワークショップ形式，合同の設計課題形式等について文献調査・ヒアリング調査を行うとともに，今後の活動について他大学教員等と意見交換を行った．
課題等	・ 本活動で得た知見をもとに，カリキュラムや教育実施方法に反映していく予定である． ・ 合同講評会を年間スケジュールとして定着化していくことで，選抜されることへの意欲を学生に促していくことは有効である．また，優秀作品を冊子として配布することについても検討していく． ・ 連携交流活動は，本学のような地方大学にとっては，学生に刺激や交流を与えるために重要なプログラムである．他大学とも協力して構築していく必要がある．

学部教育【学部教育の改革構想推進】新規

事　業　名	デザイン学科（仮称）における DP・CP 達成に関する教育状況調査
代　表　者	氏名 野宮 謙吾（所属 デザイン学部造形デザイン学科）
目的及び 活動概要	（目的） ・ 2021 年度の学科再編に向けて，現在新学科のポリシー及びカリキュラムの検討を進めているが，本事業では学科再編を契機としたデザイン教育の一層の改善を目指すべく，本学と類似した教育・研究機関を持つ他大学の DP ・CP と教育の関連についてその制定主体を含めて調査を行う．

	（活動概要） ・訪問調査実施に際し必要となる，DP・CP 達成に関する教育状況調査の質問票を作成（20 項目）. ・本学と類似した教育・研究機関を持つ他大学（関東，関西，北陸方面）及び連携実績のある他大学（広島，山口方面）に訪問し，質問票の項目を基にヒアリング調査を実施した.
成果	・ 複数の大学を対象とした調査の結果，多くの大学で従来学科単位で制定されてきた DP や CP が，学部・大学全体として一体的に制定する動きとなっている現状が明らかとなった. ・ また卒業時の学士力の質保証に関する取り組みについての先進的な事例（ディプロマ・サプリメント・システム等）を確認できた. ・ これらはデザイン専門教育の再編について参考事例として有益であるとともに，大学入試改革の影響を含めた教育運用の一助と成り得る.
課題等	・ 訪問調査に関しては，訪問担当者の人脈に基づく点や先方の訪問受入れ時期の面から，新学科に類似した大学，また調査内容における適正な回答者への訪問・ヒアリングが困難であった. 継続調査において改善の必要がある. ・ 更に，卒業成果物と DP 達成度の関係を確認する目的により，関連大学の卒業制作展の調査およびヒアリングを実施する計画である.

（３）平成 30 年度教育力向上支援事業のまとめ

平成 30 年度事業については 10 件の申請があり，教育研究担当理事・各学部長・共通教育部長・大学教育開発センター長ならびに教学課の協働による審査ならびに査定案作成作業を実施した. 応募件数の減少については，29 年度で計画が終了した事業が複数あったことが主な理由であるが，他の事業費や助成費での申請に転換した案件もあったことも，理由として挙げられる.

採択された 7 件のうち，保健福祉学部における取組については，主に専門分野における教育改革の推進に資するものであり，デザイン学部における取組については，第３期中期計画における学科再編をにらんだ包括的な調査研究に関するものであった. 全体としては専門分野の教育方法等の開発に関する真摯な取組が成果としてみられるものの，大学全体にわたり汎用性を以て共有しうる内容には乏しい結果であったとみられる点が惜しまれる. その意味で，造形デザイン学科の報告にみられるように，ポリシーとカリキュラムの構築・実施，及び学修成果の検証に基づく教育方法の改善といった諸活動の関係性において，つまりマクロな視点をもちつつ具体のあり方を求める改善活動の構築が，次期以降の課題であるといえる.

3-3 まとめと課題

平成 21 年度に創設された本事業は，本学における FD 活動である「相互授業参観や授業評価アンケートに基づく教育改善活動」，「全学 FD 研修会による啓蒙活動」と並び，本学教員の教育力向上に向けた「教育開発活動」としてその柱の一つを担ってきた．年度によっては教員における教育改善意欲の反映として 30 件をゆうに超える申請があったが，10 年間の推移において次第に，高大接続，地域連携，グローバルさらにはキャリア形成など，大学教育に求められる課題が多様化するようになったこともあり，申請案件によってはその潮流と同時に汎用性の意識が薄れ，個別化・表層化の様相を呈するに至ったといえる．また，各事業の成果について，計画期間終了後の波及効果や発展性などが，十分配慮されているかどうかについて不明な点があり，アフターフォローの課題も浮上している．

一方，大学機関別認証評価レベルでは，学修成果の検証とこれに基づく教育改善の不断の取組を通じた「教育の内部質保証に向けた PDCA」活動がクローズアップされてきており，現場レベルでは，ディプロマ・ポリシーを指標として，学生における主体的な学習の支援に関する方法の改善・実行・成果検証（PDC）を不断に行うことが求められている．例えば「アクティブ・ラーニング」や「ルーブリック活用による質評価」にみられるように，汎用性が期待される課題取組が教育開発の研究レベルで頻出しているのはその証左といえる．

平成 29 年度の本報告で「今後は，学修成果の改善を念頭に，個別事業の枠を超えて汎用性をもって成果共有できるよう募集段階での方向づけを行う必要がある」と述べたが，マンネリ化したと見受けられる現状をふまえて，新たな教育改革の潮流を意識しつつ大学教育改革の根本に立ち返り，かつ本事業の精神を活かして，その再構成を行った上で，後継事業を立ち上げるべき時期を迎えたと考える．

以上をふまえ，後継事業においては，以下のコンセプトを柱に検討すべきと考える．

- 新たなディプロマ・ポリシーの指標に基づき，学修成果の向上，保証に向けた教育方法改善のサイクルを意識した取組であること．
- 教養あるいは専門教育の如何を問わず全学への汎用性を意識した取組であること．
- そのため，共通教育部・学部学科あるいはその連携といった組織的な取組とすること．
- 教育支援者（職員）もデータ共有を始めとする後方支援に関与できる取組とすること．
- 取組終了時の成果や課題をもとにして改革推進の明確な展望が拓ける取組とすること．

最後に，実学の府である本学であるからこそ，第３期中期計画期間において，個別の取組の根底にある共通課題にメスを入れ，その成果を点検・共有し，教育改革に向けた議論が，より一層活発になることを願ってやまない．

第２章　国際交流センターの活動と成果

1　概要

国際交流センターは，本学同窓会から寄贈された建物を活用する形で，平成 26 年 10 月にオープンした．本学の関係規程により，業務は以下の通りと定められており，「機能としてのセンター」及び「場としてのセンター」の 2 つの側面を持っている．

(1)　本学の教育研究に係る国際交流推進のための企画立案並びに情報の収集及び提供に関すること．
(2)　本学の教育研究に係る国際交流事業の企画及び実施に関すること．
(3)　学生及び教職員の外国語能力並びに外国人の日本語能力の向上支援に関すること（岡山県立大学語学教育推進室が所掌する業務を除く）．
(4)　学生及び教職員の海外派遣の企画並びに調整に関すること．
(5)　海外からの研究者，留学生等の受入推進に関すること．
(6)　各学部，学科等が実施する国際交流事業への協力に関すること．
(7)　海外協定大学との交渉及び接遇に関すること．
(8)　センターに設置する機器等の運用及び維持管理に関すること．
(9)　その他国際交流の推進に関すること．

開設された平成 26 年度の活動は半年間であったが，アデレイド大学英語教育センターの協力のもとでの Skype 英語や，学内外の英語教員による「英語村」等を試験的に実施しながら，より効果的な取組の推進に向けて，課題や改善点等を探った．

平成 27 年度は，専任でセンター長を務める特任教授を 4 月から新たに採用するとともに，各学科代表 8 名，英語教員代表 1 名，事務代表 1 名の総勢 10 名の幹事を選任して，本格的に活動をスタートさせた．平成 28 年度以降は，各種取組を一層充実発展させていくことができるよう，様々な工夫を凝らした．

平成 30 年度には，センター幹事会議は合計 3 回開催し，基本的方向性や具体の取組内容等を随時協議した．

「機能としてのセンター」では，学長方針に基づく国際交流協定校の増大や学生海外短期研修の充実，中国，香港，台湾，インドネシア，タイ，スウェーデン，オーストラリア等の大学との共同研究の推進への支援，留学生受入拡大のための各種調査研究や PR 活動の実施及び「博士後期課程留学生特別入学試験制度」の推進など，従来の取組を強化するとともに，日本学生支援機構の「海外留学支援制度」への申請や，学生の中長期間の留学をサポートする「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」及び「おかやま若者グローバルチャレンジ応援事業」への申請支援等の取組にも引き続きチャレンジした．

「場としてのセンター」では，学期中は英語村を毎日「開村」（月～金の 4 時間）するとともに，週 1 回の Skype 英語を継続したほか，「韓国語村」や季節毎のイベント等を随時開催した．更に，海外とインターネット接続できる機器を活用して，海外の様々な場所と結び，学生交流や入学者選考の審査等を支援した．

2　国際交流における教育活動

2-1 国際交流協定校

大学間の協定校は，平成 29 年度末時点で 17 校だったが，平成 30 年度には 1 校増やして，合計で 18 校となった．

【大学間協定校】

平成 8 年度	(1) バンガー大学（英国），(2) セント・アンドリュース大学（英国）
平成 17 年度	(3) 又松大学校（韓国）
平成 19 年度	(4) 四川大学（中国），(5) 南昌大学（中国）
平成 20 年度	(6) 延辺大学（中国）
平成 23 年度	(7) 東北師範大学(中国)
平成 26 年度	(8) ハサヌディン大学（インドネシア），(9) アデレイド大学（豪州）
平成 27 年度	(10) トリブバン大学（ネパール），(11) 雲林科技大学（台湾）
	(12) モンテレイ工科大学プエブラ工（メキシコ）
	(13) モンテレイ大学（メキシコ）
平成 28 年度	(14) 河南科技大学（中国），(15) ポートランド州立大学（アメリカ）
	(16) 東南大学（中国）
平成 29 年度	(17) カセサート大学（タイ）
平成 30 年度	(18) ラハティ応用科学大学（フィンランド）

平成 30 年度には，この他にも複数の大学との間で交流拡大に向けた意見交換等を行っており，平成 31 年度以降の進展が期待されるところである．

2-2 語学文化研修等

まずは，平成 29 年度の参加者による報告会を 4 月に開催して，平成 30 年度プログラムへの学生の興味関心を喚起した．約 130 名の参加者があり，学生アンケートを実施して，「海外研修等で訪問したい国・地域」を尋ねたところ，以下の結果であった．

オーストラリア　37 名，　アメリカ　33 名，　イギリス　30 名，

韓国　55 名，　台湾　22 名，　香港　17 名　　（回収数：84 名）

英語に関しては，平成 29 年度は「テロ発生」のために中止となったイギリスのバンガー大学での研修を復活させることができ，約 3 週間のプログラムに 5 名を派遣した．

毎年 10 名前後を派遣していたオーストラリアのアデレイド大学については，応募者が少数であったため，残念ながら，やむなく中止とした．

韓国語は，平成 28 年度及び平成 29 年度に引き続き，ソウル市の梨花女子大学における研修（8 月下旬からの 19 日間）に，2 名の学生を派遣した．

中国語については，応募者がなく，6 年連続で不成立となった．

語学文化研修（英国）

語学文化研修（韓国）

平成 29 年度から授業化された「保健福祉学スタディツアー」については，平成 30 年度から名称が「海外研修（保健福祉学)」と改められ，3 つの国・地域で 4 つの研修が企画された．

平成 26 年度スタートの南オーストラリア州での研修については，応募者が少数であったため，残念ながら，やむなく中止とした．

いずれも 3 回目となるが，9 月実施の香港（香港理工大学／主に看護学関連）には，8 名が参加するとともに，同じく 9 月実施の韓国（又松大学校／主に保健福祉学関連）には，9 名が参加した．さらに，韓国では，もうひとつの研修が 8 月に実施され（又松大学校／主に栄養学関連)，13 名が参加した．

海外研修（保健福祉学）　左から香港，韓国（栄養)，韓国（保健福祉）

これらに加えて，過去に 3 回実施した香港スタディツアーと，過去に 2 回実施した台湾スタディツアーを合体させた「香港台湾スタディツアー」(9 日間／6 名参加）を 3 月に実施して，大学訪問（4 つの大学での授業参観や学生交流など)，岡山県関連企業訪問，文化体験，ホームステイ，地域視察等を行った．

さらに，平成 29 年度に続いて 2 回目となるアメリカのポートランド州立大学でのスタディツアー（約 3 週間／1 名参加）を 8 月～9 月に実施して，英語研修，各種課外活動等を行った．

一方，例年通り「日本語・日本文化研修」を 7 月に本学で実施し，台湾の雲林科技大学と中国の河南科技大学から，学生 11 名を受け入れた．

香港・台湾スタディツアー

日本語・日本文化研修

2-3 教育交流

韓国の又松大学校を本学教員が 4 月に訪問して，本学での短期間の学生研修に関して協議を行った．その結果，7 月に 2 つの学生グループが来学して特別研修プログラム（約 1 週間／保健福祉学及び情報工学の 2 コース）を実施した．

香港理工大学から，平成 29 年度に引き続いて 6 名の学生を受け入れて，看護学を中心とした保健福祉学特別研修（約 2 週間）を学内外で実施した．

平成 28 年度及び平成 29 年度に引き続き，香港城市大学の学生グループを，7 月に 1 日受け入れ，英語の授業への参加，国際交流センターでの交流（七夕祭りなど）等，本学学生との交流の機会を用意した．

タイのカセサート大学の学生を，平成 29 年度に引き続いて情報工学部で受け入れ，研究指導を行った．（約 2 カ月間／2 名）

平成 27 年度と 28 年度に受け入れた，インドネシアのハサヌディン大学の学生民俗音楽舞踊グループについては，平成 29 年度及び平成 30 年度は，残念ながら招聘が実現しなかった．

また，平成 29 年度まで 3 年連続で来学していたメキシコのモンテレイ工科大学からの学生研修グループについては，残念ながら，平成 30 年度には，受入が実現しなかった．

アメリカのポートランド州立大学では，地域課題解決型学習（Community Based Learning）を推進しており，本学での教育に反映できるよう，10 月に実施された専門研修に教員 1 名を派遣した．

香港理工大学学生の受入

香港城市大学学生の受入

2-4 国際交流センター（建物）内での様々な活動

英語村は，英語のネイティブ・スピーカー等とのおしゃべりやゲームを通じて，学生に英語の楽しさを体得させる取組であるが，学期中は月～金の毎日，11:00 から 15:00 まで開村した．指導者はいずれも学外者の中から，アメリカ人 1 名と，前期はカナダ人 1 名，後期はイギリス人 1 名のあわせて男性 2 名が務め，合計で約 150 回の開村にのべ約 700 名の学生が来訪した．取組の PR と体験者増大を目的に，合計 10 回の特別イベント（クリスマス・パーティなど）も実施した．

本学で韓国語も教えるデザイン学部教員が，語学学習支援と韓国理解の促進のため，引き続き原則週 1 回，各 1 時間の韓国語村を開催し，のべ約 240 名が参加した．

アデレイド大学との Skype 英語は，バンガー大学での語学文化研修やポートランド州立大学でのスタディツアー等の事前研修としての位置付けも加えながら，原則木曜日（不定期）の夕方に 1 時間実施した．合計でのべ約 60 名の学生が参加した．

その他，留学相談，各種会議や視察など，平成 30 年度は，総計で約 1,600 名が来訪した．

英語村

韓国語村

Skype 英語

平成 30 年度は，英語村への来村の回数や目的，利用前後の変化について，3 回目のアンケートを実施した．リピーターが中心であったことから，サンプル数は多くはないが，以下の結果となった．

(回答者)　17 名（男子：5 名，女子：12 名）
(学　年)　学部 2 年生：9 名，3 年生：5 名，4 年生：1 名，大学院生：2 名
(利用回数)　5 回以内：4 名，6～10 回：1 名，11～20 回：2 名，
21～30 回：1 名，31 回以上：9 名
(利用目的)　＊複数回答可
「英語を話したい」15 名，「英語が上手になりたい」13 名，
「外国人と話したい」9 名，「異文化を体験・理解したい」7 名，
「自分を向上させたい」6 名，「英語の成績を向上させたい」5 名，
「国際感覚を身に付けたい」4 名，「外国旅行の準備のため」4 名
(利用前後の変化)
「英語でのコミュニケーションに，より積極的になったと思う」
とても当てはまる：8 名，まあまあ当てはまる：7 名，あまり当てはまらない：2 名
「英語が上手になったと思う」
とても当てはまる：8 名，まあまあ当てはまる：7 名，あまり当てはまらない：2 名
「英語の成績が向上したと思う」
とても当てはまる：6 名，まあまあ当てはまる：6 名，あまり当てはまらない：5 名
「英語をもっと勉強しようと思うようになった」
とても当てはまる：13 名，まあまあ当てはまる：3 名，あまり当てはまらない：1 名
「異文化への理解が進み，より関心が高まったと思う」
とても当てはまる：12 名，まあまあ当てはまる：4 名，あまり当てはまらない：1 名
「海外のことをもっと知りたいと思うようになった」
とても当てはまる：12 名，まあまあ当てはまる：4 名，あまり当てはまらない：1 名
「外国旅行に出掛けたいと，より強く思うようになった」
とても当てはまる：10 名，まあまあ当てはまる：5 名，あまり当てはまらない：1 名
※回答結果から，多くの利用者は，以下のように考えているらしいことが分かった．
○英語村で外国人と英語を話すことで，自分の英語力を向上させたいと希望しているものの，英語の成績を上げたいとはそれほど考えていない．
○英語村を利用してみて，英語の成績が上がったり，英語が上手になったりしたとはあまり考えていないものの，英語をもっと勉強しようと思うようになったり，異文化への理解や関心が高まったり，海外のことをもっと知りたいと思うようになったりしている．

2-5 共通教育との連携

小さなちらしを頻繁に作成して英語の授業で配付するなど，国際交流センター内での各種活動の PR 及び来訪者増のための様々な取組を，語学教育推進室を始めとした多くの教員と連携しながら推進した．こうしたことも活かしつつ，海外での語学文化研修等の企画・実施に当たっては，協働体制を一層強化することができた．

2-6 まとめと課題

本格的な取組が実施されて 4 年目の年であったが，国際交流センターの利用者数は，英語村が約 700 名，総計でのべ約 1,600 名と，ある程度の数字は確保できており，学生が実践的な英会話を学んだり，国際交流関連の情報を得たりする場所等として，一定の貢献はできていると考えられる．しかしながら，英語村参加者も総利用者数も，ともに前年度実績を大きく割り込む結果となった．

こうした状況の中，センター来訪者の固定化が見られることから，より多様な学生の利用に結び付くよう，情報発信の工夫と強化が必要となっている．その際には何よりも，学生に最も近い立場である教員一人ひとりの理解と協力が欠かせない．

「機能としてのセンター」の役割も含め，取組推進のための「学内人的ネットワーク強化」としては，センター幹事を中心に，その先のつながりも大切にする必要がある．平成 30 年度までの様々な挑戦を通じて，センターの機能や取組に対する学内理解も進んできており，スモール・サクセスを着実に積み上げて多くの学生・教職員の信頼を得ることが肝要である．

【国際交流センターの主な活動の学部・研究科別のべ利用者数（平成 30 年度)】

	（保健福祉学）	（情報工学）	（デザイン学）
〈英語村〉	306 名	199 名	178 名
〈韓国語村〉	173 名	36 名	29 名
〈スカイプ英語〉	16 名	19 名	20 名

3　国際交流における教育・研究支援活動

3-1 国際交流協定校

平成 27 年度に創設した「博士後期課程留学生特別入学試験制度」について，対象校が，中国，韓国，台湾，インドネシア，ネパールの協定校 6 校に，平成 29 年度には中国の 2 校が加えられ，合計 8 校となった．平成 30 年度に実施した入学試験には，インドネシアのハサヌディン大学からの 1 名が合格し，平成 31 年 4 月に入学予定である．

〈概要〉　入学金・授業料は免除，月額 8 万円の奨学金，選考は書類と面接（Skype 利用可）

協定校等からの留学生を支援するため，7 月に留学生連絡会議を開催して，困り事等の確認及び対応策の検討を行った．

協定校等からの交換留学生等を含め在籍する留学生の支援のため，「特別日本語指導」を，能力別の 2 クラスに分けて，週 5 回～週 2 回程度実施した．

協定校との意見交換や連携強化等のために，学長，センター長，センター幹事等が，又松大学校，香港理工大学，雲林科技大学，カセサート大学，ラハティ応用科学大学，ポートランド州立大学，アデレイド大学を訪問した．

アデレイド大学での意見交換

雲林科技大学での研究交流

河南科技大学の訪問団受入

3-2 国際研究協力

河南科技大学については，6 月に教員が来学し，国際研究協力に関して意見交換を行った．

雲林科技大学については，「高齢者等の見守り」に係る特別プロジェクトを，本学と連携しながら，多学部参加で推進する構想が進められている．こうした中，6 月に同大学から教員が来学するとともに，12 月には本学から教員が訪問しており，今後の国際研究協力の進展が期待できる．

香港については，国際共同研究が進行中の香港理工大学から，6 月に教員が来学し，交流進展に向けた協議を行った．また，香港大学で 12 月に開催された国際シンポジウムには，本学の教員と博士後期課程学生も参加しており，今後の国際研究協力が期待できる．

カセサート大学から 6 月に教員が来学して，特別講義や交流推進に向けた協議を行うとともに，9 月には本学の教員を同大学に派遣して，同様の取組を行った．

ハサヌディン大学については，8 月及び 9 月に同大学の教員・学生が来学した他，同大学若手教員 2 名を，大学院博士後期課程で現在受け入れている．さらに，平成 31 年 4 月からは，もう 1 名の若手教員を受け入れることとなっており，国際共同研究の機運が盛り上がっている．

ネパールのトリブバン大学から，若手教員を大学院博士後期課程で受け入れ，国際研究協力を推進している．

各大学の持ち回りで毎年度実施されてきた「東アジア栄養学会議」を，10 月に岡山市内及び本学で開催し，又松大学校，四川大学，南昌大学，香港大学から教員を受け入れた．

3-3 基盤整備

本学の財政状況が極めて厳しい中で，外部資金の獲得が課題となっている．このため，平成 30 年度は，日本学生支援機構の「海外留学支援制度」への申請を行うとともに，学生の中長期間の留学をサポートする「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」及び「おかやま若者グローバルチャレンジ応援事業」へ申請する学生に対して支援を行った．申請と採用の状況は以下の通りである．

〈海外留学支援制度〉

・前年度同様，香港理工大学での保健福祉学研修（10 日間）が採用された．

〈トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム〉

・学生 1 名（人間情報工学科）の留学計画が採用された．

（香港での学修・実践活動／2019 年 8 月上旬～9 月下旬の約 6 週間）

〈おかやま若者グローバルチャレンジ応援事業〉

・学生 2 名（看護学科，造形デザイン学科）の 2019 年 4 月申請をサポートした．

学内外への PR の強化のため，平成 27 年度に開設した国際交流センターのホームページについて，1 年を通して，その内容の充実に努めた．

本学が受け入れている留学生は，10 余名であり，その増大が喫緊の課題となっている．このため，本学 PR の強化，入学試験制度の改善，協定校との学生交流のための要領の整備，留学生への効果的支援，教職員の意識改革など，受入拡大に向けて，課題の抽出や国内外の先進事例調査を，年度を通して実施した．

海外における各種取組の充実のため，香港（2 名），台湾（1 名），アメリカのポートランド（1 名）に加えて，平成 30 年度には，交流が進展しているフィンランドにおいて 1 名の客員教授の委嘱・配置を行い，合計で 5 名体制となった．

3-4 まとめと課題

新たな取組を幾つかスタートさせるとともに，基盤整備の面でも前進があった．

そうした中で，ホームページをはじめ，例えば外国語対応の充実等，PR の方法・内容については，改善の余地が大きい．広報メディア開発センター等の学内関係機関とも連携を密にしながら，積極的に取り組んでいく必要がある．

第３章　学術研究推進センターの活動と成果

1 概要

本章では，平成 27 年 10 月に発足した学術研究推進センターについて，平成 30 年度における次の活動内容について報告する．

１　コンプライアンス・研究倫理教育に関する研修会の実施
２　科研費計画書の作成に係る研修会の実施
３　科研費計画書の提出前検討会の実施
４　科研費採択計画書の閲覧制度
５　教員の研究活動に係る環境整備

2 学術研究推進と教育活動

2-1　コンプライアンス・研究倫理教育に関する研修会の実施

平成 30 年 4 月に大学院新入生オリエンテーションにおいて，金川学術研究推進センター長が全研究科全専攻科新入生を対象に研究倫理教育を実施した．（出席者 71 名）

また, 本学のコンプライアンス教育・研究倫理教育については, 少なくとも３年に１回全体研修を行うこととしており, 今年度は該当年度であったため, 全教職員を対象に研修会を開催した. 研修内容は, 事務局から本学のコンプライアンス規程の再確認や最近の不正事例案件等の説明を行い, 特別講師からはコンプライアンスと特許との関連性について大学の特許出願事例を交えながら講演を行った.

なお, 下記①～③に出席できなかった教員については, 後日, 日本学術振興会の研究倫理教育教材「科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-」（Green Book）を基にしたe-learning「研究倫理eラーニングコース」を各自での受講を促し,受講証明書の提出を求めた.（出席者242名　教員:153名, 職員:84名, 大学院生:5名）

開催日時	①平成 30 年 9 月 5 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分 ②平成 30 年 9 月 21 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分 ③平成 30 年 11 月 2 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分（補講日）
開催場所	①学部共通棟（南）8206 講義室 ②学部共通棟（東）8903 講義室 ③学部共通棟（南）8128 講義室
特別講師	山口大学学長特命補佐　知的財産センター長　佐田　洋一郎 ※②③はビデオ上映にて実施
講演内容	研究と特許とコンプライアンス ～トラブルを発生させない研究果実の取扱い～

2-2 科研費計画書作成研修会

平成 30 年 8 月に学術研究推進センター主催による「科研費計画書の書き方研修会」を開催した．金川センター長による挨拶のあと，ロバスト・ジャパン株式会社矢野覚士氏による研修会が行われた．内容は，平成 30 年度科研費制度改革による採択案件の傾向と対策を中心に説明を行い，最近の計画書の書き方の講演が行われた．

研修資料は，学内教職員専用ホームページで閲覧可能とし，ビデオ記録も学内教職員に対して貸し出しを行えるようにした．また，当日出席できなかった教員・職員対象に対しては，当ビデオ記録を当センターのウェブページにて閲覧ができるようにして視聴機会を設けた．（出席者 22 名，教員 18 名，職員 4 名）

開催日時	平成 30 年 8 月 27 日（月曜日）14 時 00 分～16 時 00 分
開催場所	本部棟２Ｆ大会議室
講師	ロバスト・ジャパン株式会社　矢野　覚士
講演内容	申請書作成の理論

2-3 科研費計画書の提出前検討会の実施

科研費計画書について，研究内容，経費の妥当性等の事前検討を行う場として，添削指導機会（学内ベテラン教員又は外部業者による添削指導の選択）を設け，助教，准教授を中心に４件の添削依頼があった．

・申込募集期間　　７月１１日から７月３１日

・計画書提出期限　８月２２日

また，実際に採択された計画書のうち，教員本人から承諾があった計画書を各学部事務室において閲覧提供している．

2-4 教員の研究活動に係る環境整備

昨年度，本学において実施した教員の研究環境の整備に関するアンケート調査について，今年度も各担当部局において要望度が高い項目から，必要性，優先度を勘案して順次改善が図られているところである．特に，アンケート調査で一番要望の高かった冷房の稼働時間については，昨年度，時間延長が認められた．今年度は，施設改修要望について，学内ルール（学部内協議・事務局協議）を整備し，事務局総務課長と連名で学内向けの通知を行った．

2-5 まとめと課題

本年度は，学術研究推進センターが当初掲げた取組はほぼ達成されたと言えよう．科研費については，前述 2-2，2-3 にて記載した科研費獲得に向けた各種取組等により，今年度の新規採択率は 32.5％と過去最高となった．引き続き，科研費取得に向けて学内の支援を精力的に行うとともに，コンプライアンスならびに研究倫理に関する講習会を企画する．

第３部　附属図書館の活動と成果

1　概要

本学図書館は，大学設置基準第 38 条に示す大学附属図書館として，学部の種類，規模等に応じ，専門書，学術雑誌，視聴覚資料等の教育研究上必要な専門的資料を系統的に備えるべく努力をしてきた．また，グローバル化の中で学生に必要とされる広い視野と教養を涵養すべく，一般教養図書，語学学習推進図書についても各学部教員，また共通教育部教員の視点で選書し，充実を図っている．さらに学術情報の電子化や検索システムの整備を行い，学生，教員，地域に向けたサービスの充実・向上を目指し，積極的な取組を進めている．

1-1　図書館活用の推進

1-1-1　図書館の利用状況

平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月の期間における図書館の利用状況を以下に示す．

蔵書冊数は約 21 万冊でその内訳として，和書が約 8 割，洋書が約 2 割を占め，その他視聴覚資料が約 2．5%となっている．入館者数は約 9 万人で貸出冊数は約 2 万冊となり，平成 25 年からほぼ同様の推移となっている．施設等の利用状況として，館内 PC，研究閲覧室及びグループ閲覧室の貸し出し件数は平成 25 年から増加傾向にあったが，昨年度はともに約 1．5 倍増の利用があった．研究閲覧室及びグループ閲覧室は，学生の主体的，能動的な学修を支援する場として設けられているスペースで，近年多くの大学や図書館で設けられているラーニングコモンズに準じたものである．グループ学習等による自発的な学修の意識が定着してきていると推察する．当館のエントランス部分に設けたラーニングコモンズの稼働率については未測定であるが，常時学生がグループでの学習を進めている様子が見受けられた．

平成 30 年度図書館利用状況について

（1）蔵書冊数　　(H31．3．31 現在)

分　類	和　書	洋　書	視聴覚	合　計
0　総　記	13,281	3,153	168	16,602
1　哲　学	8,117	1,247	190	9,554
2　歴　史	6,407	566	465	7,438
3　社会科学	37,556	5,267	902	43,725
4　自然科学	45,664	13,422	1,493	60,579
5　工学・工業	18,027	5,298	386	23,711
6　産　業	2,803	439	50	3,292
7　芸術・スポーツ	19,795	4,543	1,456	25,794
8　語　学	4,489	4,204	31	8,724
9　文　学	11,453	1,002	70	12,525
合計	167,592	39,141	5,211	211,944
構成比	79.1%	18.5%	2.5%	100%

（2）入館者数等

項　目	開館日数	入館者数（人）		貸出冊数（冊）		貸出人数（人）		学外者利用（人）
			1日平均		1日平均		1日平均	
30年度	263	85,371	325	16,011	61	7,343	28	1,915
29年度	268	90,919	339	17,873	67	7,852	29	1,971

（3）資料受入状況

項　目	和　書		洋　書		計	
	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度
図　書	1,868	2,182	505	500	2,373	2,682
雑　誌	135	134	32	32	167	166
視聴覚資料	26	93	5	2	31	95

（4）相互協力

項　目		件　数	
		30年度	29年度
文献複写	複写提供件数	689	685
	複写取寄件数	1,048	1,310
相互協力	借受冊数	79	85
	貸出冊数	119	94

（5）施設等の利用

項　目	件　数	
	30年度	29年度
館内パソコン利用者数	9,217	6,174
研究閲覧室	2,132	1,912
グループ閲覧室	206	155

1-1-2　図書館ギャラリーの利用状況

図書館では，学生・教職員・院生の貸出冊数の増加，また特集本コーナーや，図書館のギャラリーの貸出しにより，図書館の利用率向上を目指している．図書館ギャラリーは，学生や教員に館内の壁面等の空間を有効活用してもらうことにより図書館利用の増加を図ったもので，平成30年度は学生サークルや教員により多く利用された．図書館利用者に安らぎを与えるような展示を意図した．本年度の図書館ギャラリーの利用状況を以下に示す．

	申 込 者	作　品	展示期間	作品紹介
1	Okayama Bookworms	ビブリオバトル	5/25	Okayama Bookworms 主催ビブリオバトルの開催
2	デザイン学部 担当教員	授業「コピーライティング」課題作品 (2 年生)	6/19 ～7/10	自分の句集をイメージして表表紙の装丁を行った作品
3	Okayama Bookworms	ビブリオバトル	7/13	今年度 2 回目のビブリオバトルを開催
4	写真部	「ましかく展」	10/1 ～10/15	写真部「ましかく展」を雑誌架上で開催
5	演劇サークル Paprika	「○○しないと出られない部屋」 公演記念展示	10/22 ～11/9	11 月 4 日開催の県大祭公演を期に過去の公演について展示
6	Okayama Bookworms	ビブリオバトル	11/3	県大祭に合わせて開催 ①11 時～ ②15 時～
7	Okayama Bookworms	ビブリオバトル	12/17	ビブリオバトルを開催. 参加者は 12 人だった.
8	Okayama Bookworms	ビブリオバトル	1/21	Okayama Bookworms 主催ビブリオバトル
9	情報系工学研究科 院生	「暮らし木Ⅱ」「Positioning」	1/28 ～2/8	距離センサを用い，来館者数がリアルタイムで可視化されるデジタルアート作品. BIG PAD を使用し展示を行った.
10	デザイン学部 担当教員	グラフィックアート ―俳句のビジュアライズ―	2/1 ～2/22	まず吟行により自作の俳句を一句決定. 次に俳句のイメージをグラフィックデザインの手法を用いて視覚的に表現した.

1-1-3　学生を対象とした図書館利用教育

図書館では蔵書検索方法やデータベース活用法を具体的に示す「図書館ガイダンス」への受講を学生に勧め，学生への教育・研究支援を図ってきた. 共通教育講義科目「大学で学ぶ」（対象：全学科 1 年，必修）での図書館長担当授業において，図書館ガイダンス受講を復習課題として導入した．その他の正課内及び正課外でのガイダンス受講状況を以下に示す.

平成 30 年度　図書館ガイダンス実施結果

○新入生ガイダンス

実施日	参加人数	申込内容	学科
4 月～5 月	44	大学で学ぶ ガイダンス＋OPAC検索	看護
	43		栄養
	61		保健福祉
	56		通信
	49		システム
	36		人間情報
	40		デザイン工学
	46		造形デザイン
合計	375		

○文献の探し方

実施日	参加人数	申込内容	学科
5 月 11 日	2	利用ガイダンス　文献の探し方（PubMed 他）	保健福祉学研究科
10 月 15 日	7	文献の探し方　（PubMed・医中誌）	看護学科
1 月 11 日	4	OPAC 利用方法　文献の探し方 （PubMed・医中誌）	栄養学科
合計	13		

○その他

実施日	参加人数	申込内容	学科
9 月 26 日	40	ガイダンス(館内案内)	善通寺第一高校普通科
10 月 2 日	16	ガイダンス(館内案内)	総社東小学校生活科授業「学区探検　大学見学」
10 月 18 日	43	ガイダンス(館内案内)	倉敷工業高校ファッション技術科 1 年生
10 月 18 日	25	自由見学	早島支援学校
10 月 24 日	7	ガイダンス(館内案内)	御津高校
10 月 25 日	37	ガイダンス(館内案内)	西大寺高校普通科
合計	168		

1-1-4　選書ツアー・ブックフェアへの学生参加状況及び学生希望図書の状況

平成 21 年度より実施している選書ツアーは，学生が学習や研究に役立つ書籍を書店で実際に手に取って選書する企画である．本年度は 9 名の学生が参加し，教養書や専門書を選書した．内訳を以下に示す．あわせて，図書館内で書店が準備した本の中から学習等に必要な本を学生及び教職員が選んだ「ブックフェア」の内容も以下に示す．また学内で希望図書の申請のあった図書数を以下に示す．

(1)選書ツアー2018

実 施 日：平成 30 年 10 月 6 日（土）
場　　所：丸善岡山シンフォニー店
参加人数：9 名
購入冊数：93 冊

(2)ブックフェア

実 施 日：平成 30 年 6 月 22 日（金）
場　　所：図書館エントランス
参加人数：130 名
購入冊数：274 冊

(3)学生希望図書（平成 30 年度）

学部等	大学院			保健福祉			情報工			デザイン		総計
学科	保健福祉学	情報系工学	デザイン学	看護	栄養	保福福祉	情報通信	情報システム	人間情報	デザイン工学	造形デザイン	
受付数	13	1	7	2	0	4	4	10	4	12	7	64
購入	12	0	5	1	0	4	2	9	0	11	6	50
購入不可	1	1	2	1	0	0	2	1	4	1	1	14
申込者数	8	1	4	1	0	1	3	5	1	4	6	34

1-1-5　附属図書館にかかる学生アンケートの実施

(1)実施概要

10 月 1 日から 31 日まで全学情報システム「はっとりん」のアンケート機能を利用してアンケートを実施した．アンケートでは昨年度実施した蔵書満足度の追跡調査を主目的に,図書館の利用のほか，図書館に対する意見・要望の設問を設けた.

(2)回答状況

学生及び院生約 1,800 名に対し，回答は 282 名，回答率は 16%

(3)回答分析

①図書館利用

・ 週 1〜2 回及び月 1〜2 回の利用が約 62%と割合が高い.利用しない率は約 3%であり,ほとんどの学生等が図書館を利用している.

・館内利用は,閲覧席（個席・複数席）の利用率が高く,蔵書検索パソコン及びパソコンコーナーの利用率も高い.また,研究閲覧室の利用率も 22%と高い.

・学生希望図書制度認知度は 79%と認知されており,引続き,広報を呼びかける.

・県立図書館利用システム認知度は 85%と高く,利用も 11%あり,認知されている.本年 11 月から館内で県立図書館利用カードを発行できるよう変更したので,引続き,利用も呼びかける.

・学生希望図書及び県立図書館利用システムについては新入生を対象に行うガイダンス及び広報が効果を発揮していると推察する.

②蔵書の充実度

・研究・学習用図書の満足度は 51%,教養図書は 41%であり,昨年度から少し上昇している.選書ツアー,ブックフェア,学生希望図書などの取組が効果をあげていると推察される.

・学術雑誌（電子ジャーナル含む）,一般雑誌の満足度は 34%,42%であり,一定の評価をいただいている.

・館内の蔵書スペースが限界に達している中で,学術系図書を中心に収集しているが,今後も資料収集基準に従い,図書館専門委員,アドバイザー教員に学生及び院生のニーズの把握を呼びかけるとともに,更なる学生希望図書制度（リクエスト）の広報（館内広報・ＨＰでの広報,ガイダンス等での周知）に努める.

③読書について

・月２〜４冊の本や雑誌を読む率が 39%と高い.本を読まない率は 16%であった.

・読書の主目的は娯楽のためが 42%と一番高く,以下,知識・教養のため,授業・研究のためとなっている.

・学生の読書について,初めてアンケート調査したが,傾向を把握できたので,今後の新入生ガイダンス,館内運営等に活かしたい.

1-2　英語文献利用講習会

英語文献の利用推進を図るため,平成30年10月25日に講師を招いて講習会を実施した.講義は初級編（論文執筆の基礎，データベースの概要等）と中級編（論文投稿のプロセス，研究共有，ジャーナル評価指標の活用等）の2回に分けて行った．参加人数は21名であった．参加者の内訳を以下に示す.

教　　員　　2名（保福1，システム1）
大学院生　　11名（栄養4，保福2，情報2，デ工2，造形1）
学 部 生　　8名（栄養3，保福5）

1-3　電子ジャーナルの利用

教育・研究推進に必要不可欠な英語文献の電子ジャーナル契約の要望が増えている．以下に本学で契約中の電子ジャーナルのタイトル及びその利用状況を示す.

平成30年度　利用可能な電子ジャーナルタイトル

	分　野
ScienceDirect（約1,000タイトル）	健康科学・神経科学・生化学等
タイトル名	分　野
The American journal of clinical nutrition	食品科学・栄養学
Applied physics letters	物理学一般/応用物理学
Architectural design	建築デザイン
Journal of biological chemistry	生化学・分子生物学
Journal of nursing administration	看護管理
The Journal of nutrition	食品科学・栄養学
Nursing older people	老年医学
Nursing research	看護学
Nursing science quarterly	看護学
Proceedings of national academy of sciences	科学技術一般
Machine Learning	認知科学・人工知能
The Journals of Gerontology: Series A	老年医学/生理学
Journal of the ACM	情報理論・データ構造・暗号学/データベース/コンピューター般
Journal of Agricultural and Food Chemistry	農業・食品/農学/食品科学・栄養学

1-4　リポジトリ公開登録及び利用状況

現在，日本の機関リポジトリ設置機関数は世界有数の規模にまで広がり，教育研究成果の公開やオープンアクセスの義務化も検討されようとする現状にある．このような中，オープンアクセスへ寄与することは研究者や大学，研究機関として必要とされる条件となりつつある．本学におけるリポジトリ公開登録件数及び利用状況を以下に示す．

リポジトリ公開登録件数　　1，581 件（平成 31 年 3 月 31 日現在）

	公開登録件数	ダウンロード数	閲覧
平成 30 年度	53 件	258,689 件	27,003 件
平成 29 年度	51 件	160,913 件	19,682 件

1-5　まとめと課題

図書館利用推進の一環として本年度も図書館ギャラリーの貸出しや学生を対象とした図書館利用教育を実施した．また学生が書店で実際に学習や研究に役立つ書籍を選書できる選書ツアーでは，9 名の参加者により 93 冊の選書が行われたが，応募状況はやや少ない状況であり，今後は企画の周知ならびに意義を認知させる工夫が必要と考えられる．今年度も学内で学生及び教職員を対象にした，書店が準備した本の中から学習等に必要な本を選ぶブックフェアを開催し，130 名（学生 96 名，教職員 34名）の参加者により 274 冊の選書が行われた．また年間を通じて受付けている学生希望図書には 34 名から申し込みがあり 50 冊を蔵書として加えた．昨年度と比べると希望図書数は増えており，図書館ガイダンスやホームページでの広報が功を奏したと推察する．電子ジャーナルの活用促進を目的として開催した講習会では，参加した学生及び教員に対して文献管理ツールの活用法を教示した．洋雑誌及び電子ジャーナルの利用統計を蓄積し今後も利用状況をモニタリングして，よりより学修環境の提供に努めたい．

付録 1

A　入試統計

A-1 学士課程

一般入試　　単位：人　　単位：人

学部	学科	平成30年度						平成31年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	看護学科	28	104	55	31	30	1.8	28	133	80	29	28	2.8
	栄養学科	28	105	102	34	30	3.0	28	70	67	33	27	2.0
	保健福祉学科社会福祉学専攻	28	123	68	38	29	1.8	28	155	88	34	33	2.6
	保健福祉学科子ども学専攻	14	84	61	15	14	4.1	14	55	34	15	15	2.3
	学部計	98	416	286	118	103	2.4	98	413	269	111	103	2.4
情報工学部	情報通信工学科	37	655	389	97	46	4.0	37	648	354	96	37	3.7
	情報システム工学科	37	1,012	548	119	37	4.6	37	873	464	124	49	3.7
	人間情報工学科	27	299	194	54	27	3.6	27	407	239	61	31	3.9
	学部計	101	1,966	1,131	270	110	4.2	101	1,928	1,057	281	117	3.8
デザイン学部	デザイン工学科	30	86	82	37	33	2.2	30	84	76	36	35	2.1
	造形デザイン学科	38	102	100	41	37	2.4	38	78	76	42	42	1.8
	学部計	68	188	182	78	70	2.3	68	162	152	78	77	1.9
合計		267	2,570	1,599	466	283	3.4	267	2,503	1,478	470	297	3.1

推薦入試　　単位：人　　単位：人

学部	学科	平成30年度						平成31年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	看護学科	12	41	41	14	14	2.9	12	52	52	13	13	4.0
	栄養学科	12	29	29	13	13	2.2	12	32	32	13	13	2.5
	保健福祉学科社会福祉学専攻	12	29	29	12	12	2.4	12	27	27	14	14	1.9
	保健福祉学科子ども学専攻	6	19	19	6	6	3.2	6	25	25	7	7	3.6
	学部計	42	118	118	45	45	2.6	42	136	136	47	47	2.9
情報工学部	情報通信工学科	13	21	21	13	13	1.6	13	26	26	13	13	2.0
	情報システム工学科	13	30	30	13	13	2.3	13	38	38	15	15	2.5
	人間情報工学科	13	26	26	13	13	2.0	13	28	28	13	13	2.2
	学部計	39	77	77	39	39	2.0	39	92	92	41	41	2.2
デザイン学部	デザイン工学科	10	18	18	10	10	1.8	10	12	12	10	10	1.2
	造形デザイン学科	12	42	42	13	13	3.2	12	28	28	12	12	2.3
	学部計	22	60	60	23	23	2.6	22	40	40	22	22	1.8
合計		103	255	255	107	107	2.4	103	268	268	110	110	2.4

第3年次編入学試験　　単位：人

学部	学科	平成31年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	栄養学科	1	9	9	1	1	9.0
合計		1	9	9	1	1	9.0

○倍率＝受験者数/合格者数

A-2 大学院課程

博士前期課程・修士課程　　単位：人　　単位：人

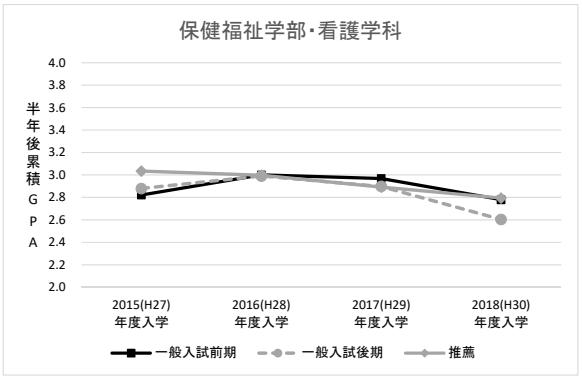
研究科	専攻	平成30年度						平成31年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学研究科	看護学専攻	7	15	15	12	10	1.3	7	18	18	10	6	1.8
	栄養学専攻	6	7	7	7	7	1.0	6	6	6	6	5	1.0
	保健福祉学専攻	7	6	6	6	5	1.0	7	7	7	7	6	1.0
	研究科計	20	28	28	25	22	1.1	20	31	31	23	17	1.3
情報系工学研究科	システム工学専攻	52	42	42	42	41	1.0	52	52	51	50	45	1.0
デザイン学研究科	デザイン工学専攻	7	2	2	2	2	1.0	7	4	4	3	3	1.3
	造形デザイン学専攻	9	1	1	1	1	1.0	9	4	4	4	4	1.0
	研究科計	16	3	3	3	3	1.0	16	8	8	7	7	1.1
合計		88	73	73	70	66	1.0	88	91	90	80	69	1.1

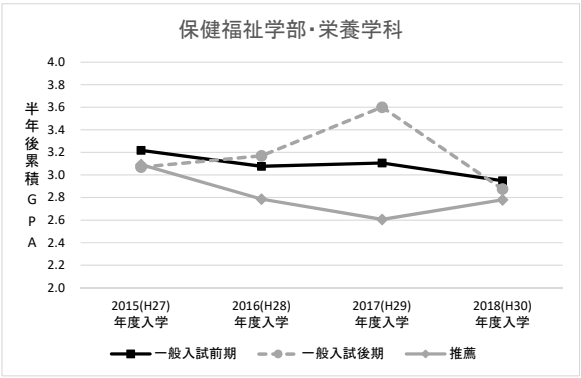
博士後期課程　　単位：人　　単位：人

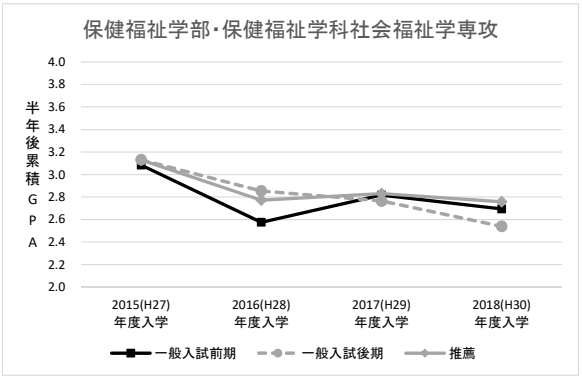
研究科	専攻	平成30年度						平成31年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学研究科	保健福祉科学専攻	5	9	9	7	7	1.3	5	7	7	7	7	1.0
情報系工学研究科	システム工学専攻	6	1	1	1	1	1.0	6	5	5	5	5	1.0
合計		11	10	10	8	8	1.3	11	12	12	12	12	1.0

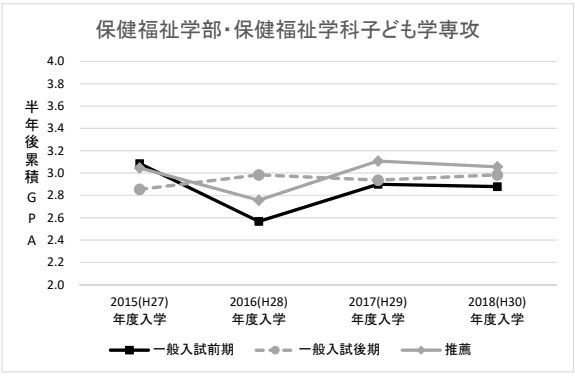
○倍率＝受験者数/合格者数

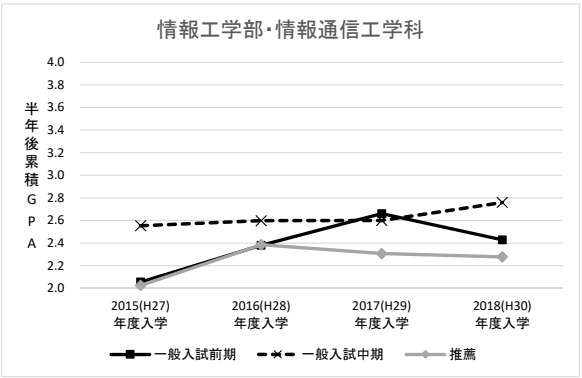
A-3 半年後累積 GPA の推移（学科・専攻別）

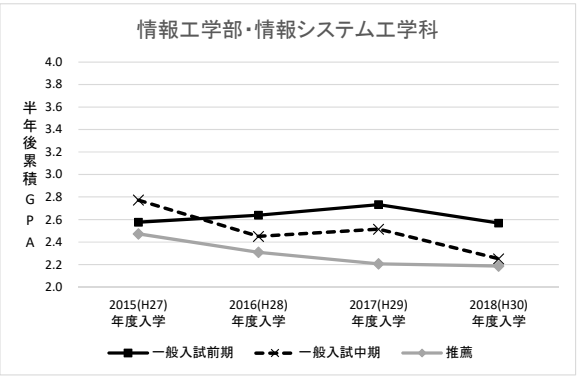


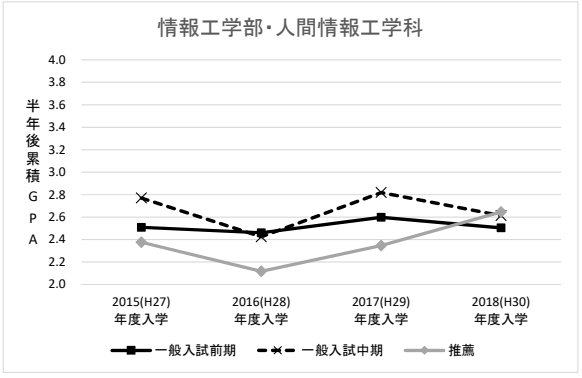


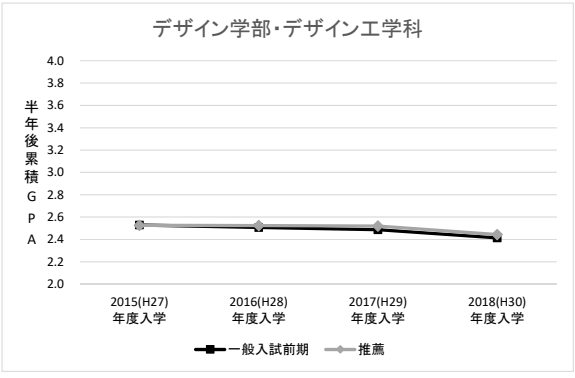


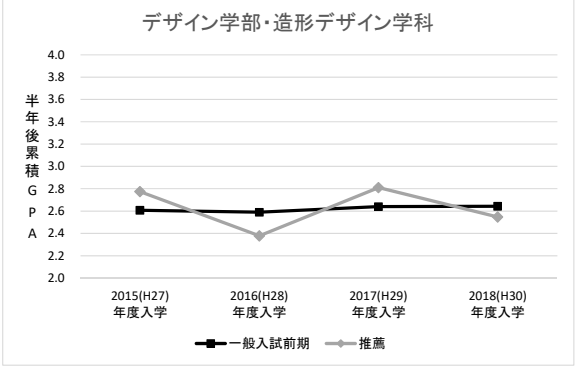




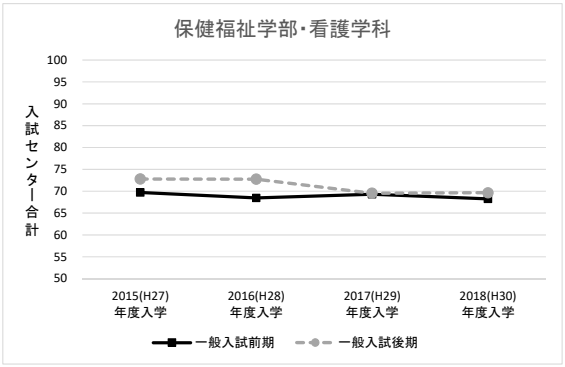


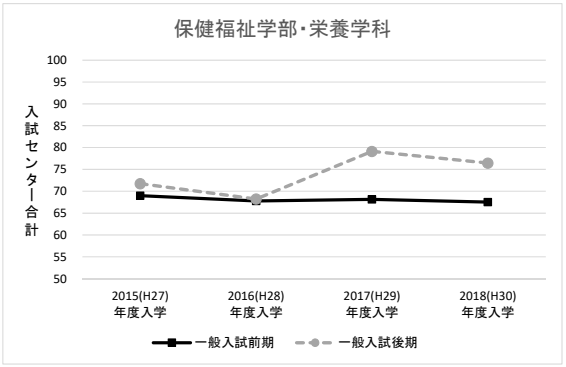


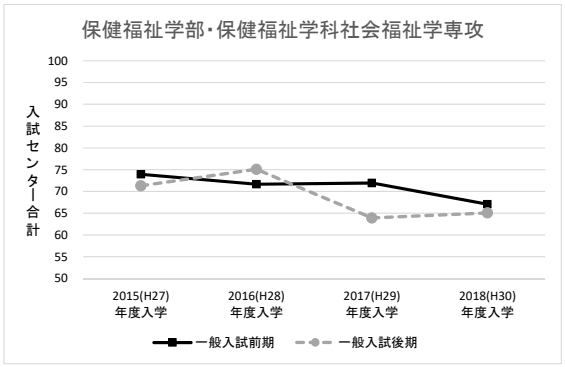


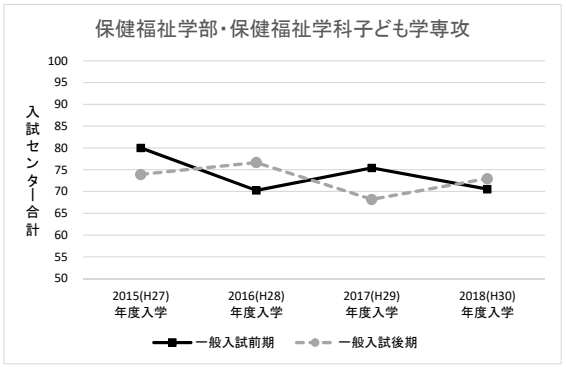


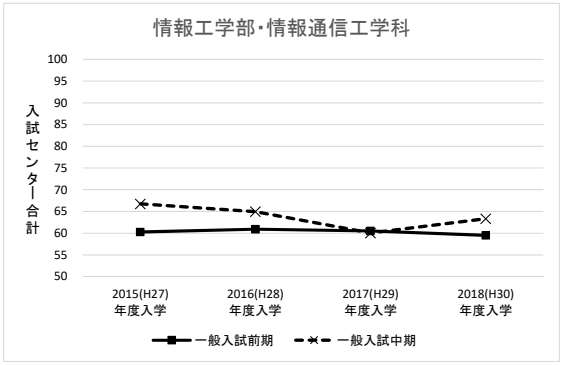
A-4 大学入試センター試験合計点の推移（学科・専攻別）

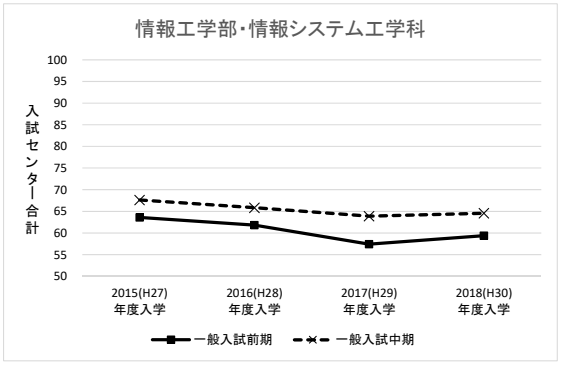


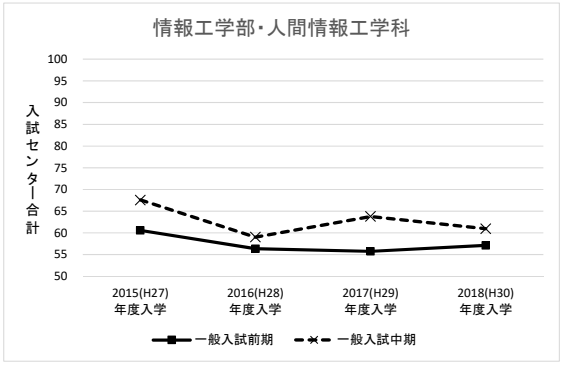


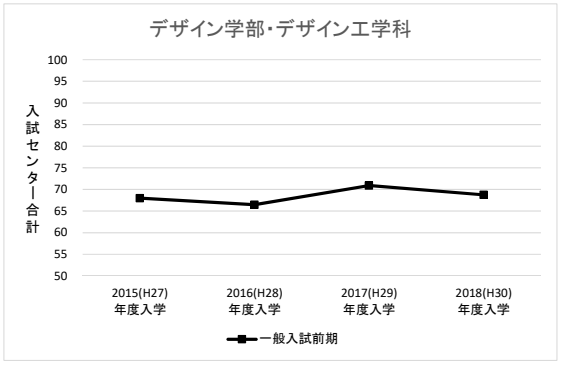


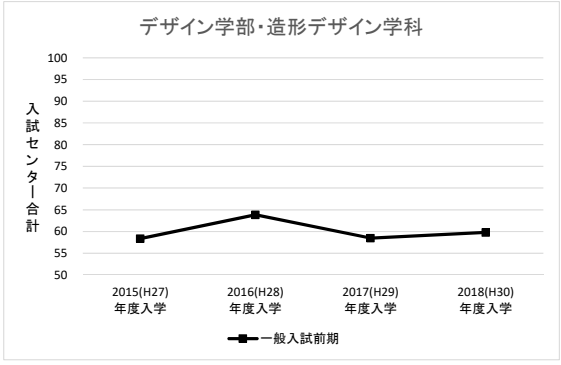












□平成29年度大学授業開放参加者における平成30年度入試（推薦・一般）受験状況

	授業開放参加者		推薦入試		一般入試（前期日程）						一般入試（中・後期日程）						入学者
			志願者	合格者	志願者	うち推薦受験者	合格者	うち推薦受験者	不合格者	うち推薦受験者	志願者	うち推薦受験者	合格者	うち推薦受験者	不合格者／欠格（他大学合格）者	うち推薦受験者	
看護学科	98	(57)	23	8	6	1	4	0	2	1	6	2	0	0	3／3	2／0	12
栄養学科	84	(43)	20	9	5	2	1	0	4	2	1	1	0	0	1／0	1／0	10
保健福祉学科社会福祉学専攻	52	(35)	19	8	11	6	6	5	5	1	9	5	1	0	3／5	0／5	15
保健福祉学科子ども学専攻	62	(44)	13	4	19	5	2	0	17	5	16	4	0	0	14／2	4／0	6
保健福祉学部計	296	(179)	75	29	41	14	13	5	28	9	32	12	1	0	21／10	7／5	43
情報通信工学科	29	(20)	7	4	2	1	0	0	2	1	3	1	0	0	3／0	1／0	4
情報システム工学科	33	(19)	11	6	4	0	0	0	4	0	7	2	0	0	6／1	2／0	6
人間情報工学科	24	(18)	13	7	5	2	0	0	5(1)	2	5	2	1	0	3／1	2／0	8
情報工学部計	86	(57)	31	17	11	3	0	0	11	3	15	5	1	0	12／2	5／0	18
デザイン工学科	49	(31)	14	8	4	1	2	1	2	0							10
造形デザイン学科	47	(25)	24	6	17	14	11	11	6	3							17
デザイン学部計	96	(56)	38	14	21	15	13	12	8	3							27
合計	478	(292)	144	60	73	32	26	17	47	15	47	17	2	0	33／12	12／5	88
H30年度入試全体（追加合格者含む）			255	107	606		217		389（7）	←欠格内数	1758 206	←中期 ←後期	223 26	←中期 ←後期	792/743 84/96	←中期 ←後期	390

①授業開放参加者全体における入学者の割合：18.41%

②入学者全体における授業開放参加者の割合：22.56%

□平成28年度大学授業開放参加者における平成29年度入試（推薦・一般）受験状況

	授業開放参加者	推薦入試		一般入試（前期日程）						一般入試（中・後期日程）						入学者
		志願者	合格者	志願者	うち推薦受験者	合格者	うち推薦受験者	不合格者	うち推薦受験者	志願者	うち推薦受験者	合格者	うち推薦受験者	不合格者／欠格（他大学合格）者	うち推薦受験者	
看護学科	77	27	10	7	1	2	1	5	0	6	2	0	0	3／3	0／2	12
栄養学科	88	26	10	2	0	1	0	1	0	2	1	0	0	2／0	1／0	11
保健福祉学科 社会福祉学専攻	109	19	8	8	6	5	3	3	3	4	3	1	1	0／3	0／2	13
保健福祉学科 子ども学専攻		19	5	11	6	3	1	8	5	8	4	3	2	2／3	1／1	11
保健福祉学部計	274	91	33	28	13	11	5	17	8	20	10	4	3	7／9	2／5	47
情報通信工学科	11	8	5	2	1	0	0	2	1	1	1	0	0	1／0	1／0	5
情報システム工学科	39	9	3	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1／0	0／0	3
人間情報工学科	22	13	7	4	3	0	0	4	3	5	3	0	0	4／1	3／0	7
情報工学部計	72	30	15	7	4	0	0	7	4	7	4	0	0	6／1	4／0	15
デザイン工学科	87	10	5	3	2	0	0	3	2							5
造形デザイン学科		12	7	14	6	4	2	10	4							11
デザイン学部計	87	22	12	17	8	4	2	13	6							16
合計	433	143	60	52	25	15	7	37	18	27	14	4	3	13／10	6／5	78
H29年度入試全体（追加合格者含む）		239	108	577		214		363 （1）	←欠格内数	1436 172	←中期 ←後期	249 27	←中期 ←後期	488/699 48/97	←中期 ←後期	407

①授業開放参加者全体における入学者の割合：18.01%

②入学者全体における授業開放参加者の割合：19.16%

Ｂ　卒業時・修了時アンケート，授業評価アンケート及び学生生活アンケート

B-1 卒業時アンケート

実施日時：2018 年 3 月 23 日

　　　　　　（回収率不調のため，追加でアンケートの提出を依頼し 2018 年 4 月末締めとした）

実施方法：Web（「はっとりん」）上で実施（ただし，追加は紙ベースで実施）

対象者：総数 361 人中，回答数 263 人（回収率 72.9%）

平成29年度「卒業時アンケート」の結果	看護学科	栄養学科	保健福祉学科	情報通信工学科	情報システム工学科	スポーツシステム工学科	デザイン工学科	造形デザイン学科	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	全体
対象者数	37	42	63	57	49	37	35	41	142	143	76	361
回答者数	23	26	31	45	43	24	33	38	80	112	71	263
回収率(%)	62.2	61.9	49.2	78.9	87.8	64.9	94.3	92.7	56.3	78.3	93.4	72.9
【教養的成長】次の全学教育科目群は，あなたの成長にどの程度意義がありましたか												
「コミュニケーション(語学教育)」系は	3.43	3.54	3.39	2.93	3.44	2.92	3.79	3.55	3.45	3.13	3.66	3.37
「人間と文化の理解」系は	3.30	3.58	3.42	3.36	3.21	2.88	3.39	3.55	3.44	3.20	3.48	3.35
「現代社会に生きる」系は	3.09	3.65	3.65	3.47	3.26	2.79	3.36	3.47	3.49	3.24	3.42	3.37
「科学技術と環境」系は	3.04	3.81	3.39	3.49	3.60	3.08	3.36	3.21	3.43	3.45	3.28	3.40
「健康の維持・増進(体育を含む)」系は	3.87	4.23	3.74	3.56	3.49	3.50	3.42	3.39	3.94	3.52	3.41	3.62
教養的成長の平均	*3.35*	*3.76*	*3.52*	*3.36*	*3.40*	*3.03*	*3.47*	*3.44*	*3.55*	*3.31*	*3.45*	*3.42*
【専門的成長】次の教育科目群(学部教育関連)は，あなたの成長にどの程度意義がありましたか												
全学教育科目群「学部教育への準備」系は	3.26	4.04	3.39	3.53	3.65	3.46	3.85	3.95	3.56	3.56	3.90	3.65
学部専門科目の講義は	3.91	4.38	4.42	3.91	4.00	3.88	4.24	4.50	4.26	3.94	4.38	4.16
実験・実習・演習は	4.57	4.81	4.71	4.13	4.40	4.42	4.64	4.74	4.70	4.29	4.69	4.52
卒業研究は	4.35	4.58	4.45	4.11	4.14	4.58	4.39	4.68	4.46	4.22	4.55	4.38
専門的成長の平均	*4.02*	*4.45*	*4.24*	*3.92*	*4.05*	*4.08*	*4.28*	*4.47*	*4.25*	*4.00*	*4.38*	*4.18*
【総合的成長】あなたが本学在学中に身につけた能力について尋ねます												
社会の一員として生きる力は	4.26	3.77	3.74	3.29	3.53	3.50	3.73	3.68	3.90	3.43	3.70	3.65
専門性を活かすための基礎知識とスキルは	4.30	3.88	4.13	3.53	3.44	3.42	3.85	4.05	4.10	3.47	3.96	3.79
専門的な知識と技術は	4.26	4.00	3.97	3.60	3.44	3.38	3.82	4.03	4.06	3.49	3.93	3.78
創造的に考える力は	4.04	3.58	3.84	3.31	3.53	3.50	3.88	4.16	3.81	3.44	4.03	3.71
自らをみがき発展させる力は	4.04	3.58	3.68	3.38	3.65	3.54	3.94	4.03	3.75	3.52	3.99	3.71
コミュニケーションの力は	4.17	3.69	3.87	3.02	3.53	3.75	3.88	3.92	3.90	3.38	3.90	3.68
ソーシャルスキル・ビジネスマナーは	3.78	3.50	3.13	2.98	3.09	3.21	3.36	3.37	3.44	3.07	3.37	3.26
職業人となる意識は	3.91	3.73	3.84	3.13	3.23	3.38	3.39	3.53	3.83	3.22	3.46	3.47
総合的成長の平均	*4.10*	*3.72*	*3.77*	*3.28*	*3.43*	*3.46*	*3.73*	*3.85*	*3.85*	*3.38*	*3.79*	*3.63*
【全般的満足】全般的に本学の教育は満足でしたか												
全般的に本学の教育は満足でしたか	*4.09*	*4.50*	*4.10*	*3.56*	*3.81*	*3.63*	*4.09*	*4.13*	*4.23*	*3.67*	*4.11*	*3.96*

注)アンケートの集計結果は，５段階評価(1 否定～5 肯定)の平均値を示す

B-2 修了時アンケート

実施日時：2018 年 3 月 23 日

　　　　　　（回収率不調のため，追加でアンケートの提出を依頼し 2018 年 4 月末締めとした）

実施方法：Web（「はっとりん」）上で実施（ただし，追加は紙ベースで実施）

対象者：総数 94 人中，回答数 68 人（回収率 72.3%）

平成29年度「修了時アンケート」の結果	博士前期										博士後期						
	看護学	栄養学	保健福祉学	システム工学	デザイン工	造形デザイン学	保健福祉学研究科	情報系工学研究科	デザイン学研究科	計	保健福祉科学	システム工学	計	保健福祉学研究科(前後期)	情報システム工学研究科(前後期)	デザイン学研究科(修士)	全体
対象者数	13	7	8	48	1	4	28	48	5	81	10	3	13	38	51	5	94
回答者数	5	5	6	36	1	4	16	36	5	57	8	3	11	24	39	5	68
回収率(%)	38.5	71.4	75.0	75.0	100.0	100.0	57.1	75.0	100.0	70.4	80.0	100.0	84.6	63.2	76.5	100.0	72.3
【研究環境】										平均							
学業に意欲的に取り組むことができた。	4.20	4.80	4.83	3.94	4.00	4.75	4.63	3.94	4.60	4.19	4.88	4.67	4.77	4.71	4.00	4.60	4.29
修士論文の作成や研究について，指導教員から十分な指導を受けることができた。	4.00	5.00	5.00	4.28	5.00	4.75	4.69	4.28	4.80	4.44	4.88	5.00	4.94	4.76	4.33	4.80	4.51
研究倫理について学ぶことができた。	4.40	4.80	5.00	4.36	4.00	4.75	4.75	4.36	4.60	4.49	4.63	5.00	4.81	4.71	4.41	4.60	4.53
研究環境は満足のいくものだった。	3.80	4.60	4.83	4.08	4.00	4.50	4.44	4.08	4.40	4.21	4.38	5.00	4.69	4.42	4.15	4.40	4.26
研究環境の平均	*4.10*	*4.80*	*4.92*	*4.17*	*4.25*	*4.69*	*4.63*	*4.17*	*4.60*	*4.33*	*4.69*	*4.92*	4.80	*4.65*	*4.22*	*4.60*	*4.40*
【発表機会】																	
研究内容を学会等で発表する機会があったら，その回数を教えてください。	2.40	4.20	1.83	3.36	2.00	2.00	2.75	3.36	2.00	3.07	3.75	4.33	4.04	3.08	3.44	2.00	3.21
研究内容を学会等の論文に執筆する機会があったら，その回数を教えてください。	2.00	1.20	2.17	2.06	1.00	1.25	1.81	2.06	1.20	1.91	4.13	3.67	3.90	2.58	2.18	1.20	2.25
（分担執筆の場合も含め，1論文1回としてください。修士論文やアブストラクト執筆は除きます。）													0.00				
発表機会の平均	*2.20*	*2.70*	*2.00*	*2.71*	*1.50*	*1.63*	*2.28*	*2.71*	*1.60*	*2.49*	*3.94*	*4.00*	3.97	*2.83*	*2.81*	*1.60*	*2.73*
【学修成果】																	
本学での学修で，高い専門性が身についたと思う。	4.40	4.40	4.50	4.17	4.00	3.75	4.44	4.17	3.80	4.21	4.50	4.67	4.58	4.46	4.21	3.80	4.26
本学での学修で，研究を行うための基礎知識やスキルが身についたと思う。	4.40	4.80	4.50	4.33	4.00	4.75	4.56	4.33	4.60	4.42	4.50	5.00	4.75	4.54	4.38	4.60	4.46
本学での学修で，自分で研究課題を発見する力が身についたと思う。	4.40	4.40	4.50	3.97	4.00	4.75	4.44	3.97	4.60	4.16	4.38	5.00	4.69	4.42	4.05	4.60	4.22
本学での学修で，課題を研究するときに研究計画を立てる力が身についたと思う。	4.40	4.60	4.50	3.89	4.00	4.75	4.50	3.89	4.60	4.12	4.50	4.33	4.42	4.50	3.92	4.60	4.18
本学での学修で，課題を解決するための分析や評価方法が身についたと思う。	4.60	4.60	4.33	4.11	3.00	4.75	4.50	4.11	4.40	4.25	4.50	4.33	4.42	4.50	4.13	4.40	4.28
本学での学修は，今後の仕事（進学先または就職先）で役立つと思う。	4.40	4.00	4.33	3.94	4.00	4.50	4.25	3.94	4.40	4.07	4.75	4.33	4.54	4.42	3.97	4.40	4.16
学修成果の平均	*4.43*	*4.47*	*4.44*	*4.07*	*3.83*	*4.54*	*4.45*	*4.07*	*4.40*	*4.20*	*4.52*	*4.61*	4.57	*4.47*	*4.11*	*4.40*	*4.26*
【総合的評価】																	
岡山県立大学で学ぶことが出来て良かったと思う。	*4.60*	*4.60*	*5.00*	*4.17*	*3.00*	*4.50*	*4.75*	*4.17*	*4.20*	*4.33*	*4.86*	*5.00*	*4.93*	*4.78*	*4.23*	*4.20*	*4.42*

注)アンケートの集計結果は，５段階評価(1 否定～5 肯定)の平均値を示す

B-3 授業評価アンケート

		2018年度前期 全体	2018年度前期 共通教育	2018年度前期 保健福祉学部	2018年度前期 情報工学部	2018年度前期 デザイン学部	2017年度前期 全体	2017年度前期 共通教育	2017年度前期 保健福祉学部	2017年度前期 情報工学部	2017年度前期 デザイン学部	2017年度前期との差異 全体	2017年度前期との差異 共通教育	2017年度前期との差異 保健福祉学部	2017年度前期との差異 情報工学部	2017年度前期との差異 デザイン学部
	回答件数	8894	3233	2362	2102	1197	12115	4677	3760	2359	1319	−3221	−1444	−1398	−257	−122
	全数	17206	5303	4464	4696	2743	17367	6237	4902	3979	2249	−161	−934	−438	+717	+494
	回答割合（%）	51.69	60.97	52.91	44.76	43.64	69.76	74.99	76.70	59.29	58.65	−18.07	−14.02	−23.79	−14.52	−15.01
Q1-1	【取組み】予習や復習、課題等に使った授業1回当たりの平均時間を教えてください	58.43	38.14	46.02	74.93	114.28										
Q1-2	【取組み】あなたのおよその出席率を教えてください	95.71	95.34	96.58	95.59	95.18										
Q1-3	【取組み】この授業を真剣に受講した	4.34	4.24	4.45	4.25	4.56	4.28	4.17	4.46	4.08	4.48	+0.06	+0.07	−0.01	+0.16	+0.08
Q1-4	【取組み】この授業を理解するために努力した	4.39	4.30	4.48	4.32	4.60	4.27	4.17	4.43	4.11	4.50	+0.12	+0.13	+0.05	+0.21	+0.10
Q2-1	【進め方】授業は計画的に行われていた	4.24	4.31	4.40	4.24	4.48	4.28	4.27	4.39	4.06	4.43	+0.06	+0.04	+0.01	+0.18	+0.05
Q2-2	【進め方】授業では考える機会や時間が与えられた	4.27	4.20	4.31	4.23	4.45	4.19	4.15	4.32	3.99	4.34	+0.08	+0.05	−0.01	+0.24	+0.11
Q2-3	【進め方】授業で用いた教科書や資料は適切だった	4.28	4.23	4.43	4.11	4.39	4.18	4.11	4.39	3.87	4.34	+0.10	+0.12	+0.04	+0.24	+0.05
Q2-4	【進め方】授業は学生の理解度を確認しながら進められた	4.07	3.85	4.25	3.98	4.20	3.96	3.85	4.19	3.70	4.15	+0.11	+0.10	+0.06	+0.28	+0.05
Q3-1	【対応】授業では教員に熱意があった	4.40	4.37	4.51	4.25	4.50	4.30	4.25	4.50	3.99	4.49	+0.10	+0.12	+0.01	+0.26	+0.01
Q3-2	【対応】教員は学生の質問に対して丁寧に対応した（課外含む）	4.32	4.23	4.42	4.26	4.46	4.23	4.14	4.40	3.99	4.47	+0.09	+0.09	+0.02	+0.27	−0.01
Q3-3	【対応】授業は丁寧に進められた	4.36	4.33	4.46	4.21	4.46	4.25	4.21	4.43	3.95	4.44	+0.11	+0.12	+0.03	+0.26	+0.02
Q3-4	【対応】授業中に課された提出物（小テスト・レポート等）は内容をよく評価していた	4.17	4.09	4.23	4.12	4.37	3.98	3.88	4.08	3.82	4.34	+0.19	+0.21	+0.15	+0.30	+0.03
Q4-1	【シラバス】シラバスの内容はよく理解できた	4.22	4.18	4.30	4.12	4.38	4.07	4.03	4.21	3.82	4.32	+0.15	+0.15	+0.09	+0.30	+0.06
Q4-2	【シラバス】授業内容はシラバスにある目標に合っていた	4.26	4.23	4.34	4.16	4.40	4.13	4.09	4.25	3.89	4.37	+0.13	+0.15	+0.09	+0.27	+0.03
Q4-3	【シラバス】シラバスの説明は十分に行われた	4.10	4.03	4.16	4.04	4.24	3.91	3.86	3.99	3.75	4.17	+0.19	+0.17	+0.17	+0.29	+0.07
Q5-1	【総合】教員の説明はわかりやすかった	4.24	4.23	4.33	4.09	4.35	4.04	3.97	4.22	3.77	4.22	+0.20	+0.26	+0.11	+0.32	+0.13
Q5-2	【総合】受講して内容に興味や関心が湧いた	4.20	4.13	4.34	4.04	4.44	4.05	3.88	4.34	3.74	4.41	+0.15	+0.25	0	+0.30	+0.03
Q5-3	【総合】この授業を受けて力がついた	4.22	4.10	4.36	4.11	4.44	4.08	3.90	4.34	3.82	4.41	+0.14	+0.20	+0.02	+0.29	+0.03
Q5-4	【総合】この授業を友人や後輩にも勧めたい	4.10	4.01	4.26	3.94	4.32										

※回答件数はQ1-3の回答数をもとにした。Q1-2で100より大きな値が入ったものは欠損値とした
※灰色でマスクされた欄は、今年度から質問項目が変更されたため、比較対象外
※共通教育科目は履修案内をもとに個々に特定、学部科目は「共通教育科目ではないもの＆回答者の所属学部」をもとに特定

		2018年度後期 全体	2018年度後期 共通教育	2018年度後期 保健福祉学部	2018年度後期 情報工学部	2018年度後期 デザイン学部	2017年度後期 全体	2017年度後期 共通教育	2017年度後期 保健福祉学部	2017年度後期 情報工学部	2017年度後期 デザイン学部	2017年度後期との差異 全体	2017年度後期との差異 共通教育	2017年度後期との差異 保健福祉学部	2017年度後期との差異 情報工学部	2017年度後期との差異 デザイン学部
	回答件数	7306	2301	2301	1766	928	7092	2249	2279	1665	899	+214	+52	+22	+101	+29
	全数	15487	4681	4163	4135	2508	15316	4564	4162	4127	2463	+171	+117	+1	+8	+45
	回答割合（%）	47.18	49.16	55.27	42.71	37.00	46.30	49.28	54.76	40.34	36.50	+0.87	−0.12	+0.52	+2.36	+0.50
Q1-1	【取組み】予習や復習、課題等に使った授業1回当たりの平均時間(分)を教えてください	60.19	36.72	59.91	64.20	111.29										
Q1-2	【取組み】あなたのおよその出席率を教えてください	94.49	93.07	96.04	95.22	92.78										
Q1-3	【取組み】この授業を真剣に受講した	4.38	4.24	4.50	4.28	4.59	4.30	4.14	4.43	4.25	4.47	+0.08	+0.10	+0.07	+0.03	+0.12
Q1-4	【取組み】この授業を理解するために努力した	4.44	4.29	4.54	4.40	4.63	4.31	4.14	4.43	4.25	4.49	+0.13	+0.15	+0.11	+0.15	+0.14
Q2-1	【進め方】授業は計画的に行われていた	4.35	4.28	4.41	4.27	4.54	4.29	4.22	4.39	4.20	4.36	+0.06	+0.06	+0.02	+0.07	+0.18
Q2-2	【進め方】授業では考える機会や時間が与えられた	4.31	4.24	4.33	4.26	4.57	4.24	4.18	4.30	4.13	4.41	+0.07	+0.06	+0.03	+0.13	+0.16
Q2-3	【進め方】授業で用いた教科書や資料は適切だった	4.27	4.18	4.35	4.19	4.45	4.17	4.01	4.34	4.05	4.39	+0.10	+0.17	+0.01	+0.14	+0.06
Q2-4	【進め方】授業は学生の理解度を確認しながら進められた	4.11	4.01	4.22	3.99	4.35	4.04	3.92	4.21	3.86	4.17	+0.07	+0.09	+0.01	+0.13	+0.18
Q3-1	【対応】授業では教員に熱意があった	4.42	4.36	4.53	4.26	4.57	4.30	4.19	4.47	4.12	4.53	+0.12	+0.17	+0.06	+0.14	+0.04
Q3-2	【対応】教員は学生の質問に対して丁寧に対応した（課外含む）	4.35	4.26	4.44	4.23	4.60	4.26	4.14	4.40	4.11	4.49	+0.09	+0.12	+0.04	+0.12	+0.11
Q3-3	【対応】授業は丁寧に進められた	4.37	4.30	4.48	4.21	4.53	4.27	4.16	4.42	4.11	4.41	+0.10	+0.14	+0.06	+0.10	+0.12
Q3-4	【対応】授業中に課された提出物（小テスト・レポート等）は内容をよく評価していた	4.23	4.13	4.27	4.22	4.40	4.07	3.93	4.15	4.00	4.29	+0.16	+0.20	+0.12	+0.22	+0.11
Q4-1	【シラバス】シラバスの内容はよく理解できた	4.27	4.17	4.39	4.18	4.42	4.12	4.04	4.25	3.96	4.29	+0.15	+0.13	+0.14	+0.22	+0.13
Q4-2	【シラバス】授業内容はシラバスにある目標に合っていた	4.29	4.21	4.39	4.19	4.46	4.16	4.05	4.28	4.03	4.35	+0.13	+0.16	+0.11	+0.16	+0.11
Q4-3	【シラバス】シラバスの説明は十分に行われた	4.16	4.08	4.22	4.11	4.30	3.98	3.84	4.10	3.89	4.22	+0.18	+0.24	+0.12	+0.22	+0.08
Q5-1	【総合】教員の説明はわかりやすかった	4.23	4.17	4.32	4.08	4.43	4.08	3.96	4.26	3.92	4.24	+0.15	+0.21	+0.06	+0.16	+0.19
Q5-2	【総合】受講して内容に興味や関心が湧いた	4.22	4.10	4.33	4.07	4.49	4.05	3.81	4.26	3.86	4.41	+0.17	+0.29	+0.07	+0.21	+0.08
Q5-3	【総合】この授業を受けて力がついた	4.24	4.06	4.37	4.15	4.49	4.09	3.81	4.29	4.04	4.37	+0.15	+0.25	+0.08	+0.11	+0.12
Q5-4	【総合】この授業を友人や後輩にも勧めたい	4.15	4.02	4.29	4.02	4.41										
	平均（Q1-3～Q5-4）	4.29	4.19	4.38	4.19	4.49	4.17	4.03	4.31	4.05	4.37	+0.12	+0.16	+0.07	+0.14	+0.12
サブカテゴリ集計																
A	授業への学生の取組み	4.41	4.27	4.52	4.34	4.61	4.31	4.14	4.43	4.25	4.48	+0.11	+0.13	+0.09	+0.09	+0.13
B	授業の資料や進め方	4.26	4.18	4.33	4.18	4.48	4.19	4.08	4.31	4.06	4.33	+0.07	+0.10	+0.02	+0.12	+0.15
C	教員の授業への対応	4.34	4.26	4.43	4.23	4.53	4.23	4.11	4.36	4.09	4.43	+0.12	+0.16	+0.07	+0.15	+0.10
D	シラバスと授業の関係	4.24	4.15	4.33	4.16	4.39	4.09	3.98	4.21	3.96	4.29	+0.15	+0.18	+0.12	+0.20	+0.11
E	総合的な評価	4.21	4.09	4.33	4.08	4.46	4.07	3.86	4.27	3.94	4.34	+0.16	+0.25	+0.07	+0.16	+0.13
（A：Q1-1～4、B：Q2-1～4、C：Q3-1～4、D：Q4-1～3、E：Q5-1～4）																

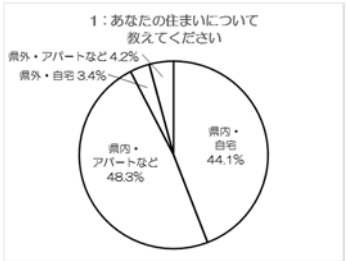
※回答件数はQ1-3を基準とした。Q1-2で100より大きな値は欠損値とした
※黒塗りは質問項目が変更されたため比較不可能なもの
※共通教育科目は科目コードが「00A始まり」のもの、学部科目は「共通教育科目ではないもの＆回答者の所属学部」をもとに特定

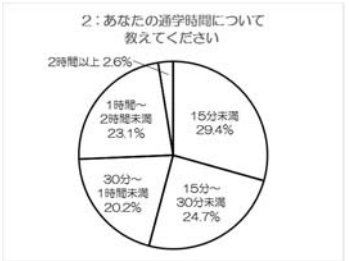
		2018年度後期 保健福祉学研究科（博士前期）	2018年度後期 情報系工学研究科（博士前期）	2018年度後期 デザイン学研究科（修士）	2018年度後期 保健福祉学研究科（博士後期）	2018年度後期 情報系工学研究科（博士後期）	2017年度後期 保健福祉学研究科（博士前期）	2017年度後期 情報系工学研究科（博士前期）	2017年度後期 デザイン学研究科（修士）	2017年度後期 保健福祉学研究科（博士後期）	2017年度後期 情報系工学研究科（博士後期）	2017年度後期との差異 保健福祉学研究科（博士前期）	2017年度後期との差異 情報系工学研究科（博士前期）	2017年度後期との差異 デザイン学研究科（修士）	2017年度後期との差異 保健福祉学研究科（博士後期）	2017年度後期との差異 情報系工学研究科（博士後期）
	回答件数	10	76	1	0	0	15	92	0	0	0	−5	−16	+1	0	0
	全数	148	176	2	0	0	45	202	1	0	0	+103	−26	+1	0	0
	回答割合（%）	6.76	43.18	50.00			33.33	45.54				−26.58	−2.36			
Q1-1	【取組み】予習や復習、課題等に使った授業1回当たりの平均時間(分)を教えてください	35.30	43.18	30.00												
Q1-2	【取組み】あなたのおよその出席率を教えてください	94.00	90.07	100.00												
Q1-3	【取組み】この授業を真剣に受講した	5.00	4.49	5.00			4.60	4.27				+0.40	+0.22			
Q1-4	【取組み】この授業を理解するために努力した	4.70	4.55	5.00			4.73	4.38				−0.03	+0.17			
Q2-1	【進め方】授業は計画的に行われていた	4.50	4.71	5.00			4.53	4.58				−0.03	+0.13			
Q2-2	【進め方】授業では考える機会や時間が与えられた	4.60	4.66	5.00			4.87	4.50				−0.27	+0.16			
Q2-3	【進め方】授業で用いた教科書や資料は適切だった	4.20	4.55	5.00			4.53	4.38				−0.33	+0.17			
Q2-4	【進め方】授業は学生の理解度を確認しながら進められた	4.10	4.55	4.00			4.33	4.40				−0.23	+0.15			
Q3-1	【対応】授業では教員に熱意があった	4.90	4.71	5.00			4.27	4.52				+0.63	+0.19			
Q3-2	【対応】教員は学生の質問に対して丁寧に対応した（課外含む）	4.70	4.72	5.00			4.53	4.49				+0.17	+0.23			
Q3-3	【対応】授業は丁寧に進められた	4.50	4.68	5.00			4.47	4.58				+0.03	+0.10			
Q3-4	【対応】授業中に課された提出物（小テスト・レポート等）は内容をよく評価していた	4.10	4.57	5.00			4.40	4.42				−0.30	+0.15			
Q4-1	【シラバス】シラバスの内容はよく理解できた	4.40	4.43	5.00			4.60	4.37				−0.20	+0.06			
Q4-2	【シラバス】授業内容はシラバスにある目標に合っていた	4.50	4.45	5.00			4.67	4.43				−0.17	+0.02			
Q4-3	【シラバス】シラバスの説明は十分に行われた	4.20	4.28	5.00			4.27	4.29				−0.07	−0.01			
Q5-1	【総合】教員の説明はわかりやすかった	4.40	4.66	5.00			4.47	4.55				−0.07	+0.11			
Q5-2	【総合】受講して内容に興味や関心が湧いた	4.80	4.54	5.00			4.53	4.52				+0.27	+0.02			
Q5-3	【総合】この授業を受けて力がついた	4.40	4.43	5.00			4.13	4.42				+0.27	+0.01			
Q5-4	【総合】この授業を友人や後輩にも勧めたい	4.20	4.62	5.00												
	平均（Q1-3～Q5-4）	4.50	4.56	4.94			4.50	4.44				+0.00	+0.12			
サブカテゴリ集計																
A	授業への学生の取組み	4.85	4.52	5.00			4.67	4.33				+0.19	+0.20			
B	授業の資料や進め方	4.35	4.62	4.75			4.57	4.47				−0.22	+0.15			
C	教員の授業への対応	4.55	4.67	5.00			4.42	4.50				+0.13	+0.17			
D	シラバスと授業の関係	4.37	4.39	5.00			4.51	4.36				−0.15	+0.02			
E	総合的な評価	4.45	4.56	5.00			4.38	4.50				+0.16	+0.05			
（A：Q1-1～4、B：Q2-1～4、C：Q3-1～4、D：Q4-1～3、E：Q5-1～4）																

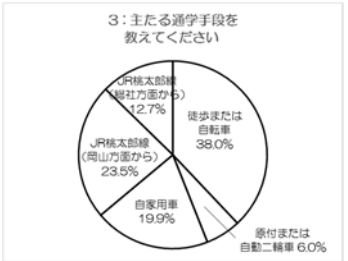
※回答件数はQ1-3を基準とした。Q1-2で100より大きな値は欠損値とした
※黒塗りは質問項目が変更されたため比較不可能なもの

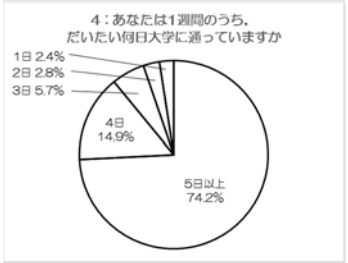
B-4 学生生活アンケート（学部生・大学院生）

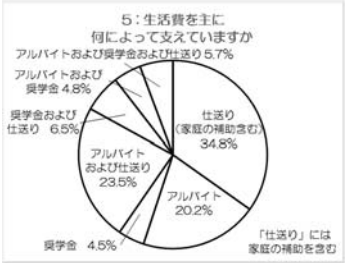
調査項目：以下の集計表に示す 60 項目＋所属および学年
調査時期：平成 30 年 12 月～平成 31 年 1 月
回収率：46.7%
集計方法：学部生・大学院生別・項目ごとの有効回答の範囲内での単純集計
【学生生活：学部生】

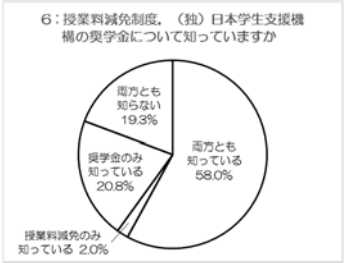


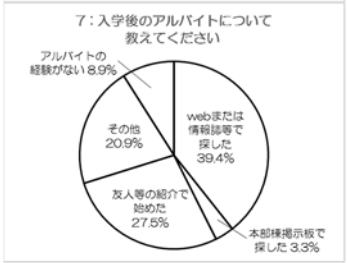


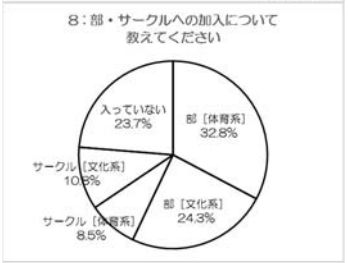


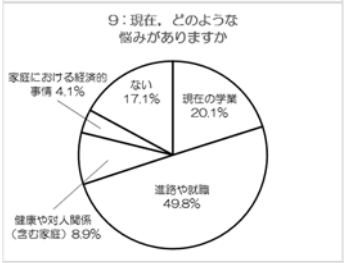


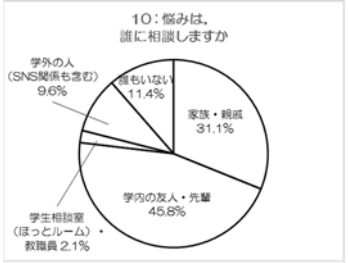


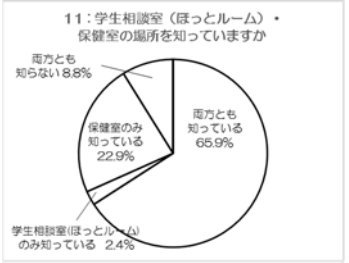


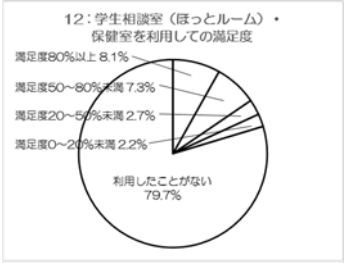


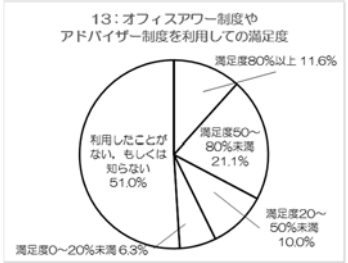


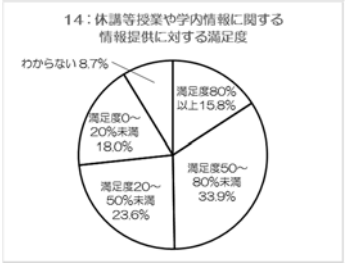


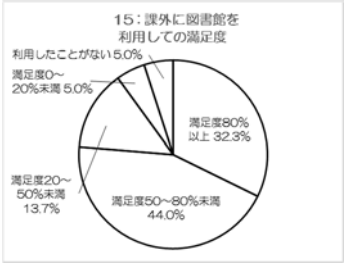


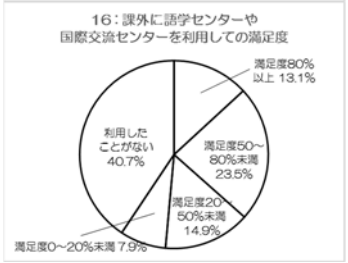


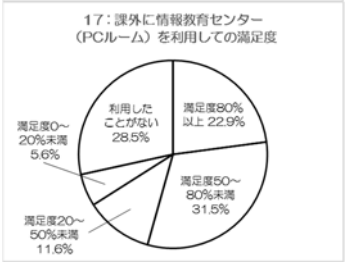


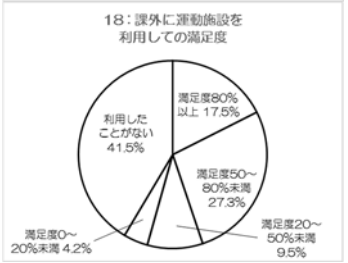




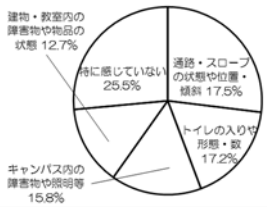






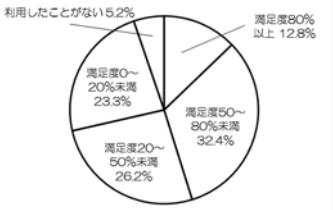


19：学内施設で安全面等の配慮の必要を感じることがあれば教えてください

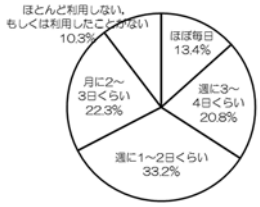


20：食堂（1F）及び喫茶（2F）の利用頻度を教えてください

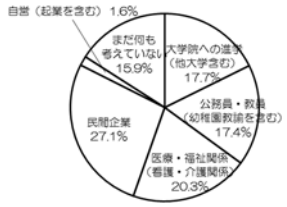
21：食堂（1F）及び喫茶（2F）を利用しての満足度



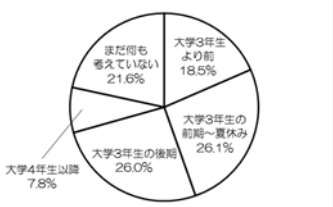
22：売店の利用頻度を教えてください



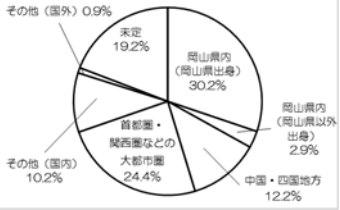
23：卒業後の進路の第1希望は何ですか



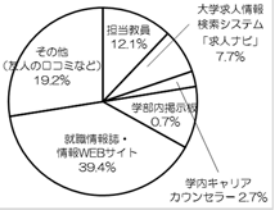
24：進路に向けた準備・活動をいつ頃から始めますか（もしくは始めましたか）



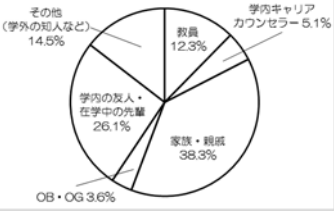
25：希望する就職地域はどこですか



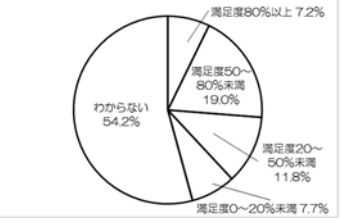
26：就職情報をどのようにして得ていますか



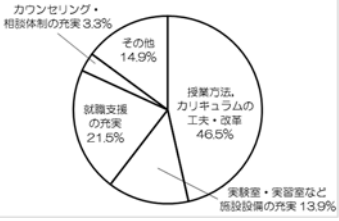
27：進路について、主に誰に相談していますか



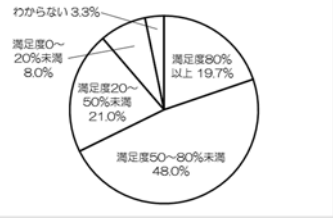
28：本学の就職支援体制に対する満足度



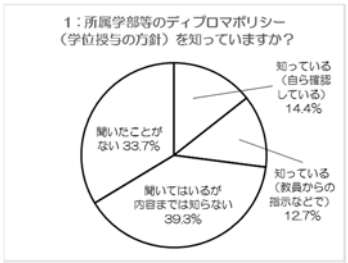
29：大学への要望や期待について、最も強く思うものはなんですか

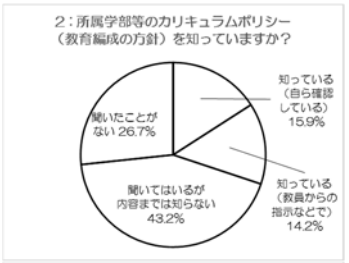


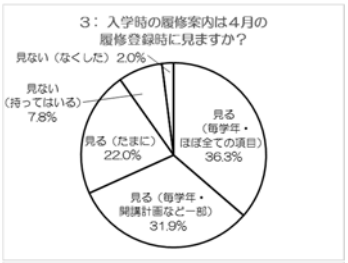
30：全体として本学での大学生活に満足していますか

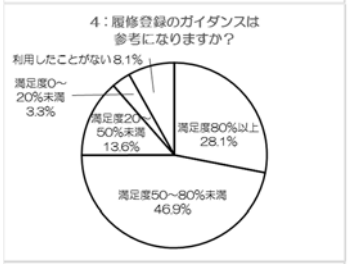


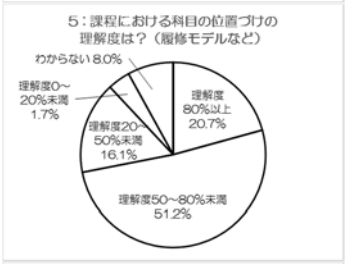
【学修：学部生】

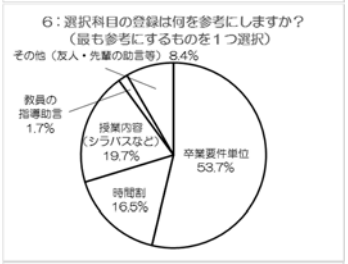

1：所属学部等のディプロマポリシー
（学位授与の方針）を知っていますか？
知っている
（自ら確認
している）
14.4%
知っている
（教員からの
指示などで）
12.7%
聞いてはいるが
内容までは知らない
39.3%
聞いたことが
ない 33.7%

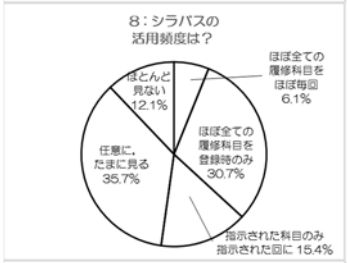

2：所属学部等のカリキュラムポリシー
（教育編成の方針）を知っていますか？
知っている
（自ら確認
している）
15.9%
知っている
（教員からの
指示などで）
14.2%
聞いてはいるが
内容までは知らない
43.2%
聞いたことが
ない 26.7%

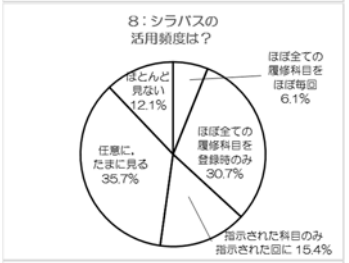

3： 入学時の履修案内は4月の
履修登録時に見ますか？
見ない（なくした）2.0%
見ない
（持ってはいる）
7.8%
見る
（毎学年・
ほぼ全ての項目）
36.3%
見る（たまに）
22.0%
見る（毎学年・
開講計画など一部）
31.9%

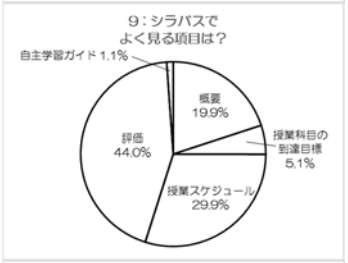

4：履修登録のガイダンスは
参考になりますか？
利用したことがない 8.1%
満足度0～
20%未満
3.3%
満足度20～
50%未満
13.6%
満足度80%以上
28.1%
満足度50～80%未満
46.9%

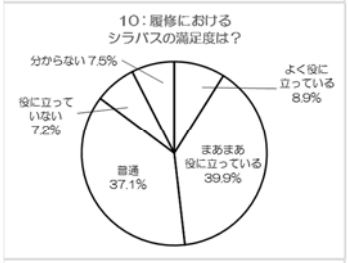

5：課程における科目の位置づけの
理解度は？（履修モデルなど）
わからない 8.0%
理解度0～
20%未満
1.7%
理解度20～
50%未満
16.1%
理解度
80%以上
20.7%
理解度50～80%未満
51.2%

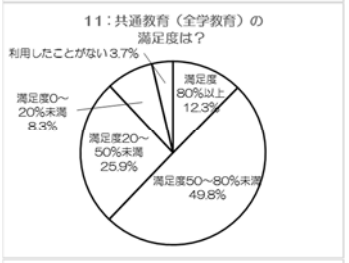

6：選択科目の登録は何を参考にしますか？
（最も参考にするものを１つ選択）
その他（友人・先輩の助言等）8.4%
教員の
指導助言
1.7%
授業内容
（シラバスなど）
19.7%
卒業要件単位
53.7%
時間割
16.5%

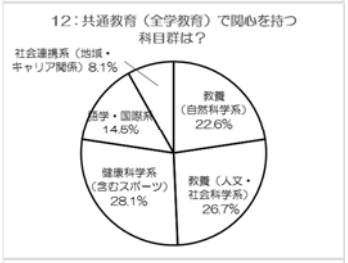

8：シラバスの
活用頻度は？
ほぼ全ての
履修科目を
ほぼ毎回
6.1%
ほとんど
見ない
12.1%
ほぼ全ての
履修科目を
登録時のみ
30.7%
任意に、
たまに見る
35.7%
指示された科目のみ
指示された回に 15.4%

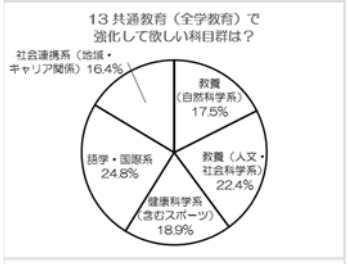

8：シラバスの
活用頻度は？
ほぼ全ての
履修科目を
ほぼ毎回
6.1%
ほとんど
見ない
12.1%
ほぼ全ての
履修科目を
登録時のみ
30.7%
任意に、
たまに見る
35.7%
指示された科目のみ
指示された回に 15.4%

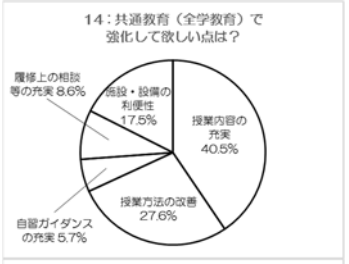

9：シラバスで
よく見る項目は？
自主学習ガイド 1.1%
概要
19.9%
授業科目の
到達目標
5.1%
評価
44.0%
授業スケジュール
29.9%

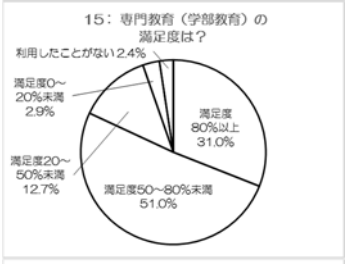

10：履修における
シラバスの満足度は？
分からない 7.5%
よく役に
立っている
8.9%
役に立って
いない
7.2%
まあまあ
役に立っている
39.9%
普通
37.1%

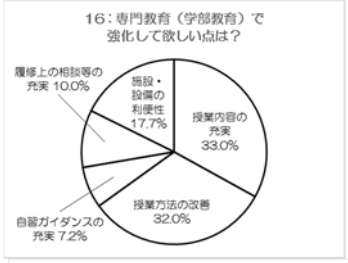

11：共通教育（全学教育）の
満足度は？
利用したことがない 3.7%
満足度0～
20%未満
8.3%
満足度
80%以上
12.3%
満足度20～
50%未満
25.9%
満足度50～80%未満
49.8%

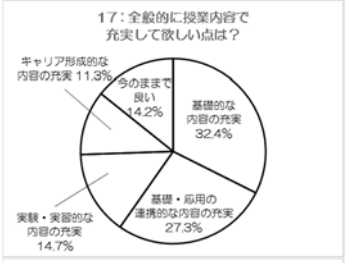

12：共通教育（全学教育）で関心を持つ
科目群は？
社会連携系（地域・
キャリア関係）8.1%
教養
（自然科学系）
22.6%
語学・国際系
14.5%
健康科学系
（含むスポーツ）
28.1%
教養（人文・
社会科学系）
26.7%

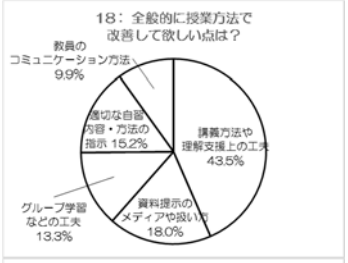

13 共通教育（全学教育）で
強化して欲しい科目群は？
社会連携系（地域・
キャリア関係）16.4%
教養
（自然科学系）
17.5%
語学・国際系
24.8%
教養（人文・
社会科学系）
22.4%
健康科学系
（含むスポーツ）
18.9%

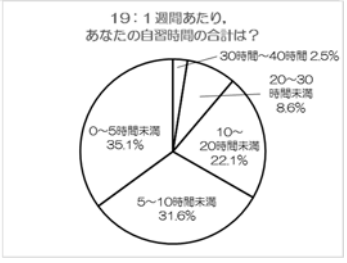

14：共通教育（全学教育）で
強化して欲しい点は？
履修上の相談
等の充実 8.6%
施設・設備の
利便性
17.5%
授業内容の
充実
40.5%
授業方法の改善
27.6%
自習ガイダンス
の充実 5.7%

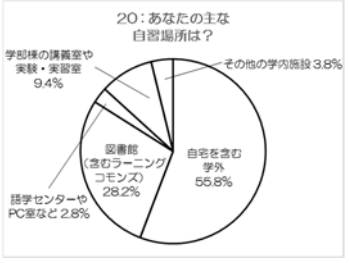

15： 専門教育（学部教育）の
満足度は？
利用したことがない 2.4%
満足度0～
20%未満
2.9%
満足度
80%以上
31.0%
満足度20～
50%未満
12.7%
満足度50～80%未満
51.0%

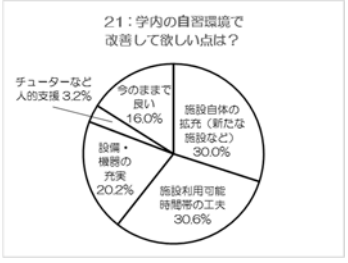

16：専門教育（学部教育）で
強化して欲しい点は？
履修上の相談等の
充実 10.0%
施設・
設備の
利便性
17.7%
授業内容の
充実
33.0%
授業方法の改善
32.0%
自習ガイダンスの
充実 7.2%


17：全般的に授業内容で
充実して欲しい点は？
キャリア形成的な
内容の充実 11.3%
今のまま
で良い
14.2%
基礎的な
内容の充実
32.4%
実験・実習的な
内容の充実
14.7%
基礎・応用の
連携的な内容の充実
27.3%

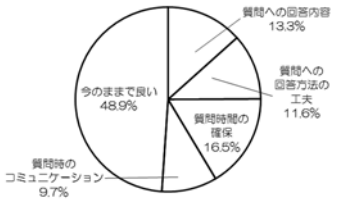

18： 全般的に授業方法で
改善して欲しい点は？
教員の
コミュニケーション方法
9.9%
適切な自習
内容・方法の
指示 15.2%
講義方法や
理解支援上の工夫
43.5%
グループ学習
などの工夫
13.3%
資料提示の
メディアや投いの
18.0%


19：１週間あたり、
あなたの自習時間の合計は？
30時間～40時間 2.5%
20～30
時間未満
8.6%
10～
20時間未満
22.1%
5～10時間未満
31.6%
0～5時間未満
35.1%

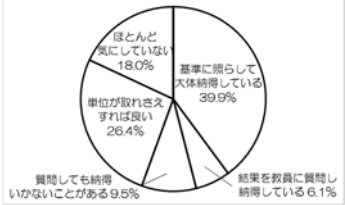

20：あなたの主な
自習場所は？
学部棟の講義室や
実験・実習室
9.4%
その他の学内施設 3.8%
図書館
（含むラーニング
コモンズ）
28.2%
自宅を含む
学外
55.8%
語学センターや
PC室など 2.8%


21：学内の自習環境で
改善して欲しい点は？
チューターなど
人的支援 3.2%
今のまま
で良い
16.0%
施設自体の
拡充（新たな
施設など）
30.0%
設備・
機器の
充実
20.2%
施設利用可能
時間帯の工夫
30.6%

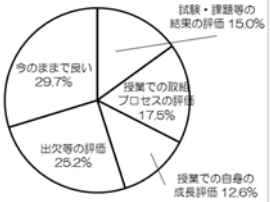
22：全般的に履修相談で
改善して欲しい点は？



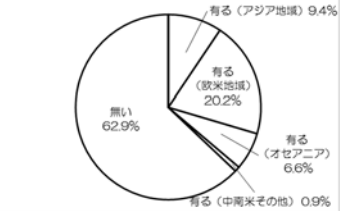
23：全般的に成績評価で
感じることは？



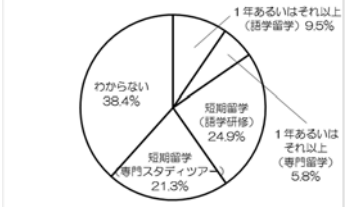
24：全般的に
もっと評価して欲しい点は？



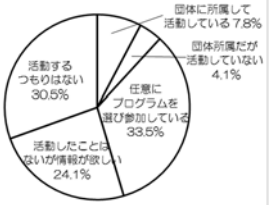
25：海外留学意欲の有無及び
地域について教えてください



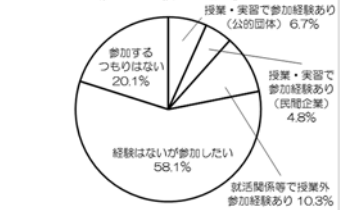
26：海外留学するとすれば、
期間・内容は？



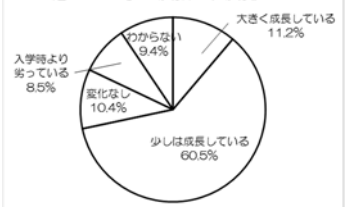
27：ボランティア活動について教えてくだ
さい（学内外を問わない）



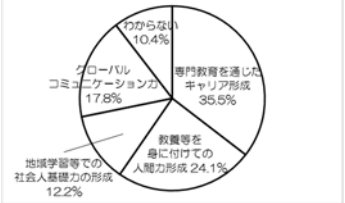
28：インターンシップ等地域や企業等での
活動について教えてください



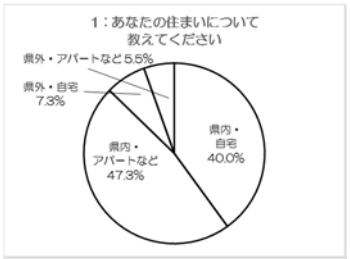
29：入学以来、正課・課外の学習全般を
通じての自身の成長評価（成長度）は？

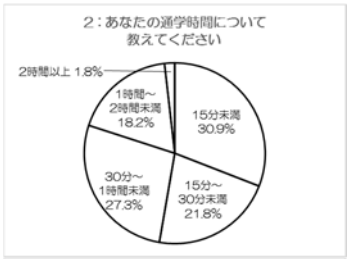


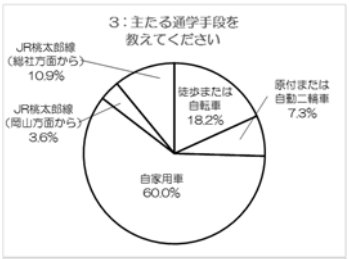
30：学習全般で
今後成長させていきたい点は？

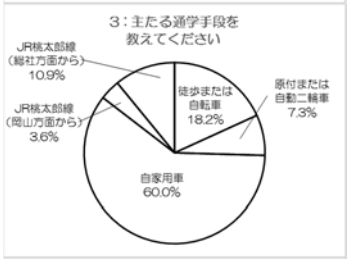


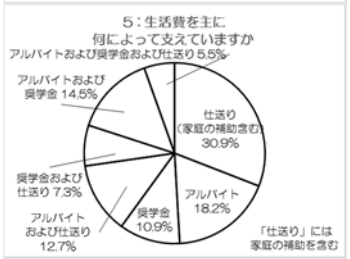
【学生生活：大学院生】

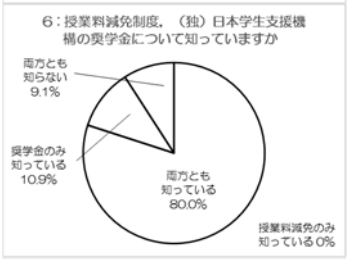

1：あなたの住まいについて
教えてください
県外・アパートなど 5.5%
県外・自宅 7.3%
県内・自宅 40.0%
県内・アパートなど 47.3%

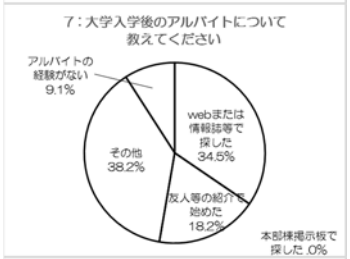

2：あなたの通学時間について
教えてください
2時間以上 1.8%
1時間～2時間未満 18.2%
15分未満 30.9%
30分～1時間未満 27.3%
15分～30分未満 21.8%

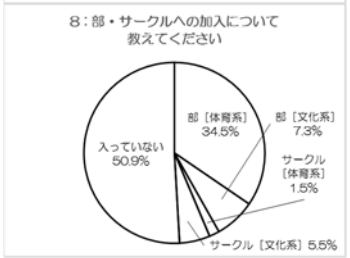

3：主たる通学手段を
教えてください
JR桃太郎線（総社方面から） 10.9%
JR桃太郎線（岡山方面から） 3.6%
徒歩または自転車 18.2%
原付または自動二輪車 7.3%
自家用車 60.0%

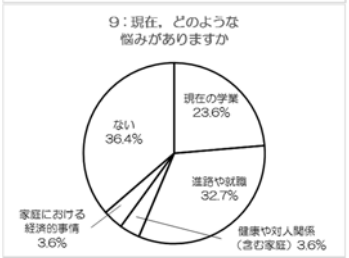

3：主たる通学手段を
教えてください
JR桃太郎線（総社方面から） 10.9%
JR桃太郎線（岡山方面から） 3.6%
徒歩または自転車 18.2%
原付または自動二輪車 7.3%
自家用車 60.0%

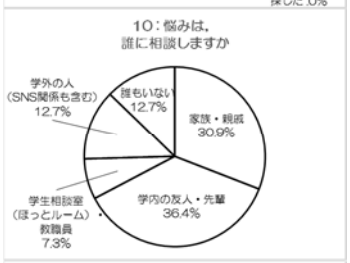

5：生活費を主に
何によって支えていますか
アルバイトおよび奨学金および仕送り 5.5%
アルバイトおよび奨学金 14.5%
仕送り（家庭の補助含む） 30.9%
奨学金および仕送り 7.3%
アルバイト 18.2%
アルバイトおよび仕送り 12.7%
奨学金 10.9%
「仕送り」には家庭の補助を含む

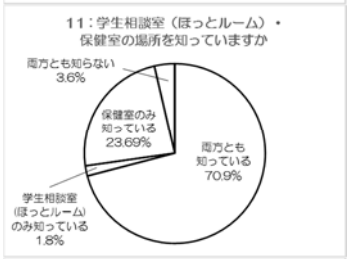

6：授業料減免制度，（独）日本学生支援機構の奨学金について知っていますか
両方とも知らない 9.1%
奨学金のみ知っている 10.9%
両方とも知っている 80.0%
授業料減免のみ知っている 0%

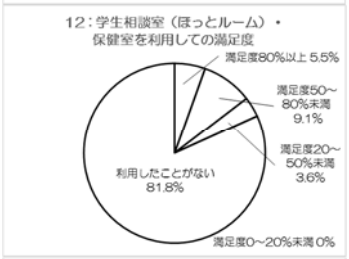

7：大学入学後のアルバイトについて
教えてください
アルバイトの経験がない 9.1%
webまたは情報誌等で探した 34.5%
その他 38.2%
友人等の紹介で始めた 18.2%
本部棟掲示板で探した 0%

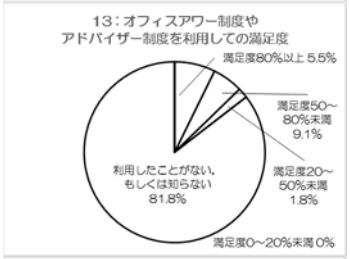

8：部・サークルへの加入について
教えてください
入っていない 50.9%
部［体育系］ 34.5%
部［文化系］ 7.3%
サークル［体育系］ 1.5%
サークル［文化系］ 5.5%

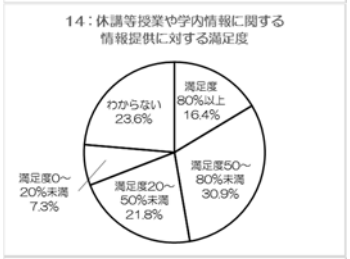

9：現在，どのような
悩みがありますか
ない 36.4%
現在の学業 23.6%
進路や就職 32.7%
家庭における経済的事情 3.6%
健康や対人関係（含む家庭） 3.6%

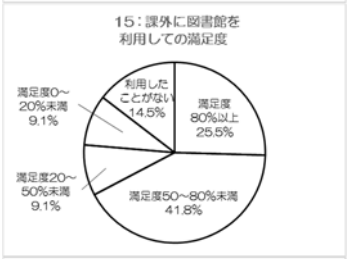

10：悩みは，
誰に相談しますか
学外の人（SNS関係も含む） 12.7%
誰もいない 12.7%
家族・親戚 30.9%
学生相談室（ほっとルーム）・教職員 7.3%
学内の友人・先輩 36.4%

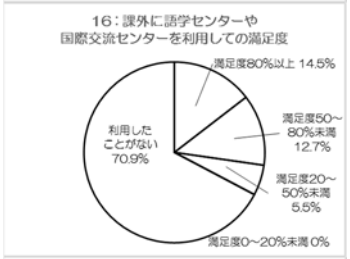

11：学生相談室（ほっとルーム）・
保健室の場所を知っていますか
両方とも知らない 3.6%
保健室のみ知っている 23.69%
両方とも知っている 70.9%
学生相談室（ほっとルーム）のみ知っている 1.8%

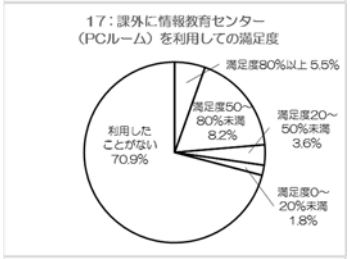

12：学生相談室（ほっとルーム）・
保健室を利用しての満足度
満足度80%以上 5.5%
満足度50～80%未満 9.1%
満足度20～50%未満 3.6%
利用したことがない 81.8%
満足度0～20%未満 0%

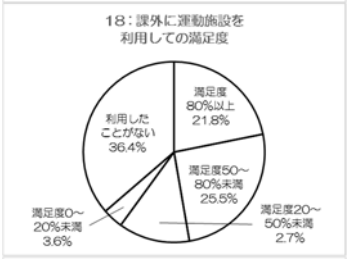

13：オフィスアワー制度や
アドバイザー制度を利用しての満足度
満足度80%以上 5.5%
満足度50～80%未満 9.1%
満足度20～50%未満 1.8%
利用したことがない，もしくは知らない 81.8%
満足度0～20%未満 0%


14：休講等授業や学内情報に関する
情報提供に対する満足度
わからない 23.6%
満足度80%以上 16.4%
満足度0～20%未満 7.3%
満足度20～50%未満 21.8%
満足度50～80%未満 30.9%

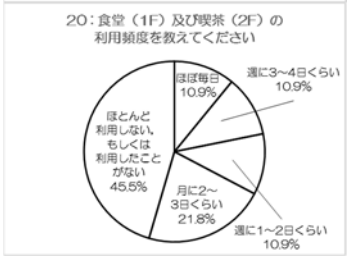

15：課外に図書館を
利用しての満足度
満足度0～20%未満 9.1%
利用したことがない 14.5%
満足度80%以上 25.5%
満足度20～50%未満 9.1%
満足度50～80%未満 41.8%

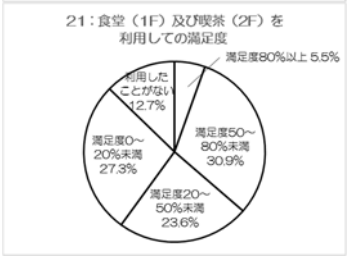

16：課外に語学センターや
国際交流センターを利用しての満足度
満足度80%以上 14.5%
利用したことがない 70.9%
満足度50～80%未満 12.7%
満足度20～50%未満 5.5%
満足度0～20%未満 0%

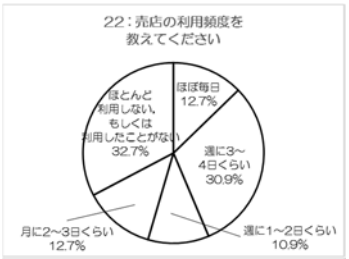

17：課外に情報教育センター
（PCルーム）を利用しての満足度
満足度80%以上 5.5%
満足度50～80%未満 8.2%
満足度20～50%未満 3.6%
利用したことがない 70.9%
満足度0～20%未満 1.8%

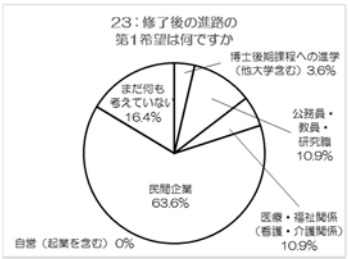

18：課外に運動施設を
利用しての満足度
満足度80%以上 21.8%
利用したことがない 36.4%
満足度50～80%未満 25.5%
満足度0～20%未満 3.6%
満足度20～50%未満 2.7%

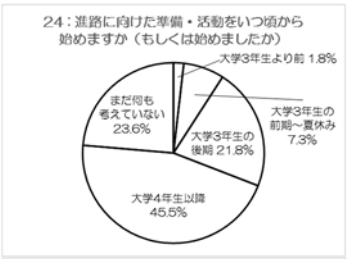
19：学内施設で安全面等の配慮の必要を
感じることがあれば教えてください
通路・スロープの状態や位置・傾斜 9.1%
トイレの入りや形態・数 12.7%
特に感じていない 50.9%
建物・教室内の障害物や物品の状態 7.3%
キャンパス内の障害物や照明等 20.0%

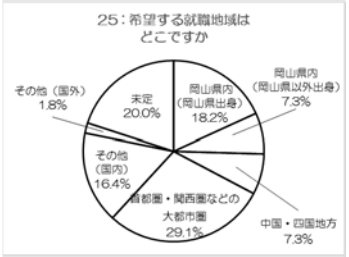

20：食堂（1F）及び喫茶（2F）の
利用頻度を教えてください
ほぼ毎日 10.9%
週に3～4日くらい 10.9%
ほとんど利用しない，もしくは利用したことがない 45.5%
月に2～3日くらい 21.8%
週に1～2日くらい 10.9%

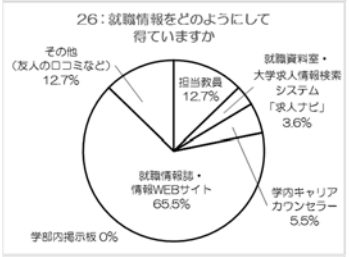

21：食堂（1F）及び喫茶（2F）を
利用しての満足度
満足度80%以上 5.5%
利用したことがない 12.7%
満足度0～20%未満 27.3%
満足度50～80%未満 30.9%
満足度20～50%未満 23.6%

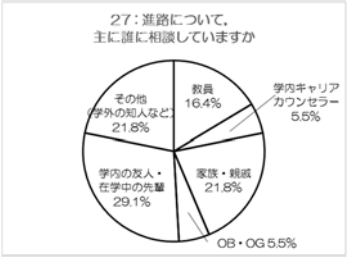

22：売店の利用頻度を
教えてください
ほとんど
利用しない、
もしくは
利用したことがない
32.7%
ほぼ毎日
12.7%
週に3～
4日くらい
30.9%
月に2～3日くらい
12.7%
週に1～2日くらい
10.9%

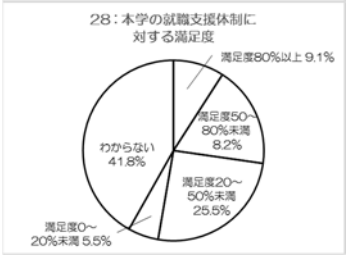

23：修了後の進路の
第1希望は何ですか
博士後期課程への進学
（他大学含む）3.6%
まだ何も
考えていない
16.4%
公務員・
教員・
研究職
10.9%
民間企業
63.6%
医療・福祉関係
（看護・介護関係）
10.9%
自営（起業を含む）0%

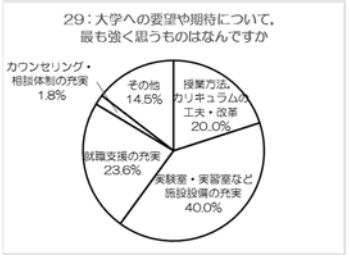

24：進路に向けた準備・活動をいつ頃から
始めますか（もしくは始めましたか）
大学3年生より前 1.8%
まだ何も
考えていない
23.6%
大学3年生の
前期～夏休み
7.3%
大学3年生の
後期 21.8%
大学4年生以降
45.5%

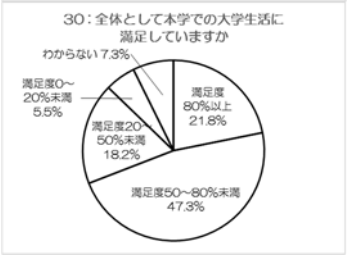

25：希望する就職地域は
どこですか
その他（国外）
1.8%
未定
20.0%
岡山県内
（岡山県出身）
18.2%
岡山県内
（岡山県以外出身）
7.3%
その他
（国内）
16.4%
首都圏・関西圏などの
大都市圏
29.1%
中国・四国地方
7.3%


26：就職情報をどのようにして
得ていますか
その他
（友人のロコミなど）
12.7%
担当教員
12.7%
就職資料室・
大学求人情報検索
システム
「求人ナビ」
3.6%
就職情報誌・
情報WEBサイト
65.5%
学内キャリア
カウンセラー
5.5%
学部内掲示板 0%

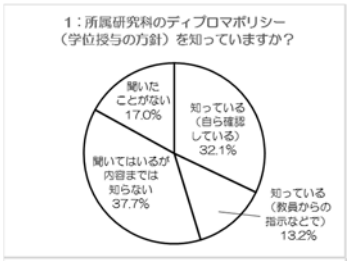

27：進路について、
主に誰に相談していますか
その他
（学外の知人など）
21.8%
教員
16.4%
学内キャリア
カウンセラー
5.5%
学内の友人・
在学中の先輩
29.1%
家族・親戚
21.8%
OB・OG 5.5%

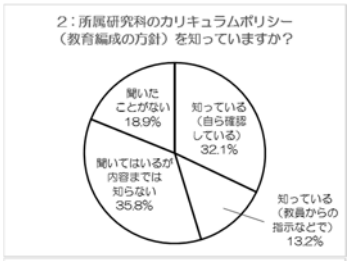

28：本学の就職支援体制に
対する満足度
満足度80%以上 9.1%
満足度50～
80%未満
8.2%
わからない
41.8%
満足度20～
50%未満
25.5%
満足度0～
20%未満 5.5%

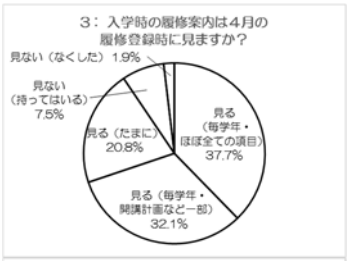

29：大学への要望や期待について、
最も強く思うものはなんですか
カウンセリング・
相談体制の充実
1.8%
その他
14.5%
授業方法、
カリキュラムの
工夫・改革
20.0%
就職支援の充実
23.6%
実験室・実習室など
施設設備の充実
40.0%

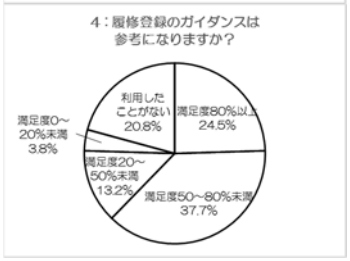

30：全体として本学での大学生活に
満足していますか
わからない 7.3%
満足度0～
20%未満
5.5%
満足度
80%以上
21.8%
満足度20～
50%未満
18.2%
満足度50～80%未満
47.3%

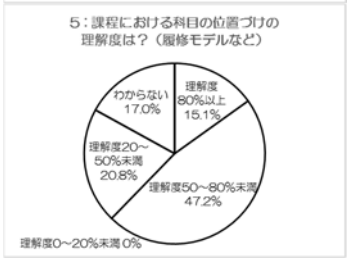
【学修：大学院生】

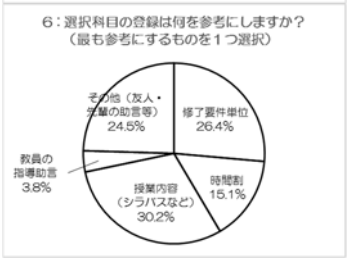

1：所属研究科のディプロマポリシー
（学位授与の方針）を知っていますか？
聞いた
ことがない
17.0%
知っている
（自ら確認
している）
32.1%
聞いてはいるが
内容までは
知らない
37.7%
知っている
（教員からの
指示などで）
13.2%

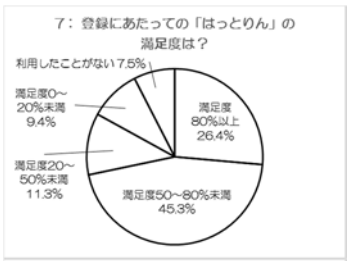

2：所属研究科のカリキュラムポリシー
（教育編成の方針）を知っていますか？
聞いた
ことがない
18.9%
知っている
（自ら確認
している）
32.1%
聞いてはいるが
内容までは
知らない
35.8%
知っている
（教員からの
指示などで）
13.2%

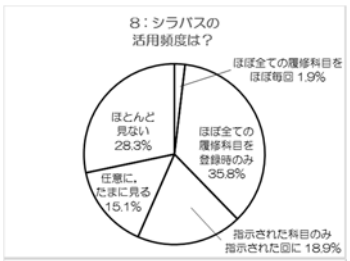

3： 入学時の履修案内は4月の
履修登録時に見ますか？
見ない（なくした）1.9%
見ない
（持ってはいる）
7.5%
見る
（毎学年・
ほぼ全ての項目）
37.7%
見る（たまに）
20.8%
見る（毎学年・
開講計画など一部）
32.1%

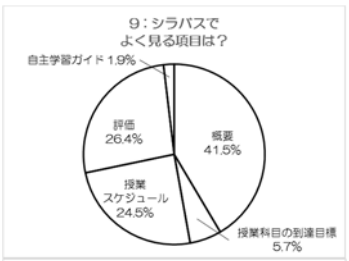

4：履修登録のガイダンスは
参考になりますか？
利用した
ことがない
20.8%
満足度80%以上
24.5%
満足度0～
20%未満
3.8%
満足度20～
50%未満
13.2%
満足度50～80%未満
37.7%

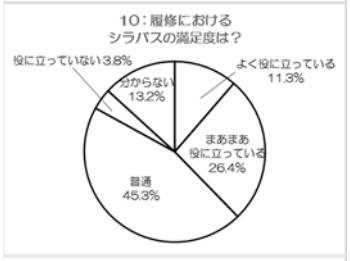

5：課程における科目の位置づけの
理解度は？（履修モデルなど）
わからない
17.0%
理解度
80%以上
15.1%
理解度20～
50%未満
20.8%
理解度50～80%未満
47.2%
理解度0～20%未満 0%

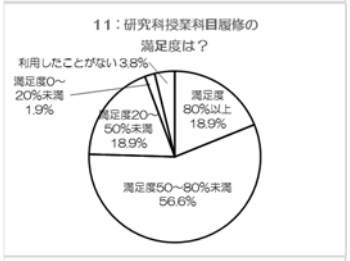

6：選択科目の登録は何を参考にしますか？
（最も参考にするものを１つ選択）
その他（友人・
先輩の助言等）
24.5%
修了要件単位
26.4%
教員の
指導助言
3.8%
時間割
15.1%
授業内容
（シラバスなど）
30.2%

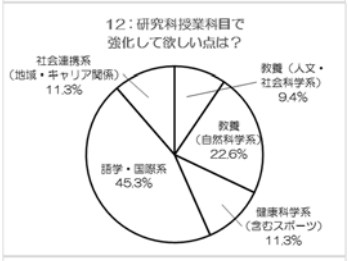

7： 登録にあたっての「はっとりん」の
満足度は？
利用したことがない7.5%
満足度0～
20%未満
9.4%
満足度
80%以上
26.4%
満足度20～
50%未満
11.3%
満足度50～80%未満
45.3%

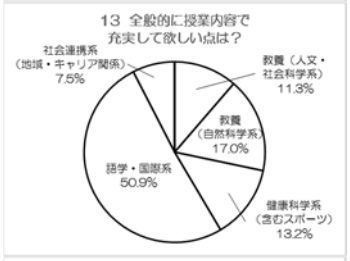

8：シラバスの
活用頻度は？
ほぼ全ての履修科目を
ほぼ毎回 1.9%
ほとんど
見ない
28.3%
ほぼ全ての
履修科目を
登録時のみ
35.8%
任意に、
たまに見る
15.1%
指示された科目のみ
指示された回に 18.9%

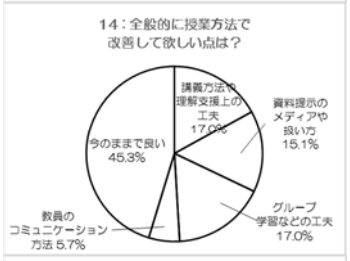

9：シラバスで
よく見る項目は？
自主学習ガイド 1.9%
評価
26.4%
概要
41.5%
授業
スケジュール
24.5%
授業科目の到達目標
5.7%

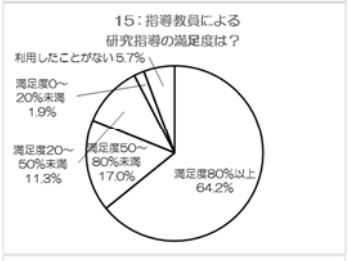

10：履修における
シラバスの満足度は？
役に立っていない3.8%
よく役に立っている
11.3%
分からない
13.2%
まあまあ
役に立っている
26.4%
普通
45.3%

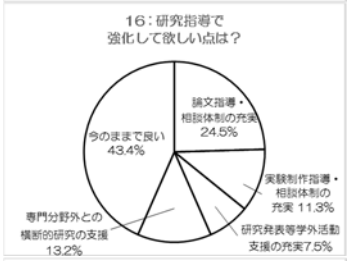

11：研究科授業科目履修の
満足度は？
利用したことがない3.8%
満足度0～
20%未満
1.9%
満足度
80%以上
18.9%
満足度20～
50%未満
18.9%
満足度50～80%未満
56.6%

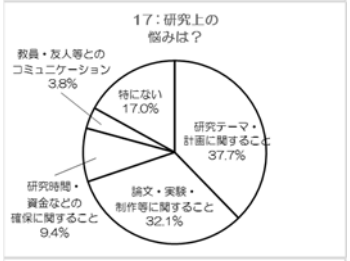

12：研究科授業科目で
強化して欲しい点は？
社会連携系
（地域・キャリア関係）
11.3%
教養（人文・
社会科学系）
9.4%
教養
（自然科学系）
22.6%
語学・国際系
45.3%
健康科学系
（含むスポーツ）
11.3%

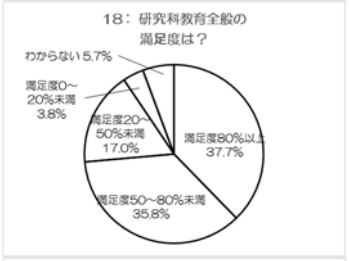

13 全般的に授業内容で
充実して欲しい点は？
社会連携系
（地域・キャリア関係）
7.5%
教養（人文・
社会科学系）
11.3%
教養
（自然科学系）
17.0%
語学・国際系
50.9%
健康科学系
（含むスポーツ）
13.2%


14：全般的に授業方法で
改善して欲しい点は？
講義方法や
理解支援上の
工夫
17.0%
資料提示の
メディアや
扱い方
15.1%
今のままで良い
45.3%
グループ
学習などの工夫
17.0%
教員の
コミュニケーション
方法 5.7%

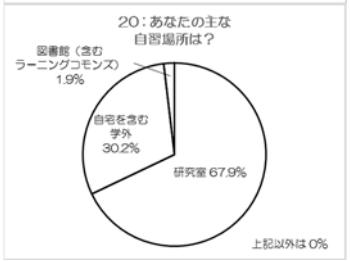

15：指導教員による
研究指導の満足度は？
利用したことがない5.7%
満足度0～
20%未満
1.9%
満足度20～
50%未満
11.3%
満足度50～
80%未満
17.0%
満足度80%以上
64.2%

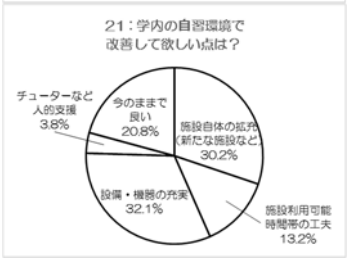

16：研究指導で
強化して欲しい点は？
論文指導・
相談体制の充実
24.5%
今のままで良い
43.4%
実験制作指導・
相談体制の
充実 11.3%
専門分野外との
横断的研究の支援
13.2%
研究発表等学外活動
支援の充実7.5%

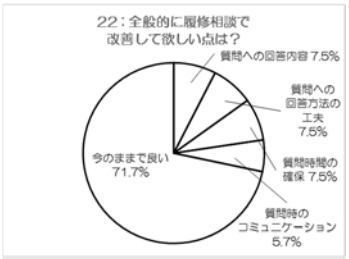

17：研究上の
悩みは？
教員・友人等との
コミュニケーション
3.8%
特にない
17.0%
研究テーマ・
計画に関すること
37.7%
研究時間・
資金などの
確保に関すること
9.4%
論文・実験・
制作等に関すること
32.1%

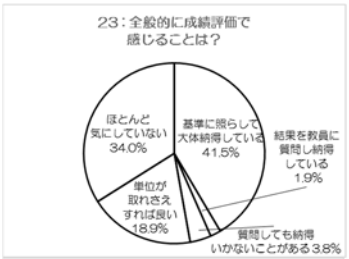

18： 研究科教育全般の
満足度は？
わからない 5.7%
満足度0～
20%未満
3.8%
満足度20～
50%未満
17.0%
満足度80%以上
37.7%
満足度50～80%未満
35.8%

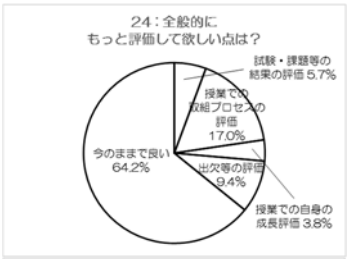
19：１週間あたり，
あなたの自習時間の合計は？
5～10時間未満
11.3%
0～5時間未満
18.9%
30～
40時間
22.6%
20～30
時間未満
18.9%
10～20時間未満
28.3%

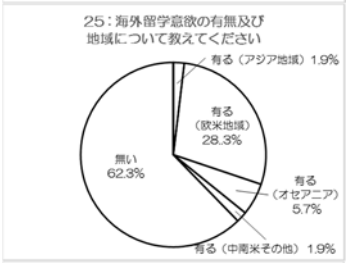

20：あなたの主な
自習場所は？
図書館（含む
ラーニングコモンズ）
1.9%
自宅を含む
学外
30.2%
研究室 67.9%
上記以外は 0%

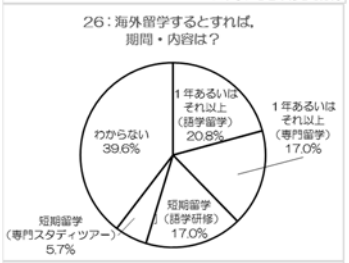

21：学内の自習環境で
改善して欲しい点は？
チューターなど
人的支援
3.8%
今のまま
良い
20.8%
施設自体の拡充
（新たな施設など）
30.2%
設備・機器の充実
32.1%
施設利用可能
時間帯の工夫
13.2%

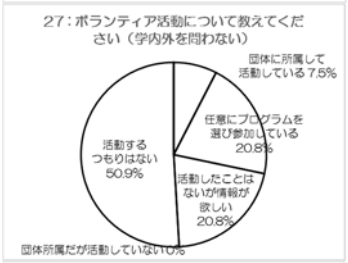

22：全般的に履修相談で
改善して欲しい点は？
質問への回答内容 7.5%
質問への
回答方法の
工夫
7.5%
質問時間の
確保 7.5%
質問時の
コミュニケーション
5.7%
今のままで良い
71.7%

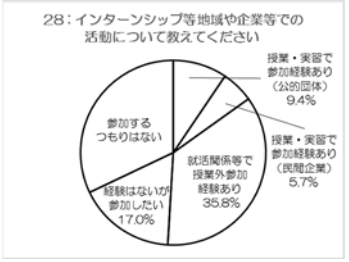

23：全般的に成績評価で
感じることは？
ほとんど
気にしていない
34.0%
基準に照らして
大体納得している
41.5%
結果を教員に
質問し納得
している
1.9%
単位が
取れさえ
すれば良い
18.9%
質問しても納得
いかないことがある 3.8%

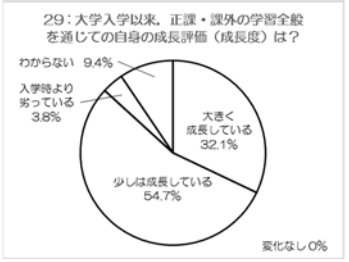

24：全般的に
もっと評価して欲しい点は？
試験・課題等の
結果の評価 5.7%
授業での
取組プロセスの
評価
17.0%
今のままで良い
64.2%
出欠等の評価
9.4%
授業での自身の
成長評価 3.8%

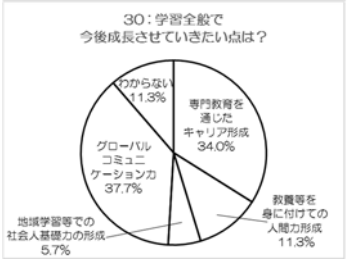

25：海外留学意欲の有無及び
地域について教えてください
有る（アジア地域）1.9%
有る
（欧米地域）
28.3%
無い
62.3%
有る
（オセアニア）
5.7%
有る（中南米その他）1.9%


26：海外留学するとすれば、
期間・内容は？
1年あるいは
それ以上
（語学留学）
20.8%
1年あるいは
それ以上
（専門留学）
17.0%
わからない
39.6%
短期留学
（語学研修）
17.0%
短期留学
（専門スタディツアー）
5.7%


27：ボランティア活動について教えてくだ
さい（学内外を問わない）
団体に所属して
活動している 7.5%
任意にプログラムを
選び参加している
20.8%
活動する
つもりはない
50.9%
活動したことは
ないが情報が
欲しい
20.8%
団体所属だが活動していない 0%


28：インターンシップ等地域や企業等での
活動について教えてください
授業・実習で
参加経験あり
（公的団体）
9.4%
参加する
つもりはない
授業・実習で
参加経験あり
（民間企業）
5.7%
就活関係等で
授業外参加
経験あり
35.8%
経験はないが
参加したい
17.0%


29：大学入学以来、正課・課外の学習全般
を通じての自身の成長評価（成長度）は？
わからない 9.4%
入学時より
劣っている
3.8%
大きく
成長している
32.1%
少しは成長している
54.7%
変化なし 0%


30：学習全般で
今後成長させていきたい点は？
わからない
11.3%
専門教育を
通じた
キャリア形成
34.0%
グローバル
コミュニ
ケーション力
37.7%
教養等を
身に付けての
人間力形成
11.3%
地域学習等での
社会人基礎力の形成
5.7%

C　全学的就職支援の実施状況

C-1　就職ガイダンスの実施状況

実施日	ガイダンスの内容	実施機関等	参加学生数
6月 7日	進路・就職ガイダンス	(株)リクルートキャリア	246
7月 5日	公務員試験ガイダンス	(株)東京リーガルマインド	34
10月 4日	就職ガイダンス	(株)マイナビ	39
10月11日	自己ＰＲ作成ワークショップ	(株)リアセック	15
10月18日	内定者・就職活動報告会	本学キャリアカウンセラー	10
10月25日	エントリーシート対策講座	(株)マイナビ	42
11月 8日	就活ゼミ～新聞の読み方・活かし方～	(株)山陽新聞社	2
11月22日	面接力ＵＰセミナー	本学キャリアカウンセラー	23
11月29日	業界研究講座	(株)リクルートキャリア	10
12月 6日	プレゼンテーション対策講座	(株)学情	7
12月13日	地元優良企業の探し方	(株)ビザビ	8
1月10日	グループディスカッション対策講座	(株)リクルートキャリア	8
1月17日	公務員試験ガイダンス	(株)ＣＲＳ 総社市，岡山県警人事担当者	14
1月24日	就活直前！総まとめ講座	本学キャリアカウンセラー	58

C-2　職業適性検査等の実施と解説

実施日	検査名	実施機関等	受検学生数
6月 7日～29日 9月21日～30日	職業適性診断	(株)リアセック	70
7月19日	職業適性診断解説講座		

C-3　各種模擬テスト等の実施

実施日	試験名	実施機関等	受験学生数
4月21日	公務員全国公開模試	(株)東京リーガルマインド	27
10月 5日	SPI＋一般常識・時事Web模擬テスト	(株)マイナビ	24
11月 1日	言語・非言語Webテスト受検会	(株)リクルートキャリア	4
11月15日	SPI模擬試験＋解説会	(株)ジェイブロード	13
12月20日	玉手箱受検会	(株)ディスコ	3

C-4　就職活動バス（合同企業説明会へのバス）の運行

運行日	合同企業説明会参加場所	主催者	参加学生数
平成31年3月5日	大阪（インテックス大阪）	(株)マイナビ	30

C-5　就職相談員による就職相談

相談日	相談時間	内容等
毎週 月曜日 火曜日 金曜日	10:30～15:30	キャリアカウンセラーによる各種相談を実施 ◇相談内容等 ・就職活動の進め方 ・履歴書・エントリーシート等書類に関する相談 ・面接対策　など ◇H30年度相談件数 ・１，４６８件

C-6　県大吉備塾に関する学生アンケート結果

質問1. 今回の「県大吉備塾」はいかがでしたか（有効回答）

	5 点 （満足）	4 点	3 点	2 点	1 点 （物足りない）	合計
第 20 回	10	12	2	0	0	24
	(41.7%)	(50.0%)	(8.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 21 回	7	5	2	0	0	14
	(50.0%)	(35.7%)	(14.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 22 回	15	12	1	0	0	28
	(53.6%)	(42.9%)	(3.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 23 回	7	14	1	0	0	22
	(31.8%)	(63.6%)	(4.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 24 回	58	58	9	0	0	125
	(46.4%)	(46.4%)	(7.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 25 回	15	5	1	0	0	21
	(71.4%)	(23.8%)	(4.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 26 回	19	10	6	2	0	37
	(51.4%)	(27.0%)	(16.2%)	(5.4%)	(0.0%)	(100.0%)

質問2. 今回の「県大吉備塾」は今後の大学生活を過ごす上で役立つと思いますか（有効回答）

	5 点 （満足）	4 点	3 点	2 点	1 点 （物足りない）	合計
第 20 回	7	15	2	0	0	24
	(29.2%)	(62.5%)	(8.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 21 回	4	10	0	0	0	14
	(28.6%)	(71.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 22 回	12	15	1	0	0	28
	(42.9%)	(53.6%)	(3.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 23 回	6	17	0	0	0	23
	(26.1%)	(73.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 24 回	34	70	19	0	1	124
	(27.4%)	(56.5%)	(15.3%)	(0.0%)	(0.8%)	(100.0%)
第 25 回	12	8	1	0	0	21
	(57.1%)	(38.1%)	(4.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 26 回	16	10	10	1	1	38
	(42.1%)	(26.3%)	(26.3%)	(2.6%)	(2.6%)	(100.0%)

質問3. 今回の「県大吉備塾」は今後の就職活動に役立つと思いますか（有効回答）

	5 点 （満足）	4 点	3 点	2 点	1 点 （物足りない）	合計
第 20 回	6	14	4	0	0	24
	(25.0%)	(58.3%)	(16.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 21 回	6	8	0	0	0	14
	(42.9%)	(57.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 22 回	11	16	1	0	0	28
	(39.3%)	(57.1%)	(3.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 23 回	7	16	0	0	0	23
	(30.4%)	(69.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 24 回	30	69	22	0	2	123
	(24.4%)	(56.1%)	(17.9%)	(0.0%)	(1.6%)	(100.0%)
第 25 回	13	7	1	0	0	21
	(61.9%)	(33.3%)	(4.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
第 26 回	11	14	11	1	1	38
	(28.9%)	(36.8%)	(28.9%)	(2.6%)	(2.6%)	(100.0%)

C-7　卒業生アンケート：学部卒業生の回答結果（118名）

人数（%）

設　問　　回　答	①	②	③	④	⑤	⑥
問１　性別	57 (48.3)	61 (51.7)				
問２　卒業年度（※1）	4 (3.4)	24 (20.3)	90 (76.3)			
問３　卒業した学部学科（※2）	41 (34.7)	58 (49.2)	19 (16.1)			
問４　卒業直後の進路	99 (83.9)	16 (13.6)	2 (1.7)	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)
問５　全学教育（一般教養）が充実していた	2 (1.7)	18 (15.3)	51 (43.2)	38 (32.2)	9 (7.6)	
問６　専門教育が充実していた	6 (5.1)	12 (10.2)	25 (21.2)	48 (40.7)	27 (22.9)	
問７　外国語学習のサポートが充実していた	18 (15.3)	28 (23.7)	50 (42.4)	19 (16.1)	3 (2.5)	
問８　演習・実習・実験など実践的な教育が充実していた	9 (7.6)	10 (8.5)	22 (18.6)	53 (44.9)	24 (20.3)	
問９　少人数による指導が受けられた	12 (10.2)	13 (11.0)	31 (26.3)	37 (31.4)	25 (21.2)	
問１０ 教員との交流が多かった	13 (11.0)	21 (17.8)	27 (22.9)	37 (31.4)	20 (16.9)	
問１１ 学習意欲が湧く授業が多かった	10 (8.5)	25 (21.2)	41 (34.7)	36 (30.5)	6 (5.1)	
問１２ 学習面での施設・設備が充実していた	11 (9.3)	16 (13.6)	26 (22.0)	47 (39.8)	18 (15.3)	
問１３ 地域社会との交流やクラブ･サークル活動などの課外交流活動が盛んだった	15 (12.7)	24 (20.3)	38 (32.2)	31 (26.3)	10 (8.5)	
問１４ 学生生活や就職活動などの支援体制が充実していた	18 (15.3)	27 (22.9)	48 (40.7)	19 (16.1)	6 (5.1)	
問１５ 豊かな人間性（感性や人間性の豊かさ）が身についた	5 (4.2)	16 (13.6)	38 (32.2)	41 (34.7)	18 (15.3)	
問１６ 主体性（物事に意欲をもって進んで取り組む力）が身についた	9 (7.6)	19 (16.1)	33 (28.0)	48 (40.7)	9 (7.6)	
問１７ チームワーク（相手の意見や立場の違いを尊重・理解し，調和を図る力）が身についた	8 (6.8)	9 (7.6)	34 (28.8)	44 (37.3)	23 (19.5)	
問１８ リーダーシップ（他者に方向性を示し，目標の実現のために人をまとめる力）が身についた	14 (11.9)	23 (19.5)	49 (41.5)	29 (24.6)	3 (2.5)	
問１９ 専門分野における知識や技術が身についた	1 (0.8)	12 (10.2)	14 (11.9)	68 (57.6)	23 (19.5)	
問２０ 専門知識や技術を実務に活かす力が身についた	6 (5.1)	15 (12.7)	29 (24.6)	53 (44.9)	15 (12.7)	
問２１ 論理的思考力が身についた	6 (5.1)	15 (12.7)	38 (32.2)	50 (42.4)	9 (7.6)	
問２２ 問題解決力（問題を発見し解決する力）が身についた	7 (5.9)	14 (11.9)	39 (33.1)	45 (38.1)	13 (11.0)	
問２３ 創造力（常識にとらわれず，新しいアイデアや発想を生み出す力）が身についた	10 (8.5)	17 (14.4)	51 (43.2)	30 (25.4)	10 (8.5)	
問２４ 実行力（目的を設定し，確実にやりとげる力）が身についた	5 (4.2)	14 (11.9)	34 (28.8)	50 (42.4)	15 (12.7)	
問２５ 計画力（目標達成に必要なプロセスを明らかにし，計画する力）が身についた	9 (7.6)	22 (18.6)	40 (33.9)	37 (31.4)	10 (8.5)	
問２６ 発信力（自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝える力）が身についた	10 (8.5)	19 (16.1)	41 (34.7)	39 (33.1)	9 (7.6)	
問２７ 情報リテラシー（情報機器を活用した情報収集力と分析力）が身についた	8 (6.8)	22 (18.6)	42 (35.6)	37 (31.4)	9 (7.6)	
問２８ コミュニケーションスキル（語学など国際化への対応能力）が身についた	25 (21.2)	35 (39.7)	30 (25.4)	23 (19.5)	5 (4.2)	
問２９ 異文化理解（多様な文化を理解し，グローバルな視点から多面的にものごとを考える力）が身についた	30 (25.4)	38 (32.2)	30 (25.4)	17 (14.4)	3 (2.5)	
問３０ 社会的責任（社会のために行動し，貢献しようとする姿勢）が身についた	15 (12.7)	22 (18.6)	38 (32.2)	33 (28.0)	10 (8.5)	
問３１ 規律性（社会の規範やルールに従って行動する力）が身についた	8 (6.8)	10 (8.5)	45 (38.1)	43 (36.4)	12 (10.2)	
問３２ 岡山県立大学の教育内容に，全体として満足している	3 (2.5)	12 (10.2)	26 (22.0)	60 (50.8)	17 (14.4)	
問３３ 岡山県立大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている	5 (4.2)	13 (11.0)	19 (16.1)	58 (49.2)	23 (19.5)	
問３４ 卒業生として岡山県立大学に期待することや要望等についてご自由にご記入ください（※一部割愛の上，抜粋）	・教育内容や教育環境の改善（就職後に活かせる技術や実習の充実，国試対策，学習環境（PC）の整備，自主性を活かせる教育の充実など） ・資格取得，地域活動，他学部他学科との交流機会の確保，食堂等の充実など					

※回答選択肢 問１：①男性　②女性

問２：①平成9年度以前　②平成10年度～平成19年度　③平成20年度～平成29年度

※１…平成8年度～平成29年度までを選択形式で尋ねているが，3つの時期にまとめて集計している．

問３：①保健福祉学部（看護・栄養・保健福祉）　②情報工学部（情報通信・情報システム・スポーツシステム）

③デザイン学部（ビジュアルデザイン・工芸工業デザイン・デザイン工学・造形デザイン）

※２…卒業学科を選択する形式で尋ねているが，学部ごとにまとめて集計している．

問４：①就職（学んだ専門性と関連する団体・組織）　②就職（学んだ専門性と関連しない団体・組織）　③進学・留学（大学院・編入）

④進学・留学（再入学・専攻の変更）　⑤パート・アルバイト　⑥その他

問５～問３３：①そう思わない　②どちらかといえばそう思わない　③どちらともいえない　④どちらかといえばそう思う　⑤そう思う

C-8　修了生アンケート：大学院修了生の回答結果（35名）

人数（%）

設　問　　回　答	①	②	③	④	⑤	⑥
問１　性別	28 (80.0)	7 (20.0)				
問２　修了年度（※1）	8 (22.9)	27 (77.1)				
問３　修了した研究科	3 (8.6)	27 (77.1)	3 (8.6)	0 (0.0)	2 (5.7)	
問４　修了後の進路（※2）	1 (2.9)	0 (0.0)	26 (74.3)	6 (17.1)	2 (5.7)	0 (0.0)
問５　授業内容は充実していた	1 (2.9)	4 (11.4)	7 (20.0)	18 (51.4)	5 (14.3)	
問６　研究指導は充実していた	1 (2.9)	1 (2.9)	7 (20.0)	10 (28.6)	16 (45.7)	
問７　研究の施設や設備・装置は充実していた	3 (8.6)	2 (5.7)	6 (17.1)	14 (40.0)	10 (28.6)	
問８ 専門分野における知識や技術が身についた	0 (0.0)	3 (8.6)	4 (11.4)	22 (62.9)	6 (17.1)	
問９ 専門知識や技術を実務に活かす力が身についた	2 (5.7)	3 (8.6)	13 (37.1)	17 (48.6)	0 (0.0)	
問１０ 論理的思考力が身についた	2 (5.7)	2 (5.7)	6 (17.1)	15 (42.9)	10 (28.6)	
問１１ 問題解決力（問題を発見し解決する力）が身についた	2 (5.7)	4 (11.4)	6 (17.1)	17 (48.6)	6 (17.1)	
問１２ 創造力（常識にとらわれず，新しいアイデアや発想を生み出す力）が身についた	1 (2.9)	7 (20.0)	11 (31.4)	11 (31.4)	5 (14.3)	
問１３ 実行力（目的を設定し，確実にやりとげる力）が身についた	0 (0.0)	2 (5.7)	11 (31.4)	15 (42.9)	7 (20.0)	
問１４ 計画力（目標達成に必要なプロセスを明らかにし，計画する力）が身についた	1 (2.9)	4 (11.4)	18 (51.4)	9 (25.7)	3 (8.6)	
問１５ 発信力(自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝える力)が身についた	1 (2.9)	5 (14.3)	9 (25.7)	12 (34.3)	8 (22.9)	
問１６ 情報リテラシー(情報機器を活用した情報収集力と分析力)が身についた	2 (5.7)	5 (14.3)	11 (31.4)	13 (37.1)	4 (11.4)	
問１７ コミュニケーションスキル(語学など国際化への対応能力)が身についた	9 (25.7)	7 (20.0)	14 (40.0)	4 (11.4)	1 (2.9)	
問１８ 異文化理解（多様な文化を理解し，グローバルな視点から多面的にものごとを考える力）が身についた	10 (28.6)	9 (25.7)	11 (31.4)	4 (11.4)	1 (2.9)	
問１９ 専門分野における知識や技術	2 (5.7)	2 (5.7)	12 (34.3)	14 (40.0)	5 (14.3)	
問２０ 専門知識や技術を実務に活かす力	2 (5.7)	2 (5.7)	13 (37.1)	13 (37.1)	5 (14.3)	
問２１ 論理的思考力	2 (5.7)	3 (8.6)	10 (28.6)	14 (40.0)	6 (17.1)	
問２２ 問題解決力（問題を発見し解決する力）	1 (2.8)	3 (8.6)	8 (22.9)	15 (42.9)	8 (22.9)	
問２３ 創造力（常識にとらわれず，新しいアイデアや発想を生み出す力）	0 (0.0)	5 (14.3)	15 (42.9)	9 (25.7)	5 (17.1)	
問２４ 実行力（目的を設定し，確実にやりとげる力）	0 (0.0)	2 (5.7)	10 (28.6)	16 (45.7)	7 (20.0)	
問２５ 計画力（目標達成に必要なプロセスを明らかにし，計画する力）	1 (2.9)	3 (8.6)	18 (51.4)	10 (28.6)	3 (8.6)	
問２６ 発信力(自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝える力)	0 (0.0)	5 (14.3)	9 (25.7)	15 (42.9)	6 (17.1)	
問２７ 情報リテラシー(情報機器を活用した情報収集力と分析力)	2 (5.7)	6 (17.1)	10 (28.6)	12 (34.3)	5 (14.3)	
問２８ コミュニケーションスキル(語学など国際化への対応能力)	10 (28.6)	6 (17.1)	11 (31.4)	8 (22.9)	0 (0.0)	
問２９ 異文化理解（多様な文化を理解し，グローバルな視点から多面的にものごとを考える力)	11 (31.4)	4 (11.4)	15 (42.9)	4 (11.4)	1 (2.9)	
問３０ 修了生として岡山県立大学大学院に期待することや要望等について，ご自由にご記入ください（※一部割愛の上，抜粋)	・実際の仕事（社会）がイメージできるような取り組み ・英語力の強化につながる教育 ・インターンシップや企業との共同研究の充実 ・卒業生（修了生）があつまって交流できる機会 ・自発性や向上心などの人間力の育成に対する期待 ・より高い能力を身に付けた学生の輩出など					

※回答選択肢 問１：①男性　②女性

問２：①平成10年度～平成19年度　②平成20年度～平成29年度

※１…平成10年度～平成29年度までを選択形式で尋ねているが，2つの時期にまとめて集計している．

問３：①保健福祉学研究科（博士前期・修士）　②情報工学研究科（博士前期・修士）　③デザイン学研究科　④保健福祉学研究科（博士後期）　⑤情報工学研究科（博士後期）

問４：①進学（同じ研究科の博士後期課程へ進学）　②進学・留学（他研究科・他大学大学院等）　③就職（学んだ専門性と関連する団体・組織）　④就職（学んだ専門性と関連しない団体・組織）　⑤社会人大学院生等（在学中と同じ勤務先）　⑥社会人大学院生等（転職・再就職）

※２…上記６つの選択肢のほか，「⑦就職活動中」および「⑧就職は希望していない」の２つの選択肢があったが，いずれも回答者はいなかったため，集計から除外している．

問５～問２９：①そう思わない　②どちらかといえばそう思わない　③どちらともいえない　④どちらかといえばそう思う　⑤そう思う

C-9　就職先アンケート：就職先の回答結果（73件）

(%)

設　問　　回　答	①	②	③	④	⑤
問１　社会人としての総合力の高さを有している	0	2.7	17.8	50.7	28.8
問２　深い専門学力を有している	1.4	4.1	26	49.3	19.2
問３　幅広い基礎的学力を有している	0	2.7	23.3	53.4	20.5
問４　語学力，異文化への適応力などのグローバルな対応力を有している	6.8	12.3	56.2	21.9	2.7
問５　幅広い教養を有している	0	5.5	38.4	46.6	9.6
問６　自立性・自主性・向上心を有している	0	2.7	20.5	52.1	24.7
問７　積極性・行動力・実践力（前に踏み出す力を有している	0	5.5	23.3	50.7	20.5
問８　誠実さ・責任感・忍耐力・堅実性を有している	0	0	12.3	50.7	37
問９ 周囲との協調性（チームで働く力）を有している	0	1.4	16.4	46.6	35.6
問１０ 優れたコミュニケーション能力を有している	0	2.7	20.5	54.8	21.9
問１１県大に期待すること第一位	11	11	50.7	27.4	
問１２ 県大に期待すること第二位	12.3	17.8	31.5	38.4	
問１３ 県大に期待すること第三位	46.6	20.5	11	21.9	
問１４ 県大に期待すること第四位	30.1	50.7	6.8	12.3	
問１５ 県大の人材育成に重視する項目第一位	63	15.1	17.8	4.1	0
問１６ 県大の人材育成に重視する項目第二位	24.7	31.5	11	26	6.8
問１７ 県大の人材育成に重視する項目第三位	8.2	24.7	23.3	21.9	21.9
問１８ 県大の人材育成に重視する項目第四位	1.4	17.8	37	27.4	16.4
問１９ 県大の人材育成に重視する項目第五位	2.7	11	11	20.5	54.8
問２０ 人材育成に向けた県大との連携で重視すること第一位	52.1	28.8	19.2		
問２１ 人材育成に向けた県大との連携で重視すること第二位	34.2	38.4	27.4		
問２２ 人材育成に向けた県大との連携で重視すること第三位	13.7	32.9	53.4		
問２３ 県大生採用の際，OB・OG の業務実績を重視している	17.8	13.7	32.9	21.9	13.7
問２４ 県大生採用の際，OB・OG の定着率を重視している	20.5	12.3	31.5	24.7	11
問２５ 県大生採用の際，地域への理解度の高さを重視している	13.7	13.7	27.4	15.1	9.6
問２６ 県大生は他の都道府県の大学出身者と比べてどうか	1.4	2.7	42.5	17.8	13.7
問２７ 県大生は県内の大学出身者と比べてどうか	1.4	6.8	30.1	19.2	20.5
問２８ 他の都道府県にいる県大 OB・OG の U ターンに期待する	4.1	0	16.4	30.1	27.4
問２９ 今後県大生採用に向けて，大学との情報交換が必要である	0	0	15.1	21.9	41.1

＊回答選択肢

問１～10：①そう思わない　②どちらかというとそう思わない　③どちらとも言えない　④どりらかというとそう思う　⑤そう思う

問 11～14：県大に期待すること：①基礎学力・教養を有する人材の育成　②高い専門性・能力を有する人材の育成

③優れたコミュニケーション能力を有する人材の育成　④豊かな人間性に溢れた人材の育成

問 15～19：県大に期待する人材育成：①教養と強い精神力を兼ね備えた人材　②高度な専門知識を有し即戦力となる人材

③地域社会に貢献できる人材　④多様な社会活動経験を有する人材　⑤グローバルな人材

問 20～22：人材育成に向けた県大との連携で重視すること

①教養と強い精神力を兼ね備えた人材　②高度な専門知識を有し即戦力となる人材③地域社会に貢献できる人材

問 23～25：①重視していない　②どちらかというと重視していない　③どちらとも言えない　④どちらかというと重視している　⑤重視している

問 26～27：①劣る　②少し劣る　③差異はない　④少し優れている　⑤優れている

問 28：①期待していない　②どちらかというと期待していない　③どちらとも言えない　④どちらかというと期待している　⑤期待している

問 29：①必要ない　②どちらかというと必要ない　③どちらとも言えない　④どちらかというと必要　⑤必要

D　国際交流

【語学文化研修】

・語学文化研修（英語：英国）の実績概要

①期　　間：平成 30 年 8 月 29 日（水）～9 月 21 日（金）

②研修内容：バンガー大学（英国ウェールズ北部）における英語力向上と英国文化体験など

③参加学生：5 名

④費　　用：約 350,000 円　※学生負担額

上記の費用には往復航空運賃，授業料及びホームステイ費などが含まれている．

・語学文化研修（韓国語：韓国）の実績概要

①期　　間：平成 30 年 8 月 27 日（月）～9 月 14 日（金）

②研修内容：梨花女子大学（韓国ソウル市）にて韓国語力向上と梨花女子大学学生との交流，韓国伝統文化体験など

③参加学生：2 名

④費　　用：約 120,000 円　※学生負担額

上記の費用には往復航空運賃，授業料及び宿泊費などが含まれている．

・語学文化研修（中国語：台湾）の計画概要

①期　　間：平成 30 年 8 月 18 日（土）～8 月 26 日（日）

②研修内容：淡江大学（台湾台北市）にて中国語力向上と文化体験など

③募集人数：10 名程度（最少催行人数なし，応募人数 0 名）

④費　　用：約 70,000 円　※学生負担想定額

上記の費用には往復航空運賃，授業料，宿泊費及び施設見学費などが含まれている．

・語学文化研修（英語：豪州）の計画概要

①期　　間：平成 31 年 2 月 23 日（土）～3 月 17 日（日）

②研修内容：アデレイド大学（南オーストラリア州アデレイド市）における英語力向上と文化体験など

③募集学生：15 名（最少催行人数 8 名，応募人数 1 名）

④費　　用：約 380,000 円　※学生負担想定額

上記の費用には往復航空運賃，授業料及びホームステイ費などが含まれている．

【海外研修（保健福祉学）】

・海外研修（保健福祉学）［香港］の実施概要

①期　　間：平成 30 年 9 月 13 日（木）～9 月 22 日（土）

②研修内容：香港理工大学（中華人民共和国香港特別行政区）における専門分野の研修，学生との交流及び文化体験など

③参加学生：8 名

④費　　用：約 30,000 円　※学生負担額

上記の費用には往復航空運賃，授業料及び宿泊費などが含まれている．

・海外研修（保健福祉学）［韓国Ⅰ］の実施概要

①期　　間：平成 30 年 8 月 20 日（月）～8 月 24 日（金）

②研修内容：又松大学校（韓国大田広域市）における専門分野（調理）の研修，学生との交流及び文化体験など

③参加学生：13 名

④費　　用：約 40,000 円　※学生負担額

上記の費用には往復航空運賃，授業料，交通費及び宿泊費などが含まれている．

・海外研修（保健福祉学）［韓国Ⅱ］の実施概要
①期　　間：平成 30 年 9 月 11 日（火）～9 月 15 日（土）
②研修内容：又松大学校（韓国大田広域市）における専門分野（福祉）の研修，学生との交流及び文化体験など
③参加学生：9 名
④費　　用：約 30,000 円　※学生負担額
上記の費用には往復航空運賃，授業料，交通費及び宿泊費などが含まれている．

・海外研修（保健福祉学）［豪州］の計画概要
①期　　間：平成 30 年 8 月 31 日（金）～9 月 10 日（月）
②研修内容：TAFE　SA（南オーストラリア州アデレイド市）における英語による専門分野の研修及び現地小学校・高校を訪問しての文化交流など
③募集学生：15 名（最少催行人数 8 名，応募人数 2 名）
④費　　用：約 250,000 円　※学生負担想定額
上記の費用には往復航空運賃，授業料，ホームステイ費及び国内宿泊費などが含まれている．

【スタディツアー】
・米国スタディツアーの実績概要
①期　　間：平成 30 年 8 月 16 日（木）～9 月 11 日（火）
②研修内容：ポートランド州立大学（米国オレゴン州）における英語力向上及び文化体験など
③参加学生：1 名
④費　　用：約 440,000 円　※学生負担額
上記の費用には往復航空運賃，授業料及びホームステイ費などが含まれている．

・香港・台湾スタディツアーの実績概要
①期　　間：平成 31 年 3 月 9 日（土）～3 月 17 日（日）
②研修内容：中華人民共和国香港特別行政区及び台湾における企業視察，文化体験，ホームステイ，現地の学生（香港理工大学，香港城市大学，雲林科技大学，淡江大学）との交流及び授業参観など
③参加学生：6 名
④費　　用：約 60,000 円　※学生負担額
上記の費用には往復航空運賃，宿泊費及びホームステイ費などが含まれている．

【日本語・日本文化研修】
①期　　間：平成 30 年 7 月 18 日（水）～7 月 26 日（木）（9 日間）
②研修内容：主として本学と国際交流協定を締結している海外の大学の学生を対象に，日本語講座の開講，本学学生や地域住民との交流，岡山県内の産業・史跡・文化財見学などを行い，研修を通じて学生の日本語能力の向上や相互理解を深めるもの
③参加人員：11 名
④実施結果：本年度は，台湾雲林科技大学から 8 名（男性 4 名，女性 4 名），中国河南科技大学から 3 名（女性 3 名）の学生を受け入れた．本年度の研修は，次のプログラムにより実施しており，昨年に引き続きホームステイを企画して地域住民との交流の充実を図った．

月日(曜日)	10:00～10:50	11:00～11:50	13:00～13:50	14:00～14:50	15:00～15:50	16 時以降
7 月 18 日(水)	開講式	日本語講座	日本語講座	日本語講座	日本語講座	
7 月 19 日(木)	日本語講座	日本語講座	本学学生との交流		自由行動	
7 月 20 日(金)	自由行動					歓迎ﾊﾟｰﾃｨｰ
7 月 21 日(土)	ホームステイ					
7 月 22 日(日)	ホームステイ					
7 月 23 日(月)	日本語講座	日本語講座	日本語講座	日本語講座	日本語講座	
7 月 24 日(火)	岡山県南視察(美観地区，瀬戸大橋(与島 SA)，岡山後楽園)					
7 月 25 日(水)	日本語講座	日本語講座	日本語講座	日本語講座	日本語講座	
7 月 26 日(木)	日本語講座	日本語講座	日本語講座	日本語講座	修了式	

E　高大連携協定等に基づく授業に係る高等学校への講師派遣及び生徒の受入

E-1　講師派遣

高校名	実施場所	担当学部	教員名		講義内容等	受講人数	学年	実施日
岡山南高等学校	岡山南高校	保健福祉	教授	高戸 仁郎	「介護予防について」講義・実技指導	16	3	H30.5.7
倉敷鷲羽高等学校	倉敷鷲羽高校	保健福祉	教授	井村 圭壮	福祉・保育・看護・栄養系に進む高校生に伝えたいこと	10	3	H30.7.2
井原高等学校	井原高校	保健福祉	教授	井村 圭壮	進路を決める指針～保健福祉・医療系の仕事～	13	1-3	H30.8.2
邑久高等学校	邑久高校	保健福祉	教授	井村 圭壮	社会福祉系学部で学べること，社会福祉士，看護師の仕事内容等について	13	2,3	H30.8.21
倉敷南高等学校	倉敷南高校	保健福祉	教授	田中 晃一	「キャリアⅠ」学問の哲人講座：食品と微生物	11	2	H30.10.4
		保健福祉	准教授	岡崎 愉加	「キャリアⅠ」学問の哲人講座：家族看護学～家族を理解するための理論～	15	2	
		デザイン	准教授	南川 茂樹	「キャリアⅠ」学問の哲人講座：造形デザイン学科で学べること	11	2	
岡山商科大学附属高等学校	岡山商科大学附属高校	保健福祉	教授	井村 圭壮	大学の学問について大学進学に当あたり，高校生活で必要なこと	20	1	H30.10.17
岡山南高等学校	岡山南高校	保健福祉	教授	高戸 仁郎	「高齢者の健康」について	79	2	H30.10.23
高梁高等学校	高梁高校	保健福祉	教授	井村　圭壮	医療・福祉系を目指す生徒を対象にしたキャリア教育講演会	20	2,3	H30.10.26

E-2　生徒の受入

高校名	実施場所	担当学部	教員名		講義内容等	受講人数	学年	実施日
総社南高等学校	岡山県立大学	情報工学	教授	尾崎 公一	PCを用いたアナログ信号のディジタル化	85	2	H30.9.19
			教授	佐藤 洋一郎	変圧器の特性実験			
			准教授	徳永 義孝	ヤング率の測定実験			
			准教授	井上 貴浩	骨格筋収縮時の筋電信号			
			准教授	齋藤 誠二	ニューラルネットワークを用いた機械学習の初歩			
			助教	高林 健人				
			助教	天嵜 聡介	筋電義手で物体把持			
			助教	大山 剛史				
総社高等学校	岡山県立大学	デザイン	教授	山下 明美	色彩※	10	2	H30.10.16, 10.23
			准教授	朴　貞淑	住環境※			H30.9.25, 10.2
			准教授	益岡　了	ユニバーサルデザイン等※			H30.11.13, 11.20
岡山南高等学校	岡山県立美術館	デザイン	教授	難波 久美子	染織ワークショップ	40	2	H30.11.18
			准教授	島田 清徳				
			准教授	真世土 マウ				
			講師	作元 朋子				
			助教	岡本 汐加				
岡山工業高等学校	山陽新聞社さん太ギャラリー	デザイン	教授	難波 久美子	布陶展ワークショップ	80	1,2	H31.2.7
			准教授	島田 清徳				
			准教授	真世土 マウ				
			講師	作元 朋子				
			助教	岡本 汐加				
清心女子高等学校	岡山県立大学	保健福祉	教授	伊東 秀之	総合的な学習・物質科学課題研究※	5	2	H31.2.12

※ 講義内容等の※印は連携講座（高校が単位認定を行うことができるもの.）

F　高等学校への講師派遣及び生徒の受入（授業以外）

F-1　講師派遣（校内ガイダンス）

月　日	高等学校名	受講者		内　　容
		学年	人数	
4月25日	岡山県立井原高校	2,3	28	看護学科の説明
6月12日	創志学園高校	1	7	栄養学科の説明
6月12日	岡山県立倉敷中央高校	3	22	大学全体の説明
6月21日	岡山県立一宮高校	1	30	保健福祉学科の説明
6月22日	岡山県立玉島高校	1	22	デザイン学部の説明
6月27日	岡山県立総社南高校	1	50	情報工学部、デザイン学部の説明
7月26日	岡山県立西大寺高校	2	38	大学全体の説明
9月27日	岡山県立勝山高校	1,2	36	保健福祉学科の説明
10月2日	岡山県立倉敷中央高校	2	20	看護学科の説明
10月3日	岡山県立岡山東商業高校	2	11	デザイン学部の説明
10月10日	岡山県立倉敷鷲羽高校	1	21	看護学科の説明
10月20日	岡山市立岡山後楽館高校	1	15	大学全体の説明
10月25日	岡山県立総社南高校	2	7	デザイン学部の説明
10月26日	就実高校	1,2	47	情報工学部の説明
11月9日	県立倉敷商業高校	2	13	デザイン学部の説明
12月12日	県立津山東商業高校	1	10	デザイン学部の説明
12月13日	県立備前緑陽高校	2	30	情報工学部、デザイン学部の説明

F-2　生徒の受入

月　日	高等学校名	訪問者		内　　容
		学年	人数	
4月21日	兵庫県立浜坂高校	2	43	事務局でDVD鑑賞後各学部に分かれて施設見学・説明
5月30日	岡山県立倉敷鷲羽高校	2	30	事務局でDVD鑑賞後各学部に分かれて施設見学・説明
10月30日	岡山県立西大寺高校	2	37	事務局で資料配付・大学概要説明後、保健福祉学部概要説明・施設見学
※ 訪問者数には引率教員等を含む。				

G　学生・学生団体等の受賞

G-1　学生の受賞

所属		年次	氏名	内容
保健福祉学部	保健福祉学科	4 年	清水 夕希菜	総社市奨励賞
保健福祉学研究科	看護学専攻（博士前期）	1 年	佐藤 鈴菜	第 59 回日本母性衛生学会学術集会（口頭発表） コメディカル愛育賞
	保健福祉科学専攻（博士後期）	2 年	戸田 圭祐	Global Challenges in Food, Nutrition & Environment Symposium 2018 First Runner-up Prize for Outstanding Presentation （学生優秀プレゼンテーション賞）
			馬 芸	Bioactive Okayama 2018 Best Student Presentation Award
			戸田 圭祐	
			長﨑 祐樹	
情報工学部	情報通信工学科	4 年	西川 凛	日本経営工学会 中国四国支部 第 45 回 学生論文発表会 優秀研究発表賞
	情報システム工学科	4 年	久富 彩音	総社市奨励賞
			村田 弘	第 13 回コンピュータ大貧民大会 ライト級 優勝
情報系工学研究科	システム工学専攻（博士前期）	1 年	窪田 正勝	情報処理学会第 81 回全国大会　学生奨励賞
			福永 敦	第 17 回情報科学技術フォーラム（FIT2018）FIT 奨励賞
			土屋 大輝	応用物理学会 中国四国支部 2018 年度 支部学術講演会 発表奨励賞
			石川 遼太	第 20 回 IEEE 広島支部 学生シンポジウム（HISS2018） マイクロンアワード（プレゼンテーション賞）
			山下 直也	第 20 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 優秀研究賞
			上田 満	第 20 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 優秀研究賞
			桂木 章吾	第 20 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 優秀研究賞
			窪田 正勝	第 20 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 貢献賞
			國田 栞	第 20 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 功労賞
			河田 尚孝	第 20 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 功労賞

情報系工学研究科	システム工学専攻（博士前期）	1年	石坂 諒任	第20回IEEE広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 功労賞
			桂木 章吾	第20回IEEE広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 功労賞
			福永 敦	第20回IEEE広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 功労賞
			夫津木 康平	第20回IEEE広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 功労賞
			森下 翔葵	第20回IEEE広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 功労賞
			渡辺 大和	第20回IEEE広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 功労賞
			毛利 将也	平成30年度 電子情報通信学会中国支部 学生功労賞
			土屋 大輝	日本材料学会 半導体エレクトロニクス部門委員会 平成30年度 第1回講演会 学生優秀講演賞
			上田 満	第17回 情報科学技術フォーラム（FIT2018）FIT奨励賞
			福永 敦	第17回 情報科学技術フォーラム（FIT2018）FIT奨励賞
			國田 栞	Linked Open Data チャレンジ Japan 2018　ＩｏＴ賞
	システム工学専攻（博士前期）	2年	大森 史耶	The 14th International Conference on Industrial Management（ICIM2018） Excellent Paper Award
			小松原 拓矢	第20回IEEE広島支部学生シンポジウム（HISS2018） 優秀研究賞
			武井 豪介	平成30年度 電子情報通信学会中国支部 奨励賞
			木口 圭佑	第10回 軽金属学会中国四国支部 講演大会 優秀講演賞
			戸村 善貴	自動車技術会　大学院研究奨励賞
			川本 悠人	第13回コンピュータ大貧民大会 ライト級 敢闘賞
	システム工学専攻（博士後期）	2年	柾田 亜由美	The Forum on the Science and Technology of Silicon Materials 2018 Young Researcher Poster Award
				仁科顕彰会　仁科賞

デザイン学部	デザイン工学科	1年	中山　陽花	第25回ワンデーエクササイズ　「総合資格賞」
			兼田　久弓	
			平尾　彩乃	景観開花。2018　「東京建設コンサルタント賞」
			北村　美佳	
			片山　志乃	
			新間　敬秀	
			平尾　彩乃	第2回 Woody コンテスト 木造住宅部門（学生部門） 「最優秀賞」
		2年	田中　美海	
			金井　宏樹	第4回「わが街健康プロジェクト。」PR ポスター公募企画 優秀賞
			金井　宏樹	岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト グランプリ
			小林　亮太	岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト 奨励賞
			田口　育弥	岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト 奨励賞
			加藤　英太郎	岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト 入選
			河本　弘輝	岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト 入選
			高宮　梨駆	岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト 入選
			下村　侑歩	岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト 入選
			伊藤　純子	岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト 入選
		3年	野口　妃紗恵	第25回ワンデーエクササイズ　「総合資格賞」
			原名　優香	
			飯田　遼介	景観開花。2018　「東京建設コンサルタント賞」
			島田　竜樹	LIXIL Living × IoT PROJECT 特別賞

デザイン学部	デザイン工学科	4年	森本　春香	総社市奨励賞
			片嶋　倖助	JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2019　優秀賞
			桐島　実希	JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2019　優秀賞
			片嶋　倖助	（一社）岡山県建築士事務所協会 平成 30 年度 第 14 回 優秀卒業作品表彰制度　優秀賞
			桐島　実希	（一社）岡山県建築士事務所協会 平成 30 年度 第 14 回 優秀卒業作品表彰制度　優秀賞
			中村　茉耶	（一社）岡山県建築士事務所協会 平成 30 年度 第 14 回 優秀卒業作品表彰制度　優秀賞
			中村　茉耶	平成 30 年度 日本建築学会中国支部 優秀卒業設計　作品賞
			山本　蓉	第 4 回ラ・アトレ＋小泉 学生実施コンペ　入選
			沼口　香織	
			板井　翔大	木の家設計グランプリ 2018　「ビルダー賞（福富建設賞）」
			桐島　実希	
	造形デザイン学科	2年	西辻　理央	第 4 回「わが街健康プロジェクト。」PR ポスター公募企画 優秀賞（公式ポスター採用）
			村上　加奈子	
			古川　さくら	第 4 回「わが街健康プロジェクト。」PR ポスター公募企画 優秀賞
			堀内　友貴乃	第 4 回「わが街健康プロジェクト。」PR ポスター公募企画 サポーター賞

デザイン学部	造形デザイン学科	3年	和田　晴希	富山デザインフェア 2018 パッケージデザインコンペティション 特別賞（イセ株式会社賞）
			田上　明莉	全日本印刷工業組合連合会主催 第 12 回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション 学生の部　経済産業大臣賞
			森田　千尋	Linked Open Data チャレンジ Japan 2018　ＩｏＴ賞
			田中　祥太	
			山内　志織	色彩検定協会主催 色彩コーディネートコンクール・グラフィック部門 （メディア賞）読売新聞社賞
			小橋　みのり	第 25 回ヤングセラミストミーティング in 中四国 作品部門 大賞
			田邉　由梨	第 25 回ヤングセラミストミーティング in 中四国 作品部門 準大賞
			森田　千尋	中四映連　映像グランプリ 2018 学生部門 （専門学校・短大・大学の部）優秀賞
			根本　桃花	
			橋本　悠生	
			濵見　志歩	
		交換留学生	楊可心	
デザイン学研究科	デザイン工学専攻（修士）	1年	河野　純平	第５回 学生・若手実務者のための構造デザインコンペティション 最優秀賞
			安達　駿	
			安達　駿	第４回ラ・アトレ＋小泉 学生実施コンペ　入選
				MATSUYAMA DESIGN WEEK “Flower Design Award” 「top 100 works」
				木の家設計グランプリ 2018　「ビルダー賞（福富建設賞）」
				第 25 回ワンデーエクササイズ　「総合資格賞」
				第 2 回 Woody コンテスト 木造住宅部門（学生部門） 「最優秀賞」
				景観開花。2018　「東京建設コンサルタント賞」

G-2　学生団体等の受賞等

学生団体名等		大会名等	内容
ロボット研究サークル「メヒャニカ」		第 18 回 レスキューロボットコンテスト	本選(全国大会)出場
サイクリング部「サエラ」		ミッドナイトエンデューロ in 岡山国際サーキット	優勝
AMC！		第 48 回 6m and DOWN コンテスト	中国地方 1 位
保健福祉学科	中山 奈麻美（1 年）	第 72 回 中国四国学生陸上競技対校選手権大会	800m 第 2 位
	桝田 美貴（2 年）	第 43 回 中四国学生空手道選手権大会	女子個人型の部 第 3 位
		第 49 回 岡山県空手道選手権大会	成年女子 型 第 3 位
	渡辺 光季（4 年）	岡山県善行賞	表彰
情報システム工学科	今岡 佑充（3 年）	2018 U-23 アルティメット地区選抜対抗戦	関西・中四国地区代表として出場
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	長谷川 大地（1 年）	第 72 回 アマチュア将棋名人戦	出場

Ｈ　委員会等の審議事項

H-1　大学活動委員会

第１回（平成 30 年 5 月 17 日）
（１）第３期中期計画を見据えた 30 年度教務専門委員会等の課題について
（２）平成 30 年度教育研究開発機構（国際交流分野）客員教授の候補者について
（３）平成 30 年度第 2 回国際交流活動費について
（４）平成 30 年度後期交換留学生の募集について
（５）平成 30 年度地域共同研究機構活動方針（案）について
（６）平成 30 年度大学教育開発センター活動（事業・研修会）計画について

第２回（平成 30 年 6 月 14 日）
（１）寄附講座について
（２）岡山県商工会議所連合会との包括協定について

第３回（平成 30 年 7 月 12 日）
（１）平成 33 年度(2021 年度)岡山県立大学カリキュラムポリシー(CP)の改訂について
（２）岡山県立大学履修規程の一部改正について
（３）2018 岡山県立大学ファクトブック(案)について

第４回（平成 30 年 8 月 10 日）
（１）ＦＤ部会ワークショップの開催について
（２）相互授業参観の実施及び授業改善意見交換会の開催について
（３）平成 31 年度前期交換留学生の募集について
（４）岡山県立大学における災害支援基金について

第５回（平成 30 年 9 月 13 日）
（１）学籍番号体系の改定について
（２）岡山県立大学大学院学則の一部改正について
（３）ラハティ応用科学大学との大学間学術交流協定（ＭＯＵ）の締結について

第６回（平成 30 年 10 月 18 日）
（１）大学院３研究科共通科目の追加設置について
（２）全学講義について
（３）平成 31 年度以降の教育力向上支援事業の廃止等について
（４）岡山理科大学との連携協力協定について

第７回（平成 30 年 11 月 8 日）
（１）2018 年度教育年報について
（２）2019 年度教育・学生生活関係スケジュールについて
（３）卒業研究に係る継続履修及び放送大学の単位互換制度について

第８回（平成 30 年 12 月 13 日）
（１）岡山県立大学履修規程の一部改正について
（２）平成 31 年度「大学で学ぶ」及び「フレッシュマンセミナー」について
（３）平成 31 年度全学講義の講師について
（４）平成 31 年度教育力向上支援事業について
（５）平成 30 年度授業改善意見交換会について
（６）社会貢献年報 2018 について

第９回（平成 31 年 1 月 10 日）
（１）平成 31 年度全学講義の講師について
（２）2021 年度版各学部ポリシーについて
（３）平成 31 年度からの食堂営業時間の見直しについて

第１０回（平成 31 年 2 月 14 日）
（１）2021 年度版各学部ポリシーについて
（２）岡山県立大学履修規程の一部改正について
（３）岡山県立大学大学院履修規程の一部改正について
（４）2019 年度教育改革推進事業要綱（旧教育力向上支援事業要綱）について
（５）ダンヌンツィオ大学との大学間学術交流協定について
（６）全学情報システム（学務系）の権限付与について

第１１回（平成 31 年 3 月 4 日）　※第 10 回総務委員会と合同開催
（１）組織改編に伴う規程等の新設・改廃等について

第１２回（平成 31 年 3 月 14 日）
（１） 岡山県立大学学士課程ポリシー2021 年度版改定案について
（２）平成 31 年度地域共同研究機構客員教授等について
（３）平成 31 年度教育研究開発機構客員教授等について
（４）教育改革推進事業（仮称）要綱案について
（５）平成 31 年度岡山県立大学全学講義のご案内（案）について
（６）平成 31 年度岡山県立大学公開講座（案）について
（７）2019 年度相互授業参観実施方針（案）について
（８）平成 31 年岡山県立大学競争的資金の募集について
（９）平成 30 年度後期アドバイザー制度の実績及び平成 31 年度アドバイザー制度の実施について
(10) 高等教育段階の教育費負担軽減新制度への対応（機関要件）について

H-2　教務専門委員会

第１回（平成 30 年 5 月 17 日）
（１）第３期中期計画を見据えた 30 年度教務専門委員会等の課題について
（２）４年時勢に係る年度末日程について
（３）平成 30 年度教務専門委員会開催日程について

第２回（平成 30 年 6 月 14 日）
（１）平成 31 年度共通教育科目の開講計画への要望等について（依頼）
（２）平成 31 年度授業開放計画の協議スケジュールについて
（３）成績分布の検証について

第３回（平成 30 年 7 月 12 日）
（１）平成 33 年度カリキュラム改革に向けての作業手順について
（２）平成 31 年度共通教育科目開講計画について
（３）平成 31 年度学部教育科目の開講計画等について
（４）平成 31 年度保健福祉学部保健福祉学科開講計画について
（５）平成 31 年度保健福祉学部保健福祉学科養成課程について
（６）平成 30 年度 TOEIC L&R IP テストの実施について

第４回（平成 30 年 9 月 13 日）
（１）平成 31 年度共通教育科目の時間割について
（２）平成 31 年度学部教育科目における時間割編成について
（３）平成 31 年度入学生の卒業要件及び学部教育科目の開講計画について
（４）平成 31 年度大学院教育科目の開講計画等について

第５回（平成 30 年 10 月 18 日）
（１）平成 31 年度全学講義について
（２）平成 31 年度教務・学生生活関係スケジュールについて
（３）「地域創生推進士」の認定について
（４）平成 31 年度共通教育科目の時間割の変更について
（５）平成 31 年度学部教育科目の開講計画の変更について
（６）第２回カリキュラム改革ＷＧ会議について

第６回（平成 30 年 11 月 8 日）
（１）2019 年度学部教育科目の時間割について
（２）2019 年度履修案内の原稿作成について
（３）2019 年度授業科目の新設等について（大学院共通研究科）
（４）2019 年度教務・学生生活関係スケジュールの修正について
（５）2019 年度「大学コンソーシアム岡山」単位互換提供科目について

第７回（平成 30 年 12 月 13 日）
（１）2019 年度大学院授業科目の新設・廃止について
（保健福祉学研究科・情報系工学研究科・デザイン学研究科）
（２）2019 年度授業科目の新設の修正について（大学院共通研究科）
（３）2019 年度大学院教育科目の開講計画・時間割について
（４）2019 年度廃止（予告）及び臨時に設ける授業科目について
（５）2019 年度履修案内について
（６）Ｚ評価の該当学生に関する措置について
（７）岡山県立大学履修規程の一部改正について
（８）2019 年度新入生オリエンテーション日程について
（９）2019 年度情報工学部開講計画の修正について（情報システム工学科）
（１０）2019 年度「大学コンソーシアム岡山」単位互換提供科目について
（１１）2019 年度アクティブ・ラーニング教室用(8105 教室)の希望調査について

第８回（平成 31 年 1 月 10 日）
（１）2019 年度履修案内について（大学院）
（２）2019 年度の副専攻「岡山創生学」の実施について
（３）2019 年度「大学で学ぶ」の実施について
（４）2019 年度廃止(予告)及び臨時に設ける授業科目について(大学院)
（５）2019 年度新入生オリエンテーションについて（学部）
（６）2019 年度「シラバス」の作成について

第９回（平成 31 年 2 月 14 日）
（１）2019 年度 1 年時生対象ＰＲＯＧテスト関連日程について
（２）2019 年度「フレッシュマンセミナー」について
（３）2019 年度廃止(予告)及び臨時に設ける授業科目について（大学）
（４）2019 年度廃止(予告)及び臨時に設ける授業科目について（大学院）
（５）2019 年度履修案内について（大学）
（６）2019 年度履修案内について（大学院）
（７）2019 年度「大学で学ぶ」の修正について
（８）2019 年度共通教育科目の時間割等の変更について
（９）2019 年度シラバス入力・承認用手続き等について

第１０回（平成 31 年 3 月 14 日）
（１）2019 年度履修案内について（平成 30 年度以前入学者用：四大）について
（２）2019 年度履修案内について（平成 30 年度以前入学者用：大学院）について
（３）2019 年度ＴＯＥＩＣ　Ｌ＆Ｒ　ＩＰテストの実施について

付録２

Ａ　学部ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー

※　表における表記は次のとおり．
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）：ＤＰ
カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）：ＣＰ
アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）：ＡＰ

１　大学

（学位授与の方針）ＤＰ	本学は，建学の理念である「人間尊重と福祉の増進」の具現化に向けて，地域社会や他の教育研究機関との自由かつ緊密な交流連携のもとに，人間・社会・自然の関係性を重視した実学を創造し，それを研究教授することによって知性と感性を育み，豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く人材の育成を図り，もって地域の学術文化の進展及び産業の振興に寄与することを目的としています． したがって，次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． ● 豊かな教養と高い人間性を身に付けている． ● グローバル並びにローカルに活躍し得る企画提案力とコミュニケーション力を身に付けている． ● 専門性を修得し，課題を発見し解決できる能力を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）ＣＰ	本学は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． １　カリキュラムは，共通教育科目，学部教育科目及び教職教育科目に区分しています． ２　共通教育科目では，基礎的知識の体系的理解，生涯にわたる知的活動や社会生活に必要な論理的思考力・問題発見力・批判力・情報処理など汎用的技能の修得，地域連携を通じた社会人基礎力や課題解決力の修得，グローバル化の時代に役立つ語学・異文化理解によるコミュニケーション力の修得を柱として，知的自律性を培うための教養と技能を涵養する教育を全学生に実施します． ３　学部教育科目では，共通教育科目の修得で獲得した知識と技術を基盤に，所属学科・専攻等ごとに専門の学術を学び，さまざまな社会的要請に的確に対応できる専門性と実践的能力を育成します． ４　学部教育のカリキュラムは，所属する学科等のカリキュラム・ポリシーに基づいて専門性・問題解決能力の修得に向け編成しています． ５　共通教育科目及び各学部教育科目を通じて，地域課題を知り，それを解決に導くための理論と基礎及び実践的方法を修得します． ６　教職教育科目では，栄養学科に栄養教諭一種免許課程，保健福祉学科子ども学専攻に幼稚園教諭一種免許課程を設けています．
（入学者受入の方針）ＡＰ	岡山県立大学は，保健福祉学部，情報工学部，デザイン学部の３学部からなり，「人間尊重と福祉の増進」を建学の理念として，平成５年に設立されました． 本学は，建学の理念の具現化に向けて，地域社会や他の教育研究機関との自由かつ緊密な交流連携のもとに，人間・社会・自然の関係性を重視した実学を創造し，それを研究教授することによって知性と感性を育み，豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く人材の育成を図り，もって地域の学術文化の進展及び産業の振興に寄与することを目的としています． したがって，求める学生像は次のとおりです． ● 人間・社会・自然について幅広く学び，それらの関係性を探究したい学生 ● 実学を身に付け，国内・国外の幅広い分野で社会に貢献したい学生 ● 新技術・知識の創出に意欲を持ち，地域と世界へ向けて情報発信したい学生

2　保健福祉学部

（学位授与の方針）DP	保健福祉学部は，地域の人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる保健，医療，福祉に関する基本的知識と技術を修得し，健康課題に対して科学的な思考や分析に基づいた課題解決能力を備え，高い倫理観と豊かな人間性にあふれ，さらに社会の変化やグローバル化に柔軟に対応できる力とコミュニケーション能力を有する人材を養成することを目指しています． したがって，本学部では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養】 豊かな教養を身に付けている． 【倫理観】 豊かな感性，倫理観を有し，人を支援する心を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 外国語を含めたコミュニケーション能力と企画提案力を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている． 【専門性】 看護，栄養，福祉のそれぞれの分野における十分な専門的知識と技術を身に付けている． 【課題発見・解決力】 科学的，論理的思考に基づいた課題探究と解決に必要となる多様な基礎知識とそれらを活用する能力を身に付けている． 【生涯学習力】 将来にわたって応用知識・技術を積み上げていける力を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	保健福祉学部は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 【導入教育】 １年次に修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます． 【教養】 幅広い教養とともに専門教育を学ぶために必要な基礎知識を身に付けるための共通教育科目として，「人文・社会科学要論」をはじめとする人文・社会科学群科目や「自然科学要論」をはじめとする自然科学科目群において基礎的知識の体系的理解を行います． 【倫理観１】 「大学で学ぶ」，「フレッシュマンセミナー」では大学生活に必要な汎用的技能に加えて豊かな人間性と倫理観を身に付けます． 【倫理観２】 臨地実習と統合実習・総合演習では，倫理観と人を支援する心を醸成し，豊かな感性を育みます． 【異文化理解・コミュニケーション力１】 「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」等を通じて地域課題を知り，それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します． 【専門性】 専門教育においては，現場での課題解決に必要となる多様な基礎知識と，それらを活用できる実践力を養成するために，各学科において，基礎から専門にかけて講義科目を体系的に配置するとともに，臨地実習を含む豊富な演習・実験・実習科目を設置しています． 【課題発見・解決力】　【生涯学習力】 科学的・論理的思考に基づいた課題発見力と解決力，批判力を育成し，将来にわたって応用知識・技術を積み上げていける力を身に付ける卒業研究を，いずれの学科においても１年以上履修します． 【資格取得】 共通教育と専門教育を通じて，各学科で国家試験受験資格を含む各種資格ならびに教諭一種免許等を得るために必要な科目が履修できます． 【教育力】 教職課程を設置している学科・専攻において，履修生は課程の学びを通じて，求められる教育力を養います．
（入学者受入の方針）AP	【人材育成像及び求める学生像】 保健福祉学部は，看護学科，栄養学科，保健福祉学科の３学科で構成されています． 本学部は，地域の人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる保健，医療，福祉に関する基本的知識と技術を修得し，健康課題に対して科学的な思考や分析に基づいた課題解決能力を備え，高い倫理観と豊かな人間性にあふれ，さらに社会の変化やグローバル化に柔軟に対応できる力とコミュニケーション能力を有する人材を養成することを目指しています．したがって求める学生像は次のとおりです． ● 看護・栄養・福祉のそれぞれの分野に明確な目的意識と意欲，情熱を持っている学生 ● 十分な基礎学力を備え，論理的思考能力を貴ぶ学生 ● 人間理解に基づく保健・医療・福祉を学び，その成果を広く地域や世界に発信する意欲と創意にあふれる学生 ● 豊かな感性を育み，様々な人とコミュニケーションできる能力，人を支援する心を身に付けたい学生

2-(1)　看護学科

（学位授与の方針）DP	看護学科は，人々が健康で豊かなその人らしい人生が実現できるように，看護の専門知識と技術を活かして，地域におけるあらゆる健康レベルの人々（家族・集団・地域）の生涯を通じた健康を支援し地域社会に貢献できる看護専門職の育成を目指しています． したがって，本学科では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養】 豊かな教養を身に付けている． 【倫理観】 看護専門職としてのアイデンティティを形成し，専門職業人の持つべき知識・価値観・倫理観を自ら継続・発展させていく能力を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 グローバルな視点を持ち，看護の実践・教育・研究領域におけるリーダーやスペシャリストとして，必要な看護を創造するために企画や解決策を提案し，社会に貢献できる能力を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 人間理解を基盤にしたヒューマンケアリングが実践できる能力を身に付けている． 【専門性２】 看護の専門知識・技術を用いて，人々の生涯にわたる多様な健康レベルの人々の健康課題を科学的・論理的に判断し，解決方策を提案できる能力を身に付けている． 【専門性３】 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し，多職種と連携・協働できるマネジメント力，実践力を身に付けている． 【課題発見・解決力】【生涯学習力】 自ら学び続け，将来は看護の実践・教育・研究領域において，問題解決できる力と将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	看護学科は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 【導入教育】 １年次に修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます． 【教養】 １年次から２年次までの共通教育科目の履修を通して，人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け，専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します．基礎的知識の体系的理解を得るため「人文・社会科学要論」「自然科学要論」，専門分野共通の基礎として「健康科学要論」などを設けています． 【倫理観１】 共通教育において，高い倫理観を身に付けるため「生命倫理学」などの科目を設けています． 【倫理観２】 専門科目における「統合と実践カテゴリー」科目をはじめとして，多くの科目において，倫理観を養い，人を支援する心を醸成し，豊かな感性を育みます． 【異文化理解・コミュニケーション力１】 「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得するほか，「国際保健看護論」などを通じて，専門分野の異文化理解を深めます． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」等を通じて地域課題を知り，それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します． 【専門性１】 １年次から２年次までに学部教育「専門基礎分野」等の科目を履修します．ここで，人体の仕組みと病態や人間生活，健康支援や社会制度を学びます．さらに３～４年次への「専門分野」導入として「基礎看護学カテゴリー」をはじめとする，各種の看護学カテゴリー科目について学び，基礎的な知識と技術を修得します． 【専門性２】 ２年次から３年次には「専門分野」科目を主に履修します．ここで「小児，成人，母性，老年や精神看護学カテゴリー」など各領域の学びをはじめるほか，「統合と実践カテゴリー」における看護アセスメント，マネジメント教育等を通じて，主要な健康課題と健康増進のための理論を修得するとともに，倫理観に基づいた看護実践を提供できる基盤としての能力を育成します．その上で，健康問題を持つ個人・集団・地域を対象に看護診断をし，解決に必要な知識と技術を育成します．　さらに他の専門職と協働して，リーダーシップを発揮できる力を育成する「チームガバナビリティ演習」を設けています． 【専門性３】 ３年次から４年次には「小児，成人，母性，老年や精神看護学」など，各領域別の講義や臨地実習を行います．これらの科目を通じて，人間の尊厳や多様性を学び，科学的根拠に基づくアセスメント及びヒューマンケアリングが実践できる基盤を育成するとともに，他の医療専門職と連携し協働する力を養います．さらに「統合実習」を通じて，これまで学んだ知識・技術・態度を統合し，看護実践力とともに倫理観を高めます． 【課題発見・解決力】【生涯学習能力】 ３年次から４年次に「看護研究」「卒業研究」の科目を通じて，これまでに学んだ専門的知識や実践力を広い視点で統合し，生涯に渡って研究的な方法を用いて健康課題を特定し解決策を論理的に説明するとともに企画提案できる能力を育成し，保健医療分野でのリーダーとして必要な基盤を育成します． 【資格取得】 本学科は，看護師国家試験受験資格を満たす科目を卒業要件とし，一部の者には助産師国家試験受験資格に必要な科目が選択できるように配置しています．

（入学者受入の方針） AP	【人材育成像及び求める学生像】 看護学科は，人々が健康で豊かなその人らしい人生が実現できるように，看護の専門知識と技術を活かして，地域におけるあらゆる健康レベルの人々（家族・集団・地域）の生涯を通じた健康を支援し，地域社会に貢献できる看護専門職の育成を目指しています. したがって，求める学生像は次のとおりです. ● 人々の健康に関心があり，学ぶことに対する意欲がある学生 ● 他者を思いやり，主体性をもって多様な人と協働することができる学生 ● 看護の多様な側面を学ぶ上で必要な理数系または文科系の基礎学力がある学生 ● 探求心があり，根拠を基に論理的に解決する学生 ● 何事にも前向きに取り組み，チャレンジ精神が旺盛な学生 ● 看護専門職として，地域や国際社会に貢献したい学生 【入学者選抜の基本方針】 看護学科では，高等学校で主体性をもって学習することによって，看護を学問として追及するための基礎学力を備えた学生，看護の実践を発展させる可能性を持つ好奇心豊かで行動力のある学生を選抜するために，一般入試（前期日程，後期日程）および特別選抜（推薦入試など）を実施し，複数の入学選抜方式を採用することにより，多様な人材の受け入れを目指しています. ・一般入試（前期日程，後期日程） 前期日程および後期日程ともに，大学入試センター試験では５教科５科目又は５教科６科目および個別学力検査では小論文と面接を課し，高等学校で得た基礎的な知識や技能，思考力，判断力，表現力等を総合評価します. 小論文では，自然，社会，文化に関する課題について論述させ，理解力，思考力，文章表現力等を総合評価します. 面接は，集団による方法で実施し，出願書類を参考に学習意欲，表現力，社会性，協調性等を総合評価します. ・推薦入試 小論文では，自然，社会，文化に関する課題について論述させ，理解力，思考力，文章表現力等を総合評価します．面接は，個人面接を行い，出願書類を参考に関心，豊かな人間力，知識，教養，探求心等を総合評価します. ・帰国生入試 小論文では，自然，社会，文化に関する課題について日本語で論述させ，日本語の理解力と文章表現力，思考力等を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，適正，意欲，一般教科の基礎学力，コミュニケーション能力等を総合評価します.ただし，面接の評価が著しく低い場合は，総得点にかかわらず不合格とすることがあります. ・私費外国人留学生入試 日本留学試験およびTOEFLにより語学能力を含む基礎学力を評価します．小論文では，自然，社会，文化に関する課題について日本語で論述させ，日本語の理解力と文章表現力，思考力等を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，一般教科の基礎学力，思考能力，適正，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します．ただし，面接の評価が著しく低い場合は，総得点にかかわらず不合格にすることがあります.

2－(2)　栄養学科

（学位授与の方針）DP	栄養学科は，超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重要視されている現代社会において，食と健康の相互関係を科学理論によって理解し，未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身に付け，栄養学を人の健康の維持・増進，病気の予防・治療へと応用し，広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています． したがって，本学科では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養】 豊かな教養を身に付けている． 【倫理観】 人間，健康，社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ，グローバルに活躍できる企画提案力，情報発信力を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 食と健康の専門家に必要な資質として，基本的知識・技術を身に付けている． 【専門性２】 栄養学に関する専門職業人として必要な高度な専門的応用知識・技術を発揮できる能力を身に付けている． 【専門性３】 栄養学の総合的な学びを深め，多職種と連携・協働できるマネジメント力，実践力を身に付けている． 【課題発見・解決力】【生涯学習力】 専門分野における問題発見・解決能力を身に付けている．また，多様な対象者に対して，科学的思考に基づいて適切かつ高度な食・栄養支援を実践するための応用知識や技術を，将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	栄養学科は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 【導入教育】 １年次に修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます． 【教養】 １年次から２年次までの共通教育科目の履修を通して，人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け，専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します．基礎的知識の体系的理解を得るため「人文・社会科学要論」「自然科学要論」，専門分野共通の基礎として「健康科学要論」などを設けています． 【倫理観１】 共通教育において，高い倫理観を身に付けるため「生命倫理学」などの科目を設けています． 【倫理観２】 専門科目における「総合演習及び臨地実習カテゴリー」科目をはじめとして，多くの科目において，倫理観を養い，健康を支援する心を醸成し，豊かな感性を育みます． 【異文化理解・コミュニケーション力１】 「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」等を通じて地域課題を知り，それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します． 【専門性１】 １年次から２年次までに学部教育「専門基礎分野」科目を履修します．「社会・環境と健康」「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」及び「食べ物と健康」の各カテゴリーの科目の履修を通じて，食と健康の専門家としての基本的な知識や技術について学びます．さらに３～４年次への「専門分野」導入として「基礎栄養学」や「応用栄養学」などの科目について履修をはじめます． 【専門性２】 ２年次から３年次には「専門分野」科目を主に履修します．専門職業人として必要な高度な専門的応用知識として，「栄養教育論」，「臨床栄養学」，「公衆栄養学」や「給食経営管理論」などのカテゴリーの各論において，栄養学に関する応用的な知識と方法，病態と栄養に関する応用的な知識と方法，集団の栄養に関する知識と方法，集団の給食に関する知識やサービスマネジメント能力，さらには栄養指導能力を修得します．さらに他の専門職と協働して，リーダーシップを発揮できる力を育成する「チームガバナビリティ演習」を設けています． 【専門性３】 ３年次から４年次には，専門分野各論の充実した履修とともに，「総合演習」及び「臨地実習」カテゴリー科目の履修を通じて，栄養学の総合的かつ実践的な学びを深めるとともに，学外の関係機関において「臨床栄養学」「公衆栄養学」や「給食運営」などの，実地での履修を通じて，学外の評価を得ながら栄養学に関する実践力を高めます． 【課題発見・解決力】　【生涯学習力】 ４年次には「卒業研究」を履修し，科学的に探求する態度，論理的に思考する態度，計画的に実行する態度を身に付け，専門分野における問題発見・解決能力，実践能力を育成するとともに，これまで身につけた知識や技術を，将来にわたって自ら積み上げていく力を育成します． 【資格取得】 共通教育科目及び学部教育科目の中から履修し，卒業時には栄養士免許並びに管理栄養士国家試験受験資格が取得可能となるほか，食品衛生管理者並びに食品衛生監視員の任用資格の取得が可能となります．また，教職教育科目を修得することで栄養教諭一種免許状が取得可能となります． 【教育力】　（栄養教諭教職課程） 教職教育科目を履修することで教育の意義や食教育実践に必要な知識と技術を身に付け，教育能力を育成します．

（入学者受入の方針） AP	【人材育成像及び求める学生像】 栄養学科は，超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重要視されている現代社会において，食と健康の相互関係を科学理論によって理解し，未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身に付け，栄養学を人の健康の維持・増進，病気の予防・治療へと応用し，広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています． したがって，求める学生像は次の通りです． ● 自然科学に関心を持ち，食物と人の健康との関係について科学的に理解・探求しようとする学生 ● 栄養学分野の研究に取り組み，これを発展させて社会に還元しようとする意欲のある学生 ● 様々な人とコミュニケーションができ，真しな態度と思いやりの気持ちを持って人と向き合える学生 【入学者選抜の基本方針】 栄養学科では，高等学校で主体性をもって学習することにより，幅広い基礎学力と共に「化学」や「生物」などの自然科学の基礎をしっかり身に着けており，論理的な思考力，豊かな人間性，多様な人々と協働して学ぶ態度，コミュニケーション能力，倫理観などの素養を磨いている学生を選抜するために，一般入試（前期日程，後期日程）および特別入試（推薦入試など）を実施し，複数の入学選抜方式を採用することにより，多様な人材の受け入れを目指しています． ・一般入試（前期日程，後期日程） 前期日程では，大学入試センター試験では５教科７科目又は５教科８科目および個別学力検査では理科１科目（化学基礎・化学又は生物基礎・生物）を，後期日程では，大学入試センター試験では５教科７科目又は５教科８科目を課し，高等学校で得た基礎的な知識や技能，思考力，判断力，表現力等を総合評価します． ・推薦入試 小論文では，自然，社会，文化に関する課題について論述させ，理解力，思考力，文章表現力等を総合評価します．面接では，個人面接を行い，出願書類を参考にし，口頭試問（化学基礎又は生物基礎）も実施し，基礎的な知識に加えて表現力，判断力，学習意欲や多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合評価します． ・帰国生入試 小論文では，自然，社会，文化に関する課題について日本語で論述させ，日本語の理解力と文章表現力，思考力等を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，適正，意欲，一般教科の基礎学力，コミュニケーション能力等を総合評価します．ただし，面接の評価が著しく低い場合は，総得点にかかわらず不合格とすることがあります． ・私費外国人留学生特別入試 日本留学試験およびTOEFLにより語学能力を含む基礎学力を評価します．小論文では，自然，社会，文化に関する課題について日本語で論述させ，日本語の理解力と文章表現力，思考力等を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，一般教科の基礎学力，思考能力，適正，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します．ただし，面接の評価が著しく低い場合は，総得点にかかわらず不合格にすることがあります． ・編入学試験 学力検査では，英語および総合問題の記述試験を行い，大学初等教育ならびに専門教育で必要な基礎知識や技能，思考力，判断力，表現力などを評価します．面接では，調査書などの書類を参考にし，表現力，判断力，学習意欲や多様な人々と協働して学ぶ態度などを評価します．

2－(3)　保健福祉学科

DP（学位授与の方針）	保健福祉学科は，深い教養と豊かな人間性を兼ね備え，福祉的視点と方法に基づいて，子ども，障害者，高齢者等すべての人々の自立と自己実現を支援し，健康と幸福の増進に寄与することのできる人材を育成することを目指しています．社会福祉学専攻では，特に社会における多様な福祉課題に対処する問題解決能力と共感力をもった人材を，また子ども学専攻では，教育的視点と方法を併せ持った，子どもの育ちと学びに関わる人材を育成することを目指しています． したがって，本学科では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． ＜社会福祉学専攻＞ 【教養】 豊かな教養を身に付けている． 【倫理観】 人間，健康，社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ，グローバルに活躍できる企画提案力，情報発信力を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 社会福祉学と健康科学の知識・理論を身に付けている． 【専門性２】 ソーシャルワークの方法および実践的な相談援助技術を身に付けるとともに，多職種と連携できる力を身に付けている． 【専門性３】 ケアワークの方法および実践的な生活支援技術を身に付けるとともに，多職種と連携できるマネジメント力，実践力を身に付けている． 【課題発見・解決力】【生涯学習力】 自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち，福祉や保育・教育の専門性を修得し，問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている． ＜子ども学専攻＞ 【教養】 豊かな教養を身に付けている． 【倫理観】 人間，健康，社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ，グローバルに活躍できる企画提案力，情報発信力を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 教育学と発達科学の知識・理論を身に付けている． 【専門性２】 子どもに対して実践的な保育および教育の指導や支援ができる力を身に付けている． 【専門性３】 子どもの育ちと学びを家庭や地域との関係の中で捉える力を身に付けている． 【課題発見・解決力】【生涯学習力】 自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち，福祉や保育・教育の専門性を修得し，問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている．

CP（教育課程の編成・実施の方針）

保健福祉学科は，社会福祉学専攻と子ども学専攻の２専攻を設置しています．学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，２専攻は次のような教育課程を編成しています．

＜社会福祉学専攻＞

【導入教育】

１年次に修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます．

【教養】

１年次から２年次までの共通教育科目の履修を通して，人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け，専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します．基礎的知識の体系的理解を得るため「人文社会科学要論」「自然科学要論」，専門分野共通の基礎として「健康科学要論」などを設けています．

【倫理観１】

共通教育において，高い倫理観を身に付けるため「生命倫理学」などの科目を設けています．

【倫理観２】

専門科目における「生活支援及び自立支援カテゴリー」科目をはじめとして，多くの科目において，倫理観を養い，人を支援する心を醸成し，豊かな感性を育みます．

【異文化理解・コミュニケーション力１】

「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます．

【異文化理解・コミュニケーション力２】

「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します．

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】

「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」「地域福祉論」「地域組織論」等を通じて地域課題を知り，それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します．

【専門性１】

１年次から２年次までに両専攻の「専門共通」科目を履修し，対象者の生活支援に関わる福祉的視点と方法を併せ持った「福祉」専門職の基礎となる知識を修得します．さらに「専門分野」科目として，「生活支援領域」及び「自立支援領域」の各カテゴリー科目の履修を開始し，社会福祉や介護福祉の基礎について履修します．

【専門性２】

２年次から３年次には「専門分野」科目を主に履修し，対象者の生活支援に関わる福祉的視点と方法を併せ持った「福祉」の専門職として必要な専門領域の知識と技術を修得します．この履修を通じて，社会福祉学と健康科学の知識・理論の修得，ソーシャルワークの方法および実践的な相談援助技術，ケアワークの方法および実践的な生活支援技術を身に付けます．さらに他の専門職と協働して，リーダーシップを発揮できる力を育成する「チームガバナビリティ演習」を設けています．

【専門性３】

３年次から４年次には，専門分野各論の充実した履修とともに，「専門ゼミナール」で各自が学習テーマを設定し，既存研究のレビューや演習等を通して課題に取り組むほか「研究ゼミナール（卒業研究）」で既存研究を参考にしながら，適切な方法（調査，実験，観察，事例研究，文献研究）を用いて研究することにより，専門性を高めていきます．

【課題発見・解決力】　【生涯学習力】

４年間を通じて，１年次は「入門ゼミナール」，２年次は「基礎ゼミナール」，３年次は「専門ゼミナール」，４年次は「研究ゼミナール（卒業研究）」を履修します．この履修を通じて，自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち，福祉や保育・教育の専門性を修得し，問題解決できる力を育成します．特に，研究ゼミナールでは，社会福祉学専攻４年間の学業の集大成として，教員のアドバイスを受けつつ，主に「福祉」に関するテーマを選び，卒業研究とします．

【資格取得】

共通教育科目及び学部教育科目の中から履修し，卒業時には社会福祉士及び介護福祉士国家試験受験資格取得が可能となります．

＜子ども学専攻＞

【導入教育】

１年次に修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます．

【教養】

１年次から２年次までの共通教育科目の履修を通して，人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け，専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します．基礎的知識の体系的理解を得るため「人文・社会科学要論」「自然科学要論」，専門分野共通の基礎として「健康科学要論」などを設けています．

【倫理観１】

共通教育において，高い倫理観を身に付けるため「生命倫理学」などの科目を設けています．

【倫理観２】

専門科目における「専門共通カテゴリー」科目において福祉の心について学ぶとともに，多くの保育及び幼児教育系科目において，倫理観を養い，人を支援する心を醸成し，豊かな感性を育みます．

【異文化理解・コミュニケーション力１】

「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます．

【異文化理解・コミュニケーション力２】

「海外研修（保健福祉学）」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します．

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】

「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」「地域福祉論」等を通じて地域課題を知り，それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します．

【専門性１】

１年次から２年次までに両専攻の「専門共通」科目を履修し，子どもの育ちと学びに関わる保育・教育的視点と方法を併せ持った「保育・教育」専門職の基礎となる知識を修得します．

さらに「専門分野」科目の学びをスタートし，保育や幼児教育の基礎について履修します．

【専門性２】

２年次から３年次には「専門分野」科目を主に履修します．子どもの育ちと学びに関わる保育・教育的視点と方法を併せ持った「保育・教育」の専門職として必要な専門領域の知識と技術を修得します．この履修を通じて，教育学と発達科学の知識・理論の修得，子どもに対して実践的な保育および教育の指導や支援ができる力，子どもの育ちと学びを家庭や地域との関係の中で捉える力を育成します．

【専門性３】

３年次から４年次には，専門科目の充実した履修とともに，「専門ゼミナール」で各自が学習テーマを設定し，既存研究のレビューや演習等を通して課題に取り組むほか「研究ゼミナール（卒業研究）」で既存研究を参考にしながら，適切な方法（調査，実験，観察，事例研究，文献研究）を用いて研究することにより，専門性を高めていきます．

【課題発見・解決力】　【生涯学習力】

４年間を通じて，１年次は「入門ゼミナール」，２年次は「基礎ゼミナール」，３年次は「専門ゼミナール」，４年次は「研究ゼミナール（卒業研究）」を履修します．この履修を通じて，自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち，福祉や保育・教育の専門性を修得し，問題解決できる力を育成します．特に，研究ゼミナールでは，子ども学専攻４年間の学業の集大成として，教員のアドバイスを受けつつ，主に「保育・教育」に関するテーマを選び，卒業研究とします．

【資格取得】

共通教育科目及び学部教育科目の中から履修し，卒業時には幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得が可能となります．教職教育科目を履修することで保育・教育の意義や保育・教育実践に必要な知識と技術を身に付け，保育・幼児教育能力を育成します．

【教育力】　（幼稚園教諭及び保育士養成課程）

教職教育科目を履修することで保育・幼児教育の意義や教育実践に必要な知識と技術を身に付け，教育能力を育成します．

（入学者受入の方針）　ＡＰ

＜社会福祉学専攻＞

【人材育成像及び求める学生像】

保健福祉学科は，深い教養と豊かな人間性に加えて，多様な社会的課題に対処できる共感力と問題解決能力を兼ね備えた，子ども，障がい者，高齢者等，すべての人々の健康と幸福の増進に寄与できる人材の育成を目指しています．

社会福祉学専攻では，対象者の生活支援に関わる福祉的視点と方法を併せ持った人材を育成することを目指します．

したがって，社会福祉学専攻において，求める学生像は次のとおりです．

- 福祉領域における対象者の自立や成長を促す知識と専門的援助技術の修得に努める学生
- 福祉的問題に対して科学的な思考力や分析力を養い，問題解決能力を高めようとする学生
- 豊かな人間性を育み，福祉的支援を求める人々に対して，共感，共生しようとする学生
- ２１世紀の福祉社会や地域社会に貢献する意欲のある学生

【入学者選抜の基本方針】

保健福祉学科では，高等学校で主体性をもって学習することにより，幅広い基礎学力と共に，豊かな感性，多様な人々と協働して学ぶことのできる態度，コミュニケーション能力，科学的思考力・分析力，表現力，問題解決能力などを有する学生を選抜するために，一般入試（前期日程，後期日程）および特別入試（推薦入試など）を実施し，複数の入学選抜方式を採用することにより，多様な人材の受け入れを目指しています．

・一般入試（前期日程，後期日程）

大学入試センター試験では３教科３科目又は３教科４科目で基礎学力を，また個別学力検査では小論文で自然，社会，文化に関する課題について論述させ，理解力，思考力，文章表現力等を総合評価します．面接では，個人面接を行い，学習意欲，コミュニケーション能力，福祉専門職としての適性等を総合評価します．さらに，福祉活動に貢献する意欲を評価します．

・推薦入試

小論文では，自然，社会，文化に関する課題について論述させ，理解力，思考力，文章表現力等を総合評価します．面接では，個人面接を行い，社会福祉学に関連した知識，学習意欲，コミュニケーション能力，専門職としての適性を，評価するとともに，出願書類も参考にしながら，多様な人々と協働して学ぶ態度や福祉社会や地域社会に貢献する意欲等を総合評価します．

・帰国生入試

小論文では，自然，社会，文化に関する課題について日本語で論述させ，日本語の理解力と文章表現力，思考力等を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，適正，意欲，一般教科の基礎学力，コミュニケーション能力等を総合評価します．ただし，面接の評価が著しく低い場合は，総得点にかかわらず不合格にすることがあります．

・私費外国人留学生特別入試

日本留学試験およびTOEFLにより語学能力を含む基礎学力を評価します．小論文では，自然，社会，文化に関する課題について日本語で論述させ，日本語の理解力と文章表現力，思考力等を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，一般教科の基礎学力，思考能力，適正，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します．ただし，面接の評価が著しく低い場合は，総得点にかかわらず不合格にすることがあります．

＜子ども学専攻＞

【人材育成像及び求める学生像】

保健福祉学科は，深い教養と豊かな人間性に加えて，多様な社会的課題に対処できる共感力と問題解決能力を兼ね備えた，子ども，障がい者，高齢者等，すべての人々の健康と幸福の増進に寄与できる人材の育成を目指しています．

子ども学専攻では，子どもの育ちと学びに関わる保育・教育的視点と方法を併せ持った人材を育成することを目指します．

したがって，子ども学専攻において，求める学生像は次のとおりです．

- 子どもの発達と学びを育む知識と専門的技術の修得に努める学生
- 保育・教育的問題に対して科学的な思考力や分析力を養い，問題解決能力を高めようとする学生
- 豊かな人間性を育み，保育・教育的支援を求める人々に対して，共感，共生しようとする学生
- ２１世紀の保育・教育に貢献する意欲のある学生

【入学者選抜の基本方針】

保健福祉学科では，高等学校で主体性をもって学習することにより，幅広い基礎学力と共に，豊かな感性，多様な人々と協働して学ぶことのできる態度，コミュニケーション能力，科学的思考力・分析力，表現力，問題解決能力などを有する学生を選抜するために，一般入試（前期日程，後期日程）および特別入試（推薦入試など）を実施し，複数の入学選抜方式を採用することにより，多様な人材の受け入れを目指しています．

・一般入試（前期日程，後期日程）

大学入試センター試験では３教科３科目又は３教科４科目で基礎学力を，また個別学力検査では小論文で自然，社会，文化に関する課題について論述させ，理解力，思考力，文章表現力等を総合評価します．面接では，個人面接を行い，学習意欲，コミュニケーション能力，保育・教育専門職としての適性等を総合評価します．さらに，保育・教育活動に貢献する意欲を評価します．

・推薦入試

小論文では，自然，社会，文化に関する課題について論述させ，理解力，思考力，文章表現力等を総合評価します．面接では，個人面接を行い，子ども学に関連した知識，学習意欲，コミュニケーション能力，専門職としての適性を，評価するとともに，出願書類も参考にしながら，多様な人々と協働して学ぶ態度や福祉社会や地域社会に貢献する意欲等を総合評価します．

・帰国生入試

小論文では，自然，社会，文化に関する課題について日本語で論述させ，日本語の理解力と文章表現力，思考力等を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，適正，意欲，一般教科の基礎学力，コミュニケーション能力等を総合評価します．ただし，面接の評価が著しく低い場合は，総得点にかかわらず不合格にすることがあります．

・私費外国人留学生入試

日本留学試験およびTOEFLにより語学能力を含む基礎学力を評価します．小論文では，自然，社会，文化に関する課題について日本語で論述させ，日本語の理解力と文章表現力，思考力等を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，一般教科の基礎学力，思考能力，適正，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します．ただし，面接の評価が著しく低い場合は，総得点にかかわらず不合格にすることがあります．

３　情報工学部

（学位授与の方針）DP	情報工学とは，情報の伝送・認識・処理・利用にかかわるハードウェアとソフトウェアの技術を研究開発するための学問です．情報工学部は，情報技術を活用して，人間及び自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指しています． したがって，本学部では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた，日本語による記述力，口頭発表力，討議能力，企画提案力，技術英文の読解能力，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 数学，自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性２】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性３】 情報工学と関連工学分野の専門知識とそれらを複合的に応用できる能力を身に付けている． 【行動力・課題解決力】 知識を総合的に活用することにより，主体性と協調性を持って課題を発見し，技術者倫理を遵守して解決できる能力を身に付けている． 【生涯学習力】 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち，新しい知識や価値観を継続的に学修，吸収する態度を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	情報工学部は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます． 【教養・多面的思考力】 自然科学だけでなく人文・社会科学，健康科学，社会連携に関する幅広い共通教育科目により，多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します． 【異文化理解・コミュニケーション力１】 語学国際に関する共通教育科目により，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養成します． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 技術英語，卒業研究をはじめとする実験・演習科目により，論理的思考に基づいた，日本語による記述力，口頭発表力，討議能力，企画提案力，技術英文の読解能力を養成します． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目により，地域が果たす役割を考え，地域の課題を発見し，その解決に向けた方策を自ら考え，地域と協働する能力を養います． 【専門性１】 数学，物理および工学の基礎に関する科目により，自然界の法則や工学技術者としての基礎知識を身につけ，工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します． 【専門性２】 学部で定めた情報系基礎科目により，情報工学の基礎となる知識と応用力を養成します． 【専門性３】 各学科のカリキュラム・ポリシーに準拠した独自の教育課程を用意し，各学科に応じた専門知識と応用力を養成します． 【行動力・課題解決力１】 実験・演習科目により，主体性と協調性を持って課題を工学的に解決する能力を涵養します． 【行動力・課題解決力２】 １年を通じて卒業研究を行い，研究対象に関する深い知識の獲得や，発見した技術課題を解決に導くため，技術者倫理を遵守した計画立案・遂行能力を養います． 【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより４年間で系統的に修得した情報工学に関する広 範囲な分野の専門的知識を基礎として，常に進展する先端的な技術を自主的・継続的に学習し，自身の活動に活かすことができる能力を育成します．
（入学者受入の方針）AP	【人材育成像及び求める学生像】 情報工学部は，情報通信工学科，情報システム工学科，人間情報工学科の３学科で構成されています． 情報工学とは，情報の伝送・認識・処理・利用にかかわるハードウェアとソフトウェアの技術を研究開発するための学問です．本学部は，情報技術を活用して，人間及び自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指しています． したがって，求める学生像は次のとおりです． ● 情報工学の新しい分野の発展に興味を抱いている学生 ● 人間を取り巻く環境によく適合する情報社会を形づくることに貢献する意欲を持つ学生 ● 新技術・知識の創出に関心を持ち，地域と世界に向けて情報発信したいと考える学生 急速に発展している高度情報化社会を支えるインターネット・コミュニケーション技術を用いて，現状の社会を改革し発展させていく夢を持った学生の挑戦を期待しています．

3-(1)　情報通信工学科

（学位授与の方針）DP	情報通信工学科は，日々進歩し続ける情報通信技術（ICT）を支えている情報工学，通信工学，電子工学の３つの学問領域を共通の基盤として，各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し，情報通信技術（ICT）の利用者視点を理解するとともに，グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指しています. したがって，本学科では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します. 【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている. 【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた，日本語による記述力，口頭発表力，討議能力，企画提案力，技術英文の読解能力，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力を身に付けている. 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている. 【専門性１】 数学，自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている. 【専門性２】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている. 【専門性３】 情報工学の知識を基盤として，情報通信技術（ICT）の根幹をなす通信工学・電子工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている. 【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し，主体性と協調性を持って課題を発見，分析，解決できる能力と，技術者に求められる高い倫理観を身に付けている. 【生涯学習力】 情報通信技術（ICT）の発展と裾野の広がりに関心をもち，新しい知識や価値観を継続的に学修，吸収する態度を身に付けている.
（教育課程の編成・実施の方針）CP	情報通信工学科は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています. 【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます. 【教養・多面的思考力】 自然科学だけでなく人文・社会科学，健康科学，社会連携に関する幅広い共通教育科目により，多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します. 【異文化理解・コミュニケーション力１】 語学国際に関する共通教育科目により，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養成します. 【異文化理解・コミュニケーション力２】 「技術英語」，「卒業研究」をはじめとする実験・演習科目により，論理的思考に基づいた，日本語による記述力，技術文書作成能力，口頭発表力，討議能力，企画提案力，技術英文の読解能力を養成するとともに，グローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力を養成します. 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目により，地域が果たす役割を考え，地域の課題を発見し，その解決に向けた方策を自ら考え，地域と協働する能力を養います. 【専門性１】 カテゴリー「学科共通」の授業科目により，自然界の法則や工学技術者としての基礎知識を身につけ，工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します. 【専門性２】 カテゴリー「情報工学基礎」の授業科目により，情報工学の基礎となる知識と応用力を養成します. 【専門性３】 「情報処理工学」，「情報通信工学」，「情報電子工学」の各カテゴリーをバランスよく修得することにより，それぞれの分野に関する幅広い知識と応用力を養成し，さらにそれらを活用して総合的に課題解決に当たる応用力を養成します. 【行動力・課題解決力１】 ３年次までの実験・演習科目を通して情報通信技術（ICT）に関して獲得した専門知識を，主体性と協調性をもって活用し，課題を解決に導くための方法を培います. 【行動力・課題解決力２】 １年を通じて卒業研究を行い，研究対象に関する深い知識の獲得や，発見した技術課題を解決に導くため，技術者倫理を遵守した計画立案・遂行能力を養います. 【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより 4 年間で系統的に修得した情報工学，通信工学，電子工学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として，常に進展する先端的な情報通信技術（ICT）を自主的・継続的に学習し，自身の活動に活かすことができる能力を育成します.

（入学者受入の方針） AP	【人材育成像及び求める学生像】 情報通信工学科は，日々進歩し続ける情報通信技術(ICT)を支えている情報工学，通信工学，電子工学の３つの学問領域を共通の基盤として，各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し，情報通信技術(ICT)の利用者視点を理解するとともに，グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指しています． したがって，求める学生像は次のとおりです． ● インターネットを中心とする情報通信技術を学びたい学生 ● コンピュータやネットワークを構成する電子機器やその特性を学びたい学生 ● 情報技術を利用した新しいソフトウェアの創造に興味のある学生 ● 未来の情報通信技術に対する夢や希望を持っている学生 【入学者選抜の基本方針】 情報通信工学科では，一般入試（前期日程，中期日程），特別入試（推薦入試など）を実施し，複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています． 本学科の専門教育を受けるためには，高等学校で標準的な科目を履修し，特に以下の学力を身に付けていることが望まれます． １　情報工学部入学者選抜試験《一般入試》個別学力検査「数学」で指定された範囲の基礎知識を有していること． ２　「物理」に関する基礎知識を有していること． 各入学者選抜方式の概要は以下の通りです． ・一般入試（前期日程，中期日程） 基礎学力の把握のため，大学入試センター試験（4教科6科目）を課すとともに，個別学力検査（数学）では，記述式により解答させ，基礎知識，計算力，論理的な思考力，アイデア及び明快かつ正確な表現力等を総合評価します．中期日程では，個別学力検査に比重を置き，数理的思考力，論理的表現力等を重視します． ・推薦入試 書類（調査書及び推薦書）の審査及び個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理，英語）の基礎学力，思考能力，適性，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します． ・帰国生入試 書類の審査及び日本語による個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理）の基礎学力，思考能力，適性，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します． ・私費外国人留学生入試 書類（日本留学試験及びTOEFL(iBT)）の審査及び日本語による個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理）の基礎学力，思考能力，適性意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します．

3-(2)　情報システム工学科

（学位授与の方針）DP	情報システム工学科は，コンピュータの発展に貢献できる情報工学，力学に基礎を置くものづくりのための機械工学，人間と機械やコンピュータを結びつけるインタフェース工学などの学問を身に付け，領域横断型のエンジニアとしてのセンスを持って，新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成を目指しています． したがって，本学科では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた，日本語による記述力，口頭発表力，討議能力，企画提案力，技術英文の読解能力，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 数学，自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性２】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性３－１】 情報工学の知識を基盤として，機械工学，インタフェース工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている． 【専門性３－２】 コンピュータや機械をインテリジェント化した機器や実用的なソフトウェアシステム，組込みシステム，機械システムを設計する基礎能力を身に付けている． 【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し，主体性と協調性を持って課題を発見し解決できる能力と，技術者に求められる高い倫理観を身に付けている． 【生涯学習力】 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち，新しい知識や価値観を継続的に学修，吸収する態度を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	情報システム工学科では，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます． 【教養・多面的思考力】 自然科学だけでなく人文・社会科学，健康科学，社会連携に関する幅広い共通教育科目により，多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します． 【異文化理解・コミュニケーション力１】 語学国際に関する共通教育科目により，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養成します． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 「技術英語演習」，「システム創造プロジェクト」，「卒業研究」により，論理的思考に基づいた，日本語による記述力，口頭発表力，討議能力，企画提案力，技術英文の読解能力を養成します． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や専門科目により，地域が果たす役割を考え，地域の課題を発見し，その解決に向けた方策を自ら考え，地域と協働する能力を養います． 【専門性１】 カテゴリー「工学基礎」の授業科目により，自然界の法則や工学技術者としての基礎知識を身につけ，工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します． 【専門性２】 カテゴリー「情報工学基礎」の授業科目により，情報工学の基礎となる知識と応用力を養成します． 【専門性３－１】 「ソフトウェアシステム」，「機械システム」，「知的インタフェース」のカテゴリーを設け，情報工学，機械工学，インタフェース工学に関する幅広い知識と応用力，そして機器設計の基礎能力を養成します． 【専門性３－２】 カテゴリー「総合・創造」の科目をはじめ実験・演習科目により講義で学んだ幅広い知識を総合し設計等に応用する能力を養成します．自律型移動ロボットの設計・製作を学ぶ「システム創造プロジェクト」，CAD・CAE を利用した機械設計を学ぶ「機械デザイン演習」，CPU の設計を学ぶ「回路デザイン演習」，人工知能のプログラミングを学ぶ「知能プログラミング演習」等の授業科目を設けています． 【行動力・課題解決力１】 実験・演習科目により，主体性と協調性を持って課題を工学的に解決する能力を涵養します． 【行動力・課題解決力２】 １年を通じて卒業研究を行い，研究対象に関する深い知識の獲得や，発見した技術課題を解決に導くため，技術者倫理を遵守した計画立案・遂行能力を養います． 【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより 4 年間で系統的に修得した情報システム工学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として，常に進展する先端的な技術を自主的・継続的に学習し，自身の活動に活かすことができる能力を育成します．

（入学者受入の方針） AP	【人材育成像及び求める学生像】 情報システム工学科は，コンピュータの発展に貢献できる情報工学，力学に基礎を置くものづくりのための機械工学，人間と機械やコンピュータを結び付けるインタフェース工学などの学問を身に付け，領域横断型のエンジニアとしてのセンスを持って，新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成を目指しています． したがって，求める学生像は次のとおりです． ● 情報技術を積極的に活用したものづくりに興味のある学生 ● 情報工学・機械工学・インタフェース工学を幅広く学びたい学生 ● 人間の生活や社会活動を支援するため，インテリジェント型機器やシステムの設計能力を獲得したい学生 ● 情報工学と他の様々な専門領域を結ぶ領域横断型の新技術を創出したい学生 【入学者選抜の基本方針】 情報システム工学科では，一般入試（前期日程，中期日程），特別入試（推薦入試など）を実施し，複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています． 本学科の専門教育を受けるためには，高等学校で標準的な科目を履修し，特に以下の学力を身に付けていることが望まれます． １ 情報工学部入学者選抜試験《一般入試》個別学力検査「数学」で指定された範囲の基礎知識を有していること． ２ 「物理」に関する基礎知識を有していること． 各入学者選抜方式の概要は以下の通りです． ・一般入試（前期日程，中期日程） 基礎学力の把握のため，大学入試センター試験（4 教科 6 科目）を課すとともに，個別学力検査（数学）では，記述式により解答させ，基礎知識，計算力，論理的な思考力，アイデア及び明快かつ正確な表現力等を総合評価します．中期日程では，個別学力検査に比重を置き，数理的思考力，論理的表現力等を重視します． ·推薦入試 書類（調査書及び推薦書）の審査及び個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理，英語）の基礎学力，思考能力，適性，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します． ・帰国生入試 書類の審査及び日本語による個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理）の基礎学力，思考能力，適性，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します． ・私費外国人留学生入試 書類（日本留学試験及び TOEFL(iBT)）の審査及び日本語による個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理）の基礎学力，思考能力，適性，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します．

3－(3)　人間情報工学科

（学位授与の方針）DP	人間情報工学科の教育研究のキーワードは「人間中心の設計思想」です．身体とその「うごき」を扱う人間系のサイエンス並びに情報・コミュニケーションと密接に関連する情報系のエンジニアリングを融合的に学び，使う人の様々な特性やニーズの視点に立った「もの」や「サービス」の設計能力を身に付けた人材の育成を目指しています． したがって，本学科では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた，日本語による記述力，口頭発表力，討議能力，企画提案力，技術英文の読解能力，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 数学，自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性２】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性３－１】 情報工学の基礎を基盤として，人間工学および機器設計工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている． 【専門性３－２】 人体機能と環境変動の特性や人間の動作・行動の解析結果を活かしたシステムおよび人間の感性や生活環境に適合したソフトウェアを設計する基礎能力を身に付けている． 【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し，主体性と協調性を持って課題を発見し解決できる能力と，技術者に求められる高い倫理観を身に付けている． 【生涯学習力】 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち，新しい知識や価値観を継続的に学修，吸収する態度を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	人間情報工学科は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目を配置し，大学での学びについての理解を深めます． 【教養・多面的思考力】 自然科学だけでなく人文・社会科学，健康科学，社会連携に関する幅広い共通教育科目を配置し，多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します． 【異文化理解・コミュニケーション力１】 語学国際に関する共通教育科目により，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養成します． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 「卒業研究」をはじめとする実験・演習科目を配置することで，論理的思考に基づいた，日本語による記述力，口頭発表力，討議能力，企画提案力，技術英文の読解能力を養成します． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や，地域が果たす役割を考え，地域の課題を発見し，その解決に向けた方策を自ら考え，地域と協働する能力を養います． 【専門性１】 「数学系」のカテゴリーを設け，数学，物理および工学の基礎に関する科目を配置することで，自然界の法則や工学技術者としての基礎知識を身につけ，工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します． 【専門性２】 「情報系」のカテゴリーを設け，情報工学基礎の授業科目を配置することで，情報工学の基礎となる知識と応用力を養成します． 【専門性３－１】 カテゴリー「情報系」に情報工学の応用および電気・電子工学の基礎に関する授業科目を配置するとともに，「生体機能系」及び「機器設計系」のカテゴリーを設け，これらに関する基礎から応用までの授業科目を配置することで，情報工学，人間工学および機器設計工学に関する幅広い知識と応用力を養成します． 【専門性３－２】 「実験・演習」のカテゴリーを設け，基本から応用に至るスキルを修得する授業科目を配置するとともに，分野横断的な実験と考察を必要とする授業科目を配置することで，人間の生活環境の変化に適合したシステムの設計基礎能力を養成します． 【行動力・課題解決力１】 実験・演習科目の配置により，主体性と協調性を持って課題を工学的に解決する能力を涵養します． 【行動力・課題解決力２】 １年を通じて卒業研究を行い，研究対象に関する深い知識の獲得や，発見した技術課題を解決に導くため，技術者倫理を遵守した計画立案・遂行能力を養います． 【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより４年間で系統的に修得した人間情報工学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として，常に進展する先端的な技術を自主的・継続的に学習し，自身の活動に活かすことができる能力を育成します．

（入学者受入の方針）AP	【人材育成像及び求める学生像】 人間情報工学科の教育研究のキーワードは「人間中心の設計思想」です．身体とその「うごき」を扱う人間系のサイエンス並びに情報・コミュニケーションと密接に関連する情報系のエンジニアリングを融合的に学び，使う人の様々な特性やニーズの視点に立った「もの」や「サービス」の設計能力を身に付けた人材の育成を目指しています． したがって，求める学生像は次のとおりです． ● 人体機能の巧みさを工学の視点から解明したい学生 ● 人体機能と人間環境の調和を考慮した「もの」や「サービス」を開発したい学生 ● 情報工学の視点で地域社会の発展や国際社会との連携協力に参加し，貢献したい学生 【入学者選抜の基本方針】 人間情報工学科では，一般入試（前期日程，中期日程），特別入試（推薦入試など）を実施し，複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています． 本学科の専門教育を受けるためには，高等学校で標準的な科目を履修し，特に以下の学力を身に付けていることが望まれます． 1 情報工学部入学者選抜試験《一般入試》個別学力検査「数学」で指定された範囲の基礎知識を有していること． 2 「物理」に関する基礎知識を有していること． 各入学者選抜方式の概要は以下の通りです． ・一般入試（前期日程，中期日程） 基礎学力の把握のため，大学入試センター試験（4 教科 6 科目）を課すとともに，個別学力検査（数学）では，記述式により解答させ，基礎知識，計算力，論理的な思考力，アイデア及び明快かつ正確な表現力等を総合評価します．中期日程では，個別学力検査に比重を置き，数理的思考力，論理的表現力等を重視します． ・推薦入試 書類（調査書及び推薦書）の審査及び個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理，英語）の基礎学力，思考能力，適性，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します． ・帰国生入試 書類の審査及び日本語による個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理）の基礎学力，思考能力，適性，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します． ・私費外国人留学生入試 書類（日本留学試験及び TOEFL(iBT)）の審査及び日本語による個人面接を行い，一般教科（特に数学，物理）の基礎学力，思考能力，適性，意欲，コミュニケーション能力等を総合評価します．

4　デザイン学部

（学位授与の方針）DP	デザイン学部では，本学の理念に沿う実学の体現者として，豊かな教養と深い専門性を備え，新しい時代を切り拓く人材の育成を通じて，グローバルな視点で地域や社会の学術文化の進展及び産業の振興に貢献できる人材の育成を目指しています． したがって，本学部では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養・多面的思考力】 人間性を尊ぶ姿勢を学び，社会人としての基礎的教養を身につけ，幅広い視点の獲得により多面的に思考できる． 【倫理観】 デザイナーに求められる高い倫理観を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力】 日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，作品等を通じたコミュニケーション力，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性２】 領域デザインに求められる知識・技能を有し，それらを柔軟に活用することができる． 【専門性３】 領域デザインに求められる知識・技能を有し，かつ実社会で自律的に活用するため，学術文化や産業の振興を念頭に，社会の課題に取り組む研究能力や実務能力を有している． 【行動力・課題解決力】 持続的な発展・開発，少子高齢化への対策などの社会の要請に対し，デザインによる新たな視点を活かし，実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案ができる． 【生涯学習力】 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち，新しい知識や価値観を継続的に学修，吸収する態度を身に付け，自律的に活動できる．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	デザイン学部は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます． 【教養・多面的思考力】 自然科学，人文・社会科学，健康科学及び社会連携に関する幅広い共通教育科目により，多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します．また美術の歴史について，デザイン分野の基礎として学びます．さらに社会連携に関する共通教育科目では，地域社会との協働意識を養います． 【倫理観】 フレッシュマンセミナーを通じて，現場のデザイナーによる講義に触れることで，職業人としての良識及び倫理観を培います． また，専門教育において知的財産権などの講義により，デザイナーに求められる規範意識を養います． 【異文化理解・コミュニケーション力1】 語学国際に関する共通教育科目により，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養います． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 専門教育における各演習科目のプレゼンテーションや国際交流，卒業研究の発表会を通じて，日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，作品等を通じたコミュニケーション力を養います． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や専門科目により，地域が果たす役割を考え，地域の課題を発見し，その解決に向けた方策を自ら考え，専門的知識を活用して，地域と協働する能力を養います． 【専門性１】 １年次は，「学部基礎教育科目」や「学科専門教育科目」でデザイン史や色彩学などのデザイン理論やデザイン基礎演習を幅広く学び，デザイン基礎に関する知識・技能を養います． 【専門性２】 ２年次からは両学科とも領域に分かれて，新たな文化価値を創造するために必要な学科専門教育科目及び講義と演習が体系化された領域専門教育科目を履修します．学科専門教育科目では，各自の志向に基づき，自主的に選択できる演習科目を中心として編成しています．企画提案力に必要な発想から情報分析，課題解決までのプロセスを身に付けるために，領域専門教育科目は複数の専門領域が用意されており，横断的に学ぶことができるよう編成しています． 【専門性３】 自ら発見した課題解決のために，１年間を通じて卒業研究を履修します． 【行動力・課題解決力】 演習や正課外において，各種コンペ，地域ならびに国際交流の機会を活かし，作品発表やワークショップにチャレンジするとともに，学外者から与えられた課題や自ら発見した課題に取り組み，課題解決力を養います． 【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより４年間で系統的に修得したデザイン学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として，常に進展する技術やデザインの価値を見極め，自主的・継続的に学習し，自身の活動に活かすことができる能力・態度を養います．
（入学者受入の方針）AP	【人材育成像及び求める学生像】 デザイン学部は，情報化，グローバル化など刻々と変化する社会の動向を的確に把握することにより，自ら課題を発見し，豊かな生活文化の形成に必要な専門力とマネジメント能力を活かして，デザインによる解決を実行し，広く社会に貢献できる人材の育成を目指しています． したがって，求める学生像は次のとおりです． ● デザイナーあるいは関連の職種につく明確な意志をもち，そのための努力を惜しまず，挑戦し続けることのできる学生 ● 様々な科学を学ぶことによって，人間・自然・社会の関係性を主体的に分析・考察し，課題に取り組む力を身に付け，デザインによる解決にいかしたい学生 ● 自ら発見した課題をデザインによって表現し，解決するために，知性と感性の融合によるデザイン発想力・技術力・表現力を身に付けたい学生 ● 社会における課題を洞察し，新たな生活・文化の価値を創造するため，デザインによる解決策を考案し企画提案する力を身に付けたい学生 ● 日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，作品等を通じたコミュニケーション力，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けたい学生

4－(1)　デザイン工学科

DP（学位授与の方針）	デザイン工学科では，共通教育に加えて，製品・情報デザイン領域あるいは建築・都市デザイン領域での専門教育により，これらの関係性を知識・技能の修得を通じて学ぶことで，地域社会・国際社会の持続的発展のために，その能力を長きにわたって発揮できる，デザイナー・建築家等の実務担当者の育成を目指しています． したがって，本学科では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養・多面的思考力】 人間性を尊ぶ姿勢を学び，社会人としての基礎的教養を身につけ，幅広い視点の獲得により多面的に思考できる． 【倫理観】 デザイナーに求められる高い倫理観を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力】 日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，製品や作品提案等を通じたコミュニケーション力，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性２】 製品・情報デザイン領域及び建築・都市デザイン領域に求められる知識・技能を有し，それらを柔軟に活用することができる． 【専門性３】 製品・情報デザイン領域及び建築・都市デザイン領域に求められる知識・技能を活用し，学術文化や産業の振興を念頭に，社会の課題に取り組む研究能力や実務能力を有している． 【行動力・課題解決力】 持続的な発展・開発，少子高齢化への対策などの社会の要請に対し，デザインによる新たな視点やイノベーション対応能力を活かし，実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案ができる． 【生涯学習力】 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち，新しい知識や価値観を継続的に学修，吸収する態度を身に付け，自律的に活動できる．
CP（教育課程の編成・実施の方針）	デザイン工学科では，入学者受入方針に沿い，かつ学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような専門教育課程を編成しています． 【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます． 【教養・多面的思考力】 自然科学，人文・社会科学，健康科学及び社会連携に関する幅広い共通教育科目により，多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します．また，統計学の基礎について，数的データ処理の基礎として学びます．さらに社会連携に関する共通教育科目では，地域社会との協働意識を養います． 【倫理観】 フレッシュマンセミナーを通じて，現場のデザイナーによる講義に触れることで，職業人としての良識及び倫理観を培います．また，専門教育において知的財産権などの講義により，デザイナーに求められる規範意識を養います． 【異文化理解・コミュニケーション力１】 語学国際に関する共通教育科目により，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養います． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 専門教育における各演習科目のプレゼンテーションや，海外協定校とのワークショップ及び卒業研究の発表会を通じて，日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，作品等を通じたコミュニケーション力を養います． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や専門科目により，地域が果たす役割を考え，地域の課題を発見し，その解決に向けた方策を自ら考え，専門的知識を活用して，地域と協働する能力を養います． 【専門性１】 １年次は，「学部基礎教育科目」や「学科専門教育科目」でデザイン史や色彩学などのデザイン理論やデザイン基礎演習を幅広く学び，デザイン基礎に関する知識・技能を養います．なお，デザイン工学科生に求められる，立体や空間表現力の基礎として，モデリングやデザイン・ドローイングを学びます． 【専門性２】 ２年次より「領域専門教育科目」が加わり，学生は「製品・情報デザイン領域」あるいは「建築・都市デザイン領域」何れかの専門科目を新たに履修します．これにより，各領域の学びを深化させ，デザイン基礎技能，発想力，問題発見力，問題解決力としての企画・提案力等の獲得を目指します． ・製品・情報デザイン領域では，プロダクトデザインや，エクスペリエンスデザイン，情報デザインの講義・演習の横断的に選択出来るよう科目を編制し，招来のキャリアプランへの判断が早期かつ柔軟にできるようにしています． ・建築・都市デザイン領域では，卒業時に国家資格である一級・二級建築士，木造建築士の受験資格を得るのに必要な国土交通省指定の科目を準備し（ただし受験資格によっては実務経験も要求される），設計製図・建築計画・環境工学・建築設備・構造力学から法規や都市計画まで幅広く学習します．３年次以降は，企業や官公庁でのインターンシップやデザイン実習を通じて，実社会での業務経験の機会を得るように努める一方で，卒業生および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等により，職業としてのデザインの実際に接することに努めます．また各領域においては，ポートフォリオの作成をうながし，進路に応じたアドバイスを受けます． 【専門性３】 ４年次では，各領域で学んだ専門知識と技能を活かし，自ら発見した課題解決のために１年間を費やし「卒業研究」を履修します．卒業研究では，学科全教員の参加する中間・最終の２度の発表とその際の指導を経て，卒業作品ならびに卒業論文もしくは卒業研究ノートを作成します．作品は展覧会形式にて学外で発表され，自己の研究成果を社会に発信し，評価を得る機会としています． 【行動力・課題解決力】 演習や正課外において，各種コンペ，地域ならびに国際交流の機会を活かし，作品発表やワークショップにチャレンジするとともに，学外者から与えられた課題や自ら発見した課題に取り組み，課題解決力を養います． 【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより４年間で系統的に修得したデザイン学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として，常に進展する技術やデザインの価値を見極め，自主的・継続的に学習し，自身の活動に活かすことができる能力・態度を養います．また「インターンシップ」や卒業生および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等により，継続的な研鑽の必要性を学びます．

（入学者受入の方針） AP	【人材育成像及び求める学生像】 デザイン工学科は，工業製品のデザイン，情報デザイン，建築設計あるいは都市計画などの領域において，地域社会・国際社会を問わず，その知識・技能を遺憾なく発揮できるデザイナー・建築家の育成を目指しています. したがって，求める学生像は次のとおりです. ● 自己の将来像，職業人像をプロダクトデザイナー，情報デザイナーあるいは関連の職種に求め，そのための自己研鑽により，自己実現に向けて挑戦し続けることのできる学生 ● 自己の将来像，職業人像を建築家あるいは関連の職種に求め，そのための自己研鑽により，自己実現に向け挑戦し続けることのできる学生 ● 諸科学の知識や技能の学びを通じて，知性と感性を融合させ，デザイン工学諸分野に必要なデザイン発想力やコンピュータ等による製品，情報，空間等の造形技術力ならびに表現力を身に付けたい学生 ● 社会における課題を洞察し，新たな生活・文化の価値を創造するため，製品デザイン，情報デザイン，建築デザイン等による解決策を考案し，企画提案力及び企画展開のマネジメント力を身に付けたい学生 ● 日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，作品等を通じたコミュニケーション能力，ならびに外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付け，多様な人々との協働により地域や国際社会に貢献したいと考える学生 【入学者選抜の基本方針】 デザイン工学科では，一般入試（前期日程），特別入試（推薦入試など）を実施し，複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています. 各入学者選抜方式の概要は以下の通りです. ・一般入試（前期日程） 大学入試センター試験および，個別学力検査として実技試験（鉛筆デッサン）を課します. 大学入試センター試験では，「外国語」を必須とし，その他の科目から2又は3（理科の「基礎を付した科目」から2及び理科以外の教科の科目から1）科目を課すとともに，実技試験では，デザイン工学分野に必要な，観察力，構成力，描写力を総合評価します. ・推薦入試 実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します. 実技では，デザイン工学分野に必要な，観察力，構成力，描写力を総合評価します．面接では，個人面接を行い，自然科学や社会科学，歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう，出願書類を参考に，高等学校あるいは中等学校で得た基礎学力，志望動機，学習意欲，デザインに対する適性，コミュニケーション能力等を，総合評価します. ・ 帰国生入試 書類審査，実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します. 書類審査では，自然科学や社会科学，歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう，日本の高等学校で修得される程度の基礎学力について評価します. 実技では，デザイン工学分野に必要な，観察力，構成力，描写力を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，志望動機，学習意欲，デザインに対する適性，コミュニケーション能力等を，総合評価します. ・私費外国人留学生入試 出願時に書類審査を行い，実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します. 書類審査では，自然科学や社会科学，歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう，日本語および基礎学力を日本留学試験成績およびTOEFLあるいはTOEFL iBTの得点により評価します. 実技試験では，デザイン工学分野に必要な，観察力，構成力，描写力を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，出願書類を参考に，志望動機，学習意欲，デザインに対する適性，コミュニケーション能力等を，総合評価します.

4－(2)　造形デザイン学科

（学位授与の方針）DP	造形デザイン学科では，共通教育に加えて，ビジュアルデザイン領域あるいは造形デザイン領域における専門教育により，これらの関係性を知識・技能の修得を通じて学ぶことで，地域社会・国際社会の持続的発展のために，その能力を長きにわたって発揮できる，デザイナー・造形スペシャリスト等の実務担当者の育成を目指しています． したがって，本学科では次の能力を身に付け，かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します． 【教養・多面的思考力】 人間性を尊ぶ姿勢を学び，社会人としての基礎的教養を身につけ，幅広い視点の獲得により多面的に思考できる． 【倫理観】 デザイナーに求められる高い倫理観を身に付けている． 【異文化理解・コミュニケーション力】 日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，作品提案等を通じたコミュニケーション力，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている． 【専門性１】 デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力を身に付けている． 【専門性２】 ビジュアルデザイン領域及び造形デザイン領域に求められる知識・技能を有し，それらを柔軟に活用することができる． 【専門性３】 ビジュアルデザイン領域及び造形デザイン領域に求められる知識・技能を活用し，学術文化や産業の振興を念頭に，社会の課題に取り組む研究能力や実務能力を有している． 【行動力・課題解決力】 持続的な発展・開発，少子高齢化への対策などの社会の要請に対し，デザインによる新たな視点や文化的価値の創造力を活かし，実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案ができる． 【生涯学習力】 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち，新しい知識や価値観を継続的に学修，吸収する態度を身に付け，自律的に活動できる．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	造形デザイン学科では，入学者受入方針に沿い，かつ学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような専門教育課程を編成しています． 【導入教育】 修学基礎に関する共通教育科目により，大学での学びについての理解を深めます． 【教養・多面的思考力】 自然科学，人文・社会科学，健康科学及び社会連携に関する幅広い共通教育科目により，多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を養成します．また，日本語の文章作法について，ストーリーづくりの基礎として学びます．さらに社会連携に関する共通教育科目では，地域社会との協働意識を養います． 【倫理観】 フレッシュマンセミナーを通じて，現場のデザイナーによる講義に触れることで，職業人としての良識及び倫理観を培います．また，専門教育において知的財産権などの講義により，デザイナーに求められる規範意識を養います． 【異文化理解・コミュニケーション力１】 語学国際に関する共通教育科目により，外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を養います． 【異文化理解・コミュニケーション力２】 専門教育における各演習科目のプレゼンテーションや海外協定校とのワークショップ及び卒業研究の発表会を通じて，日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，作品等を通じたコミュニケーション力を養います． 【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 「岡山創生学」等の社会連携科目や専門科目により，地域が果たす役割を考え，地域の課題を発見し，その解決に向けた方策を自ら考え，専門的知識を活用して，地域と協働する能力を養います． 【専門性１】 １年次は，「学部基礎教育科目」や「学科専門教育科目」でデザイン史や色彩学などのデザイン理論やデザイン基礎演習を幅広く学び，デザイン基礎に関する知識・技能を養います．なお，造形デザイン学科生に求められる，造形力・構成力・コミュニケーション力の基礎として，平面構成，立体構成，空間造形ならびにメディアコミュニケーションについて学びます． 【専門性２】 ２年次より「領域専門教育科目」が加わり，学生は「ビジュアルデザイン領域」あるいは「造形デザイン領域」何れかの専門科目を新たに履修します．これにより，各領域の学びを深化させ，デザイン基礎技能，発想力，問題発見力，問題解決力としての企画・提案力等の獲得を目指します． ・ビジュアルデザイン領域では，グラフィック・写真・映像・CG・Web など様々な分野を組み合わせ社会のニーズを意識しながらビジュアルデザインを学修すると共に，デザインビジネス展開のための企画提案を行います． ・造形デザイン領域では，木工・陶磁・染織・印刷などの伝統文化に新しい発想を組み入れ，芸術性の高い造形の可能性を探ってゆくと共に，立体・空間・メディア等の特性を活かし生活文化に貢献できる企画提案を行います． ３年次以降は，領域専門科目の履修を中心に，より深くデザイン専門知識や技能を修得していきます．また，デザイン事務所や企業等での実務経験の機会となる「インターンシップ」や卒業生および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等により，キャリア形成に対する意識を高め卒業後の進路を明確化させ，実社会に通用する力を養ってゆきます．また各領域においては，ポートフォリオの作成をうながし，進路に応じたアドバイスを受けます． 【専門性３】 ４年次では，各領域で学んだ専門知識と技能を活かし，自ら発見した課題解決のために１年間を費やし「卒業研究」を履修します．卒業研究では，学科全教員の参加する中間・最終の２度の発表と指導を経て，卒業作品ならびに卒業研究ノートを作成します．作品は展覧会形式にて学外で発表され，自己の研究成果を社会に発信し，評価を得る機会としています． 【行動力・課題解決力】 演習や正課外において，各種コンペ，地域ならびに国際交流の機会を活かし，作品発表やワークショップにチャレンジするとともに，学外者から与えられた課題や自ら発見した課題に取り組み，課題解決力を養います． 【生涯学習力】 体系的なカリキュラムにより４年間で系統的に修得したデザイン学に関する広範囲な分野の専門的知識を基礎として，常に進展する技術やデザインの価値を見極め，自主的・継続的に学習し，自身の活動に活かすことができる能力・態度を養います．また「インターンシップ」や卒業生および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等により，継続的な研鑽の必要性を学びます．

（入学者受入の方針） AP	【人材育成像及び求める学生像】 造形デザイン学科は，デザインによって地域特性を考慮した問題及びグローバルな視点で課題解決に取組み，人間・社会・自然の関係性に十分配慮し，社会に貢献できるデザイナー及び造形のスペシャリストの育成を目指しています. したがって，求める学生像は次のとおりです. ● 自己の将来像，職業人像をビジュアルデザイナー，造形デザイナーあるいは関連の職種に求め，そのための自己研鑽により，自己実現に向けて挑戦し続けることのできる学生 ● 豊かな人間性と美を見極める感性，柔軟で論理的な思考力及び社会に企画提案できるデザインマネジメント力を身に付けたいと考える学生 ● 諸科学の知識や技能の学びを通じて，知性と感性を融合させ，造形デザイン諸分野に必要なデザイン発想力や平面，映像，立体，空間等の造形技術力ならびに表現力を身に付けたい学生 ● 社会における課題を洞察し，ビジュアルコミュニケーションデザインを解決策として考案し，企画提案力及び企画展開のマネジメント力を身に付けたい学生，または，アートとクラフトの融合分野において解決策を考案し，企画提案力及び企画展開のマネジメント力を身に付け，生活文化の価値を創造したいと考える学生 ● 日本語による記述力，口頭発表力，企画提案力，作品等を通じたコミュニケーション能力，ならびに外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付け，多様な人々との協働により地域や国際社会に貢献したいと考える学生 【入学者選抜の基本方針】 造形デザイン学科では，一般入試（前期日程），特別入試（推薦入試など）を実施し，複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることを目指しています. 各入学者選抜方式の概要は以下の通りです. ・一般入試（前期日程） 大学入試センター試験および，個別学力検査として実技試験（鉛筆デッサン）を課します. 大学入試センター試験では，「外国語」「国語」等の基礎学力の把握のため，大学入試センター試験（３科目３教科）を課すとともに，実技試験では，造形デザイン分野に必要な，観察力，構成力，描写力を総合評価します. ・推薦入試 実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します. 実技試験では，造形デザイン分野に必要な，観察力，構成力，描写力を総合評価します．面接では，個人面接を行い，自然科学や社会科学，歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう，出願書類を参考に，高等学校あるいは中等学校で得た基礎学力，志望動機，学習意欲，デザインに対する適性，コミュニケーション能力等を，総合評価します. ・ 帰国生入試 書類審査，実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します. 書類審査では，自然科学や社会科学，歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう，日本の高等学校で修得される程度の基礎学力について評価します. 実技では，造形デザイン分野に必要な，観察力，構成力，描写力を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，志望動機，学習意欲，デザインに対する適性，コミュニケーション能力等を，総合評価します. ・私費外国人留学生入試 出願時に書類審査を行い，実技試験（鉛筆デッサン）及び面接（書類を含む）を実施します．書類審査では，自然科学や社会科学，歴史などの幅広い学問に主体的に取り組めるよう，日本語および基礎学力を日本留学試験成績および TOEFL あるいは TOEFL iBT の得点により評価します. 実技試験では，造形デザイン分野に必要な，観察力，構成力，描写力を総合評価します．面接では，日本語による個人面接を行い，出願書類を参考に，志望動機，学習意欲，デザインに対する適性，コミュニケーション能力等を，総合評価します.

B　大学院ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー

※　表における表記は次のとおり．
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）：ＤＰ
カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）：ＣＰ
アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）：ＡＰ

1　保健福祉学研究科

ＤＰ（学位授与の方針）	保健福祉学研究科は，保健・医療・福祉分野における問題点を提起してそれを解決し得る研究能力を持つとともに，専門職としての高度な知識・技術を身に付けることにより，健康で夢の持てる地域社会の実現に貢献し得る人材の育成を目指しています． したがって，本研究科では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● 保健・医療・福祉分野における問題点を発見し，それを理論的に解決できる研究能力を身に付けている． ● 高度な知識と技術を備え，豊かな地域社会の実現に向けて指導者，実践者として活躍できる能力を身に付けている． ● グローバルな視野を持った専門職として国際貢献できる能力を身に付けている．
ＣＰ（教育課程の編成・実施の方針）	保健福祉学研究科は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　広い視野に立って精深な学識を授け，専攻分野における研究能力とグローバルな視野並びに高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うための博士前期課程と，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い，又はその他高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識並びにグローバルな視野を養うことを目的とした博士後期課程（保健福祉科学専攻）を置いています． 2　博士前期課程は，看護学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い，看護技術やケアシステムに関連した諸問題を解決できる人材を育成する看護学専攻，栄養学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い，食品の機能や臨床栄養などの人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決できる人材を育成する栄養学専攻及び保健福祉学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い，保健福祉に関連した臨床や政策の諸問題を解決できる人材を養成する保健福祉学専攻の３専攻を置いています． 3　博士後期課程は保健福祉科学専攻からなり，看護・栄養・福祉のそれぞれの分野において高度の見識と，より専門的な視点から科学的にアプローチする研究を行うための３大講座を置いています． 4　カリキュラムは，それぞれの専攻のカリキュラム・ポリシーに従って，講義・演習科目と特別研究から編成しています．
ＡＰ（入学者受入の方針）	保健福祉学研究科が求める学生像は次のとおりです． ● 保健・医療・福祉分野における基本的な問題から応用的な問題を解決し得る国際的な研究者を目指す学生 ● 豊かな地域社会の実現に向け，官・民・産を問わず教育，研究機関で活躍する教育者，研究者を目指す学生 ● 高度の知識・技術を身に付けた専門職として，社会において指導的な実践者を目指す学生

1－(1)　看護学専攻（博士前期課程）

ＤＰ（学位授与の方針）	看護学専攻は，学際的で高い看護の専門的知識と基礎的な研究能力を活かして，保健医療福祉分野における課題を解決し，国内外の看護における実践・教育・研究の場で社会のニーズに応え，貢献できる人材の育成を目指しています． したがって，本専攻では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● ヒューマン・ケアリングと科学的根拠に基づく看護実践力を身に付けている． ● 看護における現象を科学的根拠に基づいて説明し，課題を提起する能力を身に付けている． ● 国際的・研究的視点を持ち看護の質向上に向けて貢献できる能力を身に付けている． ● 看護のリーダーやスペシャリストとして，国内外で活躍できる能力を身に付けている．
ＣＰ（教育課程の編成・実施の方針）	看護学専攻は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　看護学の教育・研究に必要な基礎的理論や研究技法及び外国文献の読解力を学修する「看護学専攻共通科目」と「基礎看護学」「発達看護学」「広域看護学」の各専門分野から構成しています． 2　幅広く保健医療福祉に共通する３専攻共通科目では，保健福祉学特論，災害援助特論・演習や国際コミュニケーション特論等を履修できます． 3　「基礎看護学」では，生命科学特論や基礎看護学特論等の講義・演習を通して，看護のエビデンス検証や確立を志向します． 4　「発達看護学」では，小児・母性・成人・老年期のライフステージ特有の看護に関する課題を探求し，人々の健康と豊かな人生を支援できる看護の方法論やシステム構築に貢献することを目指しています． 5　「広域看護学」では，公衆衛生看護学・在宅看護学・国際保健看護特論・精神保健看護学特論を履修し，生涯を通じた人々の心とからだの健康を学際的に探究し，グローバルな視点から根拠に基づく課題解決を図り，看護の質向上にむけて先導できることを目指しています． 6　「広域看護学」では，修士論文に加えて保健師国家試験受験資格を満たす科目を開講し，高度な実践力とリーダーシップを発揮して社会に貢献できる保健師を養成します．
ＡＰ（入学者受入の方針）	看護学専攻が求める学生像は次のとおりです． ● 看護を科学的，論理的に考究し，ヒューマン・ケアリングと科学的根拠に基づく看護の実践力を身に付けたい学生 ● 専門分野における知識や技術を高めるとともに研究開発能力を身に付けたい学生 ● 新しいケアの方法やシステム開発を目指す学生 ● グローバルな視点で看護実践と研究を志向するとともに国際貢献をしたい学生 ● 保健師として明確な目的意識を持ち，将来地域においてリーダーとして活躍したい学生

1－(2)　栄養学専攻（博士前期課程）

DP（学位授与の方針）	栄養学専攻は，食品の機能や臨床栄養などの人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決できる優れた専門性を備えるとともに，豊かな創造力と問題解決能力を身に付け，それぞれの領域で活躍できる人材の育成を目指しています． したがって，本専攻では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● 栄養学領域における理論と技術を身に付けている． ● 人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決するための専門性や研究能力を身に付けている． ● 栄養学領域における専門的な技術や知識を地域・世界に向けて発信できる能力を身に付けている． ● 栄養士のリーダーとして，国内外で活躍できる能力を身に付けている．
CP（教育課程の編成・実施の方針）	栄養学専攻は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　栄養情報学講座，食デザイン学講座，基礎栄養学講座及び食品栄養学講座を置き，教育研究を実施します． 2　栄養情報学講座では，情報解析技術を活用したデータ解析法と新しい理論構築を基に，近年急速に問題となってきた肥満，糖尿病，脂質異常症をはじめとする生活習慣病の予防と治療を目指した教育・研究並びにスポーツ栄養学の教育・研究を行い，栄養学の最先端の分野で活躍できる能力を育成します． 3　食デザイン学講座では，幼児，児童・生徒，高齢者の栄養指導や調理指導，あるいは一般消費者の食生活全般を対象にした食育において，デザインや色彩の手法を取り入れて効果を得るための教育・研究を行い，食デザイン学の分野のリーダーとして活躍できる能力を育成します． 4　基礎栄養学講座では，一連の生命現象を遺伝子，生体分子，個体，集団などのレベルごとに理解し，さらに未知なる理論を展開して発展させる力を養うための教育・研究を行い，栄養学の基礎と臨床を結ぶことができる能力，並びに栄養学分野の教育・研究機関にて活躍できる能力を育成します． 5　食品栄養学講座では，栄養学を基盤とした天然物化学，酵素化学，分子遺伝学的アプローチにより，新規機能性食品成分の発見や新たな機能性食品素材の開拓，さらに食中毒の原因解明や予防に基づく食品の安全性の評価方法を開発し，健康増進と疾病予防を目標とした安全かつ高機能を有する食品素材の探求を志向した教育・研究を行い，管理栄養士のエキスパートとして食品関連企業，教育研究機関や行政機関において先導的に活躍できる能力を育成します． 6　外国人による科目を設定しグローバルな視野を育成します．
AP（入学者受入の方針）	栄養学専攻が求める学生像は次のとおりです． ● 栄養学関連の教育施設で教育・研究に携わることを目指す学生 ● 医療機関や保健福祉施設で治療栄養に携わる専門的管理栄養士を目指す学生 ● 栄養研究機関や医療栄養関連企業の栄養研究部門で試験・研究に携わることを目指す学生 ● 自治体などの保健施設で地域栄養活動に携わり，栄養指導などのコーディネータを目指す学生

1－(3)　保健福祉学専攻（博士前期課程）

DP（学位授与の方針）	保健福祉学専攻は，保健福祉学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い，保健福祉に関連した臨床や政策の諸問題を解決できる優れた専門性を備えた人材の育成を目指しています． したがって，本専攻では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● 保健福祉領域における高度な知識，理論と技術及び論理性を身に付けている． ● 保健福祉領域における諸問題を解決するための研究を計画・遂行・発表する基礎能力を身に付けている． ● 生涯にわたって自己研鑽する姿勢と習慣を持ち，国内外の新しい問題に創造的に対応できる力を身に付けている．
CP（教育課程の編成・実施の方針）	保健福祉学専攻は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　政策科学講座，社会福祉支援学講座及び保健福祉支援学講座を置き，教育研究を実施します． 2　政策科学講座では，社会保障や児童・高齢者・障害者福祉分野等における制度，政策行政などに関する理論やデータの分析・評価方法を追求する科目を設置しています． 3　社会福祉支援科学講座では，児童，高齢者，障害者，病者のウェルビーイングを達成するための臨床的方法・技術の開発・評価及びそれらの理論化を追求する科目を設置しています． 4　保健福祉支援科学講座では，児童，高齢者，障害者など多様な人々の適応行動に関わる心理的・身体的特性の科学的な分析を基礎にした保健福祉実践につながる理論と方法を追求する科目を設置しています． 5　当該講座分野の理論と実践の前進に寄与しうる高度な研究成果を生み出すことができるよう，主指導教員を中心としながら段階的・系統的に研究指導を行います．
AP（入学者受入の方針）	保健福祉学専攻が求める学生像は次のとおりです． ● 「やさしさ」，「思いやり」，「人間性」といった豊かな社会性と科学性を備え，保健福祉領域でのリーダーとして活躍したい学生 ● 保健福祉領域における専門職として明確な目的意識を持ち，高度な知識や技術及び論理性を基礎にして，科学的方法によって問題の解決に当たりたい学生 ● 高い挑戦意欲を持って，保健福祉領域の未開拓の領域の研究に情熱を燃やすことができる学生 ● グローバルな視点での保健福祉実践・研究に興味を持ち，国際貢献を果たしたい学生

1－(4)　保健福祉科学専攻（博士後期課程）

（学位授与の方針）DP	保健福祉科学専攻は，人間の健康問題に関して，生命や栄養，看護・福祉など各方面からアプローチし，保健福祉科学に係る学問をさらに深化させることにより，保健福祉問題の解決策を提案できる高度な見識を備えた各専門職領域の実践者，指導者，研究者及び教育者の育成を目指しています． したがって，本専攻では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● 保健福祉科学の学問体系の確立と発展に寄与し，学際的研究を自立して展開する能力を身に付けている． ● 自らの得た成果を地域・世界に向けて発表するグローバルな情報収集及び発信能力並びに地域・国際社会で活躍できる能力を身に付けている． ● 保健福祉科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち，科学的基盤に基づいて研究若しくは教育を実践できる能力を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	保健福祉科学専攻は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　保健福祉に関わる学問をさらに深化させ，看護・栄養・福祉のそれぞれの分野において高度の見識と，より専門的な視点から科学的にアプローチする研究を行うために，本専攻に看護学大講座，栄養学大講座，保健福祉学大講座の３大講座を置いています．また，外国人を担当教員とし，英語で講義する科目の設定並びに海外協定校との共同研究の実施により，グローバル教育を行います． 2　看護学大講座では，看護実践を通して生じる諸現象やケアそのものを科学的に解明していくため，慢性疾患患者やがん患者及びその家族が抱える諸問題や，高齢者等のケアニーズに対応する看護システムやケア開発，看護の質向上に資する教育・研究を行います．教育課程は基礎看護学，成人看護学，小児看護学，母性看護学，地域看護学，精神看護学の各分野の講義並びに博士論文指導を中心とした看護学特別研究からなります． 3　栄養学大講座では，食事に伴う栄養現象を分子生物学的アプローチにより解明し，病気の予防に活かすため，食品中の新規有効成分の解明，食品の安全性の追求，慢性疾患における代謝調節系の役割の解明を目指した研究を行います．教育課程は分子生物学，栄養科学，食品科学，病原微生物学の各分野の講義並びに博士論文指導を中心とした栄養学特別研究からなります．また，外国人による科目を設定しグローバルな視野を育成します． 4　保健福祉学大講座では，児童，障害者，高齢者を主な対象として，その自立支援に関する研究を行います．教育課程は，家族保健福祉学，児童保健福祉学，高齢者保健福祉学，障害者保健福祉学，地域保健福祉学，国際保健福祉学の各分野の講義並びに博士論文指導を中心とした保健福祉学特別研究からなります．
（入学者受入の方針）AP	保健福祉科学専攻が求める学生像は次のとおりです． ● 人間の健康に関する諸問題を解決するために，専門の知識や技術，高度な学問的見識を修得し，自立して研究できる研究者を目指す学生 ● 地域における保健福祉問題を掘り起こして，その対策を立案して，地域における制度や計画作りに参加できるリーダーシップを持った研究者を目指す学生 ● 教育機関や企業，各種研究機関において自立して高度な教育研究に取り組める教育者及び研究者を目指す学生

2　情報系工学研究科

（学位授与の方針）DP	情報系工学研究科は，情報工学部における学士課程の教育目標の延長線上にその教育目標を置き，情報技術を活用して，人間及び自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に大いに貢献できるグローバル人材の育成を目指しています． したがって，本研究科では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● 情報工学とそれに密接に関連する工学について，高度な専門性と技術を身に付けている． ● 得られた知識を融合的に活用して，新たな技術開発・理論展開を持って社会の発展に貢献できる能力を身に付けている． ● 技術者に求められる高い倫理観，多面的な思考力，それらに培われた実行力や行動力を備えたうえで，自身の専門分野でリーダーシップを発揮できる能力を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	情報系工学研究科は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　システム工学という専攻名のもと，連携性のある教育・研究体制を敷き，個々の学生が望む価値の多様性に対応できるよう，選択科目を多く設けています． 2　博士前期課程では，修士の学位を取得することを目的として，情報工学及びその関連分野である電子情報通信工学，機械情報システム工学，人間情報システム工学の３つの領域を専攻内に設け，研究分野に応じた教育・研究ができるようにしています． 3　博士後期課程では，博士の学位を取得することを目的として，情報工学及びその関連分野である電子情報通信工学，機械情報システム工学，人間情報システム工学の３つの領域を専攻内に設け，研究分野に応じたより深い教育・研究ができるようにしています． 4　カリキュラムは，それぞれの課程のカリキュラム・ポリシーに従って，講義演習科目と特別研究から編成されています．いずれの課程においても教員による活発な議論と研究指導に加え，研究科として，また他研究科とも協力してグローバルな幅広い視野と高い応用や研究スキルを涵養します．
（入学者受入の方針）AP	情報系工学研究科が求める学生像は次のとおりです． ● 情報処理，情報通信，機械システム，人間工学などの分野において，これらに関する理論や技術を深く修得し，急速に発展する高度技術社会に貢献することに情熱を傾けたい学生 ● 現在，情報工学についての知識は十分ではなくとも，今まで培ってきた専門分野に，情報工学関連技術を取り込み活用・発展させようとの希望を抱いている学生 ● 急速に進歩し，変化する産業社会からの多様な要請に応えるべく，既存の枠組みにとらわれない総合的かつ先端的な技術を修得し，産業社会に貢献しようとする学生

2-(1)　システム工学専攻（博士前期課程）

（学位授与の方針）DP	システム工学専攻は，研究者あるいは技術者の立場から，高度情報化社会の中枢となって産業社会の発展を支えていく人材，幅広い技術的基盤を基に「実システム」の創造的な設計ができる人材，豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた人材，環境変化や産業構造の変化に柔軟に適応できる判断力とコミュニケーション能力を持つグローバル人材の育成を目指しています． したがって，本専攻では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● 工学に対する専門的な知識と応用力を身に付けている． ● 現実の複雑かつ困難な問題に柔軟に対処し，解決できる能力を身に付けている． ● 急速に発展する高度な技術社会をリードできる研究能力を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	システム工学専攻（博士前期課程）は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　情報工学とそれに関連する工学分野の急速な発展に対応できるように，電子情報通信工学，機械情報システム工学及び人間情報システム工学の３つの領域を専攻内に設け，学士課程との連続性も踏まえ，教育研究を実施します． 2　電子情報通信工学領域では，次世代ICT技術の開発・展開に必要となる情報処理工学，情報通信工学及び情報電子工学の３分野の専門知識を融合的に修得し，応用力を身に付けるための科目を設置しています． 3　機械情報システム工学領域では，情報工学と機械工学を融合した次世代技術の開発・展開に必要となるソフトウェアシステム工学，知的インタフェースシステム工学及び機械・エネルギーシステム工学の３分野の専門知識を融合的に修得し，応用力を身に付けるための科目を設置しています． 4　人間情報システム工学領域では，人間の生活支援に関する次世代技術の開発・展開に必要となるインテリジェントシステム，スポーツ・ヒューマンダイナミクス及び人間支援工学の３分野の専門知識を融合的に修得し，応用力を身に付けるための科目を設置しています． 5　領域にのみ留まらず複数教員による活発な議論と研究指導により，グローバルな幅広い視野と高い応用力を涵養します．
（入学者受入の方針）AP	システム工学専攻が求める学生像は次のとおりです． ● 電子情報通信工学，機械情報システム工学，人間情報システム工学等の分野で高度な専門技術者あるいは研究者を目指す学生 ● 高度情報化社会の発展に，斬新な構想力と実践力を身に付けた技術者として貢献したい学生 ● 専門学術領域を通じて地域産業の振興をリードする意欲のある学生 加速度的に進展する高度情報化社会の中で，産業社会構造の変化に柔軟に対処し，新しい工学分野を共に創造し，新世紀を切り拓く，若さと夢を持った研究指向の技術者を目指す学生の挑戦を期待しています．

2-(2)　システム工学専攻（博士後期課程）

（学位授与の方針）DP	システム工学専攻は，今後ますます多様化，複雑化する社会からの要請に応えるべく，公的研究機関のみならず民間企業において，情報系の学術分野を現実課題の解決に適応できる研究者及び高度専門技術者を養成することを目標に，専門領域の深化と統合を通じて，新たな問題を発掘し解決する能力を持つグローバル人材の育成を目指しています． したがって，本専攻では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● 工学に対する深い専門的知識と幅広い応用力を身に付けている． ● 自らの得た成果を地域・世界に向けて発表するグローバルな情報発信能　力並びに地域・国際社会で活躍できる能力を身に付けている． ● システム工学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち，科学　的基盤に基づいて研究若しくは教育を実践できる能力を身に付けている．
（教育課程の編成・実施の方針）CP	システム工学専攻（博士後期課程）は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　情報工学及びその関連分野である電子情報通信工学，機械情報システム工学，人間情報システム工学の３つの領域を専攻内に設け，学生は希望する研究分野に応じていずれかの領域に所属します． 2　電子情報通信工学領域では，情報処理工学，情報通信工学，情報電子工学の３分野を設け，専門領域における先端的研究を実施します． 3　機械情報システム工学領域では，ソフトウェアシステム工学，知的インタフェースシステム工学，機械・エネルギーシステム工学の３分野を設け，専門領域における先端的研究を実施します． 4　人間情報システム工学領域では，インテリジェントシステム，スポーツ・ヒューマンダイナミクス，人間支援工学の３分野を設け，専門領域における先端的研究を実施します． 5　所属領域の講義から高度な専門知識を修得するとともに，所属外領域の講義の履修により知識の展開力を錬成します． 6　領域にのみ留まらず複数教員による活発な議論と研究指導により，グローバルな幅広い視野と高い研究能力を涵養します．
（入学者受入の方針）AP	システム工学専攻が求める学生像は次のとおりです． ● 情報処理，情報通信，システム工学などの分野において，理論や技術を深く修得し，新たな問題を発見し解決することによって，産業社会に貢献することに情熱を傾ける学生 ● 産業社会の多様な要請に応えるべく，既存の枠組みにとらわれない総合的・先端的知識や技術を切り開くとともに，企業活動を社会貢献に導くことを希求する学生 特色ある３学科を基礎にする岡山県立大学大学院情報系工学研究科において，自らの専門分野の深化と他分野との複合化・融合化を通じて，自ら問題を発見し解決できる総合的能力を身に付けることを期待しています．

3　デザイン学研究科

DP（学位授与の方針）	デザイン学研究科は，グローバルな視野と感性を持ち，社会を的確にとらえ時代の変化を洞察することで，将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し，豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材の育成を目指しています． したがって，本研究科では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● デザインに係る十分な情報分析能力及び理論構築力を身に付けている． ● 独創的で造形性豊かなデザインを発信できる能力を身に付けている． ● グローバルな視野と感覚を持ち，独自の優れた個性を発揮できるデザイン制作能力を身に付けている． ● 高度な専門性とマネジメント力を身に付けている．
CP（教育課程の編成・実施の方針）	デザイン学研究科は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　グローバルな視野と感性と独創的で造形性豊かなデザインを発信できる能力を身に付けるために，カリキュラムは，専攻及び領域の連携を図るべく編成されており，専攻共通科目，領域科目に区分しています． 2　専攻共通科目は，両専攻に必要とされる美学・美術史系の科目を中心として編成しており，現代における造形文化を考察し，解明するための視座の獲得を図ります． 3　豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材育成のため，領域科目では，所属する領域での高度な専門知識，能力，技術を養う科目により編成しています．
AP（入学者受入の方針）	デザイン学研究科が求める学生像は次のとおりです． ● 国際的な視野と感覚を持ち，独自の優れた個性を発揮したデザイン制作に意欲を持つ学生 ● 新しいデザイン領域の開拓やデザイン理論の創出，もの作りに意欲を持つ学生 ● デザインを通して，人間性を豊かにし，幸せな社会作りに貢献しようとする意識を持つ学生

3-(1)　デザイン工学専攻（修士課程）

DP（学位授与の方針）	デザイン工学専攻は，地域社会と産業界の要請に応えられる，高度な専門的知識・技能・技術をベースにした総合的な思考力を有する高度専門職業人として多様な価値創造が可能なデザイナー及び研究者の育成を目指しています． したがって，本専攻では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● それぞれの専門領域に関する十分な情報分析力及びデザイン理論による構築力を身に付けている． ● 社会動向などを見据えたうえで，創造的かつ造形的なデザインを発信できる能力を身に付けている． ● 高度な専門性を活かし，グローバル化に対応できるマネジメント力を身に付けている．
CP（教育課程の編成・実施の方針）	デザイン工学専攻は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　高度専門職業人としてのデザイナー及び研究者に求められるグローバルな幅広い見識と視点，高度な専門性を涵養するために，「製品・情報デザイン学領域」，「建築・都市デザイン学領域」の２つの領域を置いています． 2　製品・情報デザイン学領域では，工業製品，日常生活品など製品を対象として，技術と感性の調和を図り，同時にヒトと製品のスムーズな協働（インタラクション）のためにユーザインタフェイスなど情報を整理し，豊かな生活を創造する製品の実践的，総合的な教育研究に取り組みます． 3　建築・都市デザイン学領域では，人間生活の根幹となる建築空間を基軸にして，街づくり，都市や地域環境など広範囲な空間領域を対象として，人と環境の調和を目指した体系的・総合的な建築教育とともに，各分野を深く探究する先進的な研究活動に取り組みます． 4　特別研究は，２年間の研究活動を通じて，高度な研究遂行能力を涵養することを目的としています．研究テーマは学生の希望と指導教員の助言により設定され，修士論文及び修士作品あるいは研究科委員会で承認を受けた特定の課題における成果物の作成をします．
AP（入学者受入の方針）	デザイン工学専攻が求める学生像は次のとおりです． ● 既成概念にとらわれず，個性的で，物事の本質を観ようとする自主性のある学生 ● 豊かな創造力と柔軟な思考力を鍛え，自ら問題を提起し，それぞれの創作を通して，解決策を示し，社会や人々の生活・文化の向上に貢献したい学生 ● 最新技術と伝統との融合による総合的なデザイン力によって，ヒトと空間，ヒトとモノ，ヒトとコトの関係性の中から新たな価値を創造し，人々の生活を豊かで潤いのあるものにしたい学生

3-(2)　造形デザイン学専攻（修士課程）

DP（学位授与の方針）	造形デザイン学専攻は，造形デザイン学の理論と技術を修得する教育研究を行い新たな造形デザイン構築において諸問題を総合的な視点から解決し，社会に貢献することのできる高度専門職業人としてのデザイナー及び研究者を育成することを目指しています． したがって，本専攻では次の能力を身に付け，かつ修了の要件を満たした者に学位を授与します． ● それぞれの専門領域に関する十分な情報分析・構築力及びデザイン理論構築力を身に付けている． ● 社会動向などを見据えたうえで，創造的かつ造形的なデザインを発信できる能力を身に付けている． ● 高度な専門性を活かし，グローバル化に対応できるマネジメント力を身に付けている．
CP（教育課程の編成・実施の方針）	造形デザイン学専攻は，学位授与の方針に掲げる人材を育成するため，次のような教育課程を編成しています． 1　高度専門職業人としてのデザイナー及び研究者に求められるグローバルな幅広い見識と視点，高度な専門性を複合的に涵養するために，１専攻１領域制を導入し「造形デザイン学領域」で学生は学んでいきます． 2　印刷メディアを主体とした造形構成・編集や，デジタルメディアを主体としたコンテンツ形成におけるデザイン性・機能性が研究できるよう，ビジュアルデザインに関する高度な専門知識，能力，技術を育成する科目群を提供しています． セラミック・テキスタイル・木材等を使ったアイテムのデザイン性・機能性や，現代を意識した表現の可能性が研究できるよう，造形デザインに関する高度な専門知識，能力，技術を育成する科目群を提供しています． 3　授業の取組としてプロジェクトに関わり，公共機関や企業などに社会提案を行うことで，実践的にデザインマネジメント力を養っていきます． 4　２年間の特別研究では，研究テーマに基づき調査・分析・考察を進め，論と作品制作を通して造形デザイン学を深く探究していきます．
AP（入学者受入の方針）	造形デザイン学専攻が求める学生像は次のとおりです． ● 造形や構成などの特性を，柔軟な発想と集積した知識によって分析し，さらに独創的な思考力，表現力などを発揮して，新たな造形デザインの価値創造を目指したい学生 ● 情報化社会のなかで，情報を読み解き，またそれらを組み合わせるなどによって新たな課題発見の可能性を探究し，造形デザインによる社会的価値の創造に結び付けたい学生 ● 社会の動向を注意深く観察する力を養いながら，常に問題意識を持って造形デザインが担うべき役割を追究し，培った力を社会貢献にいかしたい学生

編集後記

本学の大学教育年報を大学教育開発センターと教学課教務班の協働作業として編集・制作が行われ始めてから，今年度で5年目を迎えることになる．本学の運営体制として教育改革推進についても開学以来学内委員会制の下で行われ，専任教職員を中心に運営するセンター化は大学教育開発センターが設置されるまで行われていなかった．

しかし，大学のグローバル規模の教育改革のうねり，すなわち世界規模で起きている大学進学率の上昇に伴う高等教育の質保証のために，米国式大学教育の導入や，ボローニャ協定（プロセス）における高等教育における学位認定の質と水準の整備のヨーロッパ圏域及び世界的な拡大は，国家の繁栄を賭けた社会改革の一環ともみなされ，新時代の大学教育の形を模索する激動の時代が到来している．

現在，国立大学を除き多くの大学における大学運営において委員会体制を敷いているのは，センター化には新しいヒト・モノ・カネなどの資源投入が必要であり，限られた運営資金の中からそれを工面するためには，大学の将来を念頭に置いた大学執行部の決断や交渉力を必要とする．本学も，開学以来委員会運営による大学経営が行われてきたが，もはや教員の兼務による事業の改善や発展は望めない規模にまで大学の体質改善が望まれているのは，それは大学の認証評価における評価基準に求められているところを見ても明らかである．大学教育の改革は少子化時代における志願者獲得とその質の維持・向上においても喫緊の要件となっている．

5年前に，現辻学長体制下で，特任教授をセンターの専任に据えて公立大学におけるセンター化の在り方を希求した．大学教育開発センターはコンパクトで教育に係る多方面の業務を包含した多機能センターとならざるを得なかったが，教職協働の「架け橋」として一定の役割を果たしてきた．特に現在の大学に求められるデータに基づく大学運営の実現に向け，教学データを一元化するための教学システムの導入，全学の教職員の意思疎通を図るためのグループウェアの導入などを実現した．基盤は出来たが，刮目すべき効果を上げるためにはまた別の配慮が必要となるのは当然であり，そのために教学IR室の設置と専任教員の採用が叶ったが整備途中であり，未だ道半ばというのが現状である．

本年度の教育年報では，データの分析とそれに基づく大学方針決定というリンクを機能させるべく，昨年度の洗い直しを行いつつあるが，軌道に乗せるには今少し時間を要するのではないかと考えている．しかし，実現に向けた継続的な努力を行うことで，“データに基づくあるいはデータを参考にした教学の運営”が実現するのはそれほど遠いことではないと思われる．

大学教育開発センター長　田内　雅規

（編集責任者）

発行　〒719-1197
岡山県総社市窪木１１１番地
岡 山 県 立 大 学
TEL 0866-94-2111
URL https://www.oka-pu.ac.jp
編集　岡山県立大学 大学教育開発センター

岡山県立大学
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY
〒719-1197 岡山県総社市窪木 111　岡山県立大学
TEL:0866-94-2111　FAX:0866-94-2196